

進学指導重点校等における進学対策の取組について

第1 都教育委員会の進学対策の取組

1 進学指導重点校

(1) 進学指導重点校の指定の経緯

都教育委員会は、都立高校改革推進計画・第二次実施計画に基づく特色ある学校づくりの一環として進学対策を充実させるため、組織的で計画的な進学指導の在り方の研究開発に熱意を有する都立高等学校の中から、進学指導重点校を指定している。

平成13年9月、「進学指導重点校実施要綱」を定め、日比谷高校、戸山高校、西高校及び八王子東高校の4校を進学指導重点校に指定し、更に、青山高校、立川高校、及び国立高校の3校を平成14年9月に進学指導重点準備校、平成15年11月に進学指導重点校に指定した（指定期間は平成19年3月31日まで）。その後、平成25年3月31日まで指定延長した。

これらの進学指導重点校では、生徒の進学希望を踏まえた指導内容及び指導方法の工夫改善を図り、生徒の進路希望を実現できるよう組織的で計画的な進学指導を推進してきた。

また、平成22年7月には、進学指導重点校については、平成25年度からの進学指導重点校の新たな指定に向け、進学指導重点校が満たすべき水準として選定基準を定めた。都教育委員会は、選定基準に対する21年度末から23年度末までの適合状況を踏まえ、各学校における生徒の学力の伸長度や、各学校の取組の状況などを総合的に勘案して、平成24年度に審査を行い、進学指導重点校を改めて指定するとした。

【進学指導重点校等※の指定期間】

指定区分	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
進学指導重点校 4校 (日比谷高校、戸山高校、西高校、八王子東高校)		H13.9.26指定 H16.3.31まで		H15.11.27指定延長 H19.3.31まで			H19.4.1指定延長 H25.3.31まで					
進学指導重点校 3校 (青山高校、立川高校、国立高校)				H15.11.27指定 H19.3.31まで								
進学指導特別推進校 5校 (小山台高校、駒場高校、新宿高校、町田高校、国分寺高校)							H19.6.14指定 H25.3.31まで					
進学指導推進校 14校 (三田高校、国際高校、豊多摩高校、竹早高校、北園高校、墨田川高校、城東高校、小松川高校、武蔵野北高校、小金井北高校、江北高校、江戸川高校、調布北高校、日野台高校)							H22.5.27指定 H25.3.31まで					

※ 進学指導重点校等：進学指導重点校、進学指導特別推進校、進学指導推進校

(2) 進学指導重点校のこれまでの取組と成果

各校においては、生徒の進学希望を踏まえた指導内容及び指導方法の工夫・改善を図り、生徒の進路希望を実現できるよう組織的で計画的な進学指導を推進するとともに、実践的な研究開発を行い、着実に実績を上げてきた。

具体的には、P D C Aサイクルで学校経営を行った結果、自校作成の実力テストや外部模試等の結果のデータを蓄積・分析し、校内研修会や教科部会において検討し、授業改善に結びつけるとともに、土曜日や長期休業中の補習・補講を計画的に実施するなど様々な取組を行ってきた。

また、受験指導だけでなく、大学進学後も十分に対応できる学力を身に付けさせるため、可能な限り幅広い教科・科目を生徒に履修させ、広い視野から社会を見つめさせ、将来の進路や生き方を考えさせるため、総合的な学習の時間を活用したり、各分野の先端で活躍している先輩から話を聞く機会を多く設定するなど、生徒が自らキャリアプランを構築できるよう支援してきている。

さらに、都教育委員会は、進学指導に優れた教員を募り、指定を受けた各校長が直接面接により選定するなど、進学指導重点校等が集まり研究を行う進学指導研究協議会を充実させ、進路分析や進学対策の充実を図れるよう支援してきた。

このような取組を実施してきた結果、難関国立大学※の現役合格者数は、指定前の結果と比較して、大幅に増加した。

具体的には、進学指導重点校のうちの先行指定校である日比谷高校、戸山高校、西高校及び八王子東高校の4校の難関国立大学現役合格者数は、指定前の平成13年度入試における49人から平成22年度入試では83人と約1.7倍の伸び率となった。青山高校、立川高校及び国立高校の3校の難関国立大学現役合格者数は、指定前の平成15年度入試における24人から平成22年度入試では32人と約1.3倍の伸び率となった。

※ 難関国立大学：東京大学、東京工業大学、一橋大学、京都大学。以下同じ。

ポイント

- ① 進学指導重点校7校全体の難関国立大学への現役合格者数は、平成22年度入試で115人であり、指定前の平成13年度入試（71人）から44人増、約1.6倍の増加となった。
- ② 進学指導重点校7校全体の東京大学への現役合格者数は、平成22年度入試で40人であり、指定前の平成13年度入試（27人）から13人増、約1.5倍の増加となった。
- ③ 進学指導重点校7校全体の国公立大学への現役合格者数は、平成22年度入試で542人であり、指定前の平成13年度入試（411人）から131人増、約1.3倍の増加となった。
- ④ 進学指導重点校7校全体の難関私立大学※への現役合格者数は、平成22年度入試で795人であり、指定前の平成13年度入試（436人）から359人増、約1.8倍の増加となった。

※ 難関私立大学：早稲田大学、慶應義塾大学、上智大学

ア 難関国立大学等合格状況

【難関国立大学等合格状況】

(単位:人)

区分	13年度		14年度		15年度		16年度		17年度		18年度		19年度		20年度		21年度		22年度	
	現役	合計	現役	合計	現役	合計	現役	合計	現役	合計	現役	合計	現役	合計	現役	合計	現役	合計	現役	合計
日比谷高校	-	-	-	-	-	-	6	9	23	36	28	41	35	53	21	51	30	52	41	82
西高校	5	12	4	9	5	13	6	7	20	30	25	34	33	46	19	37	25	40	39	65
国立高校	-	-	-	-	-	-	28	52	34	61	28	56	28	57	32	79	42	76	24	59
八王子東高校	19	29	23	42	37	62	25	41	30	51	25	48	24	44	29	70	34	54	22	46
戸山高校	-	-	-	-	-	-	31	55	14	32	25	45	25	56	25	45	24	52	19	56
青山高校	13	34	18	38	12	36	28	46	14	29	21	38	24	51	22	35	21	41	18	46
立川高校	-	-	-	-	-	-	20	47	24	41	30	53	15	42	11	32	11	34	11	36
7校計	15	32	22	38	12	32	18	36	23	34	29	42	14	34	10	23	10	28	9	30
	-	-	-	-	-	-	9	25	5	21	11	26	5	18	7	20	12	28	15	28
	10	27	5	16	6	14	8	18	4	15	9	18	5	13	6	14	12	22	13	19
	-	-	-	-	-	-	5	8	2	6	4	10	3	10	7	13	4	9	9	21
	4	11	4	11	6	12	5	7	1	5	4	8	3	7	7	9	4	9	8	17
	-	-	-	-	-	-	2	14	7	14	6	12	7	12	12	16	9	19	7	14
	5	8	1	5	6	9	2	12	7	13	5	9	6	11	12	16	9	17	6	11
	-	-	-	-	-	-	101	210	109	211	132	243	118	248	115	256	132	270	126	296
	71	153	77	159	84	178	92	167	99	177	118	197	109	206	105	204	115	211	115	234

※上段：難関国立大学等合格状況

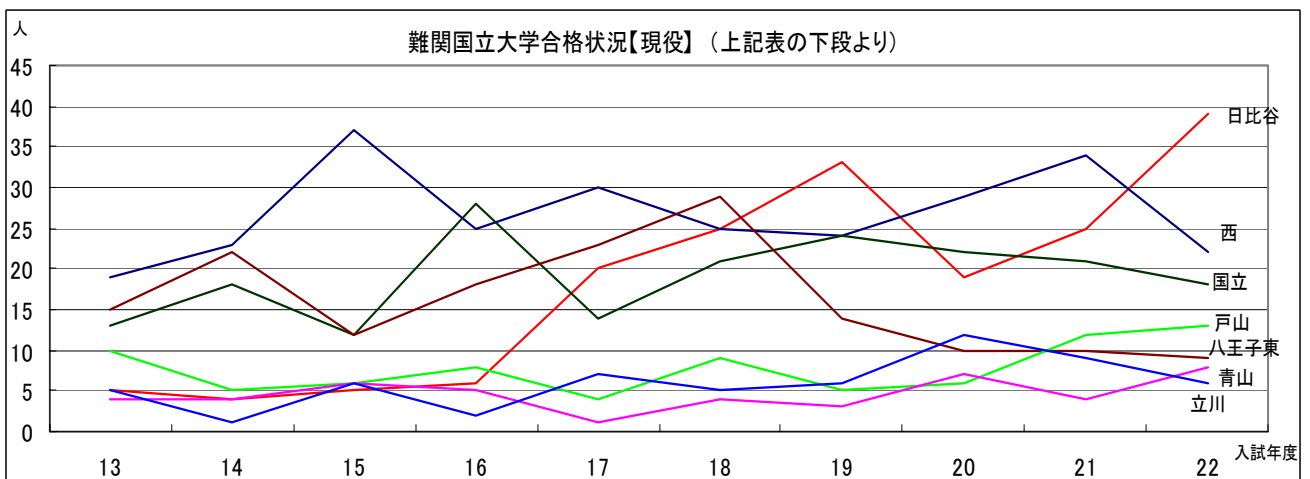
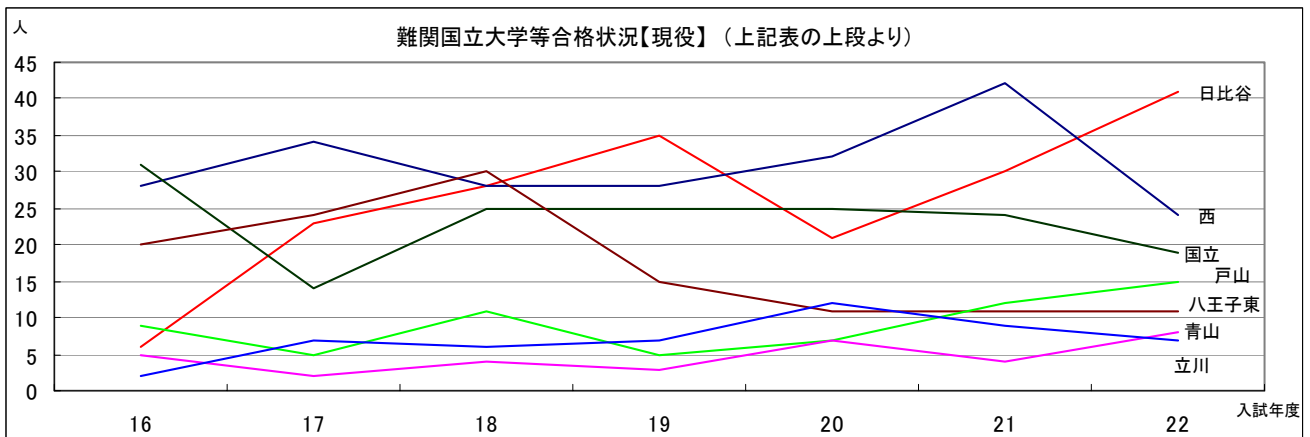
「難関国立大学等」：東京大学、一橋大学、東京工業大学、京都大学、国公立大学医学部医学科。以下同じ。

国公立大学医学部医学科の平成15年度以前の合格実績は、データ不詳のため、難関国立大学+国公立大学医学部医学科の合格状況は、平成16年度を起点としている。

※下段：難関国立大学合格状況

「難関国立大学」：東京大学、一橋大学、東京工業大学、京都大学。以下同じ。

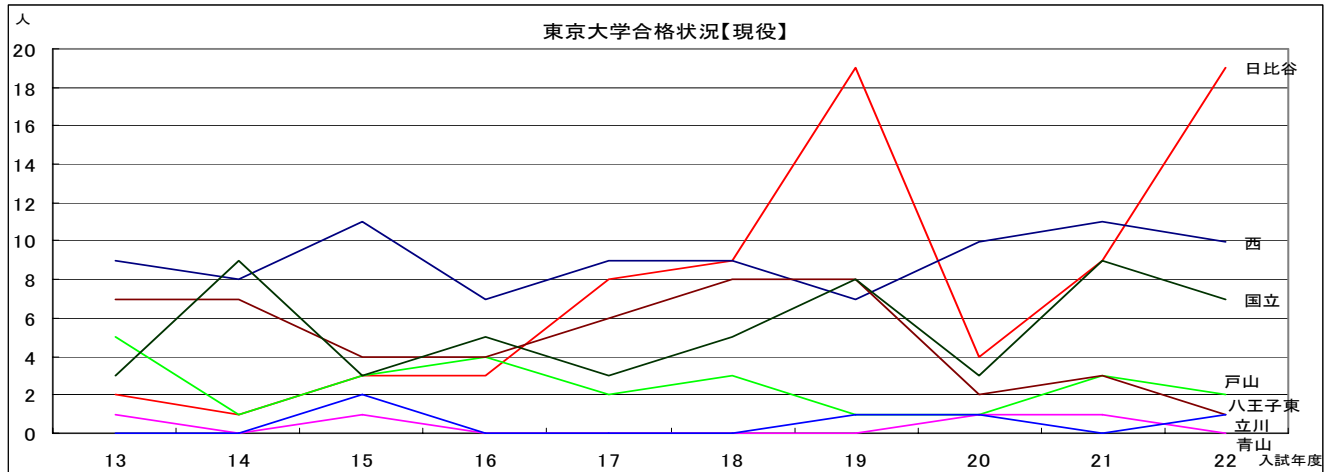
※凡例：表中の平成22年度入試における現役合格者とは、平成22年3月の卒業生である合格者を指す。合計数は現役と浪人を合わせた数。以下同じ。



イ 東京大学合格状況

(単位:人)

区分	13年度		14年度		15年度		16年度		17年度		18年度		19年度		20年度		21年度		22年度	
	現役	合計	現役	合計	現役	合計	現役	合計	現役	合計	現役	合計	現役	合計	現役	合計	現役	合計	現役	合計
日比谷高校	2	3	1	4	3	5	3	3	8	14	9	12	19	28	4	13	9	16	19	37
西高校	9	13	8	17	11	25	7	11	9	18	9	19	7	16	10	28	11	15	10	20
国立高校	3	5	9	13	3	9	5	7	3	6	5	9	8	16	3	5	9	13	7	14
八王子東高校	7	15	7	9	4	13	4	8	6	9	8	10	8	16	2	7	3	7	1	8
戸山高校	5	10	1	4	3	5	4	6	2	7	3	6	1	3	1	4	3	5	2	3
青山高校	1	2	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	2	0	0
立川高校	0	1	0	0	2	2	0	1	0	1	0	0	1	2	1	1	0	1	1	1
7校計	27	49	26	47	27	61	23	36	28	55	34	56	44	81	22	59	36	59	40	83

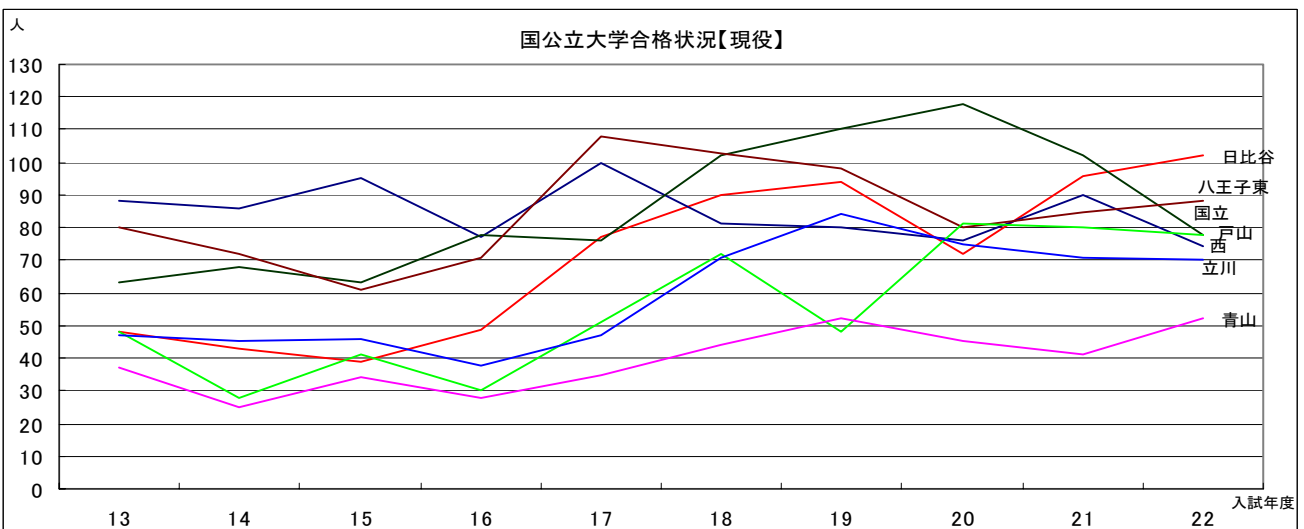


ウ 国公立大学合格状況

※国公立大学は、難関国立大学等を含む全ての国公立大学。以下同じ。

(単位:人)

区分	13年度		14年度		15年度		16年度		17年度		18年度		19年度		20年度		21年度		22年度	
	現役	合計	現役	合計	現役	合計	現役	合計	現役	合計	現役	合計	現役	合計	現役	合計	現役	合計	現役	合計
日比谷高校	48	91	43	73	39	89	49	82	77	119	90	126	94	145	72	126	96	152	102	167
西高校	88	144	86	137	95	155	77	132	100	160	81	127	80	130	76	162	90	161	74	148
国立高校	63	122	68	134	63	134	78	149	76	135	102	159	110	171	118	183	102	169	78	152
八王子東高校	80	143	72	153	61	126	71	136	108	172	103	150	98	164	80	124	85	160	88	158
戸山高校	48	108	28	71	41	99	30	72	51	89	72	132	48	80	81	124	80	121	78	115
青山高校	37	74	25	63	34	83	28	47	35	59	44	73	52	72	45	63	41	64	52	81
立川高校	47	85	45	81	46	105	38	84	47	79	71	113	84	124	75	106	71	109	70	98
7校計	411	767	367	712	379	791	371	702	494	813	563	880	566	886	547	888	565	936	542	919

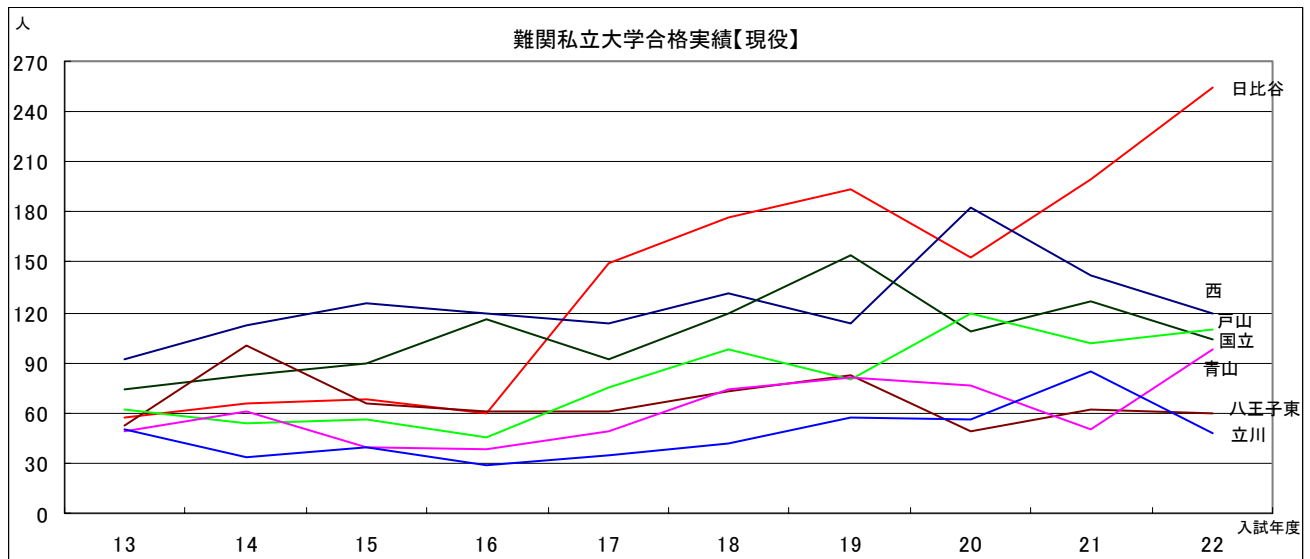


工 難関私立大学合格状況

※「難関私立大学」：早稲田大学、慶應義塾大学、上智大学

(単位:人)

区分	13年度		14年度		15年度		16年度		17年度		18年度		19年度		20年度		21年度		22年度	
	現役	合計	現役	合計	現役	合計	現役	合計	現役	合計	現役	合計	現役	合計	現役	合計	現役	合計	現役	合計
日比谷高校	57	114	66	132	68	161	60	121	149	226	177	254	193	264	153	247	200	290	255	366
戸山高校	62	142	54	138	56	142	45	128	75	157	98	170	80	137	119	186	102	165	110	161
西高校	92	189	112	220	125	243	120	227	114	215	131	238	114	219	183	305	142	305	120	276
八王子東高校	52	142	100	198	66	136	61	125	61	129	73	149	82	156	49	118	62	135	60	139
青山高校	49	114	61	123	40	103	38	85	49	84	74	131	81	122	76	102	50	100	98	147
立川高校	50	104	33	64	40	62	29	87	35	79	42	81	57	128	56	98	85	120	48	92
国立高校	74	154	82	180	90	220	116	220	92	208	119	221	154	241	109	180	127	213	104	210
7校計	436	959	508	1,055	485	1,067	469	993	575	1,098	714	1,244	761	1,267	745	1,236	768	1,328	795	1,391



(3) 進学指導重点校の現状

ア 平成22年度入試結果の状況

平成20年度入試（平成19年度実績）から平成22年度入試（平成21年度実績）までの3か年でみると、平成22年度入試結果における難関国立大学等の現役合格者数は7校全体で125人となり、平成20年度入試の115人から増加しているが、平成21年度入試の131人からは減少している。

各学校ごとの入試結果では、日比谷高校は、平成20年度入試が21人、平成21年度が30人、平成22年度では41人と確実に合格者を伸ばし、平成20年度比で20人増、約2倍の伸び率となっている。

以下、西高校は、平成20年度32人、平成21年度42人、平成22年度24人と、平成21年度で実績を上げたものの、平成22年度は合格者が減少している。国立高校は、平成20年度25人、平成21年度24人、平成22年度19人と、減少傾向にある。八王子東高校は、平成20年度11人、平成21年度11人、平成22年度11人と、横ばい。戸山高校は、平成20年度7人、平成21年度12人、平成22年度15人と、増加傾向にある。青山高校は、平成20年度7人、平成21年度4人、平成22年度8人と、ほぼ横ばい。立川高校は、平成20年度12人、平成21年度9人、平成22年度7人と、減少傾向にある。

また、平成22年度入試における難関国立大学等の現役合格者数7校全体125人のうち、日比谷高校が41人で全体の約33%を占めている。このことから、全体の合格者数の増は、主に日比谷高校における合格者数が増加したためであると言える。

今後は、日比谷高校以外の学校においても、難関国立大学等の合格への一層の向上が望まれる。

イ 難関国立大学等への生徒の進学希望状況及び合格可能生徒数の状況

平成21年度卒業生（平成19年度入学生）の進学指導重点校における生徒の進学希望状況に関するヒアリングから7校を総合的に判断すると、難関国立大学等※への進学希望数については、ほぼ一定の人数で推移しているが、合格可能性のある生徒数については、第1学年から第2学年、第3学年の学年進行により減少する傾向にあると推察される。このことは、現在の第3学年、第2学年についても同様である。

中には、第1学年から第2学年にかけて大幅に減少する学校もあり、課題となっている。

※ 難関国立大学等：東京大学、一橋大学、東京工業大学、京都大学
国公立大学医学部医学科。以下同じ。

(4) 進学指導重点校の選定基準及び目標

平成25年度からの新たな指定に向け、進学指導重点校が満たすべき水準としての選定基準及び各学校において定める平成24年度までの目標設定の考え方について、平成22年7月、下記のとおり示した。

ア 進学指導重点校の趣旨と役割

都教育委員会は、平成13年度以降、大学進学を組織的・計画的に推進し、都立高校全体をけん引する役割を担う高校として、進学指導重点校7校を指定してきた（現在の指定期間は平成24年度まで）。

進学指導重点校には、将来の日本社会のリーダーとなりうる高い資質の生徒が入学している。その潜在的能力からすれば、高校3年間の指導を一層充実させることにより、大学合格実績を更に向上させることが可能である。

進学指導重点校の選定基準及び目標を設定し、その達成を図ることにより、都立高校に対する都民の期待に一層こたえていく。

イ 選定基準の考え方

(ア) 平成25年度からの進学指導重点校の新たな指定に向け、進学指導重点校が満たすべき水準として選定基準を定める。

(イ) 都教育委員会は、選定基準に対する平成21年度末から平成23年度末までの適合状況を踏まえ、各学校における生徒の学力の伸長度や、各学校の取組の状況などを総合的に勘案して、平成24年度に審査を行い、進学指導重点校を改めて指定する。

ウ 選定基準の内容

(ア) 現在の進学指導重点校は、今までの現役生の合格実績などから3つのグループに分けられる。

第1グループ：日比谷高校・西高校・国立高校

第2グループ：八王子東高校・戸山高校

第3グループ：青山高校・立川高校

(イ) 選定基準は、第3グループの学校が、生徒の学力を最大限伸長させた場合に達成可能なセンター試験結果及び大学合格実績とする。

(ウ) 基準の指標

学校の教育活動を評価するため、対象は現役生とし、以下の指標とする。

① センター試験

I 難関国立大学等（東京大学、一橋大学、東京工業大学、京都大学、国公立大学医学部）を目指す上で、センター試験の5教科7科目受験が必須となっている。

II 過去のセンター試験結果から難関国立大学等の合格可能な得点水準は一般的に80～85%以上である（年度により、その水準は変動する。）。

② 大学合格実績

難関国立大学等の合格実績は、進学指導重点校の多くの生徒が目指し、また全国の進学校の目標ともなっている。

〔基準1〕 センター試験結果（現役）

① 5教科7科目で受験する者の在籍者に占める割合

・おおむね6割以上（おおむね200人以上の生徒が受験している状況）

② 難関国立大学等に合格可能な得点水準以上の者の受験者に占める割合

〔合格可能な得点水準は、年度ごとのセンター試験の難易度を勘案して定める。〕

・おおむね1割以上

〔基準2〕 難関国立大学等現役合格者数

15人

〔算定根拠〕 8クラスの場合

在籍者320人⇒受験者192人（在籍者の6割以上）

⇒合格可能な得点水準以上の得点者19人（受験者の1割）

エ 各学校の目標

（各学校の目標設定の考え方）

- （ア） 各進学指導重点校が、現在の状況に甘んじることなく、都民の期待に応え、より高いレベルを目指すよう、平成24年度までの目標を各学校が具体的に設定する。
- （イ） 目標設定は、入学している生徒の潜在的な能力を踏まえ、学校ごとに目指すべき大学合格実績等の水準とする。
- （ウ） 各学校が生徒の学力を最大限伸ばさせた場合に達成可能な目標を、学校が下表の目安に基づき、具体的に設定することとする。

（単位：人）

区分	在籍者数 (21年度末)	センター試験結果						大学合格実績	
		受験者数			合格可能な得点水準以上の生徒数			(難関4大学及び国公立大医学部・現役)	
		22年度実績	目標設定のための目安	目標	22年度実績(※)	目標設定のための目安	目標	22年度実績	目標
第1グループ	日比谷	317	234	各学校が 目標人数 を設定	74	おおむね 2割以上	各学校が 目標人数 を設定	41	各学校が 目標人数 を設定
	西	313	233		51			24	
	国立	322	184		36			19	
第2グループ	八王子東	324	240		34	おおむね 1.2割以上		11	
	戸山	325	197		25			15	
第3グループ	青山	285	125		2	おおむね 1割以上		8	
	立川	310	174	11	7				

※ 平成22年1月に実施された大学入試センター試験における80%以上の得点の生徒数を示す。

2 進学指導特別推進校

(1) 進学指導特別推進校の指定の経緯

平成19年度の「新しいタイプの高校における成果検証委員会報告」（平成19年4月）では、進学指導研究協議会参加校の中から、進学指導重点校に次ぐ学校（進学指導レベルアップ校）を数校選定し、難関大学への進学実績の向上を目指すこととされた。

これを受けて、平成19年6月、「進学指導特別推進校実施要綱」を定め、小山台高校、駒場高校、新宿高校、町田高校及び国分寺高校の5校を新たに進学指導特別推進校として指定した。

(2) 進学指導特別推進校のこれまでの取組と成果

平成19年度の進学指導特別推進校の指定以来、各学校では生徒の学力データの管理・分析・組織的なデータ共有などの取組を行い、組織的な進学体制の整備や計画的な進学指導の充実を図ってきた。

また、都教育委員会は、進学指導に優れた教員を募り、指定を受けた各校長が直接面接により選定する等、進学指導重点校等が集まり研究を行う進学指導研究協議会を充実させ、進路分析や進学対策の充実を図れるよう支援してきた。

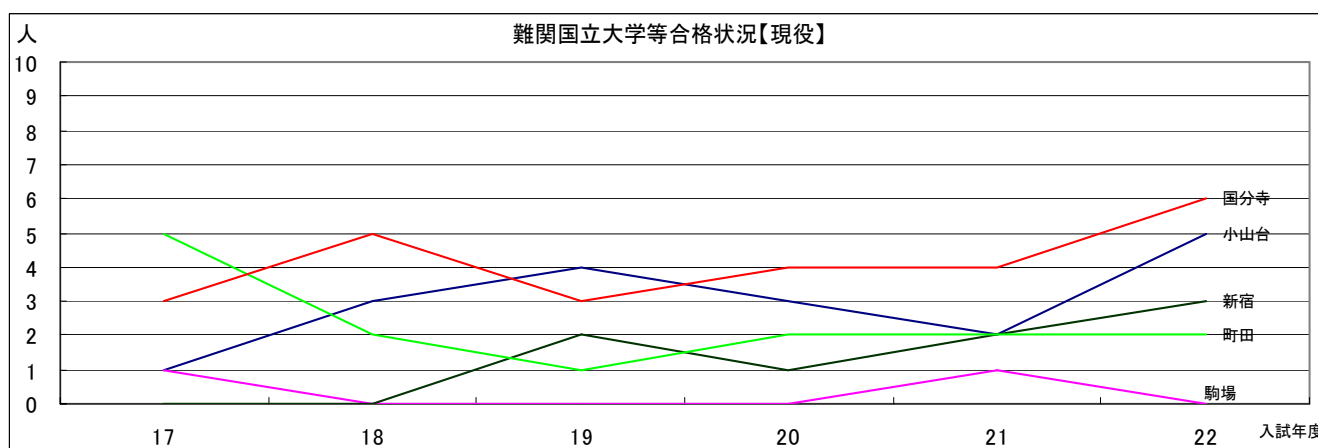
平成22年度入試結果を指定前の平成19年度入試と比較すると、進学指導特別推進校全体で国公立大学現役合格者数は約1.2倍、難関私立大学現役合格者数は約1.1倍に増えているものの、大幅な増加とは言えない。また、学校間での差も大きく、一部の学校では伸び悩みあるいは低迷ぎみである。

ア 進学指導特別推進校の難関国立大学等合格状況

※ 「難関国立大学等」：東京大学、一橋大学、東京工業大学、京都大学
国公立大学医学部医学科。以下同じ。

(単位:人)

区分	17年度		18年度		19年度		20年度		21年度		22年度	
	現役	合計	現役	合計	現役	合計	現役	合計	現役	合計	現役	合計
小山台高校	1	2	3	4	4	6	3	4	2	3	5	7
駒場高校	1	2	0	1	0	2	0	2	1	2	0	1
新宿高校	0	3	0	0	2	2	1	1	2	2	3	3
町田高校	5	7	2	3	1	3	2	2	2	3	2	4
国分寺高校	3	5	5	10	3	4	4	8	4	7	6	8
5校計	10	19	10	18	10	17	10	17	11	17	16	23

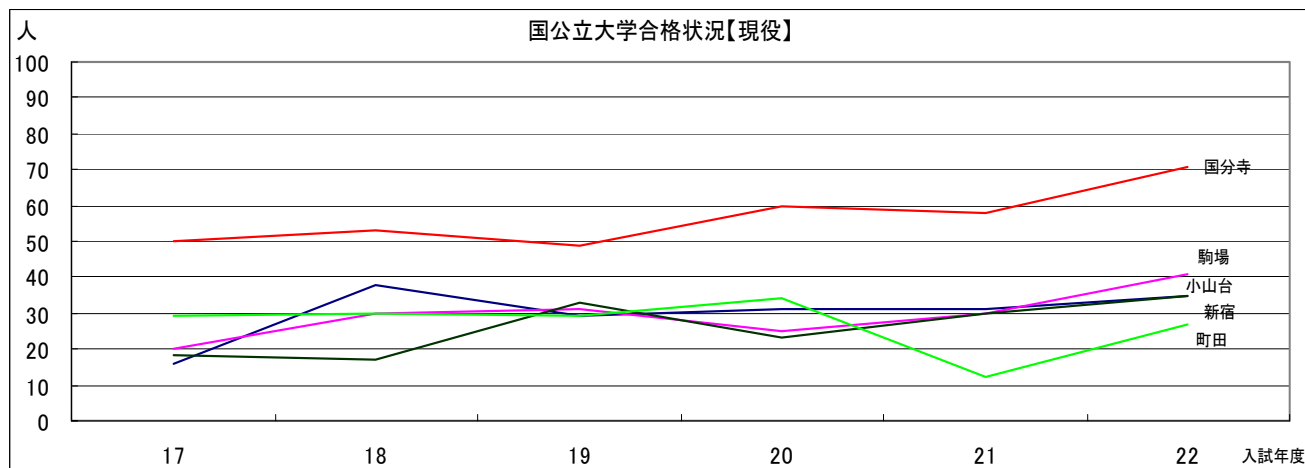


イ 進学指導特別推進校の国公立大学合格状況

※国公立大学は、難関国立大学等を含む全ての国公立大学。以下同じ。

(単位:人)

区分	17年度		18年度		19年度		20年度		21年度		22年度	
	現役	合計	現役	合計	現役	合計	現役	合計	現役	合計	現役	合計
小山台高校	16	33	38	48	29	41	31	35	31	41	35	45
駒場高校	20	34	30	39	31	42	25	39	30	40	41	55
新宿高校	18	33	17	27	33	42	23	37	30	44	35	59
町田高校	29	46	30	45	29	38	34	49	12	30	27	38
国分寺高校	50	74	53	77	49	59	60	83	58	75	71	85
5校計	133	220	168	236	171	222	173	243	161	230	209	282

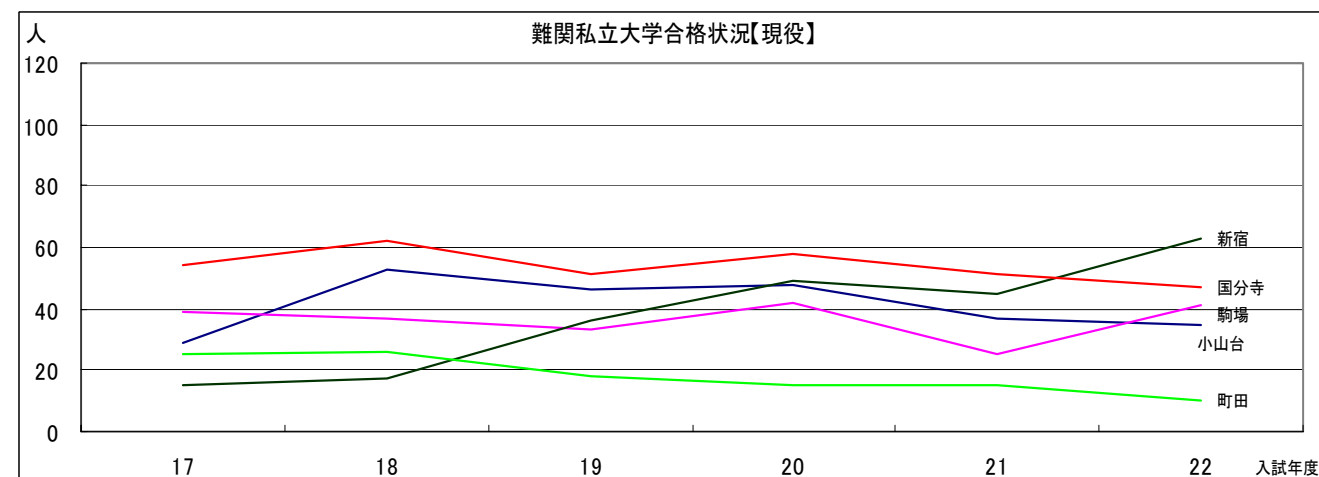


ウ 進学指導特別推進校の難関私立大学合格状況

※「難関私立大学」：早稲田大学、慶應義塾大学、上智大学

(単位:人)

区分	17年度		18年度		19年度		20年度		21年度		22年度	
	現役	合計	現役	合計	現役	合計	現役	合計	現役	合計	現役	合計
小山台高校	29	37	53	77	46	67	48	69	37	53	35	58
駒場高校	39	69	37	62	33	57	42	87	25	39	41	82
新宿高校	15	39	17	27	36	54	49	78	45	70	63	81
町田高校	25	36	26	50	18	32	15	30	15	26	10	21
国分寺高校	54	76	62	101	51	80	58	85	51	74	47	86
5校計	162	257	195	317	184	290	212	349	173	262	196	328



(3) 進学指導特別推進校の現状

ア 平成22年度入試結果の状況

進学指導特別推進校における難関国立大学等の現役合格者数については、5校全体で16人と少なく、現役合格者のいない学校もあり、顕著な実績は見られない。

国公立大学の現役合格者数について、平成20年度入試（平成19年度実績）から平成22年度入試（平成21年度実績）までの3か年でみると、平成22年度入試結果では5校全体で209人となり、平成20年度入試の173人、平成21年度入試の161人から増加している。

各学校ごとの入試結果では、小山台高校は、平成20年度入試が31人、平成21年度が31人、平成22年度では35人とほぼ横ばいとなっている。以下、駒場高校は、平成20年度25人、平成21年度30人、平成22年度41人と、特に平成22年度入試で合格実績を伸ばしている。新宿高校は、平成20年度23人、平成21年度30人、平成22年度35人と、増加傾向にある。町田高校は、平成20年度34人、平成21年度12人、平成22年度27人と、低迷ぎみである。国分寺高校は、平成20年度60人、平成21年度58人、平成22年度71人と、増加傾向にある。

一方、難関私立大学※の現役合格者数であるが、平成20年度入試（平成19年度実績）から平成22年度入試（平成21年度実績）までの3か年でみると、平成22年度入試結果では5校全体で196人となり、平成20年度入試の212人から減少しているが、平成21年度入試の173人からは増加している。ただし、大幅な増加はみられない。

各学校ごとの入試結果では、小山台高校は、平成20年度入試が48人、平成21年度が37人、平成22年度では35人と減少傾向にある。以下、駒場高校は、平成20年度42人、平成21年度25人、平成22年度41人と、平成21年度に減少したが、平成22年度入試で回復した。新宿高校は、平成20年度49人、平成21年度45人、平成22年度63人と、増加傾向にある。町田高校は、平成20年度15人、平成21年度15人、平成22年度10人と、減少傾向にある。国分寺高校は、平成20年度58人、平成21年度51人、平成22年度47人と、減少傾向にある。

今後、生徒の難関国立大学等への進学希望をかなえるための取組を一層進める必要がある。

※ 難関私立大学：早稲田大学、慶應義塾大学、上智大学。以下同じ。

イ 国公立大学への生徒の進学希望状況及び合格可能生徒数の状況

平成21年度卒業生（平成19年度入学生）の進学指導特別推進校における生徒の進学希望状況に関するヒアリングから5校を総合的に判断すると、国公立大学への進学希望数については、ほぼ一定の人数で推移しているが、合格可能性のある生徒数については、第1学年から第2学年、第3学年の学年進行により減少する傾向にあると推察される。このことは、現在の第3学年、第2学年についても同様である。

中には、第1学年から第2学年にかけて大幅に減少する学校もあり、課題となっている。

3 進学指導推進校

(1) 進学指導推進校の指定の経緯

平成19年度から「進学指導研究協議会」に参加して、進学指導を強化する学校として位置づけられている進学指導推進校（三田高校、国際高校、豊多摩高校、竹早高校、北園高校、墨田川高校、城東高校、小松川高校、武蔵野北高校及び小金井北高校）については、進学校の全都的な配置のバランスや地域からのニーズなどを踏まえ、進学対策を進める都立高校の裾野を広げ、都立高校全体の進学対策を強化することを目的として、平成22年度から新たに江北高校、江戸川高校、日野台高校及び調布北高校の4校を含む14校について「進学指導推進校指定要綱」を定め、指定を行った。

(2) 進学指導推進校のこれまでの取組と成果

ア 進学指導推進校の難関国立大学等合格状況

(単位:人)

区分	21年度		22年度	
	現役	合計	現役	合計
三田高校	0	0	0	1
国際高校	2	3	1	1
豊多摩高校	0	0	0	0
竹早高校	0	1	1	1
北園高校	0	0	0	1
墨田川高校	0	0	0	0
城東高校	0	0	0	1
小松川高校	2	3	0	1
武蔵野北高校	1	1	1	2
小金井北高校	0	0	0	0
江北高校	0	0	0	0
江戸川高校	0	0	0	0
調布北高校	0	0	0	0
日野台高校	0	0	0	0
14校計	5	8	3	8

イ 進学指導推進校の国公立大学合格状況

※国公立大学は、難関国立大学等を含む全ての国公立大学。以下同じ。

(単位:人)

区分	21年度		22年度	
	現役	合計	現役	合計
三田高校	7	11	11	13
国際高校	19	24	24	28
豊多摩高校	9	17	2	8
竹早高校	21	26	21	26
北園高校	13	17	12	17
墨田川高校	6	7	2	2
城東高校	16	20	13	21
小松川高校	22	31	21	23
武蔵野北高校	10	17	22	25
小金井北高校	10	12	3	8
江北高校	1	4	1	1
江戸川高校	1	1	0	0
調布北高校	7	10	4	8
日野台高校	13	15	9	10
14校計	155	212	145	190

ウ 進学指導推進校の難関私立大学合格状況

(単位:人)

区分	21年度		22年度	
	現役	合計	現役	合計
三田高校	23	25	26	32
国際高校	76	85	80	84
豊多摩高校	1	7	3	6
竹早高校	21	33	27	41
北園高校	8	10	12	19
墨田川高校	5	6	4	4
城東高校	6	17	1	9
小松川高校	6	10	8	20
武蔵野北高校	8	11	16	24
小金井北高校	4	6	9	9
江北高校	0	0	0	0
江戸川高校	0	1	0	1
調布北高校	2	7	5	9
日野台高校	5	8	4	7
14校計	165	226	195	265

(3) 進学指導推進校の現状

ア 平成22年度入試結果の状況

進学指導推進校における国公立大学の現役合格者数であるが、平成22年度入試(平成21年度実績)で、最も多い国際高校で24人であり、学校間での差も大きい。

一方、難関私立大学の現役合格者数であるが、国際高校が80人と突出しているが、内容としては推薦入試等による合格者が多くなっている。つづく竹早高校は27人であり、14校全体でみると、学校間での差も非常に大きい。

進学指導推進校については、進学校の全都的な配置バランスや地域からのニーズなどを踏まえて指定しているところではあるが、今後、生徒の国公立大学及び難関私立大学への進学希望をかなえるための取組を一層進める必要がある。

イ 国公立大学への生徒の進学希望状況及び合格可能生徒数の状況

進学指導推進校についても、進学指導重点校や進学指導特別推進校と同様の傾向が見られる。

平成21年度卒業生(平成19年度入学生)の進学指導推進校における生徒進学希望状況に関するヒアリングから14校を総合的に判断すると、国公立大学への進学希望数については、ほぼ一定の人数で推移しているが、合格可能性のある生徒数については、第1学年から第2学年、第3学年の学年進行により減少する傾向にあると推察される。このことは、現在の第3学年、第2学年についても同様である。

中には、第1学年から第2学年にかけて大幅に減少する学校もあり、課題となっている。

第2 進学指導重点校等の課題

1 学校経営診断結果からみえる課題

都教育委員会は、都立学校の教育活動を評価・検証し、その結果得られた課題及び問題点を基に個々の学校に対し適切な支援・指導を行うことで、魅力的な学校づくりに資することを目的とし、平成16年度から学校経営診断を実施している。

平成22年度についても、平成22年3月に定めた「平成22年度学校経営診断実施要綱」に基づき、平成21年度の教育活動について、都立学校の学校経営診断を実施し、9月に「平成22年度学校経営診断の実施結果」として取りまとめた。

本年度については、進学指導重点校から日比谷高校、戸山高校、八王子東高校、青山高校が、進学指導推進校から国際高校、調布北高校が診断対象校24校に含まれている。

診断は、専門性と客観性を担保するため、外部有識者も加えて行われるが、外部有識者からは、都立学校の進学指導に関する課題として以下のような意見が寄せられている。

以下に外部委員からの意見とそれに対応する具体的状況を記載する。

(1) 学力データ等の収集・分析について

ア 外部委員の意見

高校入学時の学力データ、入学後の定期試験や外部の共通模試の結果などのデータと個人の進路希望を検証し、目標とする進路実現のためにどの程度の学習が必要であるかを可視化することにより、授業改善や進路指導に活用するため、個人別の学力データを教員の利用しやすい形で管理・更新していくことが必要である。

イ 上記アに対応する具体的状況

- ・ 入学直後の生徒の学力把握について、外部模擬試験を実施するなどの方法で継続的に把握していない学校がある。
- ・ 学年毎に利用する外部模試が異なっている学校がある。継続的な学力把握による他学年との比較や卒業生との比較を行い、進学指導向上に向けたきめ細かなデータ分析を行っていく必要がある。

(2) 生徒の状況に対応した組織的、計画的な授業展開について

ア 外部委員の意見

- ・ 生徒が希望する大学に入学するには、3年生時点でどの水準に達していなければならないか、そのためには2年生時点でどのレベル、1年生終了時までには何をすべきか、といったシナリオを示してやり、それを実現するためのサポートをする必要がある。しかし、3年間の授業プランを教員で共有しておらず、個々の教員の個人の判断によって、独自に授業を行っており、組織的に連携をとっていない。

イ 上記アに対応する具体的状況

- ・ 「生徒による授業評価」を活用した授業改善の取組について、改善策の内容と効果を十分に検証する必要のある学校がある。シラバスの活用と予習を前提とした授業を徹底し、教科担当者による学習内容や進度の違いが出ないように、共通認識のもとですべての授業を進めることが必要である。

(3) 組織的な学校運営について

ア 外部委員の意見

教員間で共通の目標が持たれず、十分なコミュニケーションがとられていない、問題のある高校が多い。中堅校や進学指導重点校で、高校1年の入学時点で志が高く国公立大学への進学を希望している多くの生徒たちが、2年、3年へと進級するにしたがって、そうした志や夢を失っていつている。そのようなデータを見ていながら、何の分析も、対策も検討しない教員組織に問題がある。

イ 上記アに対応する具体的状況

- ・ 進路指導が進路指導部ではなく、「学年」中心に行なわれている学校がある。「学年」中心であると、生徒卒業後の学年担任団の解散後は資料が蓄積されず、現役生との比較ができないなど、進学指導向上に向けたきめ細かなデータ分析に支障をきたしている。
- ・ 外部模試の結果を各教科と進路指導部が共有できず、教科の弱点を教員同士で検討しにくい環境があり、共通理解が図られていない学校がある。模試分析の研修会は行っているが、教科等全員で行っていない場合もあり、きめ細かな進路指導を組織的に行えていない。

(4) 生徒のモチベーション低下について

ア 外部委員の意見

受験のためにとという学習動機の低い社会における生徒の学習への動機付けが大切である。そのためには、教科書の解説ではなく、教科書に書かれている事柄について、「なぜ、そうなのか？」を問う授業でなければならない。

生徒たちの学習へのモチベーションが見失われているからこそ、教師には授業の工夫が求められているはずなのに、そのような工夫の見られる授業が少ない。

イ 上記アに対応する具体的状況

- ・ 定期テスト後や外部模試後の解説を、生徒に対してもっと丁寧に行うべき学校がある。模試等の結果が悪く、教員がフォローしないと、生徒が安易に志望校等を変更してしまうようなケースも考えられる。
- ・ 進学指導研究協議会（P 2 1 参照）では教員同士の授業を見せ合う取組を行っているが、もっと活発に相互の授業研究が必要な学校がある。他県の学校訪問等による研修の必要性を感じながら、多忙さを理由に実施できない学校もある。

2 その他進学指導重点校等において学校ごとに見られる個別的な課題

平成13年度の進学指導重点校の指定以後、進学指導を進めてきた結果として進学指導実績は向上している一方、学校間での取組にも格差があり、学校によっては、下記のような個別の課題が見受けられる。

- (1) 生徒の入学時の進路希望、入学後の家庭学習状況などの基礎的なデータを、これまで収集してこなかった学校がある。

- (2) 教科指導について、同一教科の担当者が少ない教科（地歴公民・理科）における授業力向上の取組に若干の課題がある学校がある。当該教科の担当者が1、2名であるような場合には、他教科と連携して教員相互の授業観察を実施したり、他の進学指導重点校と連携したりするなど意図的・計画的に授業力向上の機会を増やす試みが必要である。
- (3) 生徒の実態にあった補習・補講が開設されていない学校がある。補習・補講について、生徒の実態や要望を踏まえ、教科が出してきた補習講座案を進路指導部が模擬試験データに基づいて調整を行うなど、組織的に難関国立大学や難関私立大学向けの講座、学力を更に伸ばさせる講座や苦手科目を克服する講座を開くといった取組が必要である。
- (4) 進路指導が組織的でなく、特定の教員にのみ負担がかかっている学校がある。その教員が異動すると進路指導が弱体化する可能性がある。
- (5) 宿題や週末課題について、担任が把握し、量や質について各教科と連携して、計画的に課す必要がある。
- (6) 部活動の活動日数や活動時間などの実態把握が不十分な学校もある。
また、補習・補講を開設していても、部活動に参加する生徒が多く、参加者が少人数になっている学校や、部活動に所属する生徒の成績状況の共有などの部活動顧問との連携が不十分な学校もある。
- (7) 多くの学校で卒業生を招いた講演会の開催や大学訪問等のキャリア教育を充実させているが、更に都教育委員会も含め生徒のモチベーション向上策を検討していく必要がある。また、一生懸命教員が取り組んでいるが、生徒は将来の夢やどうなりたいかというイメージが乏しく、「どうしてもこの大学に」という動機が持ちにくいようであり、生徒のモチベーション維持に苦慮している学校もあり、支援が必要である。
- (8) 生徒の進路志望や将来就きたい職業を意識させ、安易に指定校推薦に流れないように、更なる工夫が必要な学校がある。

進学対策を一層推進していくためには、校長のリーダーシップの下、校長・副校長を支える中堅層の教員を育成し、教員同士の授業改善を図りながら、より組織的・計画的な学校経営を進めていく必要がある。

これまでの学校改革により進学実績を着実に伸ばしてきたが、更に難関国立大学や難関私立大学の進学実績を一層伸ばしていくことが課題である。そのためには、入学時から3年間継続して各生徒の進路希望や成績等の学力データの収集・分析を行い、学習指導では大学入試を見据えた3年間の指導計画を綿密に立て、学校全体として教員の授業力向上を図ること、質の高い授業を展開することで、生徒のモチベーションを高め、生徒全体の学力を高めていく必要性が指摘されている。

第3 重点留意事項に基づく進学指導の推進

進学指導重点校等を含めた都立高校が抱える共通の課題を踏まえ、今後は下記に示す点に留意し進学指導を行っていく必要がある。

進学指導重点校等が今後更に進学実績を伸ばすには、組織的な対策が必要である。

進学指導重点校等には将来の日本のリーダーたる資質を有する生徒が多く入学してくる。これらの生徒の学力を入学時から継続的に伸ばさせ、第一希望等の大学に入学させるためには、生徒の適性、能力、進路希望を把握し、そのモチベーションを向上させていく必要がある。そのため、進路指導部が中心となり、各分掌と連携した組織的な取組が求められている。

以上、当然のことではあるが、各校で組織的に実施していくことが求められ、校長のリーダーシップの下中堅教員の育成と教員同士の授業改善を図りながら、下記の重点留意事項に基づき、進学指導を行っていく必要がある。

重点留意事項の内容

(1) 外部模擬試験等を活用した、入学から3年間継続した学力データ分析

生徒の進学希望をかなえ、各学校の掲げる大学合格実績の目標を達成するためには、入学後、3年間継続して各生徒の進路希望や成績等の学力データの収集・分析と課題の把握を行う必要がある。学力把握の方法としては、比較可能な同一業者の外部模擬試験を入学後3年間継続して実施することを中心とし、必要に応じて他の外部模擬試験等を実施することが望ましい。また、データ分析に当たり、自校だけでなく、他の都立学校のほか他県等の高校とも比較し、生徒の学力の実態把握に努めていくことが望ましい。

(2) 学力データ分析に基づく授業改善、補習・補講の実施

生徒の学力データを経年で把握し、前年度から下がった場合は、その原因を究明し、速やかに対策を講じる必要がある。

平成23年度から全ての都立高校で実施される「都立高校学力向上開拓推進事業」において、高校入試や各学校で実施する学力調査等のデータ分析に基づき、生徒の学力の実態を把握し、到達目標等を定めた「学力向上推進プラン」を作成・改善していくサイクルの中で、授業改善や生徒の学力の向上を図ることとしている。さらに進学指導重点校等においては、外部模擬試験等も利用・検証していくサイクルの中で、授業改善や生徒の学力の向上を図る必要がある。

補習・補講については、講座数を増やすことも大切であるが、生徒の学力データ分析に基づき、各学校が意図的・計画的な講座の開設を行うことが必要である。

進路指導部は、各教科や教務部と連携して、計画的な講座の開設を主体的に行い、募集についても速やかに生徒に示すことが必要である。

(3) 進路指導部を中心とした校内の進学指導体制の構築

進学指導重点校等については、進学対策が「進学指導重点校実施要綱」等や校長の学校経営方針等に明確に位置づけられている以上、全ての教職員の理解の下、進路指導部による教務部と連携した教育課程の編成、学年担任と連携した生徒情報の交換、教科と連携した教員の専門性の向上、保健部と連携した生徒の健康管理等、組織的な取組が不可欠である。進学指導に関しては、学年主導になっている学校もあるが、進路指導部等を中心として、生徒個々の進路希望や入学当初からの学力の把握を経年で行っていき、学力データの分析やノウハウの蓄積を行い、最新の入試情報を共有化する等、進路指導部と各分掌、教科及び学年とが連携した組織的な進学指導体制の推進が必要である。

(4) 学力向上を第一義とした学校運営(部活動や学校行事とのバランス確保)

部活動は、自己の確立、思いやりの心、自主性や社会性などを育て、豊かな人間関係や生涯学習の基礎をつくとともに、個性・能力の伸長や体力の向上、健康の増進などの「生きる力」の育成に寄与するものであり、生徒の個性・能力の伸長や社会性を育むための学校行事も大切であるが、学校として部活動や学校行事に関する活動時間等についてのルールを設定し、進路指導部が部活動顧問等と連携する等、学習活動と学校行事・部活動のバランスを取るよう努めることが必要である。

(5) 大学進学を見据えたキャリア教育の充実

受験のためという動機づけだけでなく、将来の自分の夢や目標を達成するためモチベーションを向上させ、授業改善を行うことは重要である。高校教育においては、勉強だけでなく、知・徳・体のバランスのとれた人間形成を目指しており、各学校では、生徒の豊かな人間形成や社会性を育むため、基本的な生活習慣、規範意識を育成しながら、生徒の精神面を支える指導が必要である。

各学校では、卒業生や同窓会、PTAの協力も得ながらキャリア教育に取り組んでいるが、何のために学び続けるのか、生徒自らが考え、将来就きたい職業などを意識しつつ、目的を持って大学・学部を選択できるようキャリア教育を行うことが必要である。

また、グローバルな視点から、日本・東京を考える視点も養っていく必要がある。

第4 都教育委員会による支援策

1 これまでの都教育委員会の支援策

都教育委員会は進学指導を充実させるため、進学指導重点校等に対し、様々な支援策を講じてきた。以下では、都が行ってきた取組とその効果等について記載する。

(1) 教科指導・学力向上支援

ア 主要教科への教員加配（平成22年度から平成24年度まで）

進学指導重点校における教科指導等を充実するため、平成22年度から平成24年度まで、各校に主要教科2名の教員を加配措置している。

より具体的には、各主要教科における難関国立大学二次試験論述対策を中心とした論述指導・個別指導、土曜日や長期休業中の補習・補講の充実及び難関大学受験のための進学相談内容の充実等、進学指導の更なる強化に向けての取組等を行うことを目的としており、各進学指導重点校からの加配活用計画に基づき、加配を行っている。

また、進学指導重点校での進学指導の結果を踏まえ、その取組内容やノウハウを他校へも普及させていき、最終的には都立高校全体における生徒の学力向上及び進路希望の実現を図ることも目的とする。

なお、来年度、この教員加配措置についての成果検証を行う予定である。

イ 学力向上開拓推進事業

「都立高校学力向上開拓推進校」として指定した学校において、高校入試や各学校で実施する学力調査等のデータ分析に基づき、生徒の学力の実態を把握し、到達目標等を定めた「学力向上推進プラン」を作成・改善していくサイクルの中で、授業改善や生徒の学力の向上を図ることを目的としている。

育てたい生徒像や生徒・学校の現状と課題、学習指導等の基本方針及び教科指導・キャリア教育等における重点等をまとめた「学力向上推進プラン全体計画」や、高校入試の分析結果を踏まえて到達目標を定めた「教科別学力向上推進プラン」を作成し、生徒の学力の向上を図る。

また、各学校で到達目標の達成度を測るための学力調査を実施し、生徒一人一人の到達度を把握するとともに、その分析結果に基づき「教科別学力向上推進プラン」を改善する。これらの取組については、成果報告会の開催及び報告書の配布による研究成果の提供を行う。

今年度の取組の成果として、指定校においては、これまでの教員による経験知からではなく、高校入試の客観的なデータに基づいて生徒の学力の現状を認識できるようになっており、その分析結果を「教科別学力向上推進プラン」に反映させて授業改善に活かしている。また、学力調査を実施し、その結果の分析から「教科別学力向上推進プラン」の改善を図るPDCAサイクルを実践している。

(ア) 指定校

15校（足立高校・浅草高校・美原高校・八潮高校・深川高校・目黒高校・

文京高校・飛鳥高校・武蔵丘高校・稔ヶ丘高校・南平高校・松が谷高校・上水高校・小平南高校・青梅総合高校)

(イ) 指定期間

平成22年度から平成24年度(3年間)

(ウ) 平成23年度の実施計画

- ① 「都立高校学力向上開拓推進校」の指定の継続
- ② 全ての都立高校における学力向上推進プラン作成及び学力調査の実施等
 - a 学力向上推進委員の設置
 - b 「学力向上推進プラン全体計画」の作成
 - c 高校入試の分析と「教科別学力向上推進プラン」の作成
 - d 各校独自の学力調査の実施と分析
- ③ 都立高校学力向上推進協議会の開催

(2) 進路指導・進学支援策

ア 進学指導診断の実施

都立高校における進学指導のマネジメントの定着を図るため、進学指導に関する専門的な知識を有し、学校に対して進学実績の向上に資するアドバイスを行うことのできる進学指導アドバイザー(=予備校等の外部講師)を学校に派遣し、進学指導診断を実施している。

診断の内容としては、校長、副校長を対象に、学校が目指す進学指導の在り方、進学実績向上に向けた具体的な取組及び進学実績の状況等について診断及びアドバイスを行う「進学実績向上のための経営戦略の診断」、進路指導部の構成員や学年進路担当者を対象に、進学指導体制、進学指導内容、各学年との連携及び補習や補講等の取組等について診断及びアドバイスを行う「進学指導体制の診断」、国語、数学、英語の各教科それぞれ2名の教員と、地歴公民及び理科のうち1教科について2名の教員を対象に、教科の指導方法、学力の最終到達目標達成に向けた授業の妥当性、授業の評価及び大学受験への動機付け等について診断及びアドバイスを行う「指導力向上に向けた教科指導の診断」がある。

また、管理職、進路指導担当主幹教諭、学年担当主幹教諭、進学指導アドバイザーをによる、進学指導に関わる協議会を実施する。

今年度の取組の成果として、進学指導に関する様々な取組を行ってきた進学指導診断実施校が、外部機関から進学指導に関する専門的なアドバイスを受けることにより、進学実績向上に向けた経営戦略や進学指導体制、教科指導における成果と課題が一層明確になり、学校として取組む方向が明らかになっている。

(ア) 実施年度及び実施校

- ・ 平成22年度(10校)
小山台高校・駒場高校・新宿高校・町田高校・国分寺高校・三田高校・豊多摩高校・北園高校・城東高校・小松川高校
- ・ 平成23年度(9校)
国際高校・竹早高校・墨田川高校・武蔵野北高校・小金井北高校・桜修館中等教育学校・小石川中等教育学校・白鷗高校・両国高校

(イ) 進学指導アドバイザーを派遣する予備校等

河合塾、駿台予備学校、ベネッセコーポレーション、代々木ゼミナール

イ 進学指導研究協議会

都教育委員会では、「都立高校改革推進計画」に基づき、都立学校の進学対策について研究協議を深めるとともに、教科指導及び進学指導の実践力を高め、都立学校の進学指導の充実に資するため、「進学指導研究協議会」を設置し、平成10年度から開催している。

研究協議会は、進学指導重点校、進学指導特別推進校、進学指導推進校、中高一貫教育校の36校の校長、副校長、進路指導担当主幹教諭（主任教諭）等の関係教諭及び東京都教育庁関係者をもって構成する。

学校の性格により、Ⅰグループ（進学指導重点校を中心に構成）、Ⅱグループ（中高一貫教育校に関わる学校で構成）、Ⅲグループ（進学重視型単位制高校及び進学指導推進校で構成）の3つのグループに編成し、進学指導の充実のための校内の取組、私学及び他県の公立の進学校の取組、教員の進学指導力を向上させるための研修、予備校等との連携に関すること等について、それぞれ研究協議を行っている。

また、進路指導主任・学年進路指導担当者、教務主任のそれぞれで構成する進路指導担当者部会、教務主任部会、及び指名制による授業研究等を開催している。

(3) 人材育成・資質向上支援

ア 校長の人事構想を重視した人事異動（公募制人事）

教科指導力の高い教員によって、生徒一人一人の学力の向上を図り、生徒や保護者が期待する進学希望を実現させるとともに、組織的で計画的な進学指導を推進するために、進学指導重点校では平成14年度から、進学指導特別推進校においては平成20年度から、進学指導に意欲と実績のある教員を公募により配置している。公募しているのは、国語、地理歴史、公民、数学、理科、英語を担当している者であり、書類選考の上、面接を実施し、専門的知識、能力、意欲などを勘案して任用先を決定している。

また、平成22年度から進学指導推進校についても公募を行うことができることとした。

今後も、高い指導力と旺盛な意欲を備えた教員が進学指導重点校等で活躍できるよう人材の発掘も含めて取り組むことが必要である。

【進学指導重点校及び進学指導特別推進校への公募応募者数及び配置数】

(単位:人)

区分		平成19年度 (20年度異動)	平成20年度 (21年度異動)	平成21年度 (22年度異動)
応募者数		63	80	93
配置数	進学指導重点校・進学指導特別推進校からの異動者数	12	16	19
	進学指導推進校等進学関係校からの異動者数	11	10	8
	その他	12	15	27
	計	35	41	54

イ 異動基準の弾力的運用（平成22年度から実施）

進学指導重点校については、現任校6年以上の主任教諭及び主幹教諭のうち、進学指導（国語、地理歴史・公民、数学、理科、英語）に優れている者で、校長の人事構想上必要で、本人も残留を希望する者は、5名を限度に2～5年の範囲で異動対象としないことを認めることができる。

（4）中学校向け進路指導研修会の開催

中学生一人一人の能力・適性、興味・関心、進路希望等に適した高校選択に資するため、公立中学校の進路指導担当者及び区市町村教育委員会職員等関係者を対象に、進路指導研修会を例年8月に開催し、進学指導重点校等の特色ある都立高校の取組等について周知を図っており、毎年700人程度の公立中学校関係者が参加している。

具体的には、公立中学校の教員が都立高校を正しく理解し、生徒一人一人の能力や適性、興味・関心、進路希望等に応じた進路指導をしてもらえるよう、進学指導重点校をはじめ特色ある都立高校の取組等について講演を行っている。

2 今後の支援策の検討・実施

入学した生徒の学力を確実に伸長させ、多くの生徒の進路希望を実現するために、進学指導重点校等における一層の効果的取組を進めていく必要がある。そのために、今後は都教育委員会として以下の支援策を講じていく。

（1）教科指導・学力向上支援

ア 進学指導研究協議会の充実（「教科主任」部会の新設）

「進学指導研究協議会」に「教科主任」部会を新設する。

教科指導における専門性を有する者を講師として招き、各校の教科主任(国語・地歴公民・数学・理科・英語)が教科主任としての職務内容・所属校の生徒の学力の分析方法・学力向上のための指導計画の立案・教科指導方法について学ぶこととする。

イ 大学入試問題分析集の作成

進学指導研究協議会参加校の教科主任(国語・地歴公民・数学・理科・英語)及び進学指導研修生が、国公立大学二次試験及び私立大学の入試問題の分析及び解説書を日頃の授業の内容と結び付けて作成する。

教科毎に担当する大学と学部を定め、前年度の入試問題の解説を分担して作成する。各校は、解説を作成し、教科毎にとりまとめて印刷し、進学指導研究協議会参加校を中心に全都立高校等に配布して受験指導に役立てる。

ウ 学力向上の教材集の作成

進学指導重点校、中高一貫教育校の教科担当者（国語・数学・英語）及び進学指導研修生が、生徒の能力に応じた学力を身に付させるために、東京都独自の教材集を作成する。

教科毎に教材の作成方針を立案するとともに各校が分担する領域を定め、教材集

を作成する。

教材集は、教科毎に取りまとめて印刷し、進学指導重点校及び中高一貫教育校を中心に全都立高校等に配布して学力向上に役立てる。

エ 授業力向上セミナーの実施

進学指導重点校及び進学指導診断実施校の教科担当者(国語・地歴公民・数学・理科・英語)を対象に、予備校等から講師を招き、進学対策に対応した指導方法の理解を深め、進学指導に特化した授業を実施するための指導技術を学ぶセミナーを実施する。セミナーは、各学校で計画し、実施する。

オ 先進校の視察

進学指導研究協議会参加校及び学力向上開拓推進校の主幹教諭又は教科主任の代表が、進学実績を上げている他県の高校等を訪れ、授業や進路指導体制の実際を視察することによって、自校及び他校の進路指導に資する。

カ 巡回指導員による指導助言の実施（退職教員の活用）

進学指導重点校及び進学指導診断実施校に対して、教科指導や進学指導に関する専門的な知識を有する退職教員（専務的非常勤）を定期的に派遣し、進学指導に関わる事務や課題に対する指導助言を通して、各校の進学指導の事務の効率化を図る。

退職教員及び指導主事がチームとなって各校を訪問し、指導助言に当たる。

キ 夜間及び土曜日等における外部人材による自主学習支援

進学指導重点校、進学指導特別推進校、進学指導推進校、中高一貫教育校を対象に、自習室または自習スペースにおける生徒の自主学習を外部人材を活用して支援することにより、自学自習の充実を図ることとする。

外部人材には、生徒が志望する難関大学の学生、進学指導実績がある退職教員等を想定し、自習室・自習スペースにおける生徒の学習補助や生徒からの質問受付・個別指導に活用する。具体的には、自習室・自習スペースを巡回して生徒の学習状況を把握し、自習室・自習スペースの環境維持に努めるとともに、自習中の生徒の質問に対して、必要な助言を行う。

(2) 進路指導・進学支援策

ア 各学校の進路（学力）データの集約・分析（退職教員の活用）

都教育委員会に、進学対策支援業務に携わる退職教員を配置し、進学指導重点校等の進路データや学力データの集約・分析を行う。

イ 進学指導研究協議会の充実（進路指導担当者・教務主任部会の充実）

他県において進学実績を向上させている学校の進路指導担当者を講師として招へいする等の工夫を図るとともに喫緊の課題をテーマとした協議を一層充実させる。

ウ 巡回指導員による指導助言の実施（退職教員の活用・再掲）

(3) 人材育成・資質向上支援

ア 新たな若手教員育成システム「進学指導研修」(仮称)の実施

進学指導重点校7校における主要5教科の教員の平均年齢(平成22年度末現在)は50.7歳であり、都立高校教員全体の平均年齢45.9歳(平成21年度)と比較しても極めて高い。

【進学指導重点校(7校) 主要5教科の教員の年齢構成(7校全体)】

年齢区分	23~25歳	26~30歳	31~35歳	36~40歳	41~45歳	46~50歳	51~55歳	56~60歳	61歳~	計
教員数	1	2	7	9	23	90	88	58	7	285
構成比	0.35%	0.70%	2.46%	3.16%	8.07%	31.58%	30.88%	20.35%	2.46%	100%

今後、進学指導重点校等の優秀な教員が大量に退職していくこととなり、進学指導力の低下につながるものが懸念されるため、進学指導に優れた若手教員を計画的に育成する必要がある。

このため、進学指導特有の知識・技能を継承し、将来中核となる教員を育成し、進学指導重点校をはじめとする都立高校における進学指導の更なる充実を図るため、5教科(各教科2名)10名を対象に1年間の研修(定数外派遣研修)を実施することとする。

育成対象者は、教職経験7年以上で、「東京教師道場」「進学指導のための授業力向上研修」「教育研究員」の受講者・参加者などから選考する。

育成プログラムは、進学指導重点校での研修(現任校からの勤務地変更による派遣研修)を基本とし、進学指導重点校に育成対象者を配置して進路指導主任等の下、以下のOJT等を実施することとする。

研修内容としては、進学指導重点校におけるハイレベルな授業の研究、難関国公立大学入試対策(補講、個別相談等)の研究、教材研究・教材開発、大学入試問題研究、データ分析研究などを生かして、大学入試問題分析集及び教材集の作成等に当たるほか、ティーム・ティーチングや補講の実施なども想定している。

なお、研修終了後、良好な成績を修めた者については、原則として進学指導重点校等での配置を検討する。

(4) 進学指導体制の支援

ア 学校経営支援センターによる学校支援

進学指導重点校等の校長がリーダーシップを発揮し、より一層組織的で計画的な進学指導を推進していくため、各学校経営支援センターは、日頃の訪問指導等を通じ、進路指導部を中心とした組織的な進学指導、外部模擬試験等を活用した進学指導、中学校等への広報活動などについて適切な助言を行うなど、引き続き支援を行っていく。

第5 進学指導推進委員会の設置

平成13年度の進学指導重点校の指定以後、全体としては難関国立大学合格者数の増加など一定の成果はみられるものの、進学指導重点校内においても合格実績に相当の差がついており、一部の学校については伸び悩みあるいは低迷ぎみである。

高い資質を持つ生徒の潜在的能力からすれば、高校3年間の指導を一層充実させることによって、より多くの生徒の進学希望をかなえることが可能であると都教育委員会は判断している。

今後は、都教育委員会として、各学校の状況を適切かつ迅速に把握し、都教育委員会内部の連携を密にしながら、より効果的な支援策を実行していくため、常設の機関として「進学指導推進委員会」を設置し、進学指導重点校等の進学対策を推進していく。

1 設置目的

進学指導重点校等（中高一貫教育校を含む。）の進学指導の取組を都教育委員会として支援するため、常設の機関として「進学指導推進委員会」を設置する。

2 所掌事項

- (1) 進学指導重点校等の学校運営状況等の把握、意見交換及び指導助言に関すること。
各学校の進学指導改善計画や生徒の学力の分析状況等について、各校の校長・進路指導主任等と協議する。中高一貫教育校の取組状況等について、各校の校長・進路指導主任等と協議する等。
- (2) 進学指導重点校等の進学対策に関する都教育委員会としての支援策の検討に関すること。
- (3) 進学指導重点校等の指定準備に関すること。
平成25年度に向け、進学指導重点校等の各要綱に定める指定について、検討を行う。
進学指導重点校の選定基準は平成22年7月に設定済みである。今後は進学指導特別推進校の選定基準導入の可否について検討する。
- (4) 進学指導研究協議会の取組状況の把握に関すること。
- (5) その他必要事項に関すること。

3 委員会の構成

次長を委員長とし、教育庁内関係管理職を委員とする。

委員会の下に幹事会及び学力分析・学校運営・人事に関する各作業部会を置き、所掌事項を専門的かつ具体的に調査・検討する。

第6 各校の進学指導改善計画

重点留意事項に基づく進学指導重点校等による「進学指導改善計画」の策定

平成22年7月、都教育委員会は、平成25年度からの新たな指定に向け、進学指導重点校が満たすべき水準としての選定基準及び各学校において定める平成24年度までの目標設定の考え方について、前述したとおり示した。

その際に、目標の達成に向けた各学校の取組として、「センター試験及び難関国立大学等への現役合格者数に関する目標を設定する」とともに、「目標達成のため、学習指導・進路指導・特別活動や校内体制、教員の育成等に関する改善計画を策定し、実行することとした。

このため、各進学指導重点校においては、都教育委員会の策定した重点留意事項に基づき、自校の現状を分析した上、「進学指導改善計画」を策定及び目標を設定し、実施する。

同様に、各進学指導特別推進校、各進学指導推進校においても、改善計画を策定及び目標を設定し、実施する。

(1) 対象校

26校（進学指導重点校7校、進学指導特別推進校5校、進学指導推進校14校）

(2) 計画期間

平成22年度から平成24年度まで

(3) 各校の具体的な取組内容と取組目標

P28からP108に掲載する。

(4) 各校が設定した目標

各校の「進学指導改善計画」から抜粋した目標一覧表をP109からP112に掲載する。

なお、目標の対象は全て現役生である。

進 学 指 導 改 善 計 画

○進学指導重点校

日比谷高等学校	29
西高等学校	31
国立高等学校	33
八王子東高等学校	35
戸山高等学校	39
青山高等学校	41
立川高等学校	43

○進学指導特別推進校

小山台高等学校	47
駒場高等学校	49
新宿高等学校	55
町田高等学校	59
国分寺高等学校	63

○進学指導推進校

三田高等学校	67
国際高等学校	71
豊多摩高等学校	73
竹早高等学校	75
北園高等学校	77
墨田川高等学校	81
城東高等学校	83
小松川高等学校	85
武蔵野北高等学校	87
小金井北高等学校	91
江北高等学校	93
江戸川高等学校	97
調布北高等学校	101
日野台高等学校	105

※各学校の計画の中に出てくる下記の用語は、大学名を表している。

- ・早慶上理・・・早稲田大学、慶應義塾大学、上智大学、東京理科大学
- ・MARCH・・・明治大学、青山学院大学、立教大学、中央大学、法政大学
- ・GMARCH・・・MARCH+学習院大学
- ・日東駒専・・・日本大学、東洋大学、駒澤大学、専修大学

都立日比谷高等学校 進学指導改善計画

区分	項目	方策	具体的な取組内容と取組目標
			平成22年度
学習面	入学時から卒業までの学力推移の把握方法	全員が受験する年3回の模試を基に4月下旬と10月下旬に進学指導検討会(定点観測)を実施する。	1学年前期(夏期休業日前)1学期に外部模試を実施し、入学時の学力を把握する。
	1年次から3年次まで学力維持のための方策	予習復習を前提とした指導体制を確立し、学習習慣の定着を図る。そのために、予習を前提とした小テストと復習課題を活用する。	全学年に対して、1日学年+2時間以上の自主的な学習時間の定着を図るための指導を徹底し、期間を設けて、調査を行う。予習を前提とした指導体制を確立するとともに、小テストと復習課題を出すことで授業中の学習内容の定着を図る。
	自宅学習時間の確保のための対策	規則正しい生活習慣を確立させる。	部活動については活動時間等の規則を設け、自宅学習時間の確保を図り、予習・復習、発展的な学習まで自主的に学習する習慣を身に付けさせる。
	生徒に対する個別相談体制(早朝、放課後など)	年4回の個別面談の実施。また、進路指導部専任の意見をセカンドオピニオンとする。	4月当初から5月、6月末、10月、2月を目途に個別面談を実施する。また、適宜、早朝、放課後に面談を実施する。その際、進路指導部の専任教員を活用する。
進路指導面	入学時からの保護者生徒への学校経営方針の周知	入学式・始業式・学年集会・PTA委員会総会・保護者会等及びプリント配布などを活用しながら校長及び担任からの生徒・保護者への説明で周知徹底を図る。	入学式から学校経営方針の周知徹底を図る。また、詳細についてもプリント配布にして生徒保護者に伝える。
	進路希望を実現させるための生徒指導	個人面談と学年集会・保護者会を活用して志を高く持ち続けるよう指導する。	個人面談と学年集会・保護者会を活用し、集会では進路指導主任からの話を取り入れている。また、体験談などを含めた詳細な「進路のしおり」を作成し、活用させる。更に、担任を中心とし、全教員が進路指導についての初志貫徹の指導方針の共通認識を強化するとともに、各界で活躍している卒業生約20名による星陵セミナーなどを通じキャリア教育の充実を図る。
	進路データの管理と活用	進路指導部が一括管理し、進学指導検討会や学年会、学年別拡大進路指導部会で活用するとともに、個別面談で具体的な指導に活用する。	進路指導部が一括管理し、進学指導検討会や学年会、学年別拡大進路指導部会で活用するとともに、個別面談で具体的な指導に活用する。
特別活動	部活・行事と学習のメリハリの方策	部活動を週4日までとする。	部活動を週4日以内とする。土曜講習のある第1・3・5週の土曜日は原則部活動禁止とする。土日については、原則一方は部活動を禁止し、必ず休ませる。行事も前期に集中させ後期では学習に集中させる。
教員の資質	校内における授業改善のための取組など	教材研究の充実。授業観察後の管理職と授業者との反省会。教員相互の授業参観の活用	生徒による授業評価結果を通じ個人の教材研究の改善を行うとともに、シラバスの作成、5月末と10月末に開催する進学指導検討会を通じ教科としての教材研究を行う。また、授業観察後の管理職と授業者との反省会を行う。教員相互の授業参観を行い、互いの授業改善に役立てる。校長が必要があると判断した場合には、該当教科・科目の担当者を呼んで指導する。
生徒募集	広報活動の充実など	中学生を対象に、本校の魅力をアピールする。	中学生に都立高校の良さや本校の魅力をアピールすることで、公立中学校の良さを知ることにつながる。学校見学会・学校説明会・入学相談会を年6回実施する。
組織体制	進学に係る組織体制の充実など	全教職員が東京大学をはじめとする難関国公立大学に、生徒を合格させることが出来るための指導体制を確立すること。	外部模試の結果を活用して、個別面談、学年集会、保護者会での情報提供と指導を行う。また、進学指導検討会やその後の改善策に基づく校内研修を実施し、一層実りあるものにする。更に、国立大学の2次試験(前期日程)と後期日程の試験が終わるまで、限らない指導を継続する。
主要教科における加配教員の活用		3年生を対象に、午後にはいつでも質問できるように毎日担当者が決まった場所に常駐すること。	3年生を対象に、国語と英語の2教科については、午後にはいつでも生徒が質問できるように、毎日担当者が決まった場所に常駐し、指導に当たる。
入試年度			平成23年度入試
目標	センター試験	5教科7科目・6教科7科目の受験者数の増加	約75%(240人)を目指す。
		難関国公立大学等に合格可能な得点水準以上の者の受験者に占める割合の増加	概ね2.5割(80人)を目指す。
	合格実績	難関国公立大学等の現役合格者数の増加	45人以上を目指す。

平成23年度	平成24年度
毎年、各学年ごとに前年度と同様の外部模試を継続実施する。	毎年、各学年ごとに前年度と同様の外部模試を継続実施する。
全学年に対して、1日学年＋3時間以上の自主的な学習時間の定着を図るための指導を徹底し、期間を設けて、調査を行う。予習を前提とした指導体制を確立するとともに、小テストと復習課題を出すことで授業中の学習内容の定着を図る。更に、授業内容を充実させることにより、学力維持・向上を図る。	全学年に対して、1日学年＋4時間以上の自主的な学習時間の定着を図るための指導を徹底し、期間を設けて、調査を行う。予習を前提とした指導体制を確立するとともに、小テストと復習課題を出すことで授業中の学習内容の定着を図る。更に、授業内容を充実させることにより、学力維持・向上を図る。
部活動については活動時間等の規則を設け、自宅学習時間の確保を図り、予習・復習、発展的な学習まで自主的に学習する習慣を身に付けさせる。	部活動については活動時間等の規則を設け、自宅学習時間の確保を図り、予習・復習、発展的な学習まで自主的に学習する習慣を身に付けさせる。
4月当初から5月、6月末、10月、2月を目途に個別面談を実施する。また、適宜、早朝、放課後に面談を実施する。その際、進路指導部の専任教員を活用する。	4月当初から5月、6月末、10月、2月を目途に個別面談を実施する。また、適宜、早朝、放課後に面談を実施する。その際、進路指導部の専任教員を活用する。
入学式から学校経営方針の周知徹底を図る。また、詳細についてもプリント配布にして生徒保護者に伝える。	入学式から学校経営方針の周知徹底を図る。また、詳細についてもプリント配布にして生徒保護者に伝える。
個人面談と学年集会・保護者会を活用し、集会では進路指導主任からの話を取り入れている。また、体験談などを含めた詳細な「進路のしおり」を作成し、活用させる。更に、担任を中心とし、全教員が進路指導についての初志貫徹の指導方針の共通認識を強化するとともに、各界で活躍している卒業生約20名による星陵セミナーなどを通じキャリア教育の充実を図る。	個人面談と学年集会・保護者会を活用し、集会では進路指導主任からの話を取り入れている。また、体験談などを含めた詳細な「進路のしおり」を作成し、活用させる。更に、担任を中心とし、全教員が進路指導についての初志貫徹の指導方針の共通認識を強化するとともに、各界で活躍している卒業生約20名による星陵セミナーなどを通じキャリア教育の充実を図る。
進路指導部が一括管理し、進学指導検討会や学年会、学年別拡大進路指導部会で活用するとともに、個別面談で具体的な指導に活用する。	進路指導部が一括管理し、進学指導検討会や学年会、学年別拡大進路指導部会で活用するとともに、個別面談で具体的な指導に活用する。
部活動を週4日以内とする。土曜講習のある第1・3・5週の土曜日は原則部活動禁止とする。土日については、原則一方は部活動を禁止し、必ず休ませる。行事も前期に集中させ後期では学習に集中させる。	部活動を週4日以内とする。土曜講習のある第1・3・5週の土曜日は原則部活動禁止とする。土日については、原則一方は部活動を禁止し、必ず休ませる。行事も前期に集中させ後期では学習に集中させる。
教材研究の充実を図る。授業観察後の管理職と授業者との反省会を行う。教員相互の授業参観を行い、互いの授業改善に役立てる。進学指導検討会での分析に基づき、各教科が改善策を提示し、更なる校内研修会を実施する。校長が必要があると判断した場合には、該当教科・科目の担当者と呼んで指導する。	教材研究の充実を図る。授業観察後の管理職と授業者との反省会を行う。教員相互の授業参観を行い、互いの授業改善に役立てる。進学指導検討会での分析に基づき、各教科が改善策を提示し、更なる校内研修会を実施する。校長が必要があると判断した場合には、該当教科・科目の担当者と呼んで指導する。
中学生に都立高校の良さや本校の魅力をアピールすることで、公立中学校の良さを知ることに繋がる。学校見学会・学校説明会・入学相談会を年6回実施する。	中学生に都立高校の良さや本校の魅力をアピールすることで、公立中学校の良さを知ることに繋がる。学校見学会・学校説明会・入学相談会を年6回実施する。
外部模試の結果を活用して、個別面談、学年集会、保護者会での情報提供と指導を行う。また、進学指導検討会やその後の改善策に基づく校内研修を実施し、一層実りあるものにする。更に、国立大学の2次試験(前期日程)と後期日程の試験が終わるまで、限らない指導を継続する。	外部模試の結果を活用して、個別面談、学年集会、保護者会での情報提供と指導を行う。また、進学指導検討会やその後の改善策に基づく校内研修を実施し、一層実りあるものにする。更に、国立大学の2次試験(前期日程)と後期日程の試験が終わるまで、限らない指導を継続する。
3年生を対象に、国語と英語に数学を加え、3教科については、午後にはいつでも生徒が質問できるように、毎日担当者が決まった場所に常駐し、指導に当たる。	3年生を対象に、国語と英語に数学を加え、3教科については、午後にはいつでも生徒が質問できるように、毎日担当者が決まった場所に常駐し、指導に当たる。
平成24年度入試	平成25年度入試
約80% (256人)を目指す。	80% (256人)以上を目指す。
概ね3割(96人)を目指す。	3割(96人)以上を目指す。
50人以上を目指す。	55人以上を目指す。

都立西高等学校 進学指導改善計画

区分	項目	方策	具体的な取組内容と取組目標
			平成22年度
学習面	学力の3年間の計画的な伸長と教科診断の実施	3年間の新しい学習指導計画(育成計画)の策定	3年間の指導計画を「求められる力・つけるべき力」の観点で再構成し、新しい教科の学習指導計画を立案する。その指導計画を生徒配布用に印刷・製本する。
		校内実力考査・外部模試の分析と活用	過去の校内実力考査を分析し、卒業時に付けたい学力を基準に各回に出題する問題のレベル等を検討する。外部模試についても、業者の分析解説を踏まえ、各学年の教科担当が、学年生徒の課題を明らかにし、その対応策を検討する。また、校内実力考査と外部模試との関連を調査し、今後の模試のあり方を検討する。
	自学自習体制の整備	センター試験問題の自学自習システムの活用	生徒の自学自習の教材として、センター試験の過去問を科目別に8年間分用意し、マークカードを使い即日採点返却をしている。今後、センター試験の問題を分野別に再編成し、学習の進度に応じた問題演習を可能とすることを検討する。
		チューター制の導入	月8回程度卒業した理系大学進学者を自習室に配置し、生徒の質問対応等に活用している。生徒への周知・広報を拡大し、より一層の活用を図る。
		家庭学習時間の確保	実態把握と分析にも基づき、学年集会や担任による年間2回の個別面談の際に自習時間の確保について指導する。特に復習の励行を指導する。
	学習支援体制の強化	秋以降の補習補講体制の整備	教科として必要な対応を検討し、夏、秋、冬の一貫した学習支援体制を整える。また、年間を通して、講座による指導体制と添削等による個別指導体制のあり方を検討する。
		土曜特別講座等の活性化	必要な講座を教科として設置することを検討する。
進路指導面	3年間目標を維持させる指導の徹底	個人データの統合とそれに基づく教科の指導	3年間の生徒個人のデータを一括管理し、担任や教科担当が適宜閲覧可能とし、面談時に資料として活用できるようにする。単に成績に関するデータだけでなく、生活面に関するデータの収集を検討する。
		キャリアガイダンスの充実	OBによるキャリアガイダンスを年間7回実施している。今後、訪問講義(年4回)等現在自主的参加の講座を「総合の時間」等に位置づけるなどして必修講座への転換を検討する。また、海外の学校との交換留学制度を検討する。
特別活動	勉強との両立を図る指導の徹底	部活動の在り方の検討	現在、下校時刻(通常18時、冬季17時30分)の厳守や土日一方の休養日、長期休業期間の半分は勉強日とするなどのルールの下に部活動を実施している。今後、定期テストの成績不振者に対し、部活動顧問からも指導を行う。
教員の資質	教科会に基づく授業改善		年間10日間の相互授業参観に基づき、授業改善の研修会を実施し、授業改善に結び付けている。新しい3年間の指導計画を策定している。
	教科資料・財産の蓄積と共有		教材の共有化とそれに必要な関係資材の購入
生徒募集	広報活動の充実		現在、学校見学会16回、学校説明会4回、自校問題解説会4回などを校内で実施しており、塾等の説明会にも20回程度参加している。今後は、区市教委や区市PTAとの連携を図り、本校の説明会の開催を検討する。
組織体制	組織的な進路指導の充実	進路部主体の進路指導	進路部主体の進路指導体制による安定した進路指導
主要教科における加配教員の活用		補習補講体制の強化 多展開授業の実施	2年の古典と2年、3年の数学を多展開少人数指導を行っている。夏期講座や日常の補習補講の増加。転入者等も視野に入れ、教員の育成プログラムを検討していく。
入試年度			平成23年度入試
目標	センター試験	5教科7科目受験者	236人(約74%)
		難関国立大学等に合格可能な得点水準以上の者の受験者に占める割合	64人(約20%)
	合格実績	難関国立大学等の現役合格者	32人(約10%)

平成23年度	平成24年度
新しい指導(育成)計画を生徒に配布し、1年間実施に照らして検証(定期考査、校内実力考査、外部模試等の結果分析を行う。)する。また、その計画に照らして、課外の課題や補講補習等を位置付けも検討する。	前年度の検証に基づき、必要な改定や改善を行う。
校内実力考査の分析を進め、上記3年間の学力把握と連動して活用する。外部模試の検証結果を受け、該当学年の対応のみならず、教科としての新しい指導計画の検討を行う。また、前年度の在り方の検討を踏まえて外部模試を実施する。定期考査等の再試験等の基準を検討する。	校内・外部模試の結果を活用し、3年間の学習の到達度を定期的に調査し、その後の学習の進め方を教科として進行管理する。既存のデータの中に新しい模試等のデータを入れ、教科・学年が指導する際のデータが迅速に調査できるようにする。
3年間の学習指導計画の中に、センターの過去問(10年間)演習を位置づけて、生徒への取組を奨励する。生徒の採点結果を基にして、教科の担当が該当生徒の今後の学習進捗等を指導する教科診断を実施する。分野別の問題を作成し、生徒の演習が可能となるようにする。	前年度のセンター試験問題を順次追加していくとともに、生徒がセンター試験のテスト練習を行うべき時期を指導できるようにしていく。
活用度合いに応じ、チューター的人数や来校日数、指導教科の拡大を検討する。教員と連携し、自宅学習課題等の相談にも応じられるようにしていく。	活用度合いに応じ、チューター的人数や来校日数の拡大を検討する。新たな相談・指導内容が可能かを検討していく。
個人データの資料に家庭学習時間を加え、全教員が全生徒の自宅学習時間を確認できるようにし、家庭学習時間を確保するように指導する。復習の励行を確認する方法を教科で検討する。	家庭学習時間の確保と、復習の励行を適時に確認できる方法を検討する。
前年度結果を検証し、講座型指導体制と添削型指導体制等の充実整備を行う。	前年度結果を検証し、必要な改善を行う。
3年だけでなく、1,2年生対象に3教科の復習講座の開設を検討する。	前年度の結果を検証し、開設した講座について必要な改善を行う。
適宜データの追加等を検討する。また、過去のデータから傾向を分析する。個人データに基づき、生徒の学力を担当だけでなく、教科担当も指導できるようにする。	過去のデータ分析に基づき必要な改善を検討する。
総合の時間の一定時間を進路指導の内容とし、一連のキャリアガイダンスのうち、自由参加部分の必修化を検討する。新教育課程の実施に伴い、新しいキャリアガイダンスのあり方を検討する。海外の学校との交換留学制度の検討を継続する。	「総合の時間」の一定時間を進路指導の内容とし、一連のキャリアガイダンスを含め、生徒の進路意識を向上させる総合の指導計画を検討していく。交換留学制度の実現を目指す。
成績不振者は部活動に優先して、家庭学習時間の確保を優先させる指導を行う。バランスのとれた特別活動のあり方を検討する。また、部活動のルールを検討していく。	勉強と部活動の両立のための生活リズムのあり方の見本を生徒に提示するなどして、家庭学習時間と部活動や学校行事等バランスのとれた特別活動の在り方を指導する。
従来の相互授業参観を継続するとともに、新しい指導計画に基づき日々の授業改善のための教科会を実施する。	授業改善計画に基づき授業改善のための教科会を定期的実施する。
教科としての共通のプリント類や小テストを共有化する。	小テスト類や授業プリント類の製本化を検討する。また、過去の校内実力考査の問題を教科ごとに集約する。
区市教委や区市PTAと連携した本校の学校説明会や講演会等の広報活動事業を実施する。	連携した学校説明会等の検証を行い、広報活動事業の改善を行う。
模試や校内実力考査のデータ分析、受験情報の集約等を進路部が一括して行い、その結果を学年に提供していき、一貫した進路指導体制を一層進める。	模試や校内実力考査のデータ分析、受験情報の集約等を進路部が一括して行い、その結果を学年に提供していき、一貫した進路指導体制を整える。
同様の少人数指導を行うとともに、進路データの整理分析および、校内実力考査の作問等を行う。	進路データの整理分析及び、校内実力考査の作問等を行う。
平成24年度入試	平成25年度入試
244人(約76%)	250人(約78%)
73人(約23%)	83人(約26%)
41人(約13%)	48人(約15%)

都立国立高等学校 進学指導改善計画

区分	項目	方策	具体的な取組内容と取組目標
			平成22年度
学習面	基礎学力の定着	・放課後の組織的な補習授業を充実させる。	・数学科・国語科の定数各1名増に伴い、放課後の補習教室を設けて、定期的な補習を開講した。
	家庭学習時間の確保	・各教科で予習・復習の励行を徹底する。	・予習・復習など家庭学習を一層定着させるため、週休日休日等の部活動の在り方を検討し、改善策を策定する。
	受験に向けた意識改革	・受験を意識した授業内容を工夫する。	・一年生の段階から大学入試問題などを示して、目標レベルを明確にした学習指導を行う。
	大学進学後に生きる高度な授業の展開	・生徒の興味関心を引き出す授業を工夫する。	・全ての教科で、レベルの高い授業・生徒の知的好奇心を刺激する授業を行う。
	進路希望に合わせた多様な自由選択科目の設置	・弾力的な自由選択科目を設置する。	・生徒の進路希望を生かした設定科目や時間割の改善を行う。国公立大学の受験科目変更に合わせて「地理A」から「地理B」にカリキュラム変更した。
	サマーセミナーの実施	・一年生の学習支援・学習習慣の定着のためのサマーセミナーを実施する。	・夏季休業中にイブニング・サマーセミナー(下校後17時から19時まで学校を開放し、登録した生徒の学習支援・講習を実施する行事)を9日間実施した。
	進路別対策指導の強化	・放課後等の組織的な継続的な進路別補習や個別指導を充実させる。	・放課後や早朝に教科別に補習や個別指導を実施する。 ・一月以降に各教科で大学受験二次論述対策講座を開講する。 ・小論文等の個別指導を行う。
	長季休業中の組織的な講習の開講	・進学希望に合わせた講習を開講する。	・夏季休業中に進学希望に合わせた講習65講座を開講した。 ・冬季休業中にセンター直前講習を実施する。
	自習室の活用	・個人ブースのある自習室を開放する。	・進路指導部が、平日の早朝から放課後、週休日等に自習室を開放して、生徒の自主学習環境を提供する。
進路指導面	入学時から卒業までの学力推移の把握方法	・外部模試を定期的に実施する。	・二年生の”中だるみ”を招かないために6月に模試を新たに実施し、全国の進学校との比較を通して生徒の学力把握を行い、学習指導に反映させるように改善した。
	総合的な学習の時間の活用	・「総合的な学習の時間」を活用してキャリア教育を行う。	・生徒自身の進路研究を「総合的な学習の時間」に位置付け、夏季休業中に全員を進路希望に合わせてオープンキャンパスに参加させた。10月以降の学部学科研究、志望校決定、入試科目の調査・研究とも関連づけ従来よりも進路学習に対し組織的な指導を行う。
	入学時から卒業までの進路意識の育成を継続的に行う。	・学年と連携した学年進路ガイダンスを実施する。	・二年6月に新たに第3回進路ガイダンスを加え、大学受験の心構えと夏休みの大学訪問等による進路決定を促した。 ・一学年から三学年まで年間計10回の進路講演会・ガイダンス・セミナーを実施する。
特別活動	学習と行事・部活動との更なる両立を図る。	・年間行事計画の見直し ・合理的・計画的な部活動の実施	・年間行事計画に学習重点期間を明確に設定し、定期考査の時期や前期後期の時期を検討するなど、教育目標に沿った行事計画策定の検討を行う。 ・部活動の活動実態を把握し、自主練習等の課題改善を検討し、申請・許可制の導入などを検討する。
教員の資質	教科指導力の育成	・教科ごと研修時間を確保する。	・教科のチーム力を高め、教科内での研修の時間を確保する。 ・学習指導・進学指導に力のある教員を増やすとともに、新しい指導法の研究や教科内での研修の活性化を図り、人材を育成する。 ・外部の研究会に積極的に教員を派遣する。 ・各教科の指導目標を設定して、公表する。
生徒募集	本校の期待する生徒の姿に合致した受検生の募集	・高い目的意識・高い学力レベルの受検生を確保する。	・本校の「学び」を明確にした「学校案内」の作成を行い、ページ数を増した。 ・「学校案内」の発行を10,000部(昨年度6,000部)に増やし、広く配布する。
組織体制	進学対策会議の設置	・分掌横断的な組織を発足させ、戦略的進学対策を策定する。	・副校長・教務主任・進路指導主任・学年主任で構成する進学対策会議を設置する。進学対策会議を中心に組織的な進学指導を行う。
主要教科における加配教員の活用	・習熟度別授業等と教科による授業力向上研修	・習熟度別授業・少人数授業・個別指導を強化するとともに、時間割の中で授業力向上研修を実施する。	
入試年度			平成23年度入試
目標	センター試験	5教科7科目受験者	200人(322中)(62.1%)
		難関国立大学等に合格可能な得点水準以上の者の受験者に占める割合	40人(12.4%)
	合格実績	難関国立大学等の現役合格者	25人(7.8%)

平成23年度	平成24年度
<ul style="list-style-type: none"> 放課後の補習教室を割り当て、国・数・英の教員が常駐し、組織的計画的な補習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 放課後の補講・補習の時間割・教室割を通年で設定し、より組織的計画的に生徒の基礎学力定着の支援を行う。
<ul style="list-style-type: none"> 週休日休日等の部活動の在り方を改善し、家庭学習時間を十分に確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> 週休日、休日等の部活動の在り方を改善し、家庭学習時間を十分に確保する。
<ul style="list-style-type: none"> 引き続き一年生の段階から大学入試問題などを示して、目標レベルを明確にした学習指導を行う。 発展問題の演習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き一年生の段階から大学入試問題などを示して、目標レベルを明確にした学習指導を行う。 発展問題の演習を行う。
<ul style="list-style-type: none"> 受験に照準を合わせた授業だけでなく、進学後にも役立つ授業を取り入れていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 受験に照準を合わせた授業だけでなく、進学後にも役立つ授業を取り入れていく。
<ul style="list-style-type: none"> 生徒の進路希望を生かした設定科目や土曜授業も含めた時間割の改善を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の進路希望を生かした設定科目や土曜授業も含めた時間割の改善を行う。
<ul style="list-style-type: none"> 夏季休業中の効果的なサマーセミナーを検討し、生徒の学習支援態勢を強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> 夏季休業中の効果的なサマーセミナーを検討し、生徒の学習支援態勢を強化する。
<ul style="list-style-type: none"> 放課後や早朝に教科別に補習や個別指導を実施する。 一月以降に各教科で大学受験二次論述対策講座を開講する。 小論文等の個別指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 放課後や早朝に教科別に補習や個別指導を実施する。 一月以降に各教科で大学受験二次論述対策講座を開講する。 小論文等の個別指導を行う。
<ul style="list-style-type: none"> 長期休業中に進学希望に合わせた講習70講座を開講する。 センター対策や希望大学のレベルに合わせた対策講座を開講する。 	<ul style="list-style-type: none"> 長期休業中に進学希望に合わせた講習70講座を開講する。 センター対策や希望大学のレベルに合わせた対策講座を開講する。
<ul style="list-style-type: none"> 引き続き平日の早朝から放課後、週休日等に自習室を開放して、生徒の自主学習環境を提供する。 自習をする生徒のために下校時刻を延長して自習室を開放する。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き平日の早朝から放課後、週休日等に自習室を開放して、生徒の自主学習環境を提供する。 自習をする生徒のために下校時刻を延長して自習室を開放する。
<ul style="list-style-type: none"> 一年7月に模試を実施し、入学後3か月の生徒の学力の把握を行い、夏休みの過ごし方、自宅学習の習慣の確立の指導に役立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導部を中心に更に合理的効果的な模試のあり方を検討し、改善していく。
<ul style="list-style-type: none"> 二年の6月には志望校を仮決定させられるように、志望校調査を早期に実施し、二年の夏休みの学習の取組に生かす。二年6月模試とあわせて、その相乗効果により中だるみを防止する。 	<ul style="list-style-type: none"> 前年度の総括や反省を生かして、志望校調査を早期に実施し、二年の夏休みの学習の取組に生かす。二年6月模試とあわせて、その相乗効果により中だるみを防止する。
<ul style="list-style-type: none"> 前年度の総括や反省を生かして、さらに効果的な進路指導に改善する。卒業生(同窓会)、後援会、及び高大連携等を生かした外部人材を活用し、各学年で年3回以上の講演会を進路指導部が主催して実施し、キャリア教育を行う。 これまで二年10月に行っていた修学旅行を三年4月に行い、行事に集中する前期と学習や受験勉強に集中する後期のメリハリを明確にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 前年度の総括や反省を生かして、更に効果的な進路指導に改善する。卒業生(同窓会)、後援会、及び高大連携等を生かした外部人材を活用し、各学年で年3回以上の講演会を進路指導部が主催して実施し、キャリア教育を行う。 三年4月に行う修学旅行を前提として、行事に集中する前期と学習や受験勉強に集中する後期のメリハリを更に明確にする。
<ul style="list-style-type: none"> 部活ごとに年間練習計画を作成させ、活動しない日を設けるなど、メリハリのある活動と家庭学習時間の確保を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 部活ごとに年間練習計画を作成させ、活動しない日を設けるなど、メリハリのある活動と家庭学習時間の確保を図る。
<ul style="list-style-type: none"> 教科としての指導力を重視し、教科のチーム力を高める。 学習指導・進学指導に力のある教員を増やすとともに、新しい指導法の研究や教科内での研修の活性化を図り、人材を育成する。 外部の研究会に積極的に教員を派遣する。 教科ごとに研修の時間を週時程の中で設けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科のチーム力を高める。 学習指導・進学指導に力のある教員を増やすとともに、新しい指導法の研究や教科内での研修の活性化を図り、人材を育成する。 外部の研究会に積極的に教員を派遣する。 教科ごとに研修の時間を週時程の中で設けさせる。
<ul style="list-style-type: none"> 引き続き積極的に学校PRを実施し、本校の期待する生徒の姿に合致した受検生を集める。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き積極的に学校PRを実施し、本校の期待する生徒の姿に合致した受検生を集める。
<ul style="list-style-type: none"> 進学対策会議を中心に組織的な進学指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 進学対策会議を中心に組織的な進学指導を行う。
<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別授業・少人数授業・個別指導を強化するとともに、時間割の中で授業力向上研修を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別授業・少人数授業・個別指導を強化するとともに、時間割の中で授業力向上研修を実施する。
平成24年度入試	平成25年度入試
220人(328名中)(67.1%)	240人(323名中)(74.3%)
50人(15.2%)	60人(18.6%)
30人(9.1%)	40人(12.4%)

都立八王子東高等学校 進学指導改善計画(1)

区分	項目	方策	具体的な取組内容と取組目標
			平成22年度
学 習 面	主体的な学習習慣の確立	自宅学習時間の確保 生徒の学習計画立案 個人面談での指導の充実	授業や講習に参加することで安心し、実際に学力が身につけていない生徒が増えている。学校に頼りきりの姿勢ではなく、自立して学習するプログラムを開発する。ノートの取り方、予習・復習のやり方を身につけさせる。各教科での課題配布と提出・チェックの体制を整え、自宅学習時間を定着させる。生徒にいつ、どんな課題や小テストが出されているか、わかるようなシステムをつくり、日常的に教科間の生徒負担バランスをとる。併せて、宿題・小テスト・提出物の精選等を図る(他教科・HR等も含む)。
	成績上位者への対策	1・2年生のうちには下支えの指導を重視する基本方針を基盤にし、その上で上位者向けの講座を開講する。	1・2年生への朝学習や夏期・秋期・冬期・直前講習の在り方を改善すると共に、2年生夏期講習より、上位者向けの講座を開講する。また、2年次の中だるみの解消を各教科検討し、授業及び補習等に反映させる。2年次においては、12月に2日間の集中特別講義を実施している。
	教科間の連携	各学年の指導重点内容の教員間の相互理解	進路指導計画に基づき各教科の学習指導が行われているが、多様な生徒の指導のために更に教科間で詳細な連携が必要とされている。国公立大学受験に対応するため、1年次は数学の学習(特に復習)を他の教科に優先させる。また、文章力を高めるため200～400字作文の機会を設け書かせる。2年次までは国・数・英の3教科を中心に学習する。国・数・英の3教科に加え10月から理・社を実施する。
	大学入試問題への対応	講習、個別指導の充実 定期考査と模試のリンク	3年生の各時期に講習や個別指導を実施している。1、2年生は講習で長期休業の課題学習や基礎学力の育成を図る。また各学年とも定期考査の直後に外部模擬試験を実施し学力の定着を図るが、試験後の自己採点・解説理解に十分な時間が確保できていない現状がある。
進 路 指 導 面	生徒3年間の学力推移の職員全員による把握	教員全員による模試分析会の実施	1・2年生の模試結果を進路指導部と学年担任で模試分析を実施。3学年は進路指導部と3学年担任で進路検討会を実施。また、3年の進路検討会を全教員参加するものとして呼びかけ、進学指導のノウハウを全教員に共有させる。
	上位者対象の進路指導部面談	2学年上位者を進路指導部で面談し、動機づけを図る。	個人面談は担任が中心となり、年間4～5回行っている。2学年7月実力テスト結果の上位者に対しては、進路指導部も個人面談を行う。面談を行うことにより、上位者層のモチベーションを高める。
	キャリア教育と個人指導の充実	担任による個人面談充実 進学ガイダンスの複数回の実施	担任による面談を年間4～5回行っている。各学年、実施時間や実施場所に制約があり、効果を維持しながらも実施時期に応じた内容を整理させ検証させる。1年生には多くの職業人からの話を聞かせる進路ガイダンスを実施し、将来のための職業観を育成する。
特 別 活 動	部活動と学習の両立	部活動を生徒全員に奨励するとともに過度な負担とならぬよう組織的に支援する。	部活動は下校時刻を厳守させ、週に1日は休むよう指導している。夏休みは合宿以外の練習日数を20日以内とし、過度な負担とならぬよう配慮している。それでも過重負担が生じる部に対しては、顧問と活動日数、公式戦・コンクールとの関係など、適正な活動方法を検討する。
		部活動合同保護者会の実施・充実	部活動と勉強の両立のため年2回6、2月に、希望部活動の部員と保護者を集め、学校生活・勉強方法・先輩たちの経験談・他府県の進学校の実態など情報を提供している。生徒の主体的な学習計画を支援する方向を明確にし、合同保護者会後も、各部ごとの保護者会や部活動顧問による面談を実施し生徒の学校生活を支援している。
	主体性・社会性の育成	生徒会活動、HR活動、学校行事、部活動の主体的運営	ホームルームでの話し合い活動はある程度できているが、生徒の自主性や行動力に乏しい。ホームルーム委員や各種委員会の委員長による組織だった討論の場を設定し、学校における各委員会の役割や集団における個人の役割を自覚させ、生徒会組織の活性化を図る。
教 員 の 資 質	進路指導力の向上	入試結果報告会(5月)	卒業学年の進学結果報告及び指導方法の研修会を全教員対象に、5月に実施している。その結果報告会は、本校の3年間の教育活動の結果検証としての場として、重要な研修価値があることを全職員に認識させる。
	OJTの活用	進路研修会や募集対策研修会の実施	進路指導部主催の研修会は、大学入試の現場情報から本校の教育活動を外部から評価を受けたり、教員にとって大変有効である。教員の構成メンバーが異動により変化している。そのような状況に応じた情報を提供する研修会を行っていく。また、絶えず外部から本校がどのように評価されているかという視点を大切に研修会の内容を検討していく。
	校外授業研修への参加・伝達講習の実施	予備校等の主催による教科研修会へ、積極的に参加し、その成果を教員間で共有する。	主要5教科の中で順番を決め、毎年2教科は授業力アップのための様々な研修に参加し、その内容を同じ教科内で伝達し共有化を図る。

平成23年度	平成24年度
個人の学習計画とその実施状況を担任による個人面談等で確認・指導を行う。 各学年の取組を各教科及び進路指導部で検証しながら修正を加える。また、部活動との両立を図り、2年次の中だるみや国公立大学受験を断念しそうな生徒について個人面談を行い支援する。	個人の学習計画とその実施状況を担任による個人面談等で確認・指導を行う。 また、3年間の主体的な学習習慣づけの指導全体を検証し、進路結果報告会等で報告・協議し、全教員にそのノウハウを還元する。
1・2年生への下支えの講習を基本とし、2年生の夏期講習・冬期講習で、上位者向けの講座を教科バランスも考慮しながら開講する。 2学年は、上位者層を対象とする集中特別講義を12月末に2日間で実施。実施後、生徒による評価も含め担当部署で実施効果を検証する。	1・2年生への下支えの講習を基本とし、2年生の夏期講習・冬期講習・春期講習で、上位者向けの各教科バランスも考慮しながら講座を実施し、成果を各教科・進路指導部で検証する。 集中講義は前年度の検証を基に、実施方法等を改善し、2学年、1学年難関大学受験者への動機付け強化を工夫しながら、実施する。
2年次は英語・数学の学習を優先させる。LHR、総合的な学習の時間等を活用し、文章力の向上のために作文を書かせる。 上位者には、3年次6月模試で理・社のいずれかの科目で最難関大学合格圏の偏差値まで向上させる指導を行う。	受験に対応するため3年次7月国・数・英、8月理・社を重点的に学習する。 学習プログラムの検証を、各教科・分掌で行い、改善を図る。
センター試験、国公立2次対策等の多様な講習(70講座)を設置。 記述力を高める定期考査の実施	センター試験、国公立2次対策等の多様な講習の実施。 各種講座の内容と実施状況を検証し、次年度への改善を図る。
1・2年の模試分析会、及び3年進路検討会を全職員参加するものとして、主要教科教員や次年度担当の教員を参加させ確実に八王子東高校の進学指導を身につけさせる。	1・2年の模試分析会、及び3年進路検討会を全職員参加するものとして、継続して主要教科教員や次年度担当の教員を参加させ確実に八王子東高校の進学指導を身につけさせる。
2学年7月実力テスト結果の上位者に対しては、進路指導部も個人面談を行う。面談を行うことにより上位者層の第1志望の意思を固めさせ、安易に指定校推薦などを考えさせない。	2学年7月実力テスト結果の上位者に対しては、進路指導部も個人面談を行うことにより、生徒への指導はもとより、経験の少ない担任に対しての進路面談等の指導力の向上を図る。
各学年、実施時期に応じた内容の面接を、個々の生徒に応じた時間で実施し、必要ならば適宜三者面談を実施する。年度末には、面談について反省・検証を行う。1年生には職業観を育成するガイダンスを実施し、2年生には卒業生を招聘して将来の進学先を見据えさせ、大学等での様々な研究や教育活動の情報を提供する。	各学年、検証された実施時期・回数・内容で面談を実施し、学校生活・進路指導などの指導はもちろんのこと、生徒のメンタルヘルスの視点も含め、実効性のある個別指導を行う。また3年間を通じたキャリア教育計画を検証し、新たな計画を策定する。
部活動全体を見直し、適正な活動の仕方について合意形成を図る。引き続き過重負担の生じている部があれば適正化を促進する。	部活動全体を見直し、適正な活動の仕方について合意形成を図る。引き続き過重負担の生じている部があれば適正化を促進する。
生徒の主体的な学習計画を支援する方向を明確にし、合同保護者会後も、部活動顧問等による面談を実施し学校生活を支援する。	生徒の主体的な学習計画を支援する方向を明確にし、合同保護者会後も、部活動顧問等による面談を実施し学校生活を支援する。
ホームルーム委員や各種委員会の委員長のリーダーシップによる組織だった討論の確立を図り、集団性を向上させる。	各団体リーダーによる組織だった討論を通し、リーダーシップの育成及び個人の集団における役割を認識させる。また、個人と組織の健全な関わり方を学ばせることにより、生徒の主体性と社会性を育成する。
全員参加を基本とし、3年間の教科指導の検証の場として教員相互の意見交換や啓発の場として活用する。	教員研修の場としての在り方を検討しながら、生徒へ還元できる方策を全職員で共有する。また、有効な方策は、他校へも情報発信を行い都立高校の進学指導の一助とする。
八王子東高校独自の進路指導のノウハウや募集対策に関わる様々な催しの実施方法等、絶えず生徒・保護者の視点、中学生・都民の視点を意識しながら検証し、改善を図っていく。	八王子東高校の様々な進路指導や広報活動のノウハウを本校教職員の共通技術とし、他の都立高校へも必要に応じて発信する。
主要5教科の中で順番を決め、毎年2教科は授業力アップのため、研修に参加し、その内容を同じ教科内で伝達し共有化を図る。	主要5教科の中で順番を決め、毎年2教科は授業力のアップのため、研修に参加し、その内容を同じ教科内で伝達し共有化を図る。

都立八王子東高等学校 進学指導改善計画(2)

区分	項目	方策	具体的な取組内容と取組目標
			平成22年度
生徒募集	早期からの募集活動の充実	教員・生徒・保護者の相互協力による組織的広報活動	募集対策委員会を教員が自主的に組織し、活発な広報活動を展開している。これまでの広報活動を検証し、量から質への転換という発想から、特に重点的に力を入れるべき活動について検討し、共通認識を図る。
	わかりやすい広報活動	ホームページの充実 学校説明会・個別相談会の実施	HP更新回数を増やし、タイムリーに学校の情報を発信する。 総務部と有志の集まりである募集対策委員会との連携を更に深める。 1年生による中学校への母校訪問を継続する。
組織体制	進路指導体制の更なる強化	各学年の学年主任を校内組織の中で進路指導部に組みこむ	現在、各学年から1～2名が進路部会に出席している。全学年とも、学年主任と学年進路指導担当者を進路指導部会に出席させ、進路指導方針を共有し学年に浸透させる。
主要教科における加配教員の活用	習熟度別授業 個人指導の充実 志望校に特化した講習(3年生) 実践的な記述力の演習(国語)		(国語) 現在放課後に特別講座として設置。少人数による特別講座実施(通年・放課後) ・2次試験対策としての小論文個人指導の実施。教科の指導体制の整備 *H22年度から実施(理系古典&難関大学の国語) ・夏期・秋期・直前講習実施(難関大学用講座あり) ・難関大特講(3年春季休業中)実施 ・個別添削(記述問題&小論文) (英語)3年選択英語Ⅱの習熟度別授業。放課後に特別講座として設置 ・2次試験対策としての小論文個人指導の実施
入試年度			平成23年度入試
目標	センター試験	5(6)教科7科目受験者	240人(学年全体の75%)
		難関国立大学等に合格可能な得点水準以上の者の受験者に占める割合	50人(5(6)教科7科目受験者の21%)
	合格実績	難関国立大学等の現役合格者	15人

平成23年度	平成24年度
生徒会役員を中心に、生徒の中に広報委員会(あるいは広報ボランティア)を設け、生徒募集活動に参加させる。	近隣の小中学校と定期的な交流会(部活動・行事等)を行い、早期から本校の教育活動を周知させる。
塾訪問や学校説明会・個別相談会を充実させるために、工夫・改善の検討を行う。	平成23年度の検討結果を踏まえて、塾訪問や学校説明会・個別相談会の工夫・改善を行う。
全学年とも、学年主任と学年進路指導担当者が進路指導部会に出席し、進路指導方針を共有し学年に浸透させる。	全学年とも、学年主任と学年進路指導担当者が進路指導部会に出席し、進路指導方針を共有し学年に浸透させる。
3年選択英語Ⅱの習熟度別授業の実施 年度当初から、時間割の中で特別講座を実施検討し、指導効果を検証する。 ・少人数による特別講座実施(通年授業) *理系国語&文系国語(共に難関大受験用) ・夏期・秋期・直前講習実施 ・難関大特講(3年春季休業中)実施 ・個別添削(記述問題&小論文) ☆志望大学別の講習を実施(東大・一橋大・京大)	検証に基づいた、個別指導や特別講座、習熟度別授業の実施 習熟度別授業及び特別講座の在り方の再検討 ・少人数による特別講座実施(通年授業) *理系国語&文系国語(共に難関大受験用) ・夏期講習 秋期講習 直前講習 実施 ・難関大特講(3年春季休業中)実施 ・個別添削(記述問題&小論文) ☆志望大学別の講習を実施(東大・一橋大・京大)
平成24年度入試	平成25年度入試
240人(学年全体の75%)	240人(学年全体の75%)
50人(5(6)教科7科目受験者の21%)	60人(5(6)教科7科目受験者の25%)
15人	20人

都立戸山高等学校 進学指導改善計画

区分	項目	方策	具体的な取組内容と取組目標
			平成22年度
学習面	学力推移の把握	学力の定点観測実施	・1,2年は7月外部模試、9月校内作成模試、2月外部模試、3年は4月校内作成模試、5月から5回の外部模試を行い学力の定点観測を行う。
		進学分析会の実施	進路部データに基づく校内進学分析会を実施
	土曜日の活用	土曜授業確保と土曜講習の実施	・年間26回の土曜授業実施。土曜日午後の補講実施 ・平成24年度からの教育課程を隔週土曜授業実施、34単位確保の教育課程を策定する。
	自主学習時間の増加	1日3時間週20時間学習 1週間単位の実態調査	・1週間単位の学習実態調査を6月、11月に実施。週20時間確保 ・夏季休業中の学習目標1年150時間、2年200時間、3年400時間の学習計画作成
	早朝・放課後の活用	自習室・図書館の開放 講習の充実	・毎日20時まで自習室、図書館を開放し、学習環境を整える。 ・長期休業日は7時30分から19時まで自習室・図書館を開放
	学習内容の定着	学習オリエンテーション実施	・年度当初の学習ガイダンス計画の検討
	学び合う雰囲気醸成	学習規律の維持 時間・場所の確保	・チャイム始業の実施を維持する。 ・放課後の自習室に「講義室」を加え、教え合う場の確保 ・準備室前廊下にホワイトボード、長机を配置し、教員が質問に即答できる環境を整備し、授業の疑問や宿題の質問に答える。
進路指導面	卒業生座談会実施	卒業生(社会人)との連携	・同窓会「城北会」との組織的な連携を深め、多くの卒業生に講演や座談会を依頼できるシステムを構築している。
	キャリア教育の充実	進路希望の具体化 チューターの活用	・生徒の希望調査を模擬試験ごとに集計し、教員全体で共有していく。 ・卒業生の進路実現を追跡調査する。 ・人材バンクの東大生等によるチューター導入の検討
	保護者との連携	進路通信の発行・活用 三者面談実施による家庭のサポート	・主幹会議(進学対策会議)を活用し、進路情報を精査 ・年3回の面談を定期化し、保護者を含めた三者面談を実施
特別活動	けじめある部活動・ 学校行事	学習時間確保の徹底	・1日3時間の自宅学習時間を確保できるよう部活動練習計画を各部ごとに作成
教員の資質	教科指導力の向上	難関大入試問題分析の活用	・難関大学合格者の傾向を分析し、有効な学習方法を教科内で共有し、授業・講習に活用 ・転入予定者も含め、難関大学入試問題分析会の実施・継承
生徒募集	入選高倍率の維持と学習意欲の高い入学生の確保	新路線開通に対応した戦略的な募集対策 小学生対象見学会実施	・平成24年度副都心線への東横線乗り入れを視野に入れた旧2学区60中学校への訪問を行い、中学校での出前授業・説明会等に積極的に応じる。 ・6月に小学生及び保護者対象見学会実施
組織体制	主幹教諭による進学指導体制の構築と進行管理	継続的な主幹教諭の育成 主幹会議による進学対策事業の進行管理	・教務、進路、総務の3主幹教諭がそれぞれ学習チューター導入、難関大学進学研究、募集対策のプロジェクトチームを担当し、新たな対応策の検討を行っている。
主要教科における加配教員の活用		英語、数学における二次試験対策	・授業の他に年間を通じた継続的な講習及び長期休業日の集中講座を実施 ・センター試験後の国公立二次試験に向けた個別指導の充実
入試年度			平成23年度入試
目標	センター試験	5教科7科目受験者	200人(62.5%)
		難関国立大学等に合格可能な得点水準以上の者の受験者に占める割合	・センター試験7科目平均得点率80%以上50人
	合格実績	難関国立大学等の現役合格者	15人(4.7%)

平成23年度	平成24年度
<ul style="list-style-type: none"> 1、2年は学期1回の外部模試を実施、進路部が中心となって学力の定点観測の精度を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路部中心に学力個人データを蓄積し、進学指導に反映させていく。
<ul style="list-style-type: none"> 模試結果分析会の4・5月、9月での実施と講習内容への反映 	<ul style="list-style-type: none"> 模試結果分析、講習内容改善、合格実績の検証
<ul style="list-style-type: none"> 年26回の土曜授業を継続し、土曜日午後の講習を計画的、組織的に実施 SSH(スーパーサイエンスハイスクール)第三期指定を含んだ24年度教育課程の完成 	<ul style="list-style-type: none"> 新教育課程開始。土曜授業は年間20回、年34単位の授業確保 授業のない土曜日は、午前中部活動禁止、年間計画による講習を実施
<ul style="list-style-type: none"> 全生徒対象に学習計画を作成させ、生徒に時間の管理と計画的な学習習慣を確立させる。週20時間自主学習の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習計画作成を継続し、1日当たりの学習時間目標を1年3時間、2年4時間、3年5時間とする。
<ul style="list-style-type: none"> 毎日20時まで自習室、図書館を開放し、学習環境を整える。 長期休業日は7時30分から19時まで自習室・図書館を開放 上記時間を活用し、早朝・放課後に演習中心の講習を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 毎日20時まで自習室、図書館を開放し、学習環境を整える。 長期休業日は7時30分から19時まで自習室・図書館を開放 長期休業中の早朝・放課後の講習を充実させる。
<ul style="list-style-type: none"> 新入生対象に4月入学時学習ガイダンスを集中実施 	<ul style="list-style-type: none"> 前年度実施した学習ガイダンスを充実させ、進学希望の明確化と学習中心の学校生活の確立を図る。
<ul style="list-style-type: none"> 予鈴(8時25分)着席の励行 生徒の自習状況を踏まえ、教員の管理体制を整え、自習室を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> 予鈴(8時25分)着席の励行 生徒の自習状況を踏まえ、教員の管理体制を整えながら、自習室を増やす。
<ul style="list-style-type: none"> 同窓会「城北会」との組織的な連携を深め、多くの卒業生に講演や座談会を依頼できるシステムを構築している。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な業種の卒業生を講師として招き、生徒の職業観やモチベーションの向上を図る。
<ul style="list-style-type: none"> 進路希望調査の統一様式を定め、学期に1回調査を行う。 第一希望実現生徒の特性を調べ分析会に活用 チューターによる進学相談、学習相談の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 進路実現を図った第一志望校に入学した生徒の学習方法や各学年での成績状況を教員全体で共有し、進路指導に活かしていく。
<ul style="list-style-type: none"> 進路指導部により2ヶ月に1回の「進路だより」を発行 進学指導を中心とした保護者会の開催 三者面談月間の設定 	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導部により1ヶ月に1回「進路だより」を発行する。
<ul style="list-style-type: none"> 学習日課及び部活動計画による完全実施 	<ul style="list-style-type: none"> 学習日課及び部活動計画による完全実施
<ul style="list-style-type: none"> 4月着任教員対象に校内進学指導説明会実施 入試問題分析結果と授業展開を中心に研究協議を行う。 年2回実施する教員相互の授業参観において、テーマを設定し、テーマに即した授業力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 公募転任教員に継続して入試問題分析と授業・講習での活用を課題として与え、その結果を5教科の入試問題分析集として冊子を作成し、校内で活用する。 教員相互の授業参観を利用した授業力向上策を確立する。
<ul style="list-style-type: none"> 旧2学区中学校での訪問を継続的に実施し、また中学2年生を対象にした学校見学会を開催し、応募者の増加を図る。 小学生及び保護者対象見学会を地域等拡大して実施 	<ul style="list-style-type: none"> 旧2学区中学校での訪問を継続的に実施し、また中学2年生を対象にした学校見学会を開催し、応募者の増加を図る。 小学生及び保護者対象見学会を地域等拡大して実施
<ul style="list-style-type: none"> 各プロジェクトチーム答申案を経営計画に具現化予定 7主幹教諭体制にSSHを加えた8名体制の確立 	<ul style="list-style-type: none"> 新たな課題に対するプロジェクトの推進
<ul style="list-style-type: none"> 英語3年必修ライティングを2展開少人数で実施 数学Ⅲの多展開授業の実施。年間を通した継続的な講習及び長期休業日の集中講座を実施 センター試験後の二次試験に向けた個別指導充実 	<ul style="list-style-type: none"> 英語3年必修ライティングを2展開少人数で実施 数学Ⅲの多展開授業の実施。年間を通した継続的な講習及び長期休業日の集中講座を実施 センター試験後の二次試験に向けた個別指導充実
平成24年度入試	平成25年度入試
240人(75.0%)	240人(75.0%)
<ul style="list-style-type: none"> センター試験7科目平均得点率80%以上50人 センター試験全科目全国平均の125%以上目標 	<ul style="list-style-type: none"> センター試験7科目平均得点率80%以上50人 センター試験全科目全国平均の125%以上達成
20人(6.3%)	25人(7.8%)

都立青山高等学校 進学指導改善計画

区分	項目	方策	具体的な取組内容と取組目標
			平成22年度
学習面	家庭学習(学年+2時間)の確保	各教科の連携に基づく計画的な課題の提示と定期的な家庭学習時間調査の実施	<ul style="list-style-type: none"> 各教科の課題の提示方法を集約し分析する。 各学期に1回、期間を設けて家庭学習調査を行う。
	一人一人の学習習得状況の把握	TAIMS端末で生徒の進路カードを閲覧できるシステムを作る。	<ul style="list-style-type: none"> 進路カードのデータ化を図る。 共有フォルダを作成し、進路カードを教員が見られるようなシステムを構築する。
	1分1秒を大切に授業の実現 生徒の自主的な学習意欲の増大	学問の本質を究める授業の実践	<ul style="list-style-type: none"> 教員間の相互授業参観を積極的に行う。 進学指導研究協議会が主催する指名制による授業参観を活用し、他の進学校の状況を把握する。
		生徒と教員が作り上げる能動的な授業づくり	<ul style="list-style-type: none"> 予習・復習を徹底し、50分間の授業内容の充実を図る。
	自習室の有効活用	自習室の積極的な活用方法の提示	<ul style="list-style-type: none"> 自習室の整備及び活用規定の見直しの検討を行う(利用時間、方法など)。
進路指導面	進路部と学年の連携	進路部員の学年会への参加	<ul style="list-style-type: none"> 個人面談、保護者会等の開催前など必要に応じて、各学年会に進路部員が参加する。
	センター試験対策の支援	生徒が自発的にセンター過去問に取り組む環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が自発的にセンター過去問に取り組む環境(ハード面・ソフト面)を整備するための予算化を行う。
	国公立大学合格者を増加させる	授業スケジュールの見直し	<ul style="list-style-type: none"> 二学期末考査後にセンター試験対応の講座を設定することについて検討する。
		学力テスト・模擬テストの見直し	<ul style="list-style-type: none"> 外部模試、校内学力テストの実施時期、回数、活用方法などについて、根本的な検討を行う。
特別活動	部活動・学校行事への取組の改善	部活動の在り方の見直し	<ul style="list-style-type: none"> 部活動時間と学習時間の確保について、生徒の意識を踏まえ、検討をする。 部活動顧問による部員への学習指導や生活指導の在り方などHR担任との連携について検討する。
		学校行事の見直し	<ul style="list-style-type: none"> 平成23年度以降の学校行事(体育祭、外苑祭、青山セミナーなど)の在り方を検討する。
教員の資質	進学指導力の向上	授業の相互参観と校内研修の実施	<ul style="list-style-type: none"> 授業の相互参観の方法を再検討する。
生徒募集	難関国公立大学を志望する生徒の獲得	広報活動の見直し	<ul style="list-style-type: none"> 難関国公立大学志望の生徒を獲得するための広報活動について検討する。
組織体制	進路部を中心に全教職員による組織的な進路指導	進路部と学年、教科の連携の強化	<ul style="list-style-type: none"> 模試、長期休業日等における補習・補講、課題テストは進路部が主体となって実施する。
主要教科における加配教員の活用		計画に基づく加配教員の積極的活用	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別授業(2学級3展開、1学級2展開)、少人数授業を実施する。 生徒の志望に応じた進路希望別の習熟度別授業を実施する。
入試年度			平成23年度入試
目標	センター試験	5教科7科目受験者	140人(約50%)
		難関国立大学等に合格可能な得点水準以上の者の受験者に占める割合	8人(約6%)
	合格実績	難関国立大学等の現役合格者	11人(約8%)

平成23年度	平成24年度
<ul style="list-style-type: none"> ・要求する家庭学習時間に沿った課題の提示の方法を検討する。 ・家庭の実態に応じ、授業以外での学習時間を確保するため自習室の活用を一層推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科がバランスの取れた課題が提示できる体制を確立する。 ・自習室の活用を含め、授業以外の学習時間が「学年+2時間」を実現させる。
<ul style="list-style-type: none"> ・進路カードのデータ化により、生徒の学習状況や進路希望を全教員が把握でき、進路指導に活かす体制を構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の進路希望や学習状況を全教員が把握し、全校体制で進路指導ができる体制を定着させる。
<ul style="list-style-type: none"> ・受験のみの力だけでなく学問の本質を究める授業についての研究授業と研修会を実施する。 ・教員相互の授業参観週間を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学問の本質を究める授業についての研究授業と研修会の定着を図る。
<ul style="list-style-type: none"> ・3年間を見通したクラス編成の在り方を検討する。 ・生徒による授業評価を活用した授業改善をより推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善を通して、予習を前提とした質の高い授業、生徒の能動的な活動が見られる授業の確立を図る。
<ul style="list-style-type: none"> ・自習室の開放時間を改善する(午前7時半から利用可能とする。) ・午後8時までの開放延長について検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・希望者には午後8時までの自習室利用を可能とし、授業以外の学習時間を確保する。
<ul style="list-style-type: none"> ・各学年会、特に3学年会に進路主任が参加できるように時間割を設定する。 ・進路のしおり、学習のしおりの内容を再検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科で検討した弱点強化の勉強法を、学習のしおりや進路のしおりに提示し、自主的な学習方法を身に付けさせる。
<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導室前に過去5年分のセンター過去問を置き、生徒が自由に解き、答案(マークカード)を提出できる環境を整備する。答案は、その日のうちに採点し(カードリーダー使用)、生徒に返却するシステムを開始する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自主的にセンター過去問に取り組むことを日常化する。
<ul style="list-style-type: none"> ・二学期末から三学期初めの期間にセンター試験対応の時間割を編成する。 ・新教育課程への対応準備を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・難関国公立大学受験対応のために、新教育課程を踏まえた授業スケジュールの見直しをする。
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒のモチベーションを高めるための外部模試や校内学力テストのより効果的な活用方法を検討する(結果の公表も含めて)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部模試や校内学力テストは授業のない土曜日に実施することで、授業時間数を確保する。 ・進路カードを活用した進路指導を行う。
<ul style="list-style-type: none"> ・部顧問とHR担任の連携を推進し、部活動と学習を両立させるために、部顧問の関わり(面接の実施など)を密にする。 ・部活動の完全休日(週1~2日)を設定し、補講・補習を受講できる体制を構築する。 ・学習時間の確保と部活動の在り方について、生徒自身に意識付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部顧問がHR担任と連携し、学習指導や生活指導の不足する部分をフォローする体制を確立する。 ・学習を中心とした、より一層充実した学校生活ができる体制と環境を確立する。
<ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業日中の講習や補習期間を十分に確保するため、外苑祭の準備期間の見直しを行う。 ・修学旅行及び青山セミナーの実施時期(期間)を変更する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見直した学校行事全体についての検証を行う。
<ul style="list-style-type: none"> ・教科ごとに「教科としての強みと弱点」を明らかにし、弱点の改善策を進路職員会議や校内研修会で提示し、全校で検討する。なおその際に外部講師を招き助言を得る。 ・参観者は「ワンポイントアドバイス」を授業者及び管理職に提出する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・塾講師を招いて進学指導を念頭に入れた授業改善のための校内研修会を実施する。
<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に中学校へ出張授業や学校説明会を実施する。 ・塾への説明会などへの広報内容・方法を再検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校教員と連携した授業づくりなどを企画し、青山高校の教育力をアピールする。
<ul style="list-style-type: none"> ・進路部を中心に、学年代表、教科代表を構成員として進学向上対策委員会(仮称)を設置し、進学指導体制の再検討を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導中心の組織体制とし、進学指導の充実を図る。
<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別授業(2学級3展開、1学級2展開)、少人数授業を実施する。 ・生徒の志望に応じた進路希望別の習熟度別授業を実施する。 ・難関大学受験のための特別補習や補講を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別授業(2学級3展開、1学級2展開)、少人数授業を実施する。 ・生徒の志望に応じた進路希望別の習熟度別授業を実施する。 ・難関大学受験のための特別補習や補講を実施する。
平成24年度入試	平成25年度入試
160人(約57%)	170人(約61%)
12人(約7%)	15人(約9%)
13人(約8%)	17人(約10%)

都立立川高等学校 進学指導改善計画(1)

区分	項目	方策	具体的な取組内容と取組目標
			平成22年度
学習面	入学時から卒業までの学力推移の把握方法	外部模試の定期的な実施、模試の振り返り学習、模試分析会	<ul style="list-style-type: none"> 外部模試の結果を基に各教科で分析会を行い、指導方法の改善を図る。 模試後、模試解説会を実施する(1、2年)。
	1年次から3年次までの学力維持	上位層を対象とした発展学習及び発展型講習の実施 学習オリエンテーションの実施、2年前期における学習活動の工夫	<ul style="list-style-type: none"> 上位層を対象とした講習を計画的に実施する。 理系進学希望者や数学を得意とする者を対象にチャレンジ問題に挑戦させ、自学自習の態度を養う。 2学年の学習オリエンテーションを実施する。 夏休み前に数学一斉テスト、夏休み後に英国数課題テスト実施、緊張感をもって課題に取り組みせる。
	自宅学習時間の確保	学習オリエンテーションの実施、学習する機会・場所の確保	<ul style="list-style-type: none"> 入学当初から自宅での予習復習の方法、ノートの取り方等の学習オリエンテーションを実施する。 低学年では宿題等の自宅学習のチェックをする。
	生徒に対する個別相談体制	全学年を通しての組織的個別面談体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> 第2学年において夏季休業中に全生徒を対象に三者面談を実施する。 個別相談対応のスペース、コーナーを確保する。
	生徒の自主的、自発的学習	生徒の自学自習態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> 教科の本質を教える探求型授業の実践 総合的な学習の時間における「自分探しの旅」「進路を見出す旅」「進路実現の旅」の企画等、キャリア教育を充実させる。 自学自習時間を確保し学習の習慣づけ
	教育課程の編成	新教育課程の編成	<ul style="list-style-type: none"> 難関国公立大学を目指すことのできる新教育課程の編成を行う。 本校独自の65分授業の検証を行う。
進路指導面	入学時からの保護者生徒への学校経営方針の周知	難関国公立大学を目指す方針を明確にする	<ul style="list-style-type: none"> 各学年とも保護者向け進路説明会を年間2回以上実施する。難関国公立の優位性を紹介する。
	進路希望を実現させるための生徒指導	出願指導の充実 最後まで数学をあきらめない指導	<ul style="list-style-type: none"> 出願指導研究会を実施する。 センター試験後の個別試験対策指導を徹底する。 国公立後期試験まで、学校中心の個別相談体制を組む。
	進路データの管理と活用	面談用進路データの提供と積極的活用、模試判定システムの活用	<ul style="list-style-type: none"> 模試分析システムの上手な活用について、全教職員対象に研修会を行う。
特別活動	部活・行事と学習活動のメリハリをつける指導	学習活動とのバランスのとれた部活動指導の徹底	<ul style="list-style-type: none"> 学年・教科を中心に土曜補習は部活動等とのバランスが図れるように、年間を通して組織的、計画的に実施する。 生活指導部中心に土日の部活動の制限を実施する。 土曜日は講習優先の指導を実施する。
教員の資質	校内における授業改善、授業研究	教科としての組織的指導力を高める。 校内研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通して定期的に教科会を行う。科会で提案された授業改善方法について校内研修会を実施する。 学校改革委員会による他県の先進校視察を実施する。
	進学指導重点校教員の育成	入試研究、作問能力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査、実力テスト等における各教員の作問能力を高める研修を充実させる。
生徒募集	広報活動の充実	学校説明会の形式・方法の検討・見直し、学校案内の改訂 小学生への広報活動	<ul style="list-style-type: none"> 塾対象の学校説明会を充実させる。 教育情報部により自校問題解説会の拡大、校内だけでなく、外部会場でも実施する。 小学生対象の本校を知る学習会を実施する。
組織体制	進路指導部と学年団の連携 全教職員による進路指導体制の構築	全教職員の学校経営方針及び進路指導方針の共有化	<ul style="list-style-type: none"> 進路結果報告会をはじめ、進路部主催の研修会を充実させる。 毎学期行う、拡大学年会において個々の生徒の進路情報を交換し、指導体制を組む。

平成23年度	平成24年度
<ul style="list-style-type: none"> 外部模擬試験結果を基に、難関国公立大学合格可能圏の生徒へ進路意識を高める指導を実施する。 模試後、模試解説会を実施する(1、2年)。 	<ul style="list-style-type: none"> 外部模擬試験結果を基に、難関国公立大学合格可能圏の生徒の学力伸長への指導を徹底する。 模試後、模試解説会を実施する(1、2年)。
<ul style="list-style-type: none"> 難関国公立大学志望者を対象にした少人数ゼミ等、計画的な講習を実施する。 2学年の学習オリエンテーションを実施する。 夏季休業中に部活なし、学習登校日を設ける。 夏季休業明けに校内実力テストを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 難関国公立大学を目指す生徒のための学習合宿を実施する。 夏季休業中に部活なし、学習登校日を設ける。 長期休業明けに校内実力テスト(自校作成)を実施する。
<ul style="list-style-type: none"> 自宅学習計画の組み方等の指導を徹底する。 朝学習、放課後学習等、校内における自学自習時間及び自学自習の場所を保証する。 	<ul style="list-style-type: none"> 第1学年で学習オリエンテーション校内合宿を実施する。
<ul style="list-style-type: none"> 夏休み、11月の進路充実期間を中心に全学年で進路に関する個別面談(二者面談、三者面談)を組織的に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 夏休み、11月の進路充実期間を中心に全学年で進路に関する個別面談(三者面談)を組織的に実施する。
<ul style="list-style-type: none"> 教科の本質を教える探求型授業の実践 総合的な学習の時間における「自分探しの旅」「進路を見出す旅」「進路実現の旅」の企画等、キャリア教育を充実させる。 自学自習時間設定と教員への質問コーナーの充実 	<ul style="list-style-type: none"> 学問の本質を教える探求型授業の実践 総合的な学習の時間における「自分探しの旅」「進路を見出す旅」「進路実現の旅」等の企画、キャリア教育を充実させる。 生徒の自発的な学習による研究発表会の実施
<ul style="list-style-type: none"> 土曜授業、土曜講習の在り方について検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 新教育課程による授業の実施
<ul style="list-style-type: none"> 3年間の進路指導計画を保護者・生徒に周知徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者向け進路講演会、進路協議会を実施する。 中学生・都民向けに自校の進路方針のアピールを行う。
<ul style="list-style-type: none"> 出願指導の研修会を全教職員で実施する。 センター試験後から国公立後期試験まで、個別試験対策指導、個別相談を徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> 出願指導の研修会を全教職員で実施する。 センター試験後から国公立後期試験まで、個別試験対策指導、個別相談を徹底する。
<ul style="list-style-type: none"> 生徒の各種情報、面談個人票と共に、進路データと模試判定システムが有効的に活用できるようにシステムを整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の各種情報、面談個人票と共に、進路データと模試判定システムを有効に活用し、進路指導を行う。
<ul style="list-style-type: none"> 生活指導部において土日の部活動制限を徹底し、生徒の休日の学習時間を確保する。 夏季休業中の部活動日数の制限を実施する。 生活指導部中心に学校行事の見直しと精選を行い、授業時間を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活指導部・教務部を中心に夏季休業中の部活動日数の制限を実施するとともに、学習登校日を設ける。 学校行事の見直しと精選を行い、授業時間を確保する。
<ul style="list-style-type: none"> 教科での学外研修、研究視察を実施する。 大学での授業を視野に入れた探求型研究授業を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科での学外研修、研究視察を実施する。 大学での授業を視野に入れた探求型研究授業を実施する。
<ul style="list-style-type: none"> 新任教員向けオリエンテーションの実施 作問能力を高める研修の実施 各教科で「難関大入試分析」を組織的に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 新任教員向けオリエンテーションの実施 作問能力を高める研修の実施 各教科で自校版「難関大入試分析」の冊子を発行する。
<ul style="list-style-type: none"> 自校作成問題解説会の拡大 教育情報部中心に教職員の広報活動に関する研修会を実施する。 小学生対象の体験学習会実施 	<ul style="list-style-type: none"> 中学生対象、生徒・保護者・教員による学校説明会実施 小学生対象の体験学習会、学校説明会実施
<ul style="list-style-type: none"> 年度当初に生徒の3年間の進路指導計画について全教職員を対象に研修会を実施する。 進路指導部中心に、学年・教科・管理職による進路検討会議を年2回実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導部中心に学年・教科・管理職による進路検討会議を年3回実施する。

都立立川高等学校 進学指導改善計画(2)

区分	項目	方策	具体的な取組内容と取組目標
			平成22年度
	主要教科における加配教員の活用	難関国公立大学を目指すための特別講座、ゼミ等の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・2年生ライティング授業において2クラス3展開による少人数授業実施 ・3年現代文を文・理系別に少人数授業実施 ・3年古典講座を進路別に増講座で実施
入試年度			平成23年度入試
目標	センター試験	5教科7科目受験者	180人(55%)
		難関国立大学等に合格可能な得点水準以上の者の受験者に占める割合	26人(8%)
	合格実績	難関国立大学等の現役合格者	10人(3%)

平成23年度	平成24年度
<ul style="list-style-type: none"> ・英語:2クラス3展開による少人数授業実施 ・英語:難関大過去問対策講習、65分授業対策オリジナル小テスト作成を実施する。 ・国語:難関国公立理系のための現代文・古典対策講座を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・英語:2クラス3展開による少人数授業実施 ・英語:難関大過去問対策講習、65分授業対策オリジナル小テスト作成を実施する。 ・国語:難関国公立理系のための現代文・古典対策講座を実施する。
平成24年度入試	平成25年度入試
193人(60%)	195人(61%)
28人(9%)	31人(10%)
13人(4%)	15人(5%)

都立小山台高等学校 進学指導改善計画

区分	項目	方策	具体的な取組内容と取組目標
			平成22年度
学習面	入学時から卒業までの学力推移の把握方法	外部模試の定期的な実施 模試分析に基づく学力推移の把握	1年4月、1年末及び2年末に受験学力診断テストを実施し、さらに同一業者の模試を3年間実施する。これらを分析・検討することにより、同一学年の学力推移を把握するだけでなく、他学年の同時期との比較検討をすることで、当該学年の状況をきめ細かく把握する。
	1年から3年までの学力維持のための方策	模試分析に基づく個別指導 個別大学対応講習の実施 進路行事による継続的刺激による国公立大学への意識づけ 自学自習の時間を確保 センター試験での得点確保	進路指導部と1年担任団で上位層を個別に把握し経年変化を見る。 「東大世界史」等一部実施 進路指導部による進路講演会、大学見学会、先輩の話を聞く、学問の面白さ講座等の進路行事で各時期に刺激を与え、国公立大学への意識を維持させる。 各学期の学習実態調査、個人面談、勉強合宿等により、自学自習の時間を確保させる。 センター対策講習への2年生の参加を促進する。
	自宅学習時間確保のための対策	毎学期の学習実態調査 調査に基づく個人面談 自習室の設置時間の増加 5教科7科目入試を意識させる。	学習実態調査の結果を基にした個人面談で学年プラス1時間の自宅学習時間を指導していく。 定時制と調整し、自習室の使用可能時間の増加を図る。 国公立大学への進学意識を高めることで、5教科7科目受験を意識させ、自学自習の必要性を認識させる。
	生徒に対する個別相談体制	進路と学年と連携した個人面談の実施	進路指導室での随時相談、担任以外でも相談に応じられるよう個人データ等を整備する。
進路指導面	入学時からの保護者生徒への学校経営方針の周知	保護者会・学年集会で繰り返し周知 定期的な進路保護者会の実施	「進学指導診断」を受けて保護者への働きかけを強化する方策を検討。 併せて、進学指導に対する教員の共通理解を図る。
	進路希望を実現させるための生徒指導	3年間を通じた進路決定プロセスの確立 教職員の方向の一致	進路指導部を中心に、3年間を通じた進路指導について、これまでの方向を生かして実施時期や柱となる進路行事の位置づけ等についての見直しを図る。
	進路データの管理と活用	進路指導部での一括管理 分析資料の共有	進路指導部と担任団で上位層を中心に進路検討会の実施 各教科で難関大学の入試問題研究の推進
特別活動	部活・行事と学習のメリハリの方策	部活動顧問による部員の進路希望把握 時間のけじめをつける指導	各部の顧問が部員の進路希望を把握し、家庭学習時間が確保できる練習計画を立てる。 平日の部活動は週1回休み、行事の準備は短期間集中で実施する。 夏季休業中に1週間半日部活動を停止し、1、2年の講習期間を設定する。
教員の資質	校内における授業改善の取組	国公立大学進学を前提とした授業の方向性の提示 教科内での授業改善策の検討	進学指導診断等を活用し、国立大学進学及び難関国公立大学進学を伸ばすことが、今後の方向性であることを機会あるごとに提示し、教員の意識の統一を図る。
生徒募集	より広範な生徒募集	ホームページの充実 学校へ来てもらう機会の増加 小学校との連携事業	ホームページの改善を実施、更にビジュアル化を図る。 志願者の少ない地域への積極的PRを推進する。 小山台小学校との連携事業を実施
組織体制	進路指導部と学年団との連携のための方策	模試分析会にあわせ、上位層を中心とした進路検討会の実施	模試分析会資料の充実を図り、進路と学年の歩調を合わせていく。 進学指導診断を通して有効な連携のための具体的方策を検討
入試年度			平成23年度入試
目標	センター試験	5教科7科目で受験する者の在籍者に占める割合	46.4%(130/280)
		難関国立大学等に合格可能な得点水準(80%)以上の者の受験者に占める割合	7.7%(10/130)
合格実績	難関国立大学、国公立大学、難関私立大学等の現役合格者	難関国立大6、国公立大40、難関私立大40	

平成23年度	平成24年度
1年4月、1年末及び2年末に受験学力診断テストを実施し、さらに同一業者の模試を3年間実施する。これら进行分析・検討することにより、同一学年の学力推移を把握するだけでなく、他学年の同時期との比較検討をすることで、当該学年の状況をきめ細かく把握する。	1年4月、1年末及び2年末に受験学力診断テストを実施し、さらに同一業者の模試を3年間実施する。これら进行分析・検討することにより、同一学年の学力推移を把握するだけでなく、他学年の同時期との比較検討をすることで、当該学年の状況をきめ細かく把握する。
進路指導部を中心に各学年の上位層の推移、及び同時期の学年ごとの人数比較等を分析する。 上位層の生徒に対して弱点補強の個別指導を実施し、難関国公立大学への意欲を高める。 「東大英語」「東工大数学」等の講習を実施し、意欲を持たせる。 各進路行事に加え、旧帝大系を中心とした地方国公立大学の説明会を実施して、地方国公立大学への視野を広げる。 本人・保護者との面談を随時行い、3時間の家庭学習時間を確保するよう指導を強める。 センター対策講習への2年生の参加を強く指導する。	進路指導部を中心に各学年の上位層の推移、及び同時期の学年ごとの人数比較等を分析する。 上位層のための進学指導チームをつくり、個人別指導を徹底していく。「東大英語」「東工大数学」等の講習を実施し、意欲を持たせる。 各進路行事に加え、旧帝大系を中心とした地方国公立大学の説明会を実施して、地方国公立大学への視野を広げる。 本人・保護者との面談を随時行い、3時間の家庭学習時間を確保するよう指導を強める。 センター対策講習への2年生の参加を強く指導する。
学習実態調査の結果を基にした個人面談で、特に1・2年生に対する自宅学習時間の確保を指導する。 定時制と調整し、自習室の使用可能時間の増加を図る。 特に2年生に対し、国公立大学への進学意識を高めることで、5教科7科目受験を意識させ、自学自習の必要性を認識させる。	学習実態調査の結果を基にした個人面談で、特に1・2年生に対する自宅学習時間の確保を指導する。 定時制と調整し、自習室の使用可能時間の増加を図る。 特に2年生に対し、国公立大学への進学意識を高めることで、5教科7科目受験を意識させ、自学自習の必要性を認識させる。
進路・学年を中心に、中位層の学力を向上させるための相談体制を教科横断的に整備する。	特に上位層に対する個人別指導チームをつくり、学習や志望校に対する具体的な相談体制をつくる。
3年間を通して保護者に進路についての学校としての考え方を段階的に伝えていく。具体的には、国公立大学への進学、地方の国公立大学にも目を向けることを伝え、必要な資料を提供していく。 3年間の各時期に応じて、進路指導部を中心に進路保護者会を計画する。	3年間を通して保護者に進路についての学校としての考え方を段階的に伝えていく。具体的には、国公立大学への進学、地方の国公立大学にも目を向けることを伝え、必要な資料を提供していく。 3年間の各時期に応じて、進路指導部を中心に進路保護者会を計画する。
進路指導部の立てた、各学年の進路行事の目的や狙いを教員が共通認識し、生徒がより理解しやすい3年間の進路指導計画を提示し、推進する。	教職員が進路指導部の方針にのっとり、進路指導について、同一のベクトルで生徒に接する体制を確立する。
進路指導部と担任団で上位層を中心に進路検討会の実施 各教科で難関大学の入試問題研究の推進	進路指導部と担任団で上位層を中心に進路検討会の実施 各教科で難関大学の入試問題研究の推進
3年生の進路結果を顧問が十分把握し、それを基に部活動顧問が、下級生に対し国公立大学、難関大学への挑戦の奨励、第1志望校へのチャレンジ指導を強める。 短時間の集中的な練習で結果を出していけるような工夫、改善を図る。 特に、2年生の家庭学習時間の確保を奨励する。	3年生の進路結果を顧問が十分把握し、それを基に部活動顧問が、下級生に対し国公立大学、難関大学への挑戦の奨励、第1志望校へのチャレンジ指導を強める。 短時間の集中的な練習で結果を出していけるような工夫、改善を図る。 特に、2年生の家庭学習時間の確保を奨励する。
国公立大学、難関国公立大学への進学を目標とした授業研究会の開催 各教科に難関校入試問題研究会を設置し、授業の中に活用していく手段を検討する。	国公立大学、難関国公立大学への進学を目標とした授業研究会の開催。 各教科に難関校入試問題研究会を設置し、授業の中に活用していく手段を検討する。 教科横断的な難関国公立大学指導チームをつくり、上位層を的確に指導していく。
学校説明会、授業公開、体験授業等の回数の増加を図るとともに、効率的なPRの方法を検討する。 PRのポイントをしぼり、全ての職員が同一の説明をできる体制を確立する。 小学校との連携事業を拡大する。	学校紹介ビデオを再編集する。 ポイントをおさえたキャッチフレーズ等により、誰でもが、同じPRポイントで話をできる体制を確立する。 小学生対象の説明会を実施する。
進路指導部と学年で具体的数値目標の設定し、中位層の学力伸張と上位層を中心とした個別の進路分析会を実施	進路指導部と学年で具体的数値目標の設定し、上位層と中位層の生徒について個別の出願先検討会を実施する。
平成24年度入試	平成25年度入試
48.2%(135/280)	53.1%(170/320)
8.8%(12/135)	10.6%(18/170)
難関国公立大6、国公立大45、難関私立大45	難関国公立大8、国公立大50、難関私立大55

都立駒場高等学校 進学指導改善計画(1)

区分	項目	方策	具体的な取組内容と取組目標
			平成22年度
学習面	入学時から卒業までの学力推移の把握方法	外部模試の定期的な実施	進路指導部の主導により、全校で定期的に外部模試を行っている。1・2年生は7月・11月・1月に実施し、入学時からの学力推移を把握して指導に活かしている。3年生では、7月までは同業者の模試を実施して学力推移の指標としているが、それ以後は予備校系の外部模試に替えて大学受験対応力を評価している。これとは別に、予備校系の模試を各学年1回以上実施している。特に個別音源でリスニングテストが可能なセンター対策模試については、2・3年生で各1回実施している。
		模試分析会	模試分析結果は、毎回各学年の教科担当者から職員会議で報告され、全教員に周知する。また、進路指導部主催による校内の進路指導研修会で、模試の活用について外部講師を招いて検討している。
	1年次から3年次まで学力維持のための方策	進路研修会の実施とデータに基づく面談指導 予備校の衛星授業を校内で実施	進路指導部主催の進路研修会で外部講師を招き、模試の結果を用いて志望校決定に向けてどのような助言を行うかを検討し指導に生かす研修を実施した。長期休業中の講習で、私立難関校向け英語講座など、進路や成績に応じた講座が増加してきた。進路指導部と学年との連携により、2年生から予備校の衛星授業を放課後に受講できるようにして、受験意識の高揚と学力向上に役立てている。国数英の3教科5科目について、平成21年度は12月から実施したが、平成22年度は11月から実施している。
	補習・講習の実施	計画的な補習・講習体制	進路指導部と学年の連携による補習・講習体制が組まれている。3年生の夏季講習は、5月中旬に生徒に計画を提示し、予備校の講習と選択できるようにしている。平成22年度は、33講座が実施された。また、1・2年生の夏期講習の予定は6月に提示された。1・2年生では、成績不良者に対する呼び出し補習を含めて、16講座が設定された。2年生では、補習だけでなく、より発展的な内容の講座も増加している。講座のねらいを、明確化して生徒への案内を行っている。
	自宅学習時間の確保のための対策	下校時刻の遵守	下校時間は通常は午後5時で、部活動は延長を申請しても午後6時終了、6時半完全下校である。国・英・数を中心に、課題テストを頻繁に行って家庭学習時間を確保させている。
		自習室の開設	下校前の学習時間を確保するために、自習室では午後7時半まで勉強することができる。部活動終了後に、1時間の学習が可能である。
	生徒に対する個別相談体制	担任による個別面談	全学年で、担任による個人面談を1学期から年間に複数回実施している。生徒個人の学習状況の変遷は、進路カルテを作成して記録し、指導に活用している。また、学級担任や教科担任は、随時相談に応じる体制を取っており、各教科職員室前の廊下には机と椅子が置かれて、生徒の質問に応じている。
		進路指導室での相談	進路指導室は、長期休業期間を含めて進路日直を置いており、いつでも相談に利用できる。PCを活用した情報検索ができるほか、大学別受験問題集(赤本)の貸出しも行っている。
	保護者生徒への学校経営方針の周知	入学前から入学後の経営方針の周知	管理職、教務部、進路指導部などから、入学前の学校見学会や学校説明会、入学式、入学後の保護者会等で繰り返し、学習と部活動を両立させる努力を促し、生徒の実践状況を話している。教職員・保護者・生徒のいずれにおいても「ハイレベルの文武両道」を目指すことが合言葉となっており、良く使われている。
		3年生生徒・保護者合同進路ガイダンス	3年生4月当初に、生徒と保護者の合同進路ガイダンスを実施している。保護者と生徒が同じ話を聞くことで、保護者への進学に関する情報提供を行うとともに、親子の意識のずれをなくすことを目的とする。

平成23年度	平成24年度
<p>引き続き、模擬試験によって継続的に学力状況の推移を把握する。また、引き続き教員の模試分析力やデータの活用法を外部講師による研修を導入しながら高め、教科ごとの指導内容の検討や生徒の個別指導に活用する。センター対策模試では、マークミスの予防として正確なマークシートの記入に習熟させるとともに、自己採点を行わせることで受験時の自己採点をできるだけ正確に行うように経験を積ませる指導を行う。</p>	<p>引き続き模擬試験を同じ時期に実施して、学力状況の推移を把握する。また、引き続き教員の模試分析力を高め、データの活用法に習熟させるために、外部講師による研修を導入する。各教科担当教員による生徒への指導内容の検討や、生徒の個別指導に活用する。センター対策模試では、マークミスの予防として正確なマークシートの記入法を練習させ、受験時の自己採点をできるだけ正確に行うように経験を積ませる。</p>
<p>外部模試の成績データに基づく成績上位層を各学年の担任と教科担当者で把握し、情報を共有して教科間の連携指導を一層推進する。もう一つ上を目指せる生徒、少してこ入れが必要な生徒を把握し、指導に活かす試みを行う(外部模試に基づき、学力状況を分析できるシステムを活用する。) 校内で実施する長期休業中の講習において、生徒の進路希望に応じた設定講座を現状より増やし、教員から個別の生徒に声かけを行って受講指導を行う。 衛星授業については、講座の内容、レベル等を検討しながら実施時期を早め、2年生の10月から実施を予定している。</p>	<p>前年度までの、外部模試のデータに基づく指導経験に基づき、改善点を検討しながら講習の内容設定や受講指導を実施する。 衛星授業による講習については、講座の内容やレベル等を該当する教科の教員が検討しながら実施時期を早める。2年生の夏季休業期間から実施を予定している。</p>
<p>5月に夏季休業中の講座を提示するが、講座のねらいをより一層明確化して生徒への案内を行う。特に3年生では、学力や進路希望に応じた受講指導を一層充実させる。また、1・2年生でも、学力伸長者に向けた講習の増加を検討し、受講指導を行う。補習・講習の集中実施期間と部活動実施状況との関係について、検討を加える。</p>	<p>講座のねらいを、明確に示して生徒への受講案内を行う。特に3年生では、学力や進路希望に応じた受講指導を更に充実させる。また、1・2年生では、基礎・基本をマスターする講座と共に発展的な講習を増やし、受講指導を行う。このように、補習・講習体制の強化に向けた改善を継続的に実施する。</p>
<p>下校時刻を遵守させることによって、自宅学習時間を確保することができる。また、食事・休養・睡眠の時間が確保できることで、特に運動系部活動に参加する生徒では筋力の増強も期待できる。また、翌日の授業への集中を図る効果もある。文武両道を高いレベルで達成するために、下校時間の遵守は欠かせない条件であることを生徒・保護者・職員の共通認識として継続していく。</p>	<p>集中的・効率的な部活動によって下校時間を遵守し、自宅学習時間を確保して集中的な学習を進めることによって学力の向上を図る。その環境を整える対策を継続的に工夫改善する。</p>
<p>平成22年11月から、外部模試の結果を個別面接でより有効に活用するため、学力状況が把握できるデータベースシステムを導入して、各担任の個人端末で過去の模試データが閲覧できるようになった。各担任による、模試データを活用した面談の充実を図る。</p>	<p>進路情報の的確な提供や、外部模試による継続的な学力状況の把握等、様々な情報を収集活用しながら個別相談体制の充実に向けて継続的に改善を図って行く。</p>
<p>学習にも部活動や学校行事にも、全力で取り組んで両立させる姿勢を校内で共有している。ひたむきに努力する生徒が多いので、そのような気質に共感し共に努力できる生徒であれば充実した高校生活を過ごせることを入学前に周知して行く。</p>	<p>学習にも部活動や学校行事にも、全力で取り組んで両立させる姿勢を校内で共有していく。</p>
<p>生徒のみでなく、保護者に対しても学校の指導方針や受験に向けた情報を提供し、共に進学に向けた意識付けを行う対策を継続的に実施する。</p>	<p>生徒のみでなく、保護者に対しても学校の指導方針や受験に向けた情報を提供し、共に進学に向けた意識付けを行う対策を継続的に実施する。</p>

都立駒場高等学校 進学指導改善計画(2)

区分	項目	方策	具体的な取組内容と取組目標
			平成22年度
	進路希望を安易に妥協させないための指導	卒業生による進路懇談会又は進学ガイダンス、進路希望調査	進路指導部と学年の連携により、①1年生の3月に、その年の国立大学現役合格者を招いて進学ガイダンスを実施し、国公立大学をはじめ大学受験へのモチベーションを高める。②志望校を明記させる進路希望調査は2年生4月に初めて実施し、志望が低めの生徒にはより上位の大学を考えさせる。3年生4月には、進路希望調査で第一志望宣言という形で志望校を書かせ、最後まで第一志望を下げないよう指導していく。③2年生・3年生の6月には、それぞれに卒業生による進路懇談会を実施して、進学へのモチベーションを高める。
		指定校推薦をなるべく受験しない指導を行う。	推薦入学に出願できる成績の生徒は、9月以降に学習成果が伸長し、より上位の大学に合格する可能性がある。進路指導部を主体に、学校として普通科生徒にはAO入試や推薦入試を受験しないように指導している。以前は指定校推薦の希望受付を3回行っていたが、今年度より普通科の生徒については1回のみとした。
	推薦入学合格者への指導	推薦入学合格者全員にセンター試験を受験させる。	進路指導部と第3学年は、最後まで各クラスが進学準備に一体となって取り組む雰囲気を壊さないため、また大学入学後の学習に向けた基礎学力養成の観点から、推薦入学合格者全員にセンター試験を受験させ、2科目以上で全国平均点を20点以上上回ることを義務付けている。成績不良の場合には、課題を課して卒業までに提出させている。
	進路データの管理と活用	模試データは学年と進路指導部が保管、担任は模試データと進路カードを進路指導に活用する。	模試データは、学年と進路指導部で保管。担任は各組生徒のデータと成績分布状況等の総括データを保管、個人面接で活用する。また、教科の学習成績と共に進路カードに記録し、進級時のクラス替え後も担任がそれまでの各種データを一覧しながら指導に活かしている。進路指導部の模試データは成績等管理サーバーで保管。学年の紙ベースのデータは、鍵のかかる場所に保管している。11月からは、外部業者の模試に基づく学力状況を分析できるシステムの導入により、担任の端末で、当該業者の模試の結果にアクセスし、指導に活用できる。
特別活動	進学意欲の向上	LHRの活用により1年生から段階的・計画的に進める。	進路指導部が主導し学年との連携により①1年生1学期に各自の興味関心と大学での学問分野について考える進路学習、2学期に大学教授による講演会、3学期に大学合格者によるガイダンス。②2年1学期に卒業生による進路講演会実施。夏季休業前に、多くの大学が参加する大学授業体験行事への参加を促し、生徒約200名が参加した。夏季休業中に全員が最低1校の大学を訪問し、レポートをクラスごとにまとめて冊子を作成、各クラスに全クラスのレポートを配布した。2学期には、具体的受験校の意識づけを行う。③3年生1学期にセンター模試の自己採点練習、卒業生による進路講演会等を実施した。
教員の指導力	教科指導力の向上	教科としての指導内容・方法等の研究協議	各教科で、3年間を見通した到達目標を設定し、各年度の目標を設定するように共通理解を図っている。教科指導内容は、国・数・英を中心に共通化が進み、定期考査の共通問題化も進んでいる。各教科では、同一学年担当者間で進度や考査問題の打合せが行われており、授業力の向上にも良い効果を挙げている。
			予備校による進学指導診断を通じて、相互の授業参観や研究協議による授業力の向上を図っている。
			国公立・難関私立大学への合格者の増加を目標に、全教科が連携して取り組んでいる。センター試験では、各科目の得点平均が全国平均を100点満点について10点以上上回ることを目標とすると共に、80%以上得点者の増加を目指している。

平成23年度	平成24年度
<p>安易に進路希望を出させるのではなく、進路指導部や学級担任から情報を提供し、また本人にも情報を収集させる指導を行いながら考えさせ、高い進路目標を設定させる。その後は、安易に妥協せず努力を続ける指導を継続的・組織的に行う。この方針に添って、指導法に工夫改善を加えながら、引き続き指導して行く。また、部活動での指導と同様に、学習の上でも高い目標に向けて共に励ましあいながら努力する姿勢を持つように、様々な機会に指導していく。</p>	<p>前年度までの指導方針に添って、更に指導方法に工夫改善を加えながら、十分な情報収集に基づいて高い進路目標を設定させる。その後は、安易に妥協せず努力を続ける指導を継続的・組織的に行う。困難な目標に向けて共に励ましあいながら努力する姿勢を、部活動や学校行事を始め、日頃の教育活動を通じて指導していく。</p>
<p>受験は、補欠なき団体戦であることを生徒各自が意識して、共に努力し励ましあって目標を達成する姿勢を継続的に指導する。センター試験後も、学校の教室で共に学習を続けるように指導し、学級担任を中心に教員によるサポート体制を整える。</p>	<p>受験は、補欠なき団体戦であることを生徒各自が意識して、共に努力し励ましあって目標を達成する姿勢を継続的に指導する。進路指導部と学年が協力して、教員によるサポート体制について更に工夫改善を加える。</p>
<p>進路指導部が学年と協力して、進路指導カードや模試の結果に基づく学力分析システムについて、学校としての活用方法について研究を深め、各学年段階で個人面談等での効果的な指導法を開発する。</p>	<p>進路指導部が学年と協力して、引き続き進路指導カードや模試の結果に基づく学力分析システムの活用方法についてさらに研究を深め、学校の進路指導体制の一環として個人面談等での効果的な活用法について工夫改善を進める。</p>
<p>進路指導部が主体となって、各学年でLHRを活用して、それぞれの学年に応じた進路行事を段階的に実施する。2年生夏季休業中の宿題である大学訪問レポートの作成等、現在実施している段階的・計画的な進路指導を継続して実施する。また、大学教授による講演を更に拡張し、生徒の興味関心の幅を広げる人選を検討する。</p>	<p>LHRの時間を活用して生徒一人一人が自己の興味関心について認識を深め、将来の職業選択やその前段階としての進学先の選択に向けた学習機会を提供する。学習への動機付けともなるように、進路指導の更なる工夫改善充実を図る。</p>
<p>特に国語・数学・英語の各教科では、各学年を担当する複数の担当者が各学年ごとの到達目標を共有しながら指導に当たる。指導に当たっては、知識・理解だけでなく、論理的な思考力や表現力、また知識の活用能力を高め、結果として国公立大学と難関私立大学の合格者の増加につながる取組を行う。また、理系科目の指導の充実を一層進め、理系進学希望者の増加に対応する。</p>	<p>前年度に引き続き、特に国語・数学・英語の各教科では、各学年を担当する複数の担当者が各学年ごとの到達目標を共有しながら指導に当たる。指導に当たっては、知識・理解だけでなく、論理的な思考力や表現力、また知識の活用能力を高めることを重視し、結果として国公立大学と難関私立大学の合格者の増加につながる取組を行う。また、理系科目の指導の充実を一層進め、理系進学希望者の増加に対応する。</p>

都立駒場高等学校 進学指導改善計画(3)

区分	項目	方策	具体的な取組内容と取組目標
			平成22年度
生徒募集	求める生徒像の明確化	求める生徒像(学習と部活動を両立させ高いレベルで達成する)の定着	本校の生徒は、学習にも部活動にも高い目標を持ち意欲的に取り組んでいるが、その特色を中学生と保護者に周知する努力を行っている。中学校や学習塾等が主催する学校説明会や個別相談会、都立高校合同説明会、本校での学校見学会や学校説明会等の機会を活用し、本校の特色である「ハイレベルの文武両道の進学校」のイメージの定着を図る。
	駒場スポーツ教室の実施		保健体育科の専攻種目となっている部活動では、サッカーを除く8つの部が夏季休業期間を中心に、各部二回程度の体験入部を実施している。
	その他部活動体験等の実施		硬式野球部は、2回目となる部活動体験を実施。硬式テニス部は、22年度に初めて中学生を対象としたテニス交流会を実施した。軟式テニス部は、以前から小学生を対象とした体験教室を開催している。前年まで出前授業で実施していた化学実験公開講座に続き、今年度は近隣の中学校から生徒を本校に招いて生物実験授業体験を実施した。また、学校見学会・学校説明会では、本校生徒による施設見学案内と併せて中学生向けに部活動体験を実施している。
組織体制	進学に係る組織体制の充実	進路指導部と学年との連携	毎週実施している3学年会に、進路指導主任と1・2名の進路指導部の教員が常時参加している。1・2・3学年の進路担当者と2・3学年の学年主任は、いずれも学年に入る前に本校進路指導部に所属していた経験があるので、各学年との問題意識の共有と連絡はスムーズに行われている。
入試年度			平成23年度入試
目標	センター試験	5教科7科目で受験する者の在籍者に占める割合	5教科7科目で受験する者の在籍者に占める割合29%(93名)
		難関国立大学等に合格可能な得点水準(80%)以上の者の受験者に占める割合	難関国立大学等に合格可能な得点水準(80%)以上の者の受験者に占める割合 2%(6名)
	合格実績	難関国立大学、国公立大学、難関私立大学等の現役合格者	難関国立大学1、国公立大学43、難関私立大学(早慶上智)44

平成23年度	平成24年度
<p>本校で独自に開催する学校見学会や学校説明会に加えて、22年度は中学校PTAや塾が主催する説明会・相談会にも20回程度参加している。23年度も、できる限り多くの機会に学校の紹介を行える体制を整える。</p> <p>中学生が本校の施設設備を使用し、生徒や教職員と授業体験や部活動体験を通じて触れ合うことは、本校の教育内容や校風を理解し、また中学生の高等学校への進学意欲を高めるうえで大切な機会である。同様の取組を、量的にも質的にも改善を加えながら継続して実施する。</p>	<p>独自に開催する学校見学会や学校説明会に加えて、中学校PTAや塾が主催する説明会・相談会にできる限り多く参加して学校の紹介に努めることは生徒募集の上で重要である。その体制を一層拡充してゆく。</p> <p>中学生が本校の施設設備を使用し、生徒や教職員と体験を通じて触れ合うことは、本校の教育内容や校風を理解し、また本校への進学意欲を高めるうえで大切な機会である。同様の取組を、量的にも質的にも改善を加えながら継続して実施する。</p>
<p>3学年と進路指導部の連携はよく図れているが、1・2学年との連携では進路講演会等の進路行事の実施、校外開かれる進路行事への生徒の参加促進など、いわゆるイベントが中心になりがちである。それぞれの学年に応じて、進路指導部と課題意識の共有化を図り、一層の連携を進める。</p>	<p>3年間の進路指導の流れについては、模擬試験の継続的な実施や進路行事の配置等について一応の形ができています。さらに進路指導部が全体の流れを見通しながら各学年との課題の共有化を図り、一層の連携を進める。</p>
平成24年度入試	平成25年度入試
32%(102人)	32%(102人)
2.5%(8人)	2.5%(8人)
難関国立大学2、国公立大学45、難関私立大学(早慶上智)46	難関国立大学2、国公立大学45、難関私立大学(早慶上智)46

都立新宿高等学校 進学指導改善計画(1)

区分	項目	方策	具体的な取組内容と取組目標
			平成22年度
学習面	難関大に合格するに十分な実力養成	学力の段階的育成 ①基礎習得・定着育成 ②応用力育成 ③思考力・判断力・表現力育成 ④探究心育成	学習サイクル<予習→授業→復習→確認テスト→フォロー>、定期考査・模試の振返指導の徹底。学習負荷をかける(学年教科担当者間の共通理解)。
			習熟度別学習編成を活用し、参考書・問題集・大学入試問題を活用(教科担当者判断)。1年次からの上位層に対する難関大入試問題の活用
	習熟度別学習(1,2年次)→入試対応演習科目22科目(3年次)年間1500時間以上の講習。夏季の進路別対応講習		
	読む力・書く力育成:国語科読書指導、大学訪問報告書作成など		
	具体的な2次対策(早期・組織的)	論述力・答案作成力指導:各教科で実施。添削等は希望者対象	
入学時から卒業までの学力推移の把握方法及びこれに基づく、学力向上の取組	①外部模試を活用した「第一の定点観測」②「学力向上推進計画」に基づく「第2の定点観測」上記の①と②の有機的結合	①1年次、2年次、3年次7月まで同一業者の外部模試、3年次は加えて複数の外部模試を併用。各模試結果を管理職・進路指導部・学年団で分析。難関国立大学・難関私立大学合格可能圏把握・分析と模試結果に基づく各教科の弱点補強指導 ②定期考査の振り返りシートによる「第2の定点観測」試行着手「学力向上推進委員会準備会」発足:委員長に主幹教諭を充てる。	
1年次から3年次までの学力維持のための方策	上位層を抽出してのトレースと習熟度編成、補講・補習、キャリア教育の組織的実施 各結節点を軸とする組織的指導⇒上位層、中間層の維持・拡大、下位層の最小化	①外部模試で一定以上の偏差値の生徒を分類・抽出し、継続的に学年・進路指導部一体で指導 ②習熟度発展クラス生徒を一層伸ばす、授業における大学入試問題の付与、補習など抽出指導(学年・教科一体の指導)実施 ①<1年次>9月:模試結果の振り返り指導 10月:勉強合宿・学年集会・一斉面談、学習・生活調査 3月:模試結果振り返り指導・春季講習 ②<2年次>7~8月:夏季講習 9月:模試振り返り指導 10月:勉強合宿・受験勉強スタート 1月:3年生0学期指導	
自宅学習時間確保のための対策	塾依存型から自学自習型への転換	①1年セミナー合宿(4月)、1,2年勉強合宿(10月)における自学習慣定着 ②学年数+1~2時間分の課題・週末課題(=「学習サイクル」) ③自習室(3年次)20:00まで。定期考査前校内学習(1年次)18:00まで	
生徒に対する個別相談体制	①「目線合わせ」による組織的対応 ②セーフティネットの設定	①学年団の事前「目線合わせ」に基づき、年間3~4回実施。(4月~5月、9~10月、1~2月)(3年次:は夏季休業、11月、センター後) ②セーフティネットとしての保健部・学年を軸とした相談体制・ケース会議	
進路指導面	保護者・生徒への学校経営方針の周知	学校経営計画の教職員の共有化(=組織としての対応力)	①「全員指導者たれ」「自主・自律・人間尊重」「文武探三道」の教職員・生徒・保護者の共有化はできている。 ②各論指導で大切な担任団を含む教職員の「目線合わせ」
	進路希望を実現させるための生徒指導	「学びに向かう力の育成」: 1年次初から生徒・保護者に難関を含む国立大学を目指す意義を重点時期を軸に周知・徹底	①保護者も「チーム新宿」の一員とする。:保護者会(年3回) PTA進路講演会、部活動合同保護者会、国立志望者説明会で進路情報の徹底 ②入学初期、1年次選択指導、1年次末、2年次選択指導時:学年集会、HRで難関国立大学の意義(=優れた教授陣・優れた施設設備・優れた就職実績・優れた学生同士の切磋琢磨)の周知・徹底 ③国立受検者を30%とする。2年次国立クラスⅡを国立受験希望者に限定する。
	進路データの管理と活用	データベース化と「目線合わせ」による組織指導	①年間数回以上の学年集会を活用した生徒・教職員一体の共有化 ②新旧拓大学年会、模試分析会、学年3回以上の一斉面談 ③模擬試験分析会等への管理職、次期担任、未経験者の組織的参加
特別活動	部活動・行事と学習のメリハリの方策	①担任と部活動顧問の「文武探三道」の共有化と指導 ②多様な部活動の在り方追求	①部活動延長(17時下校。週2~3回は18時下校)下の文武両道の検証 ②定期考査結果(「第2の定点観測」)に基づく、各クラブにおける学習との両立を目指した指導の実態調査 ③担任・部活動顧問間の「good job card」「警告カード」交換による相互指導

平成23年度	平成24年度
学習サイクル<予習→授業→復習→確認テスト→フォロー>、定期考査・模試の振返指導の徹底。学習負荷をかける(教科の組織的実施)。	学習サイクル<予習→授業→復習→確認テスト→フォロー>、定期考査・模試の振返指導の徹底。学習負荷をかける(教科の組織的実施)。
習熟度別学習編成を活用し、参考書・問題集・大学入試問題を活用(教科担当者間共通理解)。1年次からの上位層への難関大入試問題活用	習熟度別学習編成を活用し、参考書・問題集・大学入試問題を活用(教科担当者間共通理解)。1年次からの上位層への難関大入試問題活用
習熟度別学習(1,2年次)→入試対応演習科目22科目(3年次)年間1500時間以上の講習。夏季の進路別対応講習	習熟度別学習(1,2年次)→入試対応演習科目22科目(3年次)年間1500時間以上の講習。夏季の進路別対応講習
読む力・書く力育成:読書指導(検討中)、大学訪問報告書作成など	読む力・書く力育成:読書指導、大学訪問報告書作成など
①論述力・答案作成力指導:各教科で実施 ②添削等は希望者対象(全教科で実施)	①論述力・答案作成力指導:各教科で実施 ②添削等は希望者対象(全教科で実施)
①1年次、2年次、3年次7月まで同一業者の外部模試、3年次は加えて複数の外部模試を併用。各模試結果を管理職・進路指導部・学年団で分析。難関国公立大学・難関私立大学合格可能圏把握・分析と模試結果に基づく各教科の弱点補強指導 ②平成23年度全都立高校実施の「学力向上推進計画」:<指導計画→定期考査による検証→指導内容・方法改革>のサイクル試行実施	①1年次、2年次、3年次7月まで同一業者の外部模試、3年次は加えて複数の外部模試を併用。各模試結果を管理職・進路指導部・学年団で分析。難関国公立大学・難関私立大学合格可能圏把握・分析と模試結果に基づく各教科の弱点補強指導 ②「学力向上推進計画」(2年目):<指導計画→定期考査による検証→指導内容・方法改革>のサイクル本格実施
①外部模試で一定以上の偏差値の生徒を分類・抽出し、継続的に学年・進路指導部一体で指導 ②習熟度発展クラス生徒を一層伸ばす、授業における大学入試問題の付与、補習など抽出指導(学年・教科一体の指導)実施 ①<1年次>9月:模試結果の振り返り指導 10月:勉強合宿・学年集会・一斉面談、学習・生活調査 3月:模試結果振り返り指導・春季講習 ②<2年次>7~8月:夏季講習 9月:模試振り返り指導 10月:勉強合宿・受験勉強スタート 1月:3年生0学期指導	①外部模試で一定以上の偏差値の生徒を分類・抽出し、継続的に学年・進路指導部一体で指導 ②習熟度発展クラス生徒を一層伸ばす、授業における大学入試問題の付与、補習など抽出指導(学年・教科一体の指導)実施 ①<1年次>9月:模試結果の振り返り指導 10月:勉強合宿・学年集会・一斉面談、学習・生活調査 3月:模試結果振り返り指導・春季講習 ②<2年次>7~8月:夏季講習 9月:模試振り返り指導 10月:勉強合宿・受験勉強スタート 1月:3年生0学期指導
①1年セミナー合宿(4月)、1,2年勉強合宿(10月)における自学習習慣定着 ②学年数+1~2時間分の課題・週末課題(=「学習サイクル」) ③自習室(3年次)20時まで。1,2年次19時まで。	①1年セミナー合宿(4月)、1,2年勉強合宿(10月)における自学習習慣定着 ②学年数+1~2時間分の課題・週末課題(=「学習サイクル」) ③自習室(3年次)20時まで。1,2年次19時まで
①学年団の事前「目線あわせ」に基づき、年間3~4回実施。(4月~5月、9~10月、1~2月)(3年次:は夏季休業、11月、センター後) ②セーフティネットとしての保健部・学年を軸とした相談体制・ケース会議	①学年団の事前「目線あわせ」に基づき、年間3~4回実施。(4月~5月、9~10月、1~2月)(3年次:は夏季休業、11月、センター後) ②セーフティネットとしての保健部・学年を軸とした相談体制・ケース会議
前年度までの取組を踏まえ、新教育課程スタート前年として、「思考力・判断力・表現力・探究心」を一層協調する。生活指導(集中と切替・時間厳守・傾聴と表現・頭髮)が、基礎であることを周知徹底する。	前年度までの取組を踏まえ、新教育課程スタートに合わせ、「思考力・判断力・表現力・探究心」を前面に出す。生活指導(集中と切替・時間厳守・傾聴と表現・頭髮)が、基礎であることを周知徹底する。
①保護者も「チーム新宿」の一員とする。:保護者会(年3回) PTA進路講演会、部活動合同保護者会、国公立志望者説明会で進路情報の徹底 ②入学初期、1年次選択指導、1年次末、2年次選択指導時:学年集会、HRで難関国公立大の意義(=優れた教授陣・優れた施設設備・優れた就職実績・優れた学生同士の切磋琢磨)の周知・徹底 ③国公立受検者を35%とする。1,2年次国公立クラスⅡを国公立受験希望者に限定する。	①保護者も「チーム新宿」の一員とする。:保護者会(年3回) PTA進路講演会、部活動合同保護者会、国公立志望者説明会で進路情報の徹底 ②入学初期、1年次選択指導、1年次末、2年次選択指導時:学年集会、HRで難関国公立大の意義(=優れた教授陣・優れた施設設備・優れた就職実績・優れた学生同士の切磋琢磨)の周知・徹底 ③国公立受検者を40%とする。1,2年次国公立クラスⅡを国公立受験希望者に限定する。
①年間数回以上の学年集会を活用した生徒・教職員一体の共有化 ②新旧拡大学年会、模試分析会、学年3回以上の一斉面談 ③模擬試験分析会等への次期担任、進学指導未経験者の計画的参加	①年間数回以上の学年集会を活用した生徒・教職員一体の共有化 ②新旧拡大学年会、模試分析会、学年3回以上の一斉面談 ③模擬試験分析会等への次年度担任、進学指導未経験者の計画的参加
①「学力向上推進計画」に基づく、学力および学習状況の定点観測に基づき、各部活動顧問による部活動と学習との両立を図る指導を組織的に展開する。 ②部活動活動規定の再検討(特に、週1日完全オフ、夏季休業中の練習日の活動日数上限明定化など) ③週3~4回程度の活動を行う文科系部活動および委員会活動の奨励	①「学力向上推進計画」に基づく、学力及び学習状況の定点観測に基づき、各部活動顧問による部活動と学習との両立を図る指導を組織的に展開する。 ②部活動活動規定の再検討(特に、週1日完全オフ、夏季休業中の練習日の活動日数上限明定化など) ③週3~4回程度の活動を行う文科系部活動及び委員会活動の奨励

都立新宿高等学校 進学指導改善計画(2)

区分	項目	方策	具体的な取組内容と取組目標
			平成22年度
教員の 資質	授業改革の取組	①外部機関とも連携し、授業改革を組織的に推進。②管理職の授業新弾力の向上	①「予備校による進学指導診断」結果の全教員への還元研修 <徹底して生徒目線に立つ指導技術、指導内容の焦点化・一般化、入試問題の効果的活用と動機づけ、ワンパッケージ化、授業コミュニケーション> ②教員全員に「大学入試問題正解」を配布。入試問題研究週間設置。 ③校長・副校長の授業診断力を①を活用し、向上させる。
生徒募集	生徒募集対策の充実	本校のコンセプト・実績を明示し、他の進学校との違いを周知徹底する(=「組織の新宿・チーム新宿」)。	本校のコンセプトと実績を明示し、他の進学校と比較することを勧める。 ①「入学時の力を伸ばす都立有数の学校」「生活指導をきちんと行う。」 ②理由:(1)公募で優秀、かつ本校のコンセプトを理解した教員が集まる。 ③理由:(2)組織力が都立トップクラス(=私立に匹敵)。その結果、教員の力量が1.5倍発揮される(=組織力のない進学校は伸びない。)
組織体制	進学に関わる組織体制の充実:1)上位層を伸ばす体制 2)学習集団の層・塊の維持・発展	『新宿高校進学指導システム』へ付加=(1)上位層の抽出指導(2)中位層の維持・発展=下位層の最小化	①上位層の抽出指導:習熟度発展クラスへの学習負荷の増大、組織的な補習・補講の実施(特に大学入試問題、キャリア教育が鍵) ②外部機関と合同研修:「学びに向かう力の育成」戦略(初期及び節目における適切な指導による層としての学習集団の維持・発展戦略)の検討と進路指導への組込み
入試年度			平成23年度入試
目標	センター試験	5教科7科目で受験する者の在籍者に占める割合	90/320=28.42%
		難関国立大学等に合格可能な得点水準(80%)以上の者の受験者に占める割合	10/100=10.0%
	合格実績	難関国立大学、国公立大学、難関私立大学等の現役合格者	難関国立大5(内、最難関大4)、国公立大40、早慶上理90, GMARCH210

平成23年度	平成24年度
<p>①「予備校による進学指導診断」を踏まえ、予備校との連携を組織的に実施する(期間2年間、所管分掌:授業改革委員会)。 ②全都立高校実施の「学力向上推進計画」に基づき、定期考査における学力3要素(基礎基本習得、思考力・判断力・表現力)の定着度検証の教科研修開始</p>	<p>①予備校との組織的連携2年目として、成果結果を研究授業として実施し、一層の共有化を進める。 ②「学力向上推進計画」2年目として、定期考査における学力3要素(基礎基本習得、思考力・判断力・表現力)の定着度検証のための教科研修を充実させる。</p>
<p>平成22年度に行った、募集活動の基本戦略を更に充実させる。 ①ホームページで、「組織の新宿」「チーム新宿」ということを前面に出す。 ②ホームページで毎月の教育活動のきめ細かな報告(学習、部活動、行事、生徒会活動、キャリア教育など)を行い、募集活動を効率化させる。</p>	<p>平成23年度までの募集活動を一層充実させる。その上で ①現在実施している、中学生向け募集活動の一定の精選を前提に、小学校向けの広報活動を実施し、高校プロパーの都立高校に関しての情報を小学生及びその保護者に伝える(中高一貫校に対する対抗策)。</p>
<p>①上位層の抽出指導:習熟度発展クラスへの学習負荷の増大、組織的な補習・補講の実施(特に大学入試問題、キャリア教育が鍵) ②「学びに向かう力の育成」戦略(初期および節目における適切な指導による層としての学習集団の維持・発展戦略)の系統的・組織的な実施(学年・進路連携)と検証</p>	<p>①上位層の抽出指導:習熟度発展クラスへの学習負荷の増大、組織的な補習・補講の実施(特に大学入試問題、キャリア教育が鍵) ②「学びに向かう力の育成」戦略(初期及び節目における適切な指導による層としての学習集団の維持・発展戦略)の系統的・組織的な実施(学年・進路連携)と検証</p>
平成24年度入試	平成25年度入試
94/320=29.45%	120(最低3クラス分)/320=37.5%
12/120=10.0%	15/120=12.50%
難関国立大7(内、最難関大5)、国公立大45、早慶上理95 GMARCH220	難関国立大12(内、最難関大10)、国公立大50、早慶上理100 GMARCH230

都立町田高等学校 進学指導改善計画(1)

区分	項目	方策	具体的な取組内容と取組目標
			平成22年度
学習面	入学時から卒業までの学力推移の把握方法	<ul style="list-style-type: none"> 外部模試の定期的な実施 模試・定期考査分析会 	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導部が模試分析会の実施方法を検討し、平成23年度から進路指導部主催の会として実施する。 進路指導部が、3年間を通じた外部模試の実施時期、回数について検討し、平成23年度から実施する。 教務部が年2回の校内実力テストの実施方法と分析方法について検討し、平成23年度から実施する。
	1年次から3年次まで学力維持のための方策	<ul style="list-style-type: none"> 土曜特進講習と受講者の成績の追跡調査 休業中の講習 模試・定期考査分析を通じた指導内容・方法の検証・改善 	<ul style="list-style-type: none"> 1学年:土曜特進講習、受講者の成績を追跡調査、「夏の学校」の実施、夏期講習の実施(各教科・学年) 2・3学年:土曜講習、夏期講習の実施(各教科・学年) 各教科が学習方法に関するガイダンスを徹底する。 各教科が模試分析を通して指導内容・方法を検証・改善する。
	自宅学習時間の確保のための対策	<ul style="list-style-type: none"> 自学自習方法の徹底 予習復習の徹底 定期課題 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科の教科学習ガイダンス 「学年通信」「学級通信」の発行 1学年:定期課題、夏の学校を実施する(各教科・学年)。 2・3学年:定期課題を課し、苦手科目克服や得意科目の伸長を図る(各教科)。
	生徒に対する個別相談体制	<ul style="list-style-type: none"> 学年ごとの個別面談 	<ul style="list-style-type: none"> 年間2～3回実施し、そのうち1回は三者面談を実施する。 面談を実施する前に、進路指導部との情報交換等を行う。
進路指導面	入学時から保護者生徒への学校経営方針の周知	<ul style="list-style-type: none"> 各学年保護者会への進路指導主任からの方針・計画の説明 	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導主任が保護者会で進路指導について、過去のデータを示しながら周知する。
	進路希望を実現させるための生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の希望状況の正確な把握と適切な働きかけ 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の進路希望を、進路指導部と学年が個人レベルで把握し、情報を共有して、生徒への指導をきめ細かく行っている。 進路指導部が、6月に前年度の進路指導の概要と進路結果について校内研修を実施 1学年12月に職業講話を実施。2学年6月に卒業生による進路講演会を実施 3学年7月に予備校講師による進路講演会
	進路データの管理と活用	<ul style="list-style-type: none"> 進路データの蓄積と効果的な活用方法の開発 	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導部が主導して、進路データのデータベース化を開始するとともに、外部模試業者システムの活用を開始する。
特別活動	部活・行事と学習のメリハリの方策	<ul style="list-style-type: none"> 下校時間厳守 「集中と切替」指導の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動規定の確認と徹底 部活動・行事ともに、オンとオフの切替を徹底 文武両道教育の徹底
教員の資質	校内における授業改善のための取組など	<ul style="list-style-type: none"> 進学指導診断の活用 教科主任会による教科としての授業改善の推進 特進委員会による教員間の授業参観 	<ul style="list-style-type: none"> 授業観察シートにより、教員を個別に指導する。 進学指導診断の結果を全教員に還元し、授業改善を行う。 シラバスの発行 教科主任会による教科としての授業改善計画を提出させている。 特進委員会による教員間の授業参観と校内研修を年1回行う。 特進委員会による先進校視察報告会(年1回) 進路指導部による入試動向に関わる校内研修(年1回) 生徒による授業評価の活用と校内研修を行う(教務部)。

平成23年度	平成24年度
<ul style="list-style-type: none"> 各学年とも、年1回は同一業者の模擬試験を実施し、生徒の学習状況を把握する。 各学年における分析会の充実(進路指導部) 教務部・各教科で実力テスト(年2回)の分析着手→指導内容・方法の改善→校内研修 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年とも、年1回は同一業者の模擬試験を実施し、生徒の学習状況を把握する。 各学年における分析会の充実(進路指導部) 教務部・各教科で実力テスト(年2回)の分析→指導内容・方法の改善→校内研修
<ul style="list-style-type: none"> 1・2学年:土曜特進講習、受講者の成績を追跡調査、土曜講習、夏期講習の実施(各教科・学年) 3学年:土曜講習、夏期講習の実施(各教科・学年) 夏の学校の指導内容の充実を図る(1学年)。 2学年における夏の学校、春の学校の検討及び試行 模試・実力テストの分析を通した指導内容・方法の検証・改善(各教科) 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年:土曜特進講習、受講者の成績を追跡調査、土曜講習、夏期講習の実施(各教科・学年) 夏の学校を継続実施(1学年) 2学年における夏の学校、春の学校の充実 模試・実力テスト分析を通した指導内容・方法の検証・改善(各教科)
<ul style="list-style-type: none"> 各教科の教科学習ガイダンス・「学年通信」「学級通信」の発行 1学年には、年度当初に学習方法オリエンテーション期間設定(教務部・各教科) 1学年:定期課題、夏の学校の実施(各教科・学年) 2学年:定期課題、夏の学校、春の学校の検討及び試行(各教科・学年) 3学年:定期課題(各教科) 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科の教科学習ガイダンス・「学年通信」「学級通信」の発行 1学年には、年度当初に学習方法オリエンテーション期間設定(教務部・各教科) 1学年:定期課題、夏の学校(各学年・教科) 2学年:定期課題、夏の学校、春の学校の充実(各教科・学年) 3学年:定期課題(各教科)
<ul style="list-style-type: none"> 年間2〜3回実施し、そのうち1回は三者面談を実施し、その際に保護者に対しても第一志望をあきらめない指導を行う。 年間7回程度、「学習・進路相談週間」を設定し、全ての教職員が生徒の学習・進路相談を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間2〜3回実施し、そのうち1回は三者面談を実施する。 面談を実施する前に、進路指導部との情報交換等を行う。 また、保護者に対しても第一志望をあきらめない指導を行う。 年間7回程度、「学習・進路相談週間」を設定し、全ての教職員が生徒の学習・進路相談を実施する。
<ul style="list-style-type: none"> 全ての保護者会で時間を確保し、進路指導主任が進路指導について周知する。 	<ul style="list-style-type: none"> 3年間を見据えた進路指導について、進路指導主任が計画的に内容を周知し、保護者の理解を得る。
<ul style="list-style-type: none"> 生徒の進路希望と現状について、進路指導部と学年で定期的に情報交換会を持ち、各生徒への個別指導の状況について確認する。 同時に、最後まであきらめない指導を徹底する。「進路だより」の発行 年間7回程度、「学習・進路相談週間」を設定し、全ての教職員が生徒の進路相談を実施する。 進路指導部が、6月に前年度の進路指導の概要と進路結果について校内研修を実施 1学年で職業講話を実施。2学年で卒業生による進路講演会を実施。3学年で予備校講師による進路講演会を実施。また、高大連携事業を通して、進路への意識付けを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の進路希望と現状について情報交換するとともに、過去のデータに基づいて関係教員が適切なアドバイスができる体制を作る。 同時に、最後まであきらめない指導を徹底する。「進路だより」の発行 年間7回程度、「学習・進路相談週間」を設定し、全ての教職員が生徒の進路相談を実施する。 進路指導部が、6月に前年度の進路指導の概要と進路結果について校内研修を実施 1学年で職業講話を実施。2学年で卒業生による進路講演会を実施。3学年で予備校講師による進路講演会を実施。また、高大連携事業を通して、進路への意識付けを行う。
<ul style="list-style-type: none"> 外部模試業者によるデータシステムの活用を開始するとともに、3学年より学校内で蓄積されたデータの活用を開始する(進路指導部主導)。 	<ul style="list-style-type: none"> 全学年でデータシステムを活用し、効果的な活用方法を研究・実践する(進路指導部主導)。
<ul style="list-style-type: none"> 部活動規定の徹底と再点検、必要に応じて再検討 部活動・行事ともに、オンとオフの切替を徹底 定例顧問会議において情報を共有し、文武両道教育を徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動規定の徹底 部活動・行事ともに、オンとオフの切替を徹底 定例顧問会議において情報を共有し、文武両道教育を徹底する。
<ul style="list-style-type: none"> 授業観察シートにより、教員を個別に指導する。 シラバスの発行 教科主任会を定期的に開催し、学習指導について検証・改善を行う。 教科としての指導方針・指導体制の確立し、教員相互に授業力強化を行う。 模試・実力テストの分析を基に指導内容・方法を検証・改善を行う(各教科)。 教員間の授業参観と校内研修を年1回行う(特進委員会)。 特進委員会による先進校視察報告会(年1回) 進路指導部による入試動向に関わる校内研修(年1回) 生徒による授業評価の活用と校内研修を行う(教務部)。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業観察シートにより、教員を個別に指導する。 シラバスの発行 教科主任会を定期的に行い、学習指導について検証・改善を行う。 教科としての指導方針・指導体制の確立 模試・定期考査の分析を基にした指導内容・方法を検証・改善(各教科) 教員間の授業参観と校内研修を年1回行う(特進委員会)。 特進委員会による先進校視察報告会(年1回) 進路指導部による入試同行に関わる校内研修(年1回) 生徒による授業評価の活用と校内研修を行う(教務部)。

都立町田高等学校 進学指導改善計画(2)

区分	項目	方策	具体的な取組内容と取組目標
			平成22年度
生徒募集	生徒募集計画の充実	・体系的・系統的な生徒募集	<ul style="list-style-type: none"> ・学校見学会・説明会における説明内容の改善 ・体験授業、部活動体験会の実施 ・見学会における参加者は前年度比13%増 ・小学校教員対象研修実施時に、本校の特徴について伝える。 ・ホームページの充実
相談体制	進路指導体制の充実	・町田高校システムの確立	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導部が、3年間を見通した進路指導計画を明確にし、学年との連携を強化する。 ・進路データのデータベース化に着手(進路指導部)
入試年度			平成23年度入試
目標	センター試験	5教科7科目で受験する者の在籍者に占める割合	29.0%(70名)
		難関国立大学等に合格可能な得点水準(80%)以上の者の受験者に占める割合	2.1%(5名)
	合格実績	難関国立大学、国公立大学、難関私立大学等の現役合格者	国公立大 25、早慶上智 12、MARCH130

平成23年度	平成24年度
<ul style="list-style-type: none"> ・学校見学会等、町田地区の生徒募集の強化を図る。 ・体験授業、部活動体験会の実施 ・塾対象説明会、夏の見学会の実施日・回数・形態について再検討を行う。 ・塾への訪問について再検討を行う。 ・ホームページの充実を図る。 ・生徒による中学校訪問の検討及び試行 	<ul style="list-style-type: none"> ・見学会等、前年度並みに実施 ・体験授業、部活動体験会の実施 ・再検討した各説明会等について実施日・回数・形態の検証を行う。 ・塾への訪問を拡充し、町田高校の特色を理解してもらう。
<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導部と学年の連携を更に強化し、次年度への引継ぎ等を円滑に行う。 ・模試等の分析会の結果を活用した教科指導、進路指導を行う(進路指導部主導)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導部が全体を統括し、学年による指導の差を解消する。 ・模試等の分析会の結果を活用した教科指導、進路指導を行う。 ・データに基づく進路指導を充実させ、検証と改善を行う。
平成24年度入試	平成25年度入試
30.0%(75名)	32.0%(100名)
2.4%(6名)	2.5%(8名)
国公立大 28、早慶上智、MARCH 140	国公立大 35、早慶上智 18、MARCH 165

都立国分寺高等学校 進学指導改善計画(1)

区分	項目	方策	具体的な取組内容と取組目標
			平成22年度
学習面	入学時から卒業までの学力推移の把握方法	外部模試の定期的な実施 模試分析会の定期的実施	1、2年を中心に外部模試を受けさせ、3年で他の業者の外部模試を中心に受けさせる。 模試分析会は、1年次3回、2年次3回、3年次2回実施させる予定である。
	1年次から3年次までの学力維持のための方策	学習戦略(学習プラン)に基づく学習指導及び補習・講習の実施 学習戦略に基づく基礎から応用への学習指導 難関大志望者への指導の充実 キャンパス訪問の実施	組織的な方針に基づく学習戦略を各科目単位で策定させて学習指導に当たらせる予定である。 夏期講習は176講座を開講し1700名が受講した。 また、難関大対策講座も実施した。 学部学科志望校選択の個別面談を充実させて学習動機を強化する。 学習戦略において応用力を育てる指導を継続する。 夏にセンター対策講座を開講し、秋以降、難関大対策やセンター対策を一層充実させる。 1年次生についてキャンパス訪問を12月に実施する。 2年次生については大学の教授を招き進路講演会を実施する。
	自宅学習時間の確保のための対策	学習・生活時間調査、面談の実施、小テストの実施 進路情報の提供や学習計画の周知により主体的学習を促す。	学習・生活時間調査を年間4、5回実施して実態把握に努める。 担任による個人面談を4回実施する。 小テストについては継続的計画的に実施する。 進路情報の提供や進学のための学習計画の指導を行う。
	生徒に対する個別相談体制(早朝・放課後など)	早朝・放課後における講習の実施 放課後における大学入試講座の実施 放課後における進路相談の実施	3年次生対象の早朝講習を数学(月～水)・国語(木金)で年度当初から毎日実施している。 土曜日の放課後に3年次生対象の英語の講習を実施している。 後期から年間を通して、東大一橋大の国語などの冠講座を放課後に開講する。 放課後の進路相談を実施する。
	入学時からの保護者生徒への学校経営方針の周知	保護者会等での学校経営方針の説明・進路情報の提供及び保護者のための大学講座の実施	保護者会等で進学指導の方針及び数値目標について周知を図るとともに、各学年の保護者に対して、予備校等から講師を招き、保護者のための大学講座を実施して、保護者に対して受験に向けた支援を要請している。
進路指導面	進路希望を実現させるための生徒指導	進路実現のための3カ年プランの実施及び学習戦略	進路実現のための3ヶ年プランを提示して、それぞれの時期に何をテーマとして、どういうことに取り組まなければならないかを、生徒自身に確認させながら指導する。
	進路データの管理と活用	外部模試の定期実施と学力状況調査システムの活用	1、2年次生については、二者面談・三者面談の際に、外部業者の学力状況調査システムを活用して、志望大学合格のための指導に当たらせる。3年次生については進路決定にあたって学力状況調査システムを利用して指導する。
特別活動	部活・行事と学習のメリハリの方策	限られた時間での効率的な部活動 合唱祭・文化祭・体育祭を1週間で実施する(木もれ陽祭)	部活動については、放課後の15時30分～17時30分の2時間に限り活動を認め18時には完全下校としている。土曜日は半日の活動のみ認めている。学校行事については、9月第2週に、合唱祭・文化祭・体育祭を1週間にまとめて集中的に実施する。そのため、8月中旬まで学習に専念させるとともに、学校行事終了後の後期始業の9月17日から学習への切替えを図る。
教員の資質	校内における授業改善のための取組など	大学入試問題分析の実施 教員相互の授業参観の実施	夏期休業中に、難関大学の入試分析を行い、全教員で共有化を図らせた上で指導に臨ませる。 また、11月に授業参観週間を設け、相互の授業参観を促進する。 さらに、2月に報告させる。

平成23年度	平成24年度
1、2年で外部模試を受けさせ、3年で複数の外部模試を受けさせる。模試分析会は、1年次3回、2年次3回、3年次2回実施させる。また、生徒一人一人に成績データをファイリングさせ管理させるとともに、面談の際に活用を図る。	1、2年で外部模試を受けさせ、3年で複数の外部模試を受けさせる。模試分析会は、1年次3回、2年次3回、3年次3回実施させる。また、生徒一人一人に成績データをファイリングさせ管理させるとともに、面談の際に活用を図る。
各科目ごとの学習戦略を更に精度を高めて策定させて学習指導に当たらせる。 夏期講習・冬期講習・直前講習を開講する。 また、難関大対策講座も実施する。 学部学科志望校選択の個別面談を充実させて学習動機を強化する。 学習戦略において応用力を育てる指導を継続する。 夏にセンター対策講座を開講し、秋以降、難関大対策やセンター対策を一層充実させる。 1年次生についてキャンパス訪問を12月に実施する。2年次生については大学の教授を招き進路講演会を実施する。 修学旅行にキャンパス訪問を組み入れて実施する。	各科目ごとの学習戦略を更に精度を高めて策定させて学習指導に当たらせる。 夏期講習・冬期講習・直前講習を開講する。 また、難関大対策講座も実施する。 学部学科志望校選択の個別面談を充実させて学習動機を強化する。 学習戦略において応用力を育てる指導を継続する。 夏にセンター対策講座を開講し、秋以降、難関大対策やセンター対策を一層充実させる。 1年次生についてキャンパス訪問を12月に実施する。 2年次生については大学の教授を招き進路講演会を実施する。 修学旅行にキャンパス訪問を組み入れて実施する。
学習・生活時間調査を年間4、5回実施して実態把握に努める。 担任による個人面談を4回実施する。 小テストについても継続的計画的に実施する。 進路情報の提供や進学のための学習計画の指導を行う。	学習・生活時間調査を年間4、5回実施して実態把握に努める。 担任による個人面談を4回実施する。 小テストについても継続的計画的に実施する。 進路情報の提供や進学のための学習計画の指導を行う。
3年次生対象の朝講習・放課後講習を実施する。 前期から年間を通して、東大一橋大の国語などの冠講座を放課後に開講する。 放課後の進路相談を実施する。	3年次生対象の朝講習・放課後講習を実施する。前期から年間を通して、東大一橋大の国語などの冠講座を放課後に開講する。 放課後の進路相談の実施
保護者会等で進学指導の方針及び数値目標について周知を図るとともに、各学年の保護者に対して、予備校等から講師を招き、保護者のための大学講座を実施して、保護者に対して受験に向けた支援を要請する。	保護者会等で進学指導の方針及び数値目標について周知を図るとともに、各学年の保護者に対して、予備校等から講師を招き、保護者のための大学講座を実施して、保護者に対して受験に向けた支援を要請する。
進路実現のための3ヶ年プランを提示して、それぞれの時期に何をテーマとして、どういうことに取り組まなければならないかという学習戦略を、生徒自身に確認させながら指導する。また、学習戦略に基づいた学習の手引きを作成し予習復習の仕方から授業中のノートの取り方まで教える学習オリエンテーションを実施する。	進路実現のための3ヶ年プランを提示して、それぞれの時期に何をテーマとして、どういうことに取り組まなければならないかという学習戦略を、生徒自身に確認させながら指導する。また、学習オリエンテーション週間を設置して、学習戦略に基づいた学習の手引に基づき、予習復習の仕方や授業中におけるノートの取り方などを指導する。
1、2年次生については、二者面談・三者面談の際に、外部業者の学力状況調査システムを活用して、志望大学合格のための指導に当たらせる。3年次生については進路決定にあたって学力状況調査システムを利用して指導する。	1、2年次生については、二者面談・三者面談の際に、外部業者の学力状況調査システムを活用して、志望大学合格のための指導に当たらせる。3年次生については進路決定にあたって学力状況調査システムを利用して指導する。
部活動については、放課後の15時30分～17時30分の2時間に限り活動を認め18時には完全下校とする。土曜日は半日の活動のみ認める。学校行事については、9月第2週に、合唱祭・文化祭・体育祭を1週間にまとめて集中的に実施する。そのため、8月中旬まで学習に専念させるとともに、学校行事終了後の後期始業の9月17日から学習への切替えを図る。	部活動については、水曜日を除く平日の放課後の15時30分～17時30分の2時間に限り活動を認め18時には完全下校とする。水曜日は、16時～17時30分の1時間半に限り活動を認め18時には完全下校とする。土曜日は半日の活動のみ認める。学校行事については、9月第2週に、合唱祭・文化祭・体育祭を1週間にまとめて集中的に実施する。そのため、8月中旬まで学習に専念させるとともに、学校行事終了後の後期始業の9月17日から学習への切替えを図る。
年度当初に、各教科で難関大学等の入試分析を行い、授業や講習の指導に生かす。 教員相互の授業参観を促進し、外部の授業も積極的に参観させる。	年度当初に、各教科で難関大学及び本校卒業生の進学する国公立大学の入試分析を行い、授業や講習の指導に生かす。 教員相互の授業参観を促進し、外部の授業も積極的に参観させる。

都立国分寺高等学校 進学指導改善計画(2)

区分	項目	方策	具体的な取組内容と取組目標
			平成22年度
生徒募集	小学校段階からの広報活動の充実	HPの活用を含む年間を通じた計画的広報活動・1年次生による母校訪問・国分寺市立小学校への奉仕活動	7月には、1年次生による母校訪問を実施して広報させた。また、国分寺市立小学校10校への奉仕活動を通して、本校の広報を行った。さらに、教員による中学校や塾訪問も行わせた。今後については、本校HPを随時更新し最新情報の提供するとともに、広報部による組織的広報活動を行わせる。
組織体制	進路指導部と学年団及び教科との連携のための方策	進路実現のための3ヵ年プランの実施に向けた拡大進路部会の実施・学習戦略実施に向けた教科主任会議	今年度から、進路指導部と各学年の進路指導担当による拡大進路指導部会を毎週金曜日放課後に実施し、進路指導部中心の進路指導体制に改めた。また、毎月1回、教科主任会議を開催し、教科に対して、教科内における統一した指導を求めるとともに、学習戦略策定による足並みの揃った学習指導を行うよう改善を図るとともに難関大指導にも対応できるようにする。
入試年度			平成23年度入試
目標	センター試験	5教科(6・7科目)で受験する者の在籍者に占める割合	22年度は、315人中120人(38%)が5教科(6・7科目)受験予定
		難関国立大学等に合格可能な得点水準(80%)以上の者の受験者に占める割合	22年度は、合格可能得点水準80%以上の者は、国語100人、数学50人、英語90人、地歴50人、公民20人、理科60人を目標とする。
	合格実績	難関国立大学、国公立大学、難関私立大学等の現役合格者	国公立大学は東大・一橋大・東工大などの難関大10人を含む70人の現役合格を目標とする。早稲田・慶應・上智などの難関私立大60人の現役合格を目標とする。

平成23年度	平成24年度
<p>1年次生による母校訪問を実施する。 また、国分寺市立小学校10校への奉仕活動を通して、本校の広報を行わせる。 さらに、教員による中学校や塾訪問も行わせる。 今後とも、本校HPを随時更新し最新情報の提供するとともに、広報部による組織的広報活動を行わせる。</p>	<p>1年次生による母校訪問を実施する。 また、国分寺市立小学校10校への奉仕活動を通して、本校の広報を行わせる。 さらに、教員による中学校や塾訪問も行わせる。 今後とも、本校HPを随時更新し最新情報の提供するとともに、広報部による組織的広報活動を行わせる。</p>
<p>進路指導部と各学年の進路指導担当による拡大進路指導部会を毎週実施する。 また、教科主任会議を定期的に行い、教科に対して、教科内における統一した指導を行わせ、学習戦略の策定による足並みの揃った学習指導を行うよう改善を図るとともに難関大指導にも対応できるようにする。</p>	<p>進路指導部と各学年の進路指導担当による拡大進路指導部会を毎週実施する。 また、教科主任会議を定期的に行い、教科に対して、教科内における統一した指導を行わせ、学習戦略の策定による足並みの揃った学習指導を行うよう改善を図るとともに難関大指導にも対応できるようにする。</p>
平成24年度入試	平成25年度入試
<p>23年度は、315人中140人(44%)の5教科(6・7科目)受験を目標とする。</p>	<p>24年度は、315人中160人(50%)の生徒の5教科(6・7科目)受験を目標とする。</p>
<p>23年度は、合格可能得点水準80%以上の者は、国語110人、数学60人、英語100人、地歴60人、公民25人、理科60人を目標とする。</p>	<p>24年度は、合格可能得点水準80%以上の者は、国語120人、数学65人、英語120人、地歴65人、公民30人、理科65人を目標とする。</p>
<p>国公立大学は東大・一橋大・東工大などの難関大10人を含む80人の現役合格を目標とする。早稲田・慶應・上智などの難関私立大70人の現役合格を目標とする。</p>	<p>国公立大学は東大・一橋大・東工大などの難関大10人を含む90人の現役合格を目標とする。早稲田・慶應・上智などの難関私立大80人の現役合格を目標とする。</p>

都立三田高等学校 進学指導改善計画(1)

区分		方策	具体的な取組内容と取組目標
			平成22年度
学習面	入学時から卒業までの学力推移の把握方法	模試の統一化と全員受験	○1・2年生は外部模試が提供する情報の活用と年3回模試を校内で全員に対して実施。3年生は年5回模試を校内で全員に対して実施
		センター試験の全員受験	○進学希望者全員受験するよう指導している。
		模試分析会	○模試実施後に毎回模試分析会を実施し、学力推移や課題等を把握し、対策の検討、課題の共有化を図る。
		定期考査の統一化	○定期考査を全クラス統一問題で実施する。
	1年次から3年次まで学力維持のための方策	教科マネジメントの確立	○教科ごとに目標を設定し、教科として戦略を立て、また、模擬試験等の結果を学年・教科で共有し、成果と課題を明確に把握し、各教科が生徒の弱点克服に組織的・継続的に取り組む教科マネジメントについて、平成23年度からの実施に向けて進路指導部で検討している。
		勉強合宿の実施(1・2年)	○夏季休業中に1年は40名単位で、2年は80名単位で2泊3日の勉強合宿を実施する。
		大学訪問(2年)	○連携大学へ生徒が訪問して授業を受ける大学訪問を2年生全員が実施。
		卒業生懇談会	○合格体験談を直接聞き、受験準備の早期開始等を指導する。
		第一志望届	○2学年3学期に第一志望届を提出させることにより、志望大学・学部の意識付けを行い、勉学への意欲喚起を図る。
		学年進路検討会(全学年)	○模試、教科分析会、学年分析会、諸調査等を基に指導方針、成績下降者・上昇者の把握・対策、出願等についての検討を行い、個人面談等を実施し、一人一人の生徒へ確実・的確な指導を行う。
	自宅学習時間の確保のための対策	家庭学習時間確保の指導	○担任による毎日の家庭学習計画表・記録表の指導・点検、各学期1回の担任面談指導、各学期ごとの家庭学習調査でチェック
		家庭学習記録表による継続的な指導(1年)	○コーチングの手法を取り入れ、自己目標の設定、実施状況の記録と振り返り、助言を継続的に実施し、自律的な学習週間の確立を図らせる。 ○始業前のSHRで、あらかじめ作成した週単位の計画表に前日の学習実績及び成果・反省を記録させ、担任が回収する。担任はコメントを記してその日のうちに返却する。これを毎日繰り返す。
		生徒に対する個別相談体制(早朝、放課後など)	○年間行事計画に生徒個人面談、保護者面談等を設定し、組織的計画的に取り組む。
	進路指導面	入学時からの保護者生徒への学校経営方針の周知	入校時オリエンテーション(1年)
進路希望を実現させるための生徒指導		保護者対象講演会	○保護者会で校長と進路指導主任の講演会を実施する。
	キャリアガイダンス(1年)	○OBを主とした講師を10名以上招聘したキャリアガイダンスを1年対象に実施。	
	学習ガイダンス(1年)	○予習・復習の仕方をガイダンスや模擬授業で具体的に指導し、高校の学習スタイルへ転換させる。	
進路データの管理と活用	自律的学習サイクルの確立	○学び方の指導の徹底と授業の魅力向上で自学自習を促し、予習・授業・復習サイクルの確立を図る。	
	進路指導カルテ(電子版)	○生徒一人ひとりの定期考査の成績、模試の成績、出席状況、進路希望、家庭学習状況、面談記録など必要なデータをカルテにまとめ、学習指導・進路指導を計画的で組織的なものとするを検討している。	
特別活動	部活・行事と学習のメリハリの方策	自律的な生活習慣の確立	○年間遅刻回数(前年度1日当たり平均44人・前年度比50%減) ○年間頭髪指導件数(前年度述べ276人・前年度比50%減) ○部活動加入率・満足度85%以上
		部活動と講習の両立	○長期休業中の講習の日程・時間を先に決めてから、部活動の計画を立てさせ、部活動と学習の両立を図らせる。
		部活動日数の制限	○長期休業中に部活動ができる日数の上限を決め、部活動と学習の両立を図らせる。

平成23年度	平成24年度
○1・2年生は外部模試が提供する情報の活用と年3回模試を校内で全員に対して実施。3年生は年5回模試を校内で全員に対して実施	○1・2年生は外部模試が提供する情報の活用と年3回模試を校内で全員に対して実施。3年生は年5回模試を校内で全員に対して実施
○進学希望者全員受験するよう指導している。	○進学希望者全員受験するよう指導している。
○模試実施後に毎回模試分析会を実施し、学力推移や課題等を把握し、対策の検討、課題の共有化を図る。	○模試実施後に毎回模試分析会を実施し、学力推移や課題等を把握し、対策の検討、課題の共有化を図る。
○定期考査を全クラス統一問題で実施する。	○定期考査を全クラス統一問題で実施する。
○教科ごとに家庭学習時間、模試平均点偏差値、模試偏差値の通減率、模試偏差値60以上と55以上の分布率の変化、センター試験平均点等の目標を設定し、教科として戦略を立て組織的、計画的に実現に向けて取り組む。 ○模擬試験等の結果を学年・教科で共有し、成果と課題を明確に把握し、各教科が生徒の弱点克服に組織的・継続的に取り組む。	○教科ごとに家庭学習時間、模試平均点偏差値、模試偏差値の通減率、模試偏差値60以上と55以上の分布率の変化、センター試験平均点等の目標を設定し、教科として戦略を立て組織的、計画的に実現に向けて取り組む。 ○模擬試験等の結果を学年・教科で共有し、成果と課題を明確に把握し、各教科が生徒の弱点克服に組織的・継続的に取り組む。
○夏季休業中に1・2年とも100名単位で2泊3日の勉強合宿を実施する。	○夏季休業中に1・2年とも100名単位で2泊3日の勉強合宿を実施する。
○連携大学へ生徒が訪問して授業を受ける大学訪問を2年生全員が実施	○連携大学へ生徒が訪問して授業を受ける大学訪問を2年生全員が実施
○合格体験談を直接聞き、受験準備の早期開始等を指導する。	○合格体験談を直接聞き、受験準備の早期開始等を指導する。
○2学年3学期に第一志望届を提出させることにより、志望大学・学部の意識付けを行い、勉学への意欲喚起を図る。	○2学年3学期に第一志望届を提出させることにより、志望大学・学部の意識付けを行い、勉学への意欲喚起を図る。
○模試、教科分析会、学年分析会、諸調査等を基に指導方針、成績下降者・上昇者の把握・対策、出願等についての検討を行い、個人面談等を実施し、一人一人の生徒へ確実・的確な指導を行う。	○模試、教科分析会、学年分析会、諸調査等をもとに指導方針、成績下降者・上昇者の把握・対策、出願等についての検討を行い、個人面談等を実施し、一人一人の生徒へ確実・的確な指導を行う。
○担任による毎日の家庭学習計画表・記録表の指導・点検、各学期1回の担任面談指導、各学期ごとの家庭学習調査でチェック	○担任による毎日の家庭学習計画表・記録表の指導・点検、各学期1回の担任面談指導、各学期ごとの家庭学習調査でチェック
○コーチングの手法を取り入れ、自己目標の設定、実施状況の記録と振り返り、助言を継続的に実施し、自律的な学習週間の確立を図らせる。 ○始業前のSHRで、あらかじめ作成した週単位の計画表に前日の学習実績及び成果・反省を記録させ、担任が回収する。担任はコメントを記してその日のうちに返却する。これを毎日繰り返す。	○コーチングの手法を取り入れ、自己目標の設定、実施状況の記録と振り返り、助言を継続的に実施し、自律的な学習週間の確立を図らせる。 ○始業前のSHRで、あらかじめ作成した週単位の計画表に前日の学習実績及び成果・反省を記録させ、担任が回収する。担任はコメントを記してその日のうちに返却する。これを毎日繰り返す。
○年間行事計画に生徒個人面談、保護者面談等を設定し、組織的計画的に取り組む。	○年間行事計画に生徒個人面談、保護者面談等を設定し、組織的計画的に取り組む。
○外部業者の学力状況調査システム、模試、家庭学習調査、定期考査・成績など全てのデータを(学校(学年)→学級→生徒個人)あらゆるレベルで集計・分析し(模試等は更に教科ごとに)、それぞれが毎回課題と対策をまとめ、自律的な改善を図る。	○外部業者の学力状況調査システム、模試、家庭学習調査、定期考査・成績などすべてのデータを(学校(学年)→学級→生徒個人)あらゆるレベルで集計・分析し(模試等はさらに教科ごとに)、それぞれが毎回課題と対策をまとめ、自律的な改善を図る。
○入学後間もなくの時期に学年単位で宿泊合宿を実施し、目標設定の適正化や中学校から高校の学習スタイルへの転換を図るプログラムを集中的に実施する。	○入学後間もなくの時期に学年単位で宿泊合宿を実施し、目標設定の適正化や中学校から高校の学習スタイルへの転換を図るプログラムを集中的に実施する。
○入学式後の保護者会及び初回の保護者会で校長と進路指導主任の講演会を実施する。	○入学式後の保護者会及び初回の保護者会で校長と進路指導主任の講演会を実施する。
○OBを主とした講師を10名以上招聘したキャリアガイダンスを1年対象に実施	○OBを主とした講師を10名以上招聘したキャリアガイダンスを1年対象に実施
○予習・復習の仕方をガイダンスや模擬授業で具体的に指導し、高校の学習スタイルへ転換させる。	○予習・復習の仕方をガイダンスや模擬授業で具体的に指導し、高校の学習スタイルへ転換させる。
○学び方の指導の徹底と授業の魅力度向上で自学自習を促し、予習・授業・復習サイクルの確立を図るなど、あきらめさせない指導を推進する。	○学び方の指導の徹底と授業の魅力度向上で自学自習を促し、予習・授業・復習サイクルの確立を図るなど、あきらめさせない指導を推進する。
○生徒一人一人の定期考査の成績、模試の成績、出席状況、進路希望、家庭学習状況、面談記録など必要なデータをカルテにまとめ、学習指導・進路指導を計画的で組織的なものとする。	○生徒一人ひとりの定期考査の成績、模試の成績、出席状況、進路希望、家庭学習状況、面談記録など必要なデータをカルテにまとめ、学習指導・進路指導を計画的で組織的なものとする。
○年間遅刻回数の減少(前年度比10%減) ○年間頭髪指導件数の減少(前年度比10%減) ○部活動加入率・満足度90%以上	○年間遅刻回数の減少(前年度比10%減) ○年間頭髪指導件数の減少(前年度比10%減) ○部活動加入率・満足度90%以上
○長期休業中の講習の日程・時間を先に決めてから、部活動の計画を立てさせ、部活動と学習の両立を図らせる。	○長期休業中の講習の日程・時間を先に決めてから、部活動の計画を立てさせ、部活動と学習の両立を図らせる。
○長期休業中に部活動ができる日数の上限を決め、部活動と学習の両立を図らせる。	○長期休業中に部活動ができる日数の上限を決め、部活動と学習の両立を図らせる。

都立三田高等学校 進学指導改善計画(2)

区分		方策	具体的な取組内容と取組目標
			平成22年度
教員の資質	校内における授業改善のための取組など	生徒による授業評価	○1学期と2学期に生徒による授業評価を行い、各教科担任は結果を基に授業改善報告書を作成・提出。目標に達しなかった教科・科目については、教科で「改善に向けた行動計画」を作成・提出
		授業研究公開週間	○10月と11月の授業研究公開週間に各教科ブロック単位で研究授業を2回を実施
		教員相互の授業研究	○上記週間に教員が教科横断的な6グループに別れグループ内の教員の授業を相互参観し、個人やグループでテーマについて研究する。参観者は授業見学レポートを授業者に提出する。
		進学指導診断研修会	○進学指導診断の結果に基づいた研修を実施し、指導法等についての共有を図る。
		教科模試分析会	○教科模試分析会を各学期1回実施し、教科としての受験指導力の向上を図る。
		教育課程の改善	○国公立大学・難関私立大学への進学を可能にする教育課程の編成
		校内研修学力向上委員会によるOJT研修の企画・実施、授業改善	○校内研修学力向上委員会で全ての校内研修を調整した上で、OJT研修として教科単位校内研修会、授業研究公開週間、教員相互の授業研究、全校校内研修会を企画・実施し、三田高校の授業としてあるべき姿を全教員に追求させる。 ○分かりやすいだけの授業から生徒が主体的に考え、意欲を持って学習する授業への転換を推進する。
組織体制	進学に係る組織体制の充実など	土曜授業実施	長期休業日等の弾力的運用試行校として学校見学会(10回)、学校説明会(3回)、授業公開(16回)、保護者会(3回)、都内の中学校及び他の都立高等学校等と連携した中高接続問題検討のための研究授業(特別編成)・研究協議会(3回)など、地域や保護者等から土曜日実施の要望が強く、かつ必要性の高い行事を土曜日に実施するため、隔週20回のほかに8回の土曜授業を実施する(25年度からは全学年隔週20回)。
		長期休業中の講習	○受験に対応した長期休業中の講習を原則全員体制で実施する。目標は100講座、参加者延べ3000名以上
		センター試験の全員受験	○国公立大学受験とは関わりなく、自分の基礎学力を把握するため、センター試験の各科目を個々の実情に応じて受験指導する。目標は9割
		探究心・課題解決力等の社会で必要な力の育成による主体的な学びの育成	○「総合的な学習の時間」(2年)で「課題研究」を実施 ○各学年ごとの「Mノート」(学習・進路に関する自己管理ノート)作成による振り返り学習の確立
		進路シラバスによる進路指導の統一性確保	○統一様式で学年進路が作成し、全教職員の共通理解を図った。
		学校見学会・説明会・授業公開の土曜日実施	○学校見学会10回、学校説明会3回、授業公開10回を校内で実施
		平日の学校見学会	○学期中の毎週金曜日、夏季休業中の平日は毎日、学校PRのための学校見学会を実施
		合同説明会	○合同学校説明会に全員体制で参加
		外部説明会	○塾・各区主催合同説明会、中学校への出前説明会、出前授業等にもすべて参加
		塾対象説明会	○懇談会を本校で実施し、本校の現状、具体的な取組・成果、今後の方針、三田高校に送ってほしい生徒像などについて塾関係者の理解を深める。
		教員の中学校訪問	○教員による中学校訪問を23区内の5割以上の中学校に対して実施
		授業公開	○土曜日に授業公開日10回、授業公開週間を1、2学期1回ずつ実施
入試年度		平成23年度入試	
現役合格者数の目標	国公立大学	15人	
	早慶上理	40人	
	MARCH	110人	

平成23年度	平成24年度
○1学期と2学期に生徒による授業評価を行い、各教科担任は結果を基に授業改善報告書を作成・提出。目標に達しなかった教科・科目については、教科で「改善に向けた行動計画」を作成・提出	○1学期と2学期に生徒による授業評価を行い、各教科担任は結果を基に授業改善報告書を作成・提出。目標に達しなかった教科・科目については、教科で「改善に向けた行動計画」を作成・提出
○10月と11月の授業研究公開週間に各教科ブロック単位で研究授業を2回を実施	○10月と11月の授業研究公開週間に各教科ブロック単位で研究授業を2回を実施
○上記週間に教員が教科横断的な6グループに別れグループ内の教員の授業を相互参観し、個人やグループでテーマについて研究する。参観者は授業見学レポートを授業者に提出する。	○上記週間に教員が教科横断的な6グループに別れグループ内の教員の授業を相互参観し、個人やグループでテーマについて研究する。参観者は授業見学レポートを授業者に提出する。
○進学指導診断の結果に基づいた研修を実施し、指導法等についての共有化を図る。	○進学指導診断の結果に基づいた研修を実施し、指導法等についての共有化を図る。
○教科模試分析会を各学期1回実施し、教科としての受験指導力の向上を図る。	○教科模試分析会を各学期1回実施し、教科としての受験指導力の向上を図る。
○国公立大学・難関私立大学への進学を可能にする教育課程の決定	○国公立大学・難関私立大学への進学を可能にする教育課程の実施
○校内研修学力向上委員会で全ての校内研修を調整した上で、OJT研修として教科単位校内研修会、授業研究公開週間、教員相互の授業研究、全体校内研修会を企画・実施し、三田高校の授業としてあるべき姿を全教員に追求させる。 ○分かりやすいだけの授業から生徒が主体的に考え、意欲を持って学習する授業への転換を推進する。	○校内研修学力向上委員会で全ての校内研修を調整した上で、OJT研修として教科単位校内研修会、授業研究公開週間、教員相互の授業研究、全体校内研修会を企画・実施し、三田高校の授業としてあるべき姿を全教員に追求させる。 ○分かりやすいだけの授業から生徒が主体的に考え、意欲を持って学習する授業への転換を推進する。
長期休業日等の弾力的運用試行校として学校見学会(10回)、学校説明会(3回)、授業公開(16回)、保護者会(3回)、都内の中学校及び他の都立高等学校等と連携した中高接続問題検討のための研究授業(特別編成)・研究協議会(3回)など、地域や保護者等から土曜日実施の要望が強く、かつ必要性の高い行事を土曜日に実施するため、隔週20回のほかに8回の土曜授業を実施する(25年度からは全学年隔週20回)。	長期休業日等の弾力的運用試行校として学校見学会(10回)、学校説明会(3回)、授業公開(16回)、保護者会(3回)、都内の中学校及び他の都立高等学校等と連携した中高接続問題検討のための研究授業(特別編成)・研究協議会(3回)など、地域や保護者等から土曜日実施の要望が強く、かつ必要性の高い行事を土曜日に実施するため、隔週20回のほかに8回の土曜授業を実施する(25年度からは全学年隔週20回)。
○受験に対応した長期休業中の講習を原則全身体制で実施する。目標は100講座、参加者延べ3000名以上	○受験に対応した長期休業中の講習を原則全身体制で実施する。目標は100講座、参加者延べ3000名以上
○国公立大学受験とは関わりなく、自分の基礎学力を把握するため、センター試験の各科目を個々の実情に応じて受験指導する。目標は9割	○国公立大学受験とは関わりなく、自分の基礎学力を把握するため、センター試験の各科目を個々の実情に応じて受験指導する。目標は9割
○「総合的な学習の時間」(2年)で「課題研究」を実施 ○各学年ごとの「Mノート」(学習・進路に関する自己管理ノート)作成による振り返り学習の確立	○「総合的な学習の時間」(2年)で「課題研究」を実施 ○各学年ごとの「Mノート」(学習・進路に関する自己管理ノート)作成による振り返り学習の確立
○経営計画に基づいて学校として指導する基本内容を進路部が進路シラバスにまとめ、生徒・保護者に周知する。 ○全教職員は進路シラバスに基づいて進路指導を行う。	○経営計画に基づいて学校として指導する基本内容を進路部が進路シラバスにまとめ、生徒・保護者に周知する。 ○全教職員は進路シラバスに基づいて進路指導を行う。
○学校見学会10回、学校説明会3回、授業公開10回を校内で実施	○学校見学会10回、学校説明会3回、授業公開10回を校内で実施
○学期中の毎週金曜日、夏季休業中の平日は毎日、学校PRのための学校見学会を実施	○学期中の毎週金曜日、夏季休業中の平日は毎日、学校PRのための学校見学会を実施
○合同学校説明会に全身体制で参加	○合同学校説明会に全身体制で参加
○塾・各区主催合同説明会、中学校への出前説明会、出前授業等にも全て参加	○塾・各区主催合同説明会、中学校への出前説明会、出前授業等にも全て
○懇談会を本校で実施し、本校の現状、具体的な取組・成果、今後の方針、三田高校に送ってほしい生徒像などについて塾関係者の理解を深める。	○懇談会を本校で実施し、本校の現状、具体的な取組・成果、今後の方針、三田高校に送ってほしい生徒像などについて塾関係者の理解を深める。
○教員による中学校訪問を23区内の5割以上の中学校に対して実施	○教員による中学校訪問を23区内の5割以上の中学校に対して実施
○土曜日に授業公開日28回、授業公開週間を1、2学期1回ずつ実施	○土曜日に授業公開日20回、授業公開週間を1、2学期1回ずつ実施
平成24年度入試	平成25年度入試
20人	25人
45人	50人
130人	150人

都立国際高等学校 進学指導改善計画

区分		方策	具体的な取組内容と取組目標
			平成22年度
学習面	入学時から卒業までの学力推移の把握方法	英語と5教科に分け外部模試等を活用	○英語力 ・TOEIC IP(4月実施) データ入力 ○3～5教科の学力 ・統一模試(9月実施、1月実施) データ入力 ・センター同日模試(1月実施《希望者》) データ入力
	1年次から3年次まで学力維持のための方策	習熟度別授業 ネイティブ講師活用 進学対策の補講 各種資格試験の活用 学習到達目標の効果的活用	○英語 ・習熟度に応じた授業内容の精選 ・ネイティブ講師の積極的な登用 ・長期休業日中の補講、補習(進学対策講座)の実施 ・英語検定試験等への受験督促及び合格者表彰 ・英語コンテストへの参加督促及び成果発表機会の設定 ○5教科 ・長期休業中の補講、補習(進学対策講座)の実施 ・2年次における科目ごとの学習到達目標の明確化
	自宅学習時間の確保のための対策	予習課題の提供 生活習慣アンケートの実施	○英語科 ・予習課題の提供、資格取得の奨励 ○5教科 ・予習課題の提供 ○生活習慣アンケートの実施 ・家庭での学習時間、塾・予備校等での学習時間の調査等
	生徒に対する個別相談体制(早朝、放課後など)	組織・環境・連携体制の整備と充実	○進学・学習相談コーナーの設置 ○相談体制の組織化 ○相談内容等のデータベース化
進路指導面	入学時からの保護者生徒への学校経営方針の周知	学校経営計画の説明機会の設定 認知度アンケートの実施	○学校経営計画の認知度調査の実施(保護者・生徒) ○調査結果の分析と次年度に向けた対策の策定
	進路希望を実現させるための生徒指導	生徒指導記録の工夫 学力データの有効活用	○生徒個別の学力データ管理の実施準備 ○進路希望データの保存方法の検討 ○担任による生徒指導の記録化の検討
	進路データの管理と活用	経年変化に対応した保存形式 学力向上の視点での的確な分析	○生徒個別の経年変化の分かるフォーマットの検討 ○活用する進路データの選択と初年度データの入力開始
特別活動	部活・行事と学習のメリハリの方策	授業時数確保 活動回数の検討 行事期間の見直し	○部活動練習時間の厳守 ○土日休日活動の上限設定の検討 ○行事準備期間及び実施時期の見直し
教員の資質	校内における授業改善のための取組など	教員相互の授業見学 生徒による授業評価 予備校による進学指導診断	○教員相互の授業見学への組織的取組 ○生徒による授業評価の活用改善 ○授業改善のための校内研修会の設置
組織体制	進学に係る組織体制の充実など	進学指導推進チーム	○進学指導推進チームの発足 ・進路主任・5教科の代表・学年主任をメンバーとする。
入試年度		平成23年度入試	
現役合格者数の目標	早慶上智	85人	
	MARCH	90人	
	国公立大学	25人	
	海外大学進学	15人	

平成23年度	平成24年度
<ul style="list-style-type: none"> ○英語力 <ul style="list-style-type: none"> ・TOEIC IP(4月実施)データ入力・経年比較 ○3～5教科の学力 <ul style="list-style-type: none"> ・統一模試(9月実施、1月実施)データ入力・経年比較 ・センター同日模試(1月実施《希望者》)データ入力・経年比較 	<ul style="list-style-type: none"> ○英語力 <ul style="list-style-type: none"> ・TOEIC IP(4月実施)データ入力・経年比較 ○3～5教科の学力 <ul style="list-style-type: none"> ・統一模試(9月実施、1月実施)データ入力・経年比較 ・センター同日模試(1月実施《希望者》)データ入力・経年比較 ○3年間での成果と課題の分析と公表
<ul style="list-style-type: none"> ○英語 <ul style="list-style-type: none"> ・習熟度に応じた授業内容の精選 ・ネイティブ講師の積極的な登用 ・長期休業日中の補講、補習(進学対策講座)の拡充 ・英語検定試験等への受験督促及び合格者表彰 ・英語コンテストへの参加督促及び成果発表機会の設定 ○5教科 <ul style="list-style-type: none"> ・長期休業中の補講、補習(進学対策講座)の拡充 ・2年次における科目ごとの学習到達目標の評価 	<ul style="list-style-type: none"> ○英語 <ul style="list-style-type: none"> ・習熟度に応じた授業内容の精選 ・ネイティブ講師の積極的な登用 ・長期休業日中の補講、補習(進学対策講座)の見直し ・英語検定試験等への受験督促及び合格者表彰 ・英語コンテストへの参加督促及び成果発表機会の設定 ○5教科 <ul style="list-style-type: none"> ・長期休業中の補講、補習(進学対策講座)の見直し ・学習到達目標の見直しと評価結果の分析、公表
<ul style="list-style-type: none"> ○英語科 <ul style="list-style-type: none"> ・予習課題の提供、資格取得の奨励 ○5教科 <ul style="list-style-type: none"> ・予習課題の提供 ・生活習慣アンケート結果に基づく改善指導計画の策定 →個別面談や三者面談で活用する。本人や保護者へ生活を見直し、自宅等での学習時間の確保を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○英語科 <ul style="list-style-type: none"> ・予習課題の提供、資格取得の奨励 ○5教科 <ul style="list-style-type: none"> ・予習課題の提供 ・保護者と連携した自宅学習時間確保の実践
<ul style="list-style-type: none"> ○組織の見直し <ul style="list-style-type: none"> ・進学指導推進チーム(進路部+5教科の各担当) ○相談内容等の統計処理と教科・学年との連携の確立 ○進学・学習相談に特化した対応マニュアルの策定 	<ul style="list-style-type: none"> ○教科や学年との連携事例の研究 ○対応マニュアルの整備と改訂
<ul style="list-style-type: none"> ○4月保護者会での学校経営計画の説明と質疑応答 ○オリエンテーションでの生徒への説明 ○認知度調査結果の公表 	<ul style="list-style-type: none"> ○4月保護者会での学校経営計画の説明と質疑応答 ○オリエンテーションでの生徒への説明 ○認知度90%を目指す。
<ul style="list-style-type: none"> ○学力データと進路希望データの結合 ○担任による生徒指導記録の円滑な引継ぎと追加保存 	<ul style="list-style-type: none"> ○新3学年での進路データの実践的な活用 ○生徒による振り返り(見つめ直し)の機会設定
<ul style="list-style-type: none"> ○2年目の進路データの入力 ○経年変化の観点でのデータ分析 ○分析結果に基づく進学指導の改善 	<ul style="list-style-type: none"> ○3年目の進路データの入力と分析 ○分析に基づく進学指導の改善と3年間の経過の保存
<ul style="list-style-type: none"> ○部活動練習時間の厳守 ○土日休日活動の上限設定の運用開始 ○授業時数の正確な把握と公表 	<ul style="list-style-type: none"> ○部活動練習時間の厳守 ○土日休日活動の上限設定の運用開始 ○授業時数の正確な把握と公表
<ul style="list-style-type: none"> ○教員相互の授業見学の完全実施 <ul style="list-style-type: none"> ・全員が1回は誰かの授業を見る。 ○統一様式での生徒による授業評価の教科別報告 ○進学指導診断を活用した校内研修の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○教員相互の授業見学の完全実施 ○統一様式での生徒による授業評価の教科別報告
<ul style="list-style-type: none"> ○進学指導推進チームへの校内公募の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・教科指導向上メンバーを加える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○チームメンバーへの外部委員の参加 <ul style="list-style-type: none"> ・予備校講師などに研究協議に参加してもらう。
平成24年度入試	平成25年度入試
85人	90人
90人	90人
25人	28人
15人	18人

都立豊多摩高等学校 進学指導改善計画

区分		具体的な取組内容と取組目標
		平成22年度
学習面	入学時から卒業までの学力推移の把握方法	<ul style="list-style-type: none"> ○業者模擬試験結果を活用した定点観測を学級担任レベルで行う。 ○各学年、教務部、進路図書部合同の拡大進路部会の在り方を検討する。 ○業者の学力状況調査システムの導入を図る。
	1年次から3年次までの学力維持のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ○学力や興味関心に応じた習熟度別授業、土曜補習や長期休業中の講習・補習などの学習指導の充実を図る。 ○進路調査で進学志願先を把握する。 ○生徒のモチベーションを下げない工夫として講演会や大学の模擬授業、ガイダンスを定期的実施する。 ○担任による面談の実施 ○学年・生徒保健部による遅刻指導 ○家庭学習時間の調査等を実施する。 ○HPを通じて進路情報の継続的提供を行う。
	自宅学習時間の確保のための対策	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭学習時間の調査等を実施する。 ○宿題を検証するため各教科の家庭学習課題の把握を行う。
	生徒に対する個別相談体制(早朝、放課後など)	<ul style="list-style-type: none"> ○定期的な進路ガイダンスを実施する。 ○業者模擬試験結果などの分析結果を通知する。 ○面談週間を設置する。 ○進路指導に関する研修会の実施 ○自習室の在り方を検討する。
進路指導面	入学時からの保護者生徒への学校経営方針の周知	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者会などでの進路状況についての情報提供 ○HPを通じて進路情報の継続的提供
	進路希望を実現させるための生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ○定期的なガイダンスを実施する。 ○学級担任、教科担任による面談の実施 ○オープンキャンパスへの参加と報告書作成を行わせる。 ○個人面談、保護者会等を通じて「あきらめさせない」指導を徹底する。
	進路データの管理と活用	<ul style="list-style-type: none"> ○業者模擬試験結果、成績会議資料のデータベースを作成する。 ○業者の学力状況調査システムを導入する。
特別活動	部活・行事と学習のメリハリの方策	<ul style="list-style-type: none"> ○下校時刻を徹底する。 ○部活動、学校行事と学習の切替えを円滑にする指導を徹底する。
教員の資質	校内における授業改善のための取組など	<ul style="list-style-type: none"> ○教員相互の授業見学を行う。 ○学力向上・進路指導の在り方に関する研修会を実施する。 ○主要3教科の3年間の指導計画作成の準備を行う。
組織体制	進学に係る組織体制の充実など	<ul style="list-style-type: none"> ○進路図書部と学年との連携の在り方を検討する。 ○拡大進路部会を定期的開催する。 ○3年間を見通した進路指導計画を検討する。 ○進路指導の研修会を実施する。
入試年度		平成23年度入試
現役合格者数の目標	国公立大学	10人
	難関私立大学	5人
	GMARCH	35人
	日東駒専	45人

平成23年度	平成24年度
<ul style="list-style-type: none"> ○業者模擬試験結果と学力状況調査システムを活用した定点観測を拡大進路部会で行う。 ○定期考査の成績のデータベースを作成し、拡大進路部会で分析し、本校独自の合否判定基準を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○業者模擬試験結果と学力状況調査システムを活用した定点観測を拡大進路部会で行う。 ○定期考査の成績のデータベースを作成し、拡大進路部会で分析し、本校独自の合否判定基準の精度を高める。 ○生徒一人一人の成績データを全教員で把握し、個別指導を徹底する。
<ul style="list-style-type: none"> ○第1学年に対して、学習計画及び学習方法の指導を徹底する。 ○進路調査で進学志願先を把握する。 ○長期休業中の講習の細分化を行い、生徒の学力に応じたきめ細かな指導と検証の充実を図る。 ○主要3教科において宿題等の課題を充実させる。 ○担任による面談の実施 ○学年・生徒保健部による遅刻指導 ○家庭学習時間の調査等を実施する。 ○HPを通じて進路情報の継続的提供を行う。 ○合格体験発表会を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○第1学年に対して、学習計画及び学習方法の指導を徹底する。 ○進路調査で進学志願先を把握する。 ○長期休業中の講習の細分化を行い、生徒の学力に応じたきめ細かな指導と検証の充実を図る。 ○主要5教科において宿題等の課題を充実させる。 ○担任による面談の実施 ○学年・生徒保健部による遅刻指導 ○家庭学習時間の調査等を実施する。 ○HPを通じて進路情報の継続的提供を行う。 ○合格体験発表会を実施する。
<ul style="list-style-type: none"> ○家庭学習時間の調査等を実施する。 ○各教科の家庭学習課題の把握と調整を行う。 ○小テストの拡充を図る。 ○宿題の質的改善を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭学習時間の調査等を実施する。 ○各教科の家庭学習課題の把握と調整を行う。 ○小テストの拡充を図る。 ○宿題の標準型を作成する。
<ul style="list-style-type: none"> ○定期的な進路ガイダンスを実施する。 ○業者模擬試験結果などの分析結果を通知し振り返り学習を行う。 ○面談週間を設置する。 ○自習室の拡充を図る。 ○進路ノートを作成し合格に向けたフローチャートを描く指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○定期的な進路ガイダンスを実施する。 ○業者模擬試験結果などの分析結果を通知する。 ○面談週間を設置する。 ○自習室の質的向上を図る。 ○進路ノートを活用し合格に向けたフローチャートを作成する。
<ul style="list-style-type: none"> ○保護者会などでの進路状況についての情報提供 ○HPを通じて進路情報の提供 ○保護者と教員共通の講演会を実施 ○個人の合格体験記を作成する(1から3年の成績、勉強法など)。 	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者会などでの進路状況についての情報提供 ○HPを通じて進路情報の提供 ○保護者と教員共通の講演会を実施 ○個人の合格体験記を作成する(1から3年の成績、勉強法など)。
<ul style="list-style-type: none"> ○定期的なガイダンスを実施する。 ○学級担任、教科担任による面談の実施 ○オープンキャンパスへの参加と報告書作成を行わせる。 ○個人面談、保護者会等を通じて「あきらめさせない」指導を徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○定期的なガイダンスを実施する。 ○学級担任、教科担任による面談の実施 ○オープンキャンパスへの参加と報告書作成を行わせる。 ○個人面談、保護者会等を通じて「あきらめさせない」指導を徹底する。
<ul style="list-style-type: none"> ○業者模擬試験結果、成績会議資料を活用した進路指導を行う。 ○業者の学力状況調査システムに関する研修を実施し、利用方法に習熟する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○業者模擬試験結果、成績会議資料を活用した進路指導を行う。 ○業者の学力状況調査システムを活用する。
<ul style="list-style-type: none"> ○下校時刻を徹底する。 ○部活動、学校行事と学習の切替えを円滑にする指導を徹底する。 ○部活動の在り方について学校の方針を定め、試験的な運用を図る。 ○長期休業日の補講・補習と部活動の調整を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○下校時刻を徹底する。 ○部活動、学校行事と学習の切替えを円滑にする指導を徹底する。 ○部活動の活動要件の徹底を図る。 ○長期休業日の補講・補習と部活動の調整を図る。
<ul style="list-style-type: none"> ○教員相互の授業見学を行う。 ○学力向上・進路指導の在り方に関する研修会を充実させる。 ○主要3教科の3年間の指導計画を作成する。 ○予備校講師等による講演会を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教員相互の授業見学を行う。 ○学力向上・進路指導の研修会を充実発展させる。 ○主要3教科の3年間の指導計画を完成する。 ○予備校講師等による講演会を実施する。
<ul style="list-style-type: none"> ○進路図書部と学年との連携を図る。 ○拡大進路部会を定期的に開催する。 ○3年間を見通した進路指導計画を作成し、進路指導を推進する。 ○進路指導の研修会を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○進路図書部と学年との連携を強化する。 ○拡大進路部会を定期的に開催する。 ○3年間を見通した進路指導計画を充実させて進路指導を行う。 ○定期考査を中心とした検証を行う。 ○進路指導の研修を充実発展させる。
平成24年度入試	平成25年度入試
12人	15人
7人	10人
40人	45人
55人	65人

都立竹早高等学校 進学指導改善計画

区分		具体的な取組内容と取組目標
		平成22年度
学習面	入学時から卒業までの学力推移の把握方法	<ul style="list-style-type: none"> ①入学選抜及び課題テスト ②外部模試(年3回) ③センターテスト結果 <p>①～③を材料として年度別・学年別に比較する。</p>
	1年次から3年次まで学力維持のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ○予備校講師による土曜講習(後期10回)の実施 ○「チャイムで始まりチャイムで終わる授業」の徹底、規律ある授業態度の育成 ○サポートティーチャーによる土曜教室(年8回)の実施 ○保護者への進路情報の発信に努める。
	自宅学習時間の確保のための対策	<ul style="list-style-type: none"> ○自習スペースの設置など校内自習環境の整備 ○生活実態調査の実施
	生徒に対する個別相談体制(早朝、放課後など)	<ul style="list-style-type: none"> ○進学希望調査方法の検討 ○進路相談室資料の充実、開放 ○放課後講習の実施(社会科)
進路指導面	入学時からの保護者生徒への学校経営方針の周知	<ul style="list-style-type: none"> ○学年保護者会・ホームページの活用 ○三者面談等の奨励
	進路希望を実現させるための生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ○進路講演会等の実施 ○同窓生による特別セミナーの実施 ○オープンキャンパス訪問の奨励 ○「総合的な学習の時間」による進路指導
	進路データの管理と活用	<ul style="list-style-type: none"> ○進路指導に関する必要データの確認、収集 ○データに基づく校内研修会の実施
特別活動	部活・行事と学習のメリハリの方策	<ul style="list-style-type: none"> ○部活動の活性化(両立奨励・下校指導の徹底)
教員の資質	校内における授業改善のための取組など	<ul style="list-style-type: none"> ○相互の授業参観の奨励 ○予備校主催の研修への参加奨励 ○校外の大学入試分析会への参加奨励
組織体制	進学に係る組織体制の充実など	<ul style="list-style-type: none"> ○募集活動、広報資料の検討・新1年アンケートの実施 ○学年と進路部の連携
入試年度		平成23年度入試
現役合格者数の目標	国公立大学	22人
	早・慶・上・理	50人
	MARCH	125人

平成23年度	平成24年度
①入学選抜及び課題テスト ②外部模試の実施(年3回・各学年実施時期及び実施模試の統一) ③センターテスト結果 ①～③を材料として年度別・学年別に比較し、把握する。 ○定点比較による検討会(模試分析会等)を学年別・教科別に実施、具対策を協議	①入学選抜及び課題テスト ②外部模試の実施(年3回・各学年実施時期及び実施模試の統一) ③センターテスト結果 ①～③を材料として年度別・学年別に比較し、把握する。 ○定点比較による検討会を学年別・教科別に実施し、具対策を協議
○予備校講師による土曜講習(前・後期各10回)の実施 ○サポートティーチャーによる土曜教室の実施 ○休業中の講習(1・2年対象)の充実・講習会場の整備 ○規律ある授業態度(時間厳守、挨拶等)の育成 ○1学年末・春季休業を生かす指導計画の検討・実施 ○保護者との連携、進路情報発信の工夫	○予備校講師による土曜講習(前・後期各10回)の実施 ○サポートティーチャーによる土曜教室の実施 ○休業中の講習(1・2年対象)の充実・講習会場の整備 ○規律ある授業態度(時間厳守、挨拶等)の育成 ○1学年末・春季休業を生かす指導の充実 ○保護者との連携、進路情報の発信
○自学のための課題学習・小テスト等の方針に関する協議 ○生活実態調査に伴う学業指導の実施 ○自学自習(家庭学習等)記録簿の作成、記入指導 ○自習環境の整備	○図書館・進路指導室の整備 ○自学のための課題学習・小テスト等の実施 ○生活実態調査に伴う学業指導・個別面談等の実施 ○自学自習(家庭学習等)記録簿の作成、記入指導
○進学希望調査結果の検討 ○進路指導室の機能の充実 ○個人面談等進路相談期間の設定 ○質問コーナーの設置	○進路指導室の機能の充実 ○個人面談等進路相談期間の設定 ○「0時限」及び「放課後」講習の計画的・組織的实施
○学年保護者会・ホームページの活用 ○三者面談等進路相談期間の設定 ○「進路便り」の発行 ○保護者向け進路講演会の実施	○学年保護者会・ホームページの活用 ○三者面談等進路相談期間の設定 ○「進路便り」の発行 ○保護者向け進路講演会の実施
○進路講演会等の実施 ○同窓生による特別セミナーの実施 ○「総合的な学習の時間」を活用した進路指導	○進路講演会等の実施 ○同窓生による特別セミナーの実施 ○「総合的な学習の時間」を活用した進路指導
○データの継続収集。進路部へのデータ一元化 ○模試結果・センターテスト結果・入選結果等のデータ検討会の実施、指導方策の検討	○データの継続収集。進路部へのデータ一元化 ○模試結果・センターテスト結果・入選結果等のデータ検討会の実施、指導方策の検討
○部活動の活性化(両立奨励・下校指導の徹底) ○学校行事後の指導方針の統一、切替えの徹底	○部活動の活性化(両立奨励・下校指導の徹底) ○学校行事後の環境美化等、切替え指導の徹底
○授業診断の活用 ○進路に関する校内研修の実施 ○公開授業週間の設置・相互授業参観 ○校外の大学入試分析会への参加	○予備校の研修等の活用 ○進路に関する校内研修の実施 ○公開授業週間の設置・相互授業参観 ○校外の大学入試分析会への参加
○教科会の充実 ○進路部体制の強化 ○進路部主導による進学指導の計画、実施 ○講習等の計画的・組織的実施の推進 ○募集活動の組織的実施	○教科会の充実 ○進路部体制の強化 ○進路部主導による進学指導の実施 ○講習等の計画的・組織的実施 ○募集活動の組織的実施
平成24年度入試	平成25年度入試
20人	25人
55人	60人
130人	140人

都立北園高等学校 進学指導改善計画(1)

区分		具体的な取組内容と取組目標
		平成22年度
学習面	入学時から卒業までの学力推移の把握方法	<ul style="list-style-type: none"> ○模擬試験を活用した定点観測 7・11・1月の年3回実施、外部講師招聘各学年データ分析会実施 ○生徒個別模擬試験結果活用データベースを活用した生徒別ファイル保存、活用、コンピュータ30台インストールによる生徒個別相談での活用 ○模擬試験の学力状況調査システムの利用 模擬試験の学力状況調査システムの実施、活用 ○進路指導部中心の進路説明会実施 進路指導部と各学年間の連携による各種進路説明会実施
	1年次から3年次まで学力維持のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ○勉強合宿実施 7月25日～28日、英語・数学対象、希望生徒約50名で実施、学生チューター活用 ○3年生対象長期休業中特別講習50講座実施 進路指導部が5月末までに集約し、生徒・保護者へ広報 ○1、2年生対象長期休業中特別講習10講座実施 進路指導部が5月末までに集約し、生徒・保護者へ広報 ○センター試験冬期講習実施 10月末までに集約し、生徒・保護者へ広報 ○週末課題の実施 1・2学年英数国の週末課題の実施 ○第二外国語(独・仏・中・露語)履修を進路実績に還元 第二外国語履修を難関大学推薦入試、センター試験に活用
	自宅学習時間の確保のための対策	<ul style="list-style-type: none"> ○自宅学習時間の把握 進路指導部による11月アンケート実施、全教員へ情報提供 ○自学自習の早期確立を目的とした1学年新入生セミナー合宿を実施 4月27日～28日、1学年対象、信州大学支援事業として自学自習の早期確立に向けたキャリアガイダンス実施 ○第一進路希望の早期確定 新入生セミナー合宿、進路指導アンケート調査、模擬試験の学力状況調査システム活用 ○自習室の確保 図書室を17時まで自習室開放(月～金)、3学年生徒対象2クラス18時まで開放
	生徒に対する個別相談体制(早朝、放課後など)	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒個別模擬試験結果活用データベースを活用したデータ分析 コンピュータ30台インストールによる個別相談での活用 ○各学年担任による個別進路相談 各学期1回個別相談実施、適宜個別相談実施 ○進路希望調査 年1回(11月)進路指導部、各学年で実施 ○進路指導室の開放 早朝、休み時間、放課後に生徒個別模擬試験結果活用データベースを活用した相談体制確立
進路指導面	入学時からの保護者生徒への学校経営方針の周知	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者会での周知 年3回の保護者会で周知 ○学校案内の発行 学校案内の改善発行(6月) ○本校教育活動の特色化チラシの発行 信州北園プロジェクト、国際理解教育推進2種類チラシ発行 ○3年対象進路ニュース年間20号発行 3年対象進路ニュースは具体的進路資料を提供 ○1、2年対象進路ニュース年間10号発行 1、2年対象進路ニュースは、進路決定・自学自習確立資料提供
	進路希望を実現させるための生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ○「信州北園プロジェクト」(「確かな学力」と「タフな人間力」育成プログラム: 信州大学、長野県、伊那市、NPO法人森と人を結ぶ協議会支援事業) 推進 ・新入生セミナー合宿(1学年)4月実施、キャリア教育、自学自習の早期確立 ・森林保全奉仕合宿(2学年)5月実施キャリア教育、環境教育 ・勉強合宿(1、2学年対象)7月実施、3泊4日、英語、数学、信州大学学生チューター ・各種キャリア講演会(森と人を結ぶ協議会理事長講演会12月、信州大学学生による講演会3月、OBによる講演会等) ○国際理解教育の推進 ・ドイツ外務省連携事業(PASCH)によるドイツ留学(3名生徒8月の20日間留学) ・国際ロータリー連携事業による相互留学実現(メキシコ・マレーシア留学生受入れ、タイへ留学派遣) ・オーストラリア海外語学研修(8月2週間ホームステイ、40名) ・第二外国語(独・仏・中・露語)の充実

平成23年度	平成24年度
<p>○模擬試験を活用した定点観測 7・11・1月の年3回実施、外部講師招聘各学年データ分析会実施 ○生徒個別模擬試験結果活用データベースを活用した生徒別ファイル保存、活用、コンピュータ30台インストールによる生徒個別相談での活用 ○模擬試験の学力状況調査システムの利用 模擬試験の学力状況調査システムの実施、活用 ○進路指導部中心の進路説明会実施 進路指導部と各学年間の連携による各種進路説明会実施</p>	<p>○模擬試験を活用した定点観測 7・11・1月の年3回実施、外部講師招聘各学年データ分析会実施 ○生徒個別模擬試験結果活用データベースを活用した生徒別ファイル保存、活用、コンピュータ30台インストールによる生徒個別相談での活用 ○模擬試験の学力状況調査システムの利用 模擬試験の学力状況調査システムの実施、活用 ○進路指導部中心の進路説明会実施 進路指導部と各学年間の連携による各種進路説明会実施</p>
<p>○勉強合宿実施 7月3泊4日、英語・数学対象、希望生徒約70名で実施、学生チューター活用 ○3年生対象長期休業中特別講習50講座実施 進路指導部が5月末までに集約し、生徒・保護者へ広報 ○1、2年生対象長期休業中特別講習10講座実施 進路指導部が5月末までに集約し、生徒・保護者へ広報 ○センター試験冬期講習実施 10月末までに集約し、生徒・保護者へ広報 ○週末課題の実施 1・2学年英数国の週末課題の実施 ○第二外国語(独・仏・中・露語)履修を進路実績に還元 第二外国語履修を難関大学推薦入試、センター試験に活用</p>	<p>○勉強合宿実施 7月3泊4日、英語・数学対象、希望生徒約100名で実施、学生チューター活用 ○3年生対象長期休業中特別講習50講座実施 進路指導部が5月末までに集約し、生徒・保護者へ広報 ○1、2年生対象長期休業中特別講習10講座実施 進路指導部が5月末までに集約し、生徒・保護者へ広報 ○センター試験冬期講習実施 10月末までに集約し、生徒・保護者へ広報 ○週末課題の実施 1・2学年英数国の週末課題の実施 ○第二外国語(独・仏・中・露語)履修を進路実績に還元 第二外国語履修を難関大学推薦入試、センター試験に活用</p>
<p>○自宅学習時間の把握 進路指導部による5月、11月アンケート実施、全教員へ情報提供 ○自学自習の早期確立を目的とした1学年新入生セミナー合宿を実施 4月1学年対象、信州大学支援事業として自学自習の早期確立に向けたキャリアガイダンス実施 ○第一進路希望の早期確定 新入生セミナー合宿、進路指導アンケート調査、模擬試験の学力状況調査システム活用 ○自習室の確保 学生チューターの導入、図書室を17時まで自習室開放(月～金)、3学年生徒対象2クラス18時まで開放</p>	<p>○自宅学習時間の把握 進路指導部による5月、11月アンケート実施、全教員へ情報提供 ○自学自習の早期確立を目的とした1学年新入生セミナー合宿を実施 4月1学年対象、信州大学支援事業として自学自習の早期確立に向けたキャリアガイダンス実施 ○第一進路希望の早期確定 新入生セミナー合宿、進路指導アンケート調査、模擬試験の学力状況調査システム活用 ○自習室の確保 学生チューターの導入、図書室を17時まで自習室開放(月～金)、3学年生徒対象2クラス18時まで開放</p>
<p>○生徒個別模擬試験結果活用データベースを活用したデータ分析 コンピュータ30台インストールによる個別相談での活用 ○各学年担任による個別進路相談 各学期1回個別相談実施、適宜個別相談実施 ○進路希望調査 年2回(5月、11月)進路指導部、各学年で実施 ○進路指導室の開放 早朝、休み時間、放課後に生徒個別模擬試験結果活用データベースを活用した相談体制確立</p>	<p>○生徒個別模擬試験結果活用データベースを活用したデータ分析 コンピュータ30台インストールによる個別相談での活用 ○各学年担任による個別進路相談 各学期1回個別相談実施、適宜個別相談実施 ○進路希望調査 年2回(5月、11月)進路指導部、各学年で実施 ○進路指導室の開放 早朝、休み時間、放課後に生徒個別模擬試験結果活用データベースを活用した相談体制確立</p>
<p>○保護者会での周知 年3回の保護者会で周知 ○学校案内の発行 学校案内の改善発行(6月) ○本校教育活動の特色化チラシの発行 信州北園プロジェクト、国際理解教育推進2種類チラシ発行 ○3年対象進路ニュース年間20号発行 3年対象進路ニュースは具体的進路資料を提供 ○1、2年対象進路ニュース年間10号発行 1、2年対象進路ニュースは、進路決定・自学自習確立資料提供</p>	<p>○保護者会での周知 年3回の保護者会で周知 ○学校案内の発行 学校案内の改善発行(6月) ○本校教育活動の特色化チラシの発行 信州北園プロジェクト、国際理解教育推進2種類チラシ発行 ○3年対象進路ニュース年間20号発行 3年対象進路ニュースは具体的進路資料を提供 ○1、2年対象進路ニュース年間10号発行 1、2年対象進路ニュースは、進路決定・自学自習確立資料提供</p>
<p>○「信州北園プロジェクト」「確かな学力」と「タフな人間力」育成プログラム:信州大学、長野県、伊那市、NPO法人森と人を結ぶ協議会支援事業)推進 ・新入生セミナー合宿(1学年)4月実施、キャリア教育、自学自習の早期確立 ・森林保全奉仕合宿(2学年)5月実施キャリア教育、環境教育 ・勉強合宿(1、2学年対象)7月実施、3泊4日、英語、数学、信州大学学生チューター ・各種キャリア講演会(森と人を結ぶ協議会理事長講演会12月、信州大学学生による講演会3月、OBによる講演会等) ○国際理解教育の推進 ・ドイツ外務省連携事業(PASCH)によるドイツ留学(3名生徒8月の20日間留学) ・国際ロータリー連携事業による相互留学実現 ・オーストラリア海外語学研修(8月2週間ホームステイ、40名) ・第二外国語(独・仏・中・露語)の充実</p>	<p>○「信州北園プロジェクト」「確かな学力」と「タフな人間力」育成プログラム:信州大学、長野県、伊那市、NPO法人森と人を結ぶ協議会支援事業)推進 ・新入生セミナー合宿(1学年)4月実施、キャリア教育、自学自習の早期確立 ・森林保全奉仕合宿(2学年)5月実施キャリア教育、環境教育 ・勉強合宿(1、2学年対象)7月実施、3泊4日、英語、数学、信州大学学生チューター ・各種キャリア講演会(森と人を結ぶ協議会理事長講演会12月、信州大学学生による講演会3月、OBによる講演会等) ○国際理解教育の推進 ・ドイツ外務省連携事業(PASCH)によるドイツ留学(3名生徒8月の20日間留学) ・国際ロータリー連携事業による相互留学実現 ・オーストラリア海外語学研修(8月2週間ホームステイ、40名) ・第二外国語(独・仏・中・露語)の充実</p>

都立北園高等学校 進学指導改善計画(2)

区分		具体的な取組内容と取組目標
		平成22年度
進路指導面	進路希望を実現させるための生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ○進路年間計画の作成 進路年間計画に基づく実施 ○シラバスの作成 学習の手引きとして活用 ○各種学習チェックシートの活用 「各学年での週末課題」「夏休み400時間学習記録簿」「第一志望届」「週間自宅学習チェックカード」の活用
	進路データの管理と活用	<ul style="list-style-type: none"> ○進路指導部による生徒進路データベース化 過去3年間の進路実績、模擬試験偏差値のデータベース化 ○進路指導部によるデータ管理 各種データを進路指導による一括管理、生徒個人模擬試験結果活用データベースの活用
特別活動	部活・行事と学習のメリハリの方策	<ul style="list-style-type: none"> ○運動部対象進学指導の具体化試行 ラグビー部、サッカー部を試行対象として進学指導実施 ○信州北園プロジェクトをキャリア教育と位置付け、進路指導部と連携 新入生セミナーで信州大学キャンパス訪問、模擬授業実施 ○生徒会自主的活動実施 信州北園プロジェクトで環境に関する生徒自発的組織実施 ○下校時間の徹底 17時下校指導(延長届の場合18時)
教員の資質	校内における授業改善のための取組など	<ul style="list-style-type: none"> ○進学指導診断の実施 予備校の英語、数学、国語、世界史授業見学、各教科単位研究協議 ○校内研修の実施 各学期1回全体、各教科単位の校内研修 ○模擬試験の学力状況調査システムの研修利用 研修職員会議外部講師活用 ○研修職員会議の実施 進路指導部提案授業改善を目的とした研修実施 ○各分掌、学年単位研修の実施 研修職員会議後の協議実施 ○生徒個人模擬試験結果活用システム活用スキル向上研修実施 進路指導部主催活用研修の実施(年2～3回)
組織体制	進学に係る組織体制の充実など	<ul style="list-style-type: none"> ○進路指導部中心の進路指導体制 進路指導部がイニシアチブをとり各学年と連携した進路指導体制の確立 ○模擬試験分析会 進路指導部、外部講師、各学年による分析会実施及び職員会議での報告 ○授業規律の確立 生徒指導部、各学年による遅刻指導、授業規律の確立徹底 ○授業時間の確保 土曜授業年17回実施で2単位分の授業を確保 ○土曜午後の活用 英語、国語、数学、理科、地歴、公民各教科の希望生徒対象補習
入試年度		平成23年度入試
現役合格者数の目標	国公立大学	15人
	早・慶・上・理	20人
	MARCH	60人

平成23年度	平成24年度
<p>○進路年間計画の作成 進路年間計画に基づく実施 ○シラバスの作成 学習の手引きとして活用 ○各種学習チェックシートの活用 「各学年での週末課題」「夏休み400時間学習記録簿」「第一志望届」「週間自宅学習チェックカード」の活用</p>	<p>○進路年間計画の作成 進路年間計画に基づく実施 ○シラバスの作成 学習の手引きとして活用 ○各種学習チェックシートの活用 「各学年での週末課題」「夏休み400時間学習記録簿」「第一志望届」「週間自宅学習チェックカード」の活用</p>
<p>○進路指導部による生徒進路データベース化 過去3年間の進路実績、模擬試験偏差値のデータベース化 ○進路指導部によるデータ管理 各種データを進路指導による一括管理、生徒個人模擬試験結果活用データベースの活用</p>	<p>○進路指導部による生徒進路データベース化 過去3年間の進路実績、模擬試験偏差値のデータベース化 ○進路指導部によるデータ管理 各種データを進路指導による一括管理、生徒個人模擬試験結果活用データベースの活用</p>
<p>○運動部対象進学指導の具体化試行 試行対象として進学指導実施部活動追加 ○信州北園プロジェクトをキャリア教育と位置付け、進路指導部と連携 新入生セミナーで信州大学キャンパス訪問、模擬授業実施 ○生徒会自主的活動実施 信州北園プロジェクトで環境に関する生徒自発的組織実施 ○下校時間の徹底 17時下校指導(延長届の場合18時)</p>	<p>○運動部対象進学指導の具体化試行 試行対象として進学指導実施部活動追加 ○信州北園プロジェクトをキャリア教育と位置付け、進路指導部と連携 新入生セミナーで信州大学キャンパス訪問、模擬授業実施 ○生徒会自主的活動実施 信州北園プロジェクトで環境に関する生徒自発的組織実施 ○下校時間の徹底 17時下校指導(延長届の場合18時)</p>
<p>○進学指導診断の実施 22年度進学指導診断に基づく各教科単位研究協議 ○校内研修の実施 各学期1回全体、各教科単位の校内研修 ○模擬試験の学力状況調査システムの研修利用 研修職員会議外部講師活用 ○研修職員会議の実施 進路指導部提案授業改善を目的とした研修実施 ○各分掌、学年単位研修の実施 研修職員会議後の協議実施 ○生徒個人模擬試験結果活用システム活用スキル向上研修実施 進路指導部主催活用研修の実施(年2~3回)</p>	<p>○進学指導診断の実施 各教科単位研究協議 ○校内研修の実施 各学期1回全体、各教科単位の校内研修 ○模擬試験の学力状況調査システムの研修利用 研修職員会議外部講師活用 ○研修職員会議の実施 進路指導部提案授業改善を目的とした研修実施 ○各分掌、学年単位研修の実施 研修職員会議後の協議実施 ○生徒個人模擬試験結果活用システム活用スキル向上研修実施 進路指導部主催活用研修の実施(年2~3回)</p>
<p>○進路指導部中心の進路指導体制 進路指導部がイニシアチブをとり各学年と連携した進路指導体制の確立 ○模擬試験分析会 進路指導部、外部講師、各学年による分析会実施及び職員会議での報告 ○授業規律の確立 生徒指導部、各学年による遅刻指導、授業規律の確立徹底 ○授業時間の確保 土曜授業年17回実施で2単位分の授業を確保 ○土曜午後の活用 英語、国語、数学、理科、地歴、公民各教科の希望生徒対象補習</p>	<p>○進路指導部中心の進路指導体制 進路指導部がイニシアチブをとり各学年と連携した進路指導体制の確立 ○模擬試験分析会 進路指導部、外部講師、各学年による分析会実施及び職員会議での報告 ○授業規律の確立 生徒指導部、各学年による遅刻指導、授業規律の確立徹底 ○授業時間の確保 土曜授業年17回実施で2単位分の授業を確保 ○土曜午後の活用 英語、国語、数学、理科、地歴、公民各教科の希望生徒対象補習</p>
平成24年度入試	平成25年度入試
20人	25人
25人	30人
70人	80人

都立墨田川高等学校 進学指導改善計画

区分		方策	具体的な取組内容と取組目標
			平成22年度
学習面	入学時から卒業までの学力推移の把握方法	外部模試の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・1・2年3回、3年4回の外部模試と学力到達度調査(年1回・外部業者利用)を定期的に行い、経年変化や推移を把握する。 ・分析は進路指導部で行うほか、分野別詳細など資料作成の一部を主催模試業者にも依頼 ・模試分析のデータベース・資料作成ソフト等の活用方法の研修を行い、生徒個人・クラス・部活等の単位で幅広くデータを活用できるようにする。 ・「進路カルテ」を作成し、模試等の結果を生徒別に管理・活用する。
	1年次から3年次まで学力維持のための方策	「進学サポートプロジェクト」の実施 ガイダンスの充実 講習・補習の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導部で外部模試結果を分析し、成績上位者や重点指導を要する学力層の生徒を指定し、個別指導をする担当教員を配置する「進学サポートプロジェクト(トップテン型・サポート型)」の実施 ・志望校や成績層に応じた「進学ガイダンス」の実施 ・講習・補習の充実(年間150講座)
	2年次における中だるみの防止対策	「進学サポートプロジェクト」の実施 ガイダンスの充実	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導部で外部模試結果を分析し、成績上位者や重点指導を要する学力層の生徒を指定し、個別指導をする担当教員を配置する「進学サポートプロジェクト(サポート型)」の実施 ・2年次生を主対象とした補習・講習の充実するとともに、2年次生が他学年次を主対象とする講習等にも参加できるようにして、発展的な学習や基礎学力固めを図る。
	自宅学習時間の確保のための対策	「進路希望調査」による調査と学習時間確保の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回実施の「進路希望調査」で自宅学習時間を詳細に調査する。 ・1・2学年次における朝学習・週末課題の実施 ・早朝、放課後～夕方、休日の自習室開放
	生徒に対する個別相談体制(早朝、放課後など)	「進路希望調査」による調査と「進路カルテ」を活用した個別相談体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回実施の「進路希望調査」で、入学時から「志望大学」「志望分野」について調査する。 ・二者・三者面談を、「進路カルテ」を活用して充実させる。 ・進路相談室に進路指導担当教員が常駐し、指導の機会を充実させる。 ・職員室・教科準備室前に早朝・昼休み・放課後に質問や学習相談ができるコーナーを設置する。
進路指導面	入学時からの保護者生徒への学校経営方針の周知	保護者会等での進路指導ガイダンスの充実	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての保護者会で、校長から話をする機会を設定するとともに、進路指導部による「進路ガイダンス」を実施し、学校経営方針を周知する。 ・保護者会(美汀会)内の組織「進路対策委員会」での学習会を後援し、年3回の学習会を実施する。
	進路希望を実現させるための生徒指導	的確な補習講習体制の充実と、継続的・体系的な進路学習体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導部が中心となって各教科の成績層別人数等を把握した上で、適切な時期とレベルの講座設定をする。 ・自校作成の「進路研究ノート」の活用。改訂版を作成し、充実を図る。
	進路データの管理と活用	「進路カルテ」データの作成 卒業生データの充実	<ul style="list-style-type: none"> ・「進路カルテ」の基礎データになる調査項目の精選と、データベース化 ・卒業生データのデータベース化と在学中の成績と入試結果の相関に関する分析を進路指導部で行う。
特別活動	部活・行事と学習のメリハリの方策	「部活動」単位での進路意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・部活後の自習室の開放 ・部活動単位での学習機会の確保(部活単位での自習室利用等) ・進路データを部活別にまとめ、顧問に提示し、部活ごとの指導に活用する。
教員の資質	校内における授業改善のための取組など	「生徒による授業評価」の活用 「教員相互の授業参観」の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・「生徒による授業評価」で学校独自の項目を作成し、全教員のクラス別の基礎データを基にした悉皆研修を実施する。 ・「校内研修」を基にした教員間の相互授業研究を行う。
組織体制	進学に係る組織体制の充実など	進路指導部が中核となる校内体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・「進学指導戦略会議」を通して、進路指導部が教科への情報提供・対策指示等を行う。 ・進路指導部が主導した、担任との連携をした進路指導の強化
		入試年度	平成23年度入試
現役合格者数の目標		国公立大学	19人
		早・慶・上・理	15人
		GMARCH	50人

平成23年度	平成24年度
<ul style="list-style-type: none"> 1・2年3回、3年4回の外部模試と学力到達度調査(年1回・外部業者利用)を定期的に行い、経年変化や推移を把握する。 分析は進路指導部で行うほか、分野別詳細など資料作成の一部を主催模試業者にも依頼 模試分析のデータベース・資料作成ソフト等の活用方法の研修を行い、生徒個人・クラス・部活等の単位で幅広くデータを活用できるようにする。 「進路カルテ」を作成し、模試等の結果を生徒別に管理・活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 1・2年3回、3年4回の外部模試と学力到達度調査(年1回・外部業者利用)を定期的に行い、経年変化や推移を把握する。 分析は進路指導部で行うほか、分野別詳細など資料作成の一部を主催模試業者にも依頼 模試分析のデータベース・資料作成ソフト等の活用方法の研修を行い、生徒個人・クラス・部活等の単位で幅広くデータを活用できるようにする。 「進路カルテ」を作成し、模試等の結果を生徒別に管理・活用する。
<ul style="list-style-type: none"> 進路指導部で外部模試結果を分析し、成績上位者や重点指導を要する学力層の生徒を指定し、個別指導をする担当教員を配置する「進学サポートプロジェクト(トップテン型・サポート型)」の実施 志望校や成績層に応じた「進学ガイダンス」の実施 講習・補習の充実(年間150講座) 	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導部で外部模試結果を分析し、成績上位者や重点指導を要する学力層の生徒を指定し、個別指導をする担当教員を配置する「進学サポートプロジェクト(トップテン型・サポート型)」の実施 志望校や成績層に応じた「進学ガイダンス」の実施 講習・補習の充実(年間150講座)
<ul style="list-style-type: none"> 進路指導部で外部模試結果を分析し、成績上位者や重点指導を要する学力層の生徒を指定し、個別指導をする担当教員を配置する「進学サポートプロジェクト(サポート型)」の実施 2年次生を主対象とした補習・講習の充実するとともに、他学年次を主対象とする講習等に参加し、発展的な学習や基礎学力固めができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導部で外部模試結果を分析し、成績上位者や重点指導を要する学力層の生徒を指定し、個別指導をする担当教員を配置する「進学サポートプロジェクト(サポート型)」の実施 2年次生を主対象とした補習・講習の充実するとともに、他学年次を主対象とする講習等に参加し、発展的な学習や基礎学力固めができるようにする。
<ul style="list-style-type: none"> 年2回実施の「進路希望調査」で自宅学習時間を詳細に調査する。 1・2学年次における朝学習・週末課題の実施 早朝、放課後～夕方、休日の自習室開放 	<ul style="list-style-type: none"> 年2回実施の「進路希望調査」で自宅学習時間を詳細に調査する。 全校的な朝自習の実施と、1・2年次の週末課題の実施 早朝、放課後～夕方、休日の自習室開放
<ul style="list-style-type: none"> 年2回実施の「進路希望調査」で、入学時から「志望大学」「志望分野」について調査する。 二者・三者面談を、「進路カルテ」を活用して充実させる。 進路相談室に進路指導担当教員が常駐し、指導の機会を充実させる。 職員室・教科準備室前に早朝・昼休み・放課後に質問や学習相談ができるコーナーを設置する。 	<ul style="list-style-type: none"> 年2回実施の「進路希望調査」で、入学時から「志望大学」「志望分野」について調査する。 二者・三者面談を、「進路カルテ」を活用して充実させる。 進路相談室に進路指導担当教員が常駐し、指導の機会を充実させる。 職員室・教科準備室前に早朝・昼休み・放課後に質問や学習相談ができるコーナーを設置する。
<ul style="list-style-type: none"> 全ての保護者会で、校長から話をする機会を設定するとともに、進路指導部による「進路ガイダンス」を実施し、学校経営方針を周知する。 保護者会(美汀会)内の組織「進路対策委員会」での学習会を後援し、年3回の学習会を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 全ての保護者会で、校長から話をする機会を設定するとともに、進路指導部による「進路ガイダンス」を実施し、学校経営方針を周知する。 保護者会(美汀会)内の組織「進路対策委員会」での学習会を後援し、年3回の学習会を実施する。
<ul style="list-style-type: none"> 進路指導部が中心となって各教科の成績層別人数等を把握した上で、適切な時期とレベルの講座設定をする。 自校作成「進路研究ノート」の活用 	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導部が中心となって各教科の成績層別人数等を把握した上で、適切な時期とレベルの講座設定をする。 指導内容を踏まえ、自校作成「進路研究ノート」の内容の充実を図る。
<ul style="list-style-type: none"> 過去のデータと進路カルテのデータを活用して、進路指導に生かす。 卒業生データのデータベース化と在学中の成績と入試結果の相関に関する分析を進路指導部で行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 過去のデータと進路カルテのデータを活用して、進路指導に生かす。 卒業生データのデータベース化と在学中の成績と入試結果の相関に関する分析を進路指導部で行う。
<ul style="list-style-type: none"> 部活動後の自習室利用の推進 部活動単位での学習の推進 進路データを部活別にまとめ、顧問に提示し、部活ごとの指導に活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動後の自習室利用の推進 部活動単位での学習の推進 進路データを部活別にまとめ、顧問に提示し、部活ごとの指導に活用する。
<ul style="list-style-type: none"> 「生徒による授業評価」で学校独自の項目を作成し、全教員のクラス別の基礎データを基にした悉皆研修を実施する。 「校内研修」(年2回)を基にした教員間の相互授業研究を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 「生徒による授業評価」で学校独自の項目を作成し、全教員のクラス別の基礎データを基にした悉皆研修を実施する。 「校内研修」(年2回)を基にした教員間の相互授業研究を行う。
<ul style="list-style-type: none"> 「進学指導戦略会議」を通して、進路指導部が教科への情報提供・対策指示等を行う。 進路指導部が主導した、担任との連携をした進路指導の強化 生徒指導部と連携して、学校行事・部活動等と自学自習を両立する生活習慣を確立し、生徒が主体的・自発的に物事に取り組む姿勢を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「進学指導戦略会議」を通して、進路指導部が教科への情報提供・対策指示等を行う。 進路指導部が主導した、担任との連携をした進路指導の強化 生徒指導部と連携して、学校行事・部活動等と自学自習を両立する生活習慣を確立し、生徒が主体的・自発的に物事に取り組む姿勢を育てる。
平成24年度入試	平成25年度入試
24人	29人
20人	25人
60人	90人

都立城東高等学校 進学指導改善計画

区分		具体的な取組内容と取組目標	
		平成22年度	
学習面	入学時から卒業までの学力推移の把握方法	① 1年3回・2年3回・3年5回の外部模試を実施して学力推移の把握 ② 外部模試実施後の分析会の実施 ③ 教員向け進路ニュースを通じた分析会の結果報告の実施 ④ 進路説明会の計画は進路指導部が立案して学年が実行 ⑤ 模試結果は進路指導部が一括して保存して、閲覧が可能な体制を作る。	
	1年次から3年次まで学力の維持のための方策	① 国公立講習会の実施 ② 学年がテスト毎に上位者の氏名を掲示 ③ 長期休業中の講習の実施 ④ 補習・補講を適宜実施 ⑤ 各学年による登校指導・服装指導の徹底 ⑥ 進路指導部による1・2年を対象として春期自主勉強会の実施	
	自宅学習時間の確保のための対策	① 進路調査(6月・10月に実施)により自宅学習時間を把握 ② 宿題については学年会の中で適宜話題にしている。 ③ 放課後・及び週休日にも学習室を開放している。各学年で対応 ④ 部活動と学習活動を両立させるための教員の研修会を実施	
	生徒に対する個別相談体制(早朝、放課後など)	① 個別相談は各学年毎に適宜実施 ② 進路指導部で生徒の個別相談の体制を作っている。 ③ 進路指導部が担任に対して進路研修会を実施	
進路指導面	入学時からの保護者生徒への学校経営方針の周知	① 城東高校便りによる情報の発信(年間5回発行)を行っている。 ② 保護者会で進路指導部から進路情報の発信を行っている。 ③ 進路保護者会(3年の7月)を毎年実施 ④ 入学希望者には学校説明会で周知している。	
	進路希望を実現させるための生徒指導	① 進路指導部と学年・教務部が連携して長期休業中の補習計画を立案 ② 生徒への激励声掛けを行うように進路指導部から担任にアドバイスを行っている。	
	進路データの管理と活用	① 進路データは進路指導部が一括管理 ② 進路ニュース(教員向け・生徒向け)の発行を通じてデータを活用 ③ 進路に関する研修会(5月・11月実施)の中で活用	
特別活動	部活・行事と学習のメリハリの方策	① 『受験は団体戦』という意識付けのための情報発信 ② 部活動と学習活動の両立を考える研修会を実施。各部活動の取組を共有 ③ 部活動単位に学校行事への参加・清掃活動などの奉仕活動に参加 ④ 朝学習の取組	
教員の資質	校内における授業改善のための取組など	① 教員相互の授業参観を行う体制を作っている。 ② 自校作成の実力テストによる各教科及び全体での研修会を行っている。 ③ 生徒による授業評価結果分析の教科研研修会を実施 ④ 22年度に代ゼミによる進学経営診断を実施	
組織体制	進学に係る組織体制の充実など	① 進路に関わる指導については全て進路指導部が統括する体制ができている。	
入試年度		平成23年度入試	
現役合格者数の目標	国公立大学	30人	
	早・慶・上・理	15人	
	GMARCH	100人	

平成23年度	平成24年度
① 1年3回・2年3回・3年5回の外部模試を実施して学力推移の把握 ② 外部模試実施後の分析会の実施 ③ 教員向け進路ニュースを通じた分析会の結果報告の実施 ④ 進路説明会の計画は進路指導部が立案して学年が実行 ⑤ 模試結果は進路指導部が一括して保存して、閲覧が可能な体制を作る。	① 1年3回・2年3回・3年5回の外部模試を実施して学力推移の把握 ② 外部模試実施後の分析会の実施 ③ 教員向け進路ニュースを通じた分析会の結果報告の実施 ④ 進路説明会の計画は進路指導部が立案して学年が実行 ⑤ 模試結果は進路指導部が一括して保存して、閲覧が可能な体制を作る。
① 国公立講習会の実施 ② 学年がテスト毎に上位者の氏名を掲示 ③ 長期休業中の講習の実施 ④ 補習・補講を適宜実施 ⑤ 各学年による登校指導・服装指導の徹底 ⑥ 進路指導部による1・2年を対象として春期自主勉強会の実施	① 国公立講習会の実施 ② 学年がテスト毎に上位者の氏名を掲示 ③ 長期休業中の講習の実施 ④ 補習・補講を適宜実施 ⑤ 各学年による登校指導・服装指導の徹底 ⑥ 進路指導部による1・2年を対象として春期自主勉強会の実施
① 進路調査(6月・10月に実施)により自宅学習時間を把握 ② 宿題については学年会の中で適宜話題にしている。 ③ 放課後・及び週休日にも学習室を開放している。各学年で対応 ④ 部活動と学習活動を両立させるための教員の研修会を実施	① 進路調査(6月・10月に実施)により自宅学習時間を把握 ② 宿題については学年会の中で適宜話題にしている。 ③ 放課後・及び週休日にも学習室を開放している。各学年で対応 ④ 部活動と学習活動を両立させるための教員の研修会を実施
① 個別相談は各学年毎に適宜実施 ② 進路指導部で生徒の個別相談の体制を作っている。 ③ 進路指導部が担任に対して進路研修会を実施	① 個別相談は各学年毎に適宜実施 ② 進路指導部で生徒の個別相談の体制を作っている。 ③ 進路指導部が担任に対して進路研修会を実施
① 城東高校便りによる情報の発信(年間5回発行)を行っている。 ② 保護者会で進路指導部から進路情報の発信を行っている。 ③ 進路保護者会(3年の7月)を毎年実施 ④ 入学希望者には学校説明会で周知している。	① 城東高校便りによる情報の発信(年間5回発行)を行っている。 ② 保護者会で進路指導部から進路情報の発信を行っている。 ③ 進路保護者会(3年の7月)を毎年実施 ④ 入学希望者には学校説明会で周知している。
① 進路指導部と学年・教務部が連携して長期休業中の補習計画を立案 ② 生徒への激励声掛けを行うように進路指導部から担任にアドバイスをを行っている。	① 進路指導部と学年・教務部が連携して長期休業中の補習計画を立案 ② 生徒への激励声掛けを行うように進路指導部から担任にアドバイスをを行っている。
① 進路データは進路指導部が一括管理 ② 進路ニュース(教員向け・生徒向け)の発行を通じてデータを活用 ③ 進路に関する研修会(5月・11月実施)の中で活用	① 進路データは進路指導部が一括管理 ② 進路ニュース(教員向け・生徒向け)の発行を通じてデータを活用 ③ 進路に関する研修会(5月・11月実施)の中で活用
① 『受験は団体戦』という意識付けのための情報発信 ② 部活動と学習活動の両立を考える研修会を実施。各部活動の取組を共有 ③ 部活動単位に学校行事への参加・清掃活動などの奉仕活動に参加 ④ 朝学習の取組	① 『受験は団体戦』という意識付けのための情報発信 ② 部活動と学習活動の両立を考える研修会を実施。各部活動の取組を共有 ③ 部活動単位に学校行事への参加・清掃活動などの奉仕活動に参加 ④ 朝学習の取組
① 教員相互の授業参観を行う体制を作っている。 ② 自校作成の実力テストによる各教科及び全体での研修会を行っている。 ③ 生徒による授業評価結果分析の教科研研修会を実施	① 教員相互の授業参観を行う体制を作っている。 ② 自校作成の実力テストによる各教科及び全体での研修会を行っている。 ③ 生徒による授業評価結果分析の教科研研修会を実施
① 進路に関わる指導についてはすべて進路指導部が統括する体制ができている。	① 進路に関わる指導についてはすべて進路指導部が統括する体制ができている。
平成24年度入試	平成25年度入試
30人	30人
20人	30人
120人	140人

都立小松川高等学校 進学指導改善計画

区分		具体的な取組内容と取組目標
		平成22年度
学習面	入学時から卒業までの学力推移の把握方法	<ul style="list-style-type: none"> ○入学者選抜学力検査結果の分析と考察 ○外部模試結果による定点観測(経年比較と年次推移の把握・分析) ○各教科の学力到達目標の検討(小松川ミニマム)
	1年次から3年次まで学力維持のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ○習熟度別授業の効果的活用 (数学;1学年-数A、2学年-数II)、 (英語;1学年-英I、OC I、2・3学年-ライティング) ○上位層を対象とした講習・補習等の実施 ○校内学習環境(校内で自習できる環境)の整備 ○中だるみ防止策に関する校内研修の実施(22年7月) ○生徒の進路意識、進路選択に向けた意識啓発(ホームルーム、学年行事等) ○大学受験を意識した授業づくり、達成感や到達感を重視した授業の工夫 ○保護者に対する意識啓発(保護者会、進路講演会等) ○定期的な学習時間、通塾状況等の調査と実態把握(年2回実施)
	自宅学習時間の確保のための対策	<ul style="list-style-type: none"> ○定期的な家庭学習時間、通塾状況等調査と実態把握 ○学年+1時間の家庭学習時間確保に向けた意識啓発 ○宿題の提示と追跡、教科間での調整
	生徒に対する個別相談体制(早朝、放課後など)	<ul style="list-style-type: none"> ○全学年にシラバス(年間指導計画)冊子の作成・配布 ○定期的な進路希望調査(各学年で実施) ○面談週間の設置、担任からの継続的な働きかけ ○平常授業時の早朝・放課後の講習等の実施
進路指導面	入学時からの保護者生徒への学校経営方針の周知	<ul style="list-style-type: none"> ○学校説明会等、生徒募集時からの学校経営方針の広報・周知活動の実施 ○保護者会、PTAの諸会議等での説明、意識啓発 ○シラバス、ホームページ等による広報 ○集会等学校行事における講話、指導の場におけるビジョンの提示 ○「親と子の進路講演会」の開催
	進路希望を実現させるための生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ○学習に集中できる校内環境、生活規律の確立 ○効率的・計画的な部活動の実施による集中力・協調性の育成 ○自主的、自発的な学校行事、生徒会活動等を通して自立性を身に付けさせる。 ○進路通信の発行
	進路データの管理と活用	<ul style="list-style-type: none"> ○「進路の手引」の発行(継続事業) ○進路希望調査の実施とデータの管理 ○外部模試結果校内検討会の改善 ○外部模試結果の生徒等への提示方法の工夫と個別指導への活用
特別活動	部活・行事と学習のメリハリの方策	<ul style="list-style-type: none"> ○効率的・計画的な部活動の実施により集中力・協調性を育成し、学習にも生かす ○部活動時間に対する一定の制限(早朝練習、放課後の延長練習等) ○自主的、自発的な学校行事、生徒会活動等を通して自立性を身に付けさせる。
教員の資質	校内における授業改善のための取組など	<ul style="list-style-type: none"> ○進学指導診断(教科指導診断)における授業改善に向けた研究協議 ○「生徒による授業評価」の結果に基づく校内研修の実施(年3回) ○新規採用者を中心とした授業参観の推進 ○長期休業期間中の講習における相互観察や協議
組織体制	進学に係る組織体制の充実など	<ul style="list-style-type: none"> ○分掌(進路指導部)体制の強化(専任の1名増) ○進学指導診断(指導体制診断)における指導体制の見直し ○模試結果検討会の改善 ○進路指導部会の定期開催と情報の共有化
入試年度		平成23年度入試
現役合格者数の目標	国公立大学	22人以上
	早・慶・上・理	15人以上
	GMARCH	70人以上

平成23年度	平成24年度
<ul style="list-style-type: none"> ○担当部署と役割の明確化(入選委員会:教務部、進路指導部、学年) ○情報の共有化(各担任へのフィードバックの在り方)に向けた効率的な校内体制の構築 ○学力到達目標(小松川ミニマム)の設定と共有化 	<ul style="list-style-type: none"> ○進路指導部による経年変化、年次推移比較の分析と共有化 ○生徒個別カルテ(進路カード)の検討
<ul style="list-style-type: none"> ○生徒による授業評価の効果的活用と授業改善 ○習熟度別授業の検証 (上位層クラスの授業の在り方、使用テキスト、進度等について) ○学校として目指すべき大学の検討と明示、使用教材についての検討 ○上位層向けの補習・講習の実施 ○大学入試制度の変更を見据えた新教育課程の編成 ○達成感・到達感や自信をもたせ、難関大学に挑戦しようとする気概を育てる。 ○早朝学習や遅刻防止等の啓発を目的としたキャンペーン月間の設置 ○学校推薦図書の提示などによる読書活動の推進(読解力の向上) ○長期休業期間中における部活動ごとの自学・自習体制の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ○選択教科・科目の効率的な設定 ○学校行事の見直し ○新教育課程移行に伴う成績評価規定等、諸規定の見直し ○2学年を対象とした進路行事の工夫・改善 ○勉強合宿の在り方について見直し、改善
<ul style="list-style-type: none"> ○入学前指導の徹底(3月からの学習習慣定着に向けた指導) (推薦入試合格者等に対する入学前指導の検討・実施) ○3年間を見通した宿題等の提示に関する教科間での調整・協議と具体化 ○自習室の設置や活用・管理方法の確立 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒募集段階からの意識啓発とキャンペーンの実施 ○生徒個々の家庭学習状況を定期的に把握し、指導できるシステムの検討
<ul style="list-style-type: none"> ○学年が保有する生徒のデータの進路指導部との共有の在り方 ○自己効力感や自信をもたせ、難関大学に挑戦しようとする気概を育てる ○先輩等の成功事例、失敗事例等の紹介・啓発活動の展開 ○大学生等学習サポーターの活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○各教科ごとの本校生徒の学習指導の課題(強み・弱点)を明確にした指導改善 ○生徒個々の家庭学習状況を定期的に把握し、指導できるシステムの検討 ○志望校決定に向けた個別相談体制の充実
<ul style="list-style-type: none"> ○シラバスの改訂(各教科・科目における受験に向けた視点の提示) ○キャリア教育の視点を生かした進学指導の展開 進学の意味、高校・大学で学ぶ意味、大学入試制度の現状等に関する情報提供 ○「進路通信」の発行に関する見直し、工夫 ○学校運営連絡協議会の活性化、学校評価アンケート結果の活用 ○保護者向け授業公開の拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者会、PTA諸会議の運営方法の工夫 ○保護者への働きかけに関する校内研修等の実施
<ul style="list-style-type: none"> ○学習に集中できる環境整備と生活規律の指導 ○自主的、自発的に部活動や学校行事を運営できる能力を身に付けさせる。 ○「進路通信」の発行に関する見直し、工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ○キャリア教育と進学指導との整理・整合性についての調整、具体的取組の推進 ○生徒の家庭学習状況を定期的に把握し、指導できるシステムの検討
<ul style="list-style-type: none"> ○進路データ、模試結果等の取扱い、生徒・保護者への情報提供の在り方を確立 ○大学入試情報の収集と共有化に向けた効率的な組織づくり ○「進路の手引」の改訂・見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒・保護者への情報提供と情報管理の徹底 ○データの更新、不要データの廃棄に関するルール化
<ul style="list-style-type: none"> ○自己効力感や自信をもたせ、難関大学に挑戦しようとする気概を育てる。 ○生徒会役員や各部活動の部長等に対するリーダー養成の取組 ○長期休業期間中の部活動と講習等の日程調整の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ○部活動と受験体制への切替えに関する生徒向け意識啓発活動の企画・運営 ○生徒のモチベーション向上となる学校生活や学習活動の事例の提示
<ul style="list-style-type: none"> ○授業公開の拡大、指名制授業研究の活用 ○教科内での研究・研修の場の確保 ○長期休業期間中の講習に関する検討 ○大学入試問題研究プロジェクトの立ち上げ ○予備校等との相互交流・意見交換等の場の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ○主任教諭を核とした授業改善の経常的な取組 ○外部有識者等の招聘と授業に対する指導・助言の要請
<ul style="list-style-type: none"> ○業務全体の見直し、継続性(引継体制)の確立 ○大学受験情報の集積と共有化、生徒・保護者への提示方法の工夫・改善 ○生徒募集対策の充実(求める生徒像の明示、推薦入試方法の検討) 	<ul style="list-style-type: none"> ○分掌組織全体の統廃合も含めた見直し ○区内あるいは域内中学校PTA等と連携した生徒募集対策の検討
平成24年度入試	平成25年度入試
25人以上	28人以上
15人以上	15人以上
80人以上	85人以上

都立武蔵野北高等学校 進学指導改善計画(1)

区分		具体的な取組内容と取組目標
		平成22年度
学習面	入学時から卒業までの学力推移の把握方法	<p>【模試を学年毎ごとに業者と実施時期を統一する】学校として生徒の学力推移把握を行うために、3か年の進学指導に即した実施計画を策定する。</p> <p>【データサーバの利用】データサーバを導入、利用して面談用個人カルテ作成、模試分析などに活用する。</p>
	1年次から3年次まで学力維持のための方策	<p>【各学年と進路部とが連携した活動】</p> <p>第1、2学年を対象に「国公立大・難関私大をめざそう会」を設立し、具体的な学習法に関する説明会を開き、また意識を高めるために国公立大や難関大の訪問を行う。</p> <p>第2学年 学部・学科説明会、センター試験同日模試を実施する。</p> <p>第3学年 「国公立入試説明会」、早稲田大・首都大・農工大・学芸大等、個別の入試説明会、センターマラソンを実施する。</p> <p>【進路通信等での情報提供と指導】具体的な学習内容等も提示して「中だるみ」の危険性について熟知させ、「第2学年後半から受験生」を目指す指導をする。学年集会での進路部講演、担任の個別面談などで意欲を高めるように配慮する。</p> <p>2月に第2学年全員がセンター試験を解き、体験する。</p>
	自宅学習時間の確保のための対策	<p>【自学習慣の定着】自習室や廊下等の学習コーナーを増設する。</p> <p>【自宅学習の実態把握と指導】年度当初の基礎学力検査や6月・11月に学習時間調査を行い、生徒の実態を把握する。複数科目できめ細かく小テスト等を行い自宅学習の成果を確認し、自宅学習の習慣を定着させる。</p>
	生徒に対する個別相談体制(早朝、放課後など)	<p>【個別相談時間の確保】担任の個別面談時間を確保するために、模試の事前業務等の分担など進路部と学年の業務分担の見直しを進める。</p>
進路指導面	入学時からの保護者生徒への学校経営方針の周知	<p>【各種説明会での学校経営方針の周知】1年生に「進路の手引き」説明会を行い、本校の指導方針を周知する。文理選択説明会(第1学年)、選択科目説明会(第2学年)に保護者参加を求め、進路部及び学年から指導方針を説明し理解を促す。</p>
	進路希望を実現させるための生徒指導	<p>【3年間を見通した継続的な指導】「あきらめたら、そこで試合終了」と初志貫徹するよう指導し続ける。上位層の維持のための方策、2年次における中だるみの防止対策を適切に実施する。</p> <p>【第3学年特別時間割の試行】第3学年2学期末考査終了後から特別時間割を編成して、演習等を積極的に行う。</p> <p>【センター試験出願者】指導の結果として90%以上を目指す。</p>
	進路データの管理と活用	<p>【進路データの共有化】模試データは全員が共有できるように、模試統一の進行に合わせて学年と進路部で共有管理する。</p> <p>【進路データの分析】模試ごとに担当者を呼んで模試分析会を開くことを検討する。</p>
特別活動	部活・行事と学習のメリハリの方策	<p>【自学習慣の定着】自習室や廊下等の学習コーナーを増設する。</p> <p>【自律的活動の指導】文化祭等の準備時間に制限を設ける。</p>
教員の資質	校内における授業改善のための取組など	<p>【校内研修体制の充実】新規採用から4年目までの教員を対象に授業力向上研修を実施する。</p> <p>【進学指導診断の実施】23年度診断実施に向けた校内体制を整備する。</p>

平成23年度	平成24年度
<p>【学力推移の定点観測】策定した模試実施計画に基づき統一された形で模試を実施し、生徒や学年の動向を把握する。</p> <p>【データサーバの活用】データサーバを活用したデータ分析等を行う。全員のデータを進路部と学年で共有し進学指導に活用する。</p>	<p>【学力推移の定点観測】策定した模試実施計画に基づき統一された形で模試を実施し、生徒や学年の動向を把握する。</p> <p>【データサーバの活用】データサーバを活用したデータ分析等を行う。全員のデータを進路部と学年で共有し進学指導に活用する。</p>
<p>【各学年と進路部とが連携した活動】</p> <p>第1、2学年を対象に「国公立大・難関私大をめざそう会」で具体的な学習法に関する説明会を開き、また意識を高めるために国公立大や難関大の訪問を行う。</p> <p>第2学年 学部・学科説明会、センター試験同日模試を実施する。</p> <p>第3学年 「国公立入試説明会」、早稲田大・首都大・農工大・学芸大等、個別の入試説明会、センターマラソンを実施する。</p> <p>○「国公立大・難関私大をめざそう会」の登録者を増やす。</p> <p>【進路通信等での情報提供と指導】具体的学習内容等も提示して「中だるみ」の危険性について熟知させ、「第2学年後半から受験生」をめざす指導をする。学年集会での進路部講演、担任の個別面談などで意欲を高めるように配慮する。</p> <p>2月に第2学年全員がセンター試験を解き、体験する。</p>	<p>【各学年と進路部とが連携した活動】</p> <p>第1、2学年を対象に「国公立大・難関私大をめざそう会」で具体的な学習法に関する説明会を開き、また意識を高めるために国公立大や難関大の訪問を行う。</p> <p>第2学年 学部・学科説明会、センター試験同日模試を実施する。</p> <p>第3学年 「国公立入試説明会」、早稲田大・首都大・農工大・学芸大等、個別の入試説明会、センターマラソンを実施する。</p> <p>○「国公立大・難関私大をめざそう会」の登録者を増やす。</p> <p>【進路通信等での情報提供と指導】具体的学習内容等も提示して「中だるみ」の危険性について熟知させ、「第2学年後半から受験生」をめざす指導をする。学年集会での進路部講演、担任の個別面談などで意欲を高めるように配慮する。</p> <p>2月に第2学年全員がセンター試験を解き、体験する。</p>
<p>【自学習慣の定着】自習室や廊下等の学習コーナーを設置する。</p> <p>【自宅学習の実態把握と指導】年度当初の基礎学力検査や6月・11月に学習時間調査を行い、生徒の実態を把握する。複数科目できめ細かく小テスト等を行い自宅学習の成果を確認し、自宅学習の習慣を定着させる。</p>	<p>【自学習慣の定着】自習室や廊下等の学習コーナーを設置する。</p> <p>【自宅学習の実態把握と指導】年度当初の基礎学力検査や6月・11月に学習時間調査を行い、生徒の実態を把握する。複数科目できめ細かく小テスト等を行い自宅学習の成果を確認し、自宅学習の習慣を定着させる。</p>
<p>【個別相談時間の確保】左記の継続的見直し</p> <p>【データサーバの活用】進路部と学年のデータ共有により、進路部と学年が協働した個別相談、出願指導ができる体制を構築する。</p>	<p>【個別相談時間の確保】左記の継続的見直し</p> <p>【データサーバの活用】進路部と学年のデータ共有により、進路部と学年が協働した個別相談、出願指導ができる体制を推進する。</p>
<p>【各種説明会での学校経営方針の周知】左記のように本校の指導方針を周知させる。</p> <p>【保護者会への進路部の参加】各学年の保護者会に進路部が参加して、保護者に指導方針などを説明し、理解を深める。</p>	<p>【各種説明会での学校経営方針の周知】左記のように本校の指導方針を周知させる。</p> <p>【保護者会への進路部の参加】各学年の保護者会に進路部が参加して、保護者に指導方針などを説明し、理解を深める。</p>
<p>【3年間を見通した継続的な指導】「あきらめたら、そこで試合終了」と初志貫徹するよう指導し続ける。上位層の維持のための方策、2年次における中だるみの防止対策を適切に実施する。</p> <p>【第3学年特別時間割の実施】学校として第3学年2学期末考査終了後から特別時間割を編成して、演習等を積極的に行う。</p> <p>【センター試験出願者】指導の結果として90%以上を目指す。</p>	<p>【3年間を見通した継続的な指導】「あきらめたら、そこで試合終了」と初志貫徹するよう指導し続ける。上位層の維持のための方策、2年次における中だるみの防止対策を適切に実施する。</p> <p>【第3学年特別時間割の実施】学校として第3学年2学期末考査終了後から特別時間割を編成して、演習等を積極的に行う。</p> <p>【センター試験出願者】指導の結果として90%以上を目指す。</p>
<p>【進路データの共有化】模試の教科データは当該教科教員が、学年全体データは全員が把握できるように共有化を進める。</p> <p>【進路データの分析】模試ごとに担当者呼んで模試分析会を開く。</p> <p>【データサーバの活用】データサーバを活用したデータ分析等を行う。全員のデータを進路部と学年で共有し出願指導に活用する。</p>	<p>【進路データの共有化】模試の教科データは当該教科教員が、学年全体データは全員が把握できるように共有化を進める。</p> <p>【進路データの分析】模試ごとに担当者呼んで模試分析会を開く。</p> <p>【データサーバの活用】データサーバを活用したデータ分析等を行う。全員のデータを進路部と学年で共有し出願指導に活用する。</p>
<p>【自学習慣の定着】自習室や廊下等の学習コーナーを増設する。</p> <p>【自律的活動の指導】文化祭等の準備時間に制限を設ける。</p> <p>【夏季休業日の有効活用】講習期間を設定して講習を優先させる。1週間程度登録制の合同勉強会を実施する。</p>	<p>【自学習慣の定着】自習室や廊下等の学習コーナーを増設する。</p> <p>【自律的活動の指導】文化祭等の準備時間に制限を設ける。</p> <p>【夏季休業日の有効活用】講習期間を設定して講習を優先させる。1週間程度登録制の合同勉強会を実施する。</p>
<p>【校内研修体制の充実】新規採用から4年目までの教員を対象に授業力向上研修を実施する。相互授業観察週間を設置する。</p> <p>【進学指導診断の実施】23年度進学指導診断を実施する。</p> <p>【模試の分析】職員会議で定期的に分析会を行う。</p>	<p>【校内研修体制の充実】新規採用から4年目までの教員を対象に授業力向上研修を実施する。相互授業観察週間を設置する。</p> <p>【進学指導診断の実施】23年度進学指導診断の結果を活用する。</p> <p>【模試の分析】職員会議で定期的に分析会を行う。</p>

都立武蔵野北高等学校 進学指導改善計画(2)

区分		具体的な取組内容と取組目標
		平成22年度
組織体制	進学に係る組織体制の充実など	<p>【講習会の実施】進路部主導で夏季講習と冬季講習を行う。</p> <p>【教育課程の改善】第1学年3学期から数学Ⅱを実施する。</p> <p>【土曜日の活用】校舎改修に伴う部活動時間の確保に充てる。</p> <p>【的確な入学者選抜】学力検査と調査書の比率7対3、男女枠緩和・特別選考の学力検査と調査書の比率14対3で行う。</p>
入試年度		平成23年度入試
現役合格者数の目標	国公立大学	20人
	早・慶・上智	20人
	MARCH	120人

平成23年度	平成24年度
<p>【講習会の実施】進路部主導で夏季講習と冬季講習を行う。</p> <p>【教育課程の改善】第1学年3学期から数学Ⅱ、英語Ⅱを実施する。</p> <p>【土曜日の活用】校舎改修に伴う部活動時間の確保に充てる。</p> <p>【的確な入学者選抜】学力検査と調査書の比率7対3、男女枠緩和・特別選考の学力検査と調査書の比率14対3で行う。</p>	<p>【講習会の実施】進路部主導で夏季講習と冬季講習を行う。</p> <p>【教育課程の改善】第1学年3学期から数学Ⅱ、英語Ⅱを実施する。</p> <p>【土曜日の活用】4時間の土曜日の授業等を行い7時間目を解消して、授業時数と自宅学習時間を確保する。</p> <p>【的確な入学者選抜】学力検査と調査書の比率7対3、男女枠緩和・特別選考の学力検査と調査書の比率14対3で行う。</p>
平成24年度入試	平成25年度入試
25人	30人
25人	30人
144人	150人

都立小金井北高等学校 進学指導改善計画

区分		具体的な取組内容と取組目標
		平成22年度
学習面	入学時から卒業までの学力推移の把握方法	<ul style="list-style-type: none"> ○外部業者の学力状況調査システムの導入 ○各学年模擬試験の実施(年間3回) ○外部業者の模試活用システムの導入により各学年で推移を管理。操作研修会の実施
	1年次から3年次まで学力維持のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ○模擬試験実施後、各教科で結果を検討し、進路部と連携しながら、国公立、難関私大に向けた講習内容の検討 ○夏期講習時の講習優先期間の設置 ○土曜授業の午後の補習、平日の放課後の補習等 ○部活動で集中力を養い、達成感を味わわせ、入学時の希望を持ち続けさせる精神力を養う。
	自宅学習時間の確保のための対策	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭学習を奨励。各教科で小テスト、宿題を課す。 ○週末課題を課す。
	生徒に対する個別相談体制(早朝、放課後など)	<ul style="list-style-type: none"> ○1、2学年は年1回個別面談を実施 ○3年次は必要に応じて随時実施
進路指導面	入学時からの保護者生徒への学校経営方針の周知	<ul style="list-style-type: none"> ○入学予定者説明会で経営方針の周知 ○入学式後の説明会で経営方針の確認 ○2年次進路説明会(保護者対象)で周知 ○3年次進路説明会(保護者対象)で周知
	進路希望を実現させるための生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ○各教科指導、学年指導の中で、入学時の希望を持ち続けさせる指導の実施
	進路データの管理と活用	<ul style="list-style-type: none"> ○外部業者の学力状況調査システムの導入 ○各学年模擬試験の実施(年間3回) ○外部業者の模試活用システムの導入により各学年で推移を管理。操作研修会の実施
特別活動	部活・行事と学習のメリハリの方策	<ul style="list-style-type: none"> ○1、2年次では基礎学力の定着を図る学習を進めながら、部活動では、成功体験を積み重ねる中で、自信を付けさせる、集中力を付けさせることを目的に部活動にも重点をおく。
教員の資質	校内における授業改善のための取組など	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒による授業評価の結果を各教科で分析し、授業改善につなげる。
組織体制	進学に係る組織体制の充実など	<ul style="list-style-type: none"> ○22年度から、模擬試験等を進路部管理で実施。外部業者の模試活用システムの導入 ○予備校・専門家による教員対象講演会の実施
入試年度		平成23年度入試
現役合格者数の目標	国公立大学	6人
	早慶上理+GMARCH	早慶上理15人 GMARCH75人

平成23年度	平成24年度
<ul style="list-style-type: none"> ○外部業者の学力状況調査システムの充実 ○各学年模擬試験の実施(年間3回) ○外部業者の模試活用システムにより各学年・進路部で推移を管理し、学年指導に用いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○外部業者の学力状況調査システムの活用 ○各学年模擬試験の実施(年間3回) ○外部業者の模試活用システムにより各学年、進路部で推移を管理し、教科等での検討を加え学習指導に活用する。
<ul style="list-style-type: none"> ○長期休業中の講習における国公立、難関私大に向けた講座の設定 ○夏期講習時の講習優先期間の設置 ○土曜授業の午後の補習、平日の放課後の補習等 ○部活動で集中力を養い、達成感を味わわせ、入学時の希望を持ち続けさせる精神力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○長期休業中の講習における国公立、難関私大に向けた講座の設定 ○夏期講習時の講習優先期間の設置 ○土曜授業の午後の補習、平日の放課後の補習等 ○部活動で集中力を養い、達成感を味わわせ、入学時の希望を持ち続けさせる精神力を養う。
<ul style="list-style-type: none"> ○家庭学習を奨励。各教科で小テスト、宿題を課す。 ○週末課題を課す。 ○保護者の進学・子育てへの理解のための保護者対象進路講演会を実施し、保護者と連携しながら自宅学習時間を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭学習を奨励。各教科で小テスト、宿題を課す。 ○週末課題を課す。 ○保護者の進学・子育てへの理解のための保護者対象進路講演会を実施し、保護者と連携しながら自宅学習時間を確保する。
<ul style="list-style-type: none"> ○1、2学年は年1回個別面談を実施 ○3年次は必要に応じて随時実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○1、2学年は年1回個別面談を実施 ○3年次は必要に応じて随時実施
<ul style="list-style-type: none"> ○入学予定者説明会で経営方針の周知 ○入学式後の説明会で経営方針の確認 ○2年次進路説明会(保護者対象)で周知 ○3年次進路説明会(保護者対象)で周知 	<ul style="list-style-type: none"> ○入学予定者説明会で経営方針の周知 ○入学式後の説明会で経営方針の確認 ○2年次進路説明会(保護者対象)で周知 ○3年次進路説明会(保護者対象)で周知
<ul style="list-style-type: none"> ○各教科指導、学年指導の中で、入学時の希望を持ち続けさせる指導の実施 ○センター試験に向けて早期対策を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○各教科指導、学年指導の中で、入学時の希望を持ち続けさせる指導の実施 ○センター試験に向けて早期対策を実施 ○外部業者の学力状況調査システムの結果により必要に応じ面談を実施
<ul style="list-style-type: none"> ○外部業者の学力状況調査システムの充実 ○各学年模擬試験の実施(年間3回) ○外部業者の模試活用システムにより各学年で推移を管理。問題点を学年で検討し、進路部に報告 進路部は、必要に応じて教科と相談 	<ul style="list-style-type: none"> ○外部業者の学力状況調査システムの活用 ○各学年模擬試験の実施(年間3回) ○外部業者の模試活用システムの推移を進路部で管理。学年から挙げられる問題点を経年でデータとしてまとめ、学校全体で改善するよう、問題提起する。
<ul style="list-style-type: none"> ○学習活動を特別活動のバランスを図り、集中力を高めながら学校生活を送らせる。行事や部活動、特別活動で成功体験を積ませることで、学習にも自信を持たせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習活動とのバランスを図りながらも特別活動の充実を図る。集中力、成功体験を積ませることで、自信をつけさせ、意欲的に取り組む態度を育てる。
<ul style="list-style-type: none"> ○生徒による授業評価の結果を各教科で分析し、教科指導に生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒による授業評価の結果を各教科で分析し、長期休業中の講習・補習内容に取り入れる。
<ul style="list-style-type: none"> ○進路部主体により、外部業者の模試活用システムによる模擬試験結果の分析。分析結果を教科に伝え、教科指導に生かす。 ○予備校・専門家による教員対象講演会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○進路部主体により、外部業者の模試活用システムによる模擬試験結果の分析。分析結果を教科に伝え、教科指導に生かす。 ○不得意な単元を長期休業中の講習内容に取り入れる。 ○予備校・専門家による教員対象講演会の実施
平成24年度入試	平成25年度入試
10人	10人
早慶上理15人 GMARCH78人	早慶上理15人 GMARCH80人

都立江北高等学校 進学指導改善計画(1)

区分		具体的な取組内容と取組目標
		平成22年度
学 習 面	入学時から卒業までの学力推移の把握方法	<ul style="list-style-type: none"> ○学力推移把握データの統一 入学時学力検査平均、校外模試偏差値、センター試験平均の経年比較について、22年度と過去4年分のデータを進路部に集約し今年度末までに進路部が資料を作成する。 ○22年度は作成可能な資料を集約し、全職員に配布し校内研修及び学力向上委員会で活用する。 ○校外模試学力検討会を関係業者を入れて進路指導部及び各学年で年間3回実施する。
	1年次から3年次まで学力維持のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ○成績上位層、中位層、下位層別の学力向上対策と指導体制の検討を行い実施可能な具体策を試行する。特に校外模試偏差値56以上及び60以上の生徒数を増やす取組について、他校の実践例を収集し、学力向上委員会及び5教科会と各学年で年度末までに具体策を検討する。 ○1、2年上位層に、より早い時期から目標を持たせ、3教科、学年で協力し継続的に個別指導を行う。また、2学年上位層から3学年の講習への参加者を選抜し講習を受講させる。 ○理科・社会の興味関心、探究心の深化を目指し、次年度に向けての講座開設や指導法の工夫と改善の検討を行う。 ○生徒の授業規律の徹底を図るよう学年会・教科会で情報交換を行い、共通理解のもとに指導を行う。 ○新入生合宿をスタートとした3ヶ年の「江北キャリア教育プログラム」の策定の検討を年度末までに行う。 ○学力向上を目指し、効果的な指導体制と長期休業中の講習、添削、個別面談、勉強合宿等の検討を年度末までに行う。
	自宅学習時間の確保のための対策	<ul style="list-style-type: none"> ○22年度より国数英のバランスの取れた時間割を編成し、予習をよりやりやすくする。 ○週末課題、朝学習、予習指導の継続 ○定期考査問題の質と量について教科で見直しを行い、改善を図る。 ○生徒用の全教科シラバス(年間学習プログラム)を学年単位で原案を作成する。 ○江北塾の参加者増の取組を試行する。
	生徒に対する個別相談体制(早朝、放課後など)	<ul style="list-style-type: none"> ○学年単位の個人面談年間計画を、「江北キャリア教育プログラム」作成の中で効果的な時期・面談方法等に改善し、マニュアル化を学力向上委員会・進路部・学年で年度末までに図ることを検討する。 ○進路資料室閲覧方法を全生徒に周知する。また昼休み・放課後の進路指導個別相談を増やすための検討を行う。
進 路 指 導 面	入学時からの保護者生徒への学校経営方針の周知	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒募集時、入学式及び保護者会で進学指導を手厚く行う学校であることを周知する。 ○ホームページ、学年通信、「進路だより」による広報を充実させる。 ○全校集会、学年集会や新入生合宿、体育祭、文化祭、修学旅行等の行事・体験学習を通じて、具体的な学習活動との関連で学校の経営方針を理解させ、学習への意識を高めさせる。
	進路希望を実現させるための生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ○外部人材等を活用したキャリア教育、大学訪問、高大連携事業等により高い目標・志を抱く指導の工夫を学力向上委員会、学年、進路指導部で検討する。 ○個別進路指導カルテについて進路部で検討し、担任が変わっても継続的な個別指導や三者面談を可能とする体制を構築する。 ○生徒の志望校の選択、文系理系の志望、科目選択を行うにあたり効果的な個人面談となるよう、面談マニュアル、実施時期等について進路部と学力向上委員会でも検討する。
	進路データの管理と活用	<ul style="list-style-type: none"> ○校内サーバーを活用し、学力推移の把握データ、各種調査資料等進路指導に関するデータを進路指導部フォルダに一元管理し、必要に応じて各教員が閲覧可能にするよう環境を整える。 ○個別進路指導カルテ等は担任の進路指導フォルダで管理する方向で検討する。

平成23年度	平成24年度
<p>○学力推移把握データの統一 入学時学力検査平均、校外模試偏差値、センター試験平均の経年比較について、過去5年分のデータを進路部に集約し、年度末までに進路部が資料を作成する。 ○過去5年間の資料を進路部でまとめ年2回の校内研修及び学力向上委員会で活用する。 ○校外模試学力検討会を関係業者を入れて進路指導部及び各学年で年間3回実施する。</p>	<p>○学力推移把握データの統一 入学時学力検査平均、校外模試偏差値、センター試験平均の経年比較について、過去5年分のデータを進路部に集約し、年度末までに進路部が資料を作成する。 ○過去5年間の資料を進路部でまとめ年2回の校内研修及び学力向上委員会で活用する。 ○校外模試学力検討会を関係業者を入れて進路指導部及び各学年で年間3回実施する。</p>
<p>○学力向上委員会等で校外模試偏差値56以上及び60以上の生徒数を増やす取組について前年度の取組を更に改善して実践する。 ○英語の習熟度別授業について、年度末までの実施を検討する。 ○1、2年上位層に、より早い時期から目標を持たせた個別指導の内容を高める。また、2学年上位層から3学年の講習への参加者を選抜し受講させる。 ○理科・社会の興味関心、探究心の深化に向けた指導法の実施 ○授業規律の徹底を引き続き行う。 ○新入生合宿をスタートとした3ヶ年の「江北キャリア教育プログラム」の実施・改善 ○長期休業中の講習、添削、個別面談、勉強合宿等の一部実施・改善</p>	<p>○学力向上委員会等で校外模試偏差値56以上及び60以上の生徒数を増やす取組について前年度の取組を更に改善させ実践する。 ○英語の習熟度別授業について、実現を図る。 ○1、2年上位層に、より早い時期から目標を持たせた個別指導の内容を高める。また、2学年上位層から3学年の講習への参加者を選抜し受講させる。 ○理科・社会の興味関心、探究心の深化に向けた指導法の実施 ○授業規律の徹底を引き続き行う。 ○新入生合宿をスタートとした3ヶ年の「江北キャリア教育プログラム」の実施・改善 ○長期休業中の講習、添削、個別面談、勉強合宿等の実施・改善</p>
<p>○バランスの取れた時間割編成 ○英語、数学、国語等の週末課題、朝学習、予習指導の継続 ○定期考査問題について、他の進学指導推進校の定期考査問題等も参考とし改善を図る。 ○生徒用の全教科シラバス(年間学習プログラム)を学年単位の原案を基に完成版を作成する。 ○江北塾の参加者増(部活動集団が5割以上)の取組を継続し、指導に当たる教員の校内体制をつくる。</p>	<p>○バランスの取れた時間割編成 ○英語、数学、国語等の週末課題、朝学習、予習指導の継続 ○定期考査問題について、他の進学指導推進校の定期考査問題等も参考とし改善を図る。 ○生徒用の全教科シラバス(年間学習プログラム)を学年単位の原案を基に完成版を作成する。 ○江北塾への部活動集団の参加者6割以上を目指し、指導に当たる教員の校内体制を構築する。</p>
<p>○学年単位の個人面談年間計画の改善・実施 ○進路指導部主体で、随時進路指導相談、期間を定めた進路指導相談を組織的に実施する。</p>	<p>○学年単位の個人面談年間計画の改善・実施 ○進路指導部主体で、随時進路指導相談、期間を定めた進路指導相談を組織的に実施する。</p>
<p>○生徒募集時、入学式及び保護者会で進学指導を手厚く行う学校であることを周知する。 ○ホームページ、学年通信、「進路だより」による広報を充実させる。 ○全校集会、学年集会や新入生合宿、体育祭、文化祭、修学旅行等の行事・体験学習を通じて、具体的な学習活動との関連で学校の経営方針を理解させ、学習への意識を高めさせる。</p>	<p>○生徒募集時、入学式及び保護者会で進学指導を手厚く行う学校であることを周知する。 ○ホームページ、学年通信、「進路だより」による広報を充実させる。 ○全校集会、学年集会や新入生合宿、体育祭、文化祭、修学旅行等の行事・体験学習を通じて、具体的な学習活動との関連で学校の経営方針を理解させ、学習への意識を高めさせる。</p>
<p>○外部人材等を活用したキャリア教育、大学訪問、高大連携事業等により高い目標・志を抱く指導の工夫について、前年度の実践を踏まえて改善を図る。 ○個別進路指導カルテを作成し、個人面談等で活用した進路指導にあり、特に第一志望は譲らない意識の育成と今後の勉強方法等について指導する。 ○進学指導面談の充実を図る。特に新3年生の科目選択が進路希望と固く結びつくように面談の内容を高める。</p>	<p>○外部人材等を活用したキャリア教育、大学訪問、高大連携事業等により高い目標・志を抱く指導の工夫について、前年度の実践を踏まえて改善を図る。 ○個別進路指導カルテを作成し、個人面談等で活用した進路指導にあり、特に第一志望は譲らない意識の育成と今後の勉強方法等について指導する。 ○進学指導面談の充実を図る。特に新3年生の科目選択が進路希望と固く結びつくように面談の内容を高める。</p>
<p>○校内サーバーを活用し、学力推移の把握データ、各種調査資料等進路指導に関するデータを進路指導部フォルダに一元管理し、必要に応じて各教員が閲覧可能にする。 ○個別進路指導カルテ等は担任の進路指導フォルダで管理する。 ○外部模試等の分析と個人カルテを使用し、学力の分析力を高め、各教科の授業改善を行う。</p>	<p>○校内サーバーを活用し、学力推移の把握データ、各種調査資料等進路指導に関するデータを進路指導部フォルダに一元管理し、必要に応じて各教員が閲覧可能にする。 ○個別進路指導カルテ等は担任の進路指導フォルダで管理する。 ○外部模試等の分析と個人カルテを使用し、学力の分析力を高め、各教科の授業改善を行う。</p>

都立江北高等学校 進学指導改善計画(2)

区分		具体的な取組内容と取組目標
		平成22年度
特別活動	部活・行事と学習のメリハリの方策	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒部、部活動顧問が中心となり部活・学校行事等の活動時間等のルール化を図り、学習第一となるよう切替えを行う。 ○部活動部長会を通し、日常の活動時間の遵守、挨拶、清掃活動の自発的参加等を徹底することで、メリハリのある生活力を育成する。 ○夏季合宿期間と夏期講習期間について、現在の方針に沿って毎年改善点を検討し次年度に生かす。 ○部活動集団の江北塾参加、試験一週間前の部活動禁止期間の勉強会を増加させる。 ○夏季休業終了一週間前を部活動禁止期間とし、生徒が効果的に宿題対策を学校等で行える環境の検討を行う。
教員の資質	校内における授業改善のための取組など	<ul style="list-style-type: none"> ○学力向上委員会の機能強化 進路主幹・教務主幹・5教科主任で構成し、生徒の学力向上教員の授業力向上に向けリーダーシップを発揮する。学力向上、進学実績向上に関する課題を協議検討し、企画調整会議・教科・学年に下ろし、有効な策を組織的に今年度から実践する。 ○生徒代表と学力向上委員会との学力懇談会年2回実施、授業評価協議会年1回実施 22年度から学力向上委員会が主体で実施する。 ○校内授業公開週間(教員間の授業参観)を年間延べ10週間実施 22年度から実施する。教員は15回以上授業参観する。お互いの授業と生徒の学習状態を見てその情報を基に授業改善を図る。 ○教務部、進路指導部主導の全体研修会(生徒による授業評価の結果検討会等も含む。)の活性化 有効な資料を担当者が用意しテーマを具体的に示して活発な意見交換をする。建設的な指導法・指導体制・策が生み出されるような研修会に発展させる。 ○進学指導研究協議会の高校への授業参観 5教科の中堅教員と若手教員を中心に複数参加する。その結果の報告を教科会及び学力向上委員会に行う。 ○教科別研修の機能強化 定期考査問題の検討、効果的な講習・補習・朝学習・週末課題・予習指導、教材研究、シラバス等の見直し等の改善を図る。 ○他の中堅校との情報交換による校内研修の充実 お互いに了解できる学校間で、センター試験受験者数と平均点、現役生の大学進学実績、期末考査の問題交換等を働きかけ、教科指導力や分析力に向上に努める。
組織体制	進学に係る組織体制の充実など	<ul style="list-style-type: none"> ○学力向上委員会をブレインとし、その下に進路指導部・学年・5教科を位置つけた組織連携機能の強化
入試年度		平成23年度入試
現役合格者数の目標	国公立・早慶上智	2人以上
	GMARCH+東京理科	20人以上
	日東駒専	65人以上

平成23年度	平成24年度
<p>○生徒部、部活動顧問が中心となり部活・学校行事等の活動時間等のルール化を図り、学習第一となるよう切替えを行う。</p> <p>○部活動部長会を通し、日常の活動時間の遵守、挨拶、清掃活動の自発的参加等を徹底することで、メリハリのある生活力を育成する。</p> <p>○夏季合宿期間と夏期講習期間について、現在の方針に沿って毎年改善点を検討し次年度に生かす。</p> <p>○部活動集団の5割以上が江北塾参加を目標とし、試験一週間前の部活動禁止期間の勉強会を増加させる。</p> <p>○夏季休業終了一週間前を部活動禁止期間とし、生徒が効果的に学校で宿題対策や補習を行えるようにする。</p>	<p>○生徒部、部活動顧問が中心となり部活・学校行事等の活動時間等のルール化を図り、学習第一となるよう切替えを行う。</p> <p>○部活動部長会を通し、日常の活動時間の遵守、挨拶、清掃活動の自発的参加等を徹底することで、メリハリのある生活力を育成する。</p> <p>○夏季合宿期間と夏期講習期間について、現在の方針に沿って毎年改善点を検討し次年度に生かす。</p> <p>○部活動集団の6割以上が江北塾参加をも目標とし、試験一週間前の部活動禁止期間の勉強会を増加させる。</p> <p>○夏季休業終了一週間前を部活動禁止期間とし、生徒が効果的に学校で宿題対策や補習を行えるようにする。</p>
<p>○学力向上委員会の機能強化 前年度に引き続き学力向上、進学実績向上に関する課題を協議検討し、企画調整会議・5教科・学年に下ろし、より有効な策を組織的に実践する。</p> <p>○生徒代表と学力向上委員会との学力懇談会年2回実施、授業評価協議会年1回実施 前年度実施の結果を反省し改善点を明確にしながらかつ引き続き実施する。</p> <p>○校内授業公開週間(教員間の授業参観)を年間延べ10週間実施 前年度に引き続き実施する。教員は15回以上授業参観する。お互いの授業と生徒の学習状態を見てその情報を基に指導法等の教科内研修を高める。</p> <p>○教務部、進路指導部主導の全体研修会(生徒による授業評価の結果検討会等も含む。)の活性化 有効な資料を担当者が用意しテーマを具体的に示して活発な意見交換ができるようにする。建設的な指導法・指導体制・策が生み出されるような研修会に発展させる。予備校の講師等外部の人材活用を図る。</p> <p>○進学指導研究協議会の高校への授業参観 5教科の中堅教員と若手教員を中心に複数参加する。結果報告を教科会および学力向上委員会に行う。</p> <p>○教科別研修の機能強化 定期考査問題の検討、効果的な講習・補習・朝学習・週末課題・予習指導、教材研究、シラバス等の見直し等の改善を図る。</p> <p>○他の中堅校との情報交換による校内研修の充実</p>	<p>○学力向上委員会の機能強化 前年度に引き続き学力向上、進学実績向上に関する課題を協議検討し、企画調整会議・5教科・学年に下ろし、より有効な策を組織的に実践する。</p> <p>○生徒代表と学力向上委員会との学力懇談会年2回実施、授業評価協議会年1回実施 前年度実施の結果を反省し改善点を明確にしながらかつ引き続き継続する。</p> <p>○校内授業公開週間(教員間の授業参観)を年間延べ10週間実施 前年度に引き続き実施する。教員は15回以上授業参観する。お互いの授業と生徒の学習状態を見てその情報を基に指導法等の教科内研修を高める。</p> <p>○教務部、進路指導部主導の全体研修会(生徒による授業評価の結果検討会等も含む。)の活性化 有効な資料を担当者が用意しテーマを具体的に示して活発な意見交換ができるようにする。建設的な指導法・指導体制・策が生み出されるような研修会に発展させる。予備校の講師等外部の人材活用を図る。</p> <p>○進学指導研究協議会の高校への授業参観 5教科の中堅教員と若手教員を中心に複数参加する。結果報告を教科会及び学力向上委員会に行う。</p> <p>○教科別研修の機能強化 定期考査問題の検討、効果的な講習・補習・朝学習・週末課題・予習指導、教材研究、シラバス等の見直し等の改善を図る。</p> <p>○他の中堅校との情報交換による校内研修の充実</p>
○学力向上委員会をブレインとし、その下に進路指導部・学年・5教科を位置づけた組織連携機能の強化	○学力向上委員会をブレインとし、その下に進路指導部・学年・5教科を位置づけた組織連携機能の強化
平成24年度入試	平成25年度入試
3人以上	4人以上
23人以上	26人以上
70人以上	75人以上

都立江戸川高等学校 進学指導改善計画(1)

区分	項目	具体的な取組内容と取組目標
		平成22年度
学習面	入学時から卒業までの学力推移の把握方法	1. 1年:4月・10月 2年:4月「外部業者の学力状況調査システム」7月・1月外部業者模擬試験 3年:5月・6月複数業者の外部業者模擬試験〔進路部〕 2. 分析会の実施(講師は外部模試業者から)学年ごとに実施〔進路部〕 3. 進路に関する講演会・模擬授業・センター説明会・推薦説明会等進路部で計画・立案・実施〔進路部〕 4. 「進路個別カード」の作成と担任による保管及び進路面談等での活用〔学年担任〕
	1年次から3年次まで学力維持のための方策	1. 土曜講習の組織的・計画的実施〔学力向上推進委員会(仮称)・教務部〕 年間14回実施 土曜講習実施日の部活動原則禁止 受講者数 1年生:80 2年生:40 3年生:30 2. 土曜授業に向けての検討〔教育課程検討委員会・学力向上推進委員会(仮称)〕 3. 長期休業中の講習の充実〔学力向上推進委員会(仮称)〕 講座数 1年生:8 2年生:8 3年生:20 受講者数 1年生:100 2年生:100 3年生:400 4. 1年2学期以降の学力低下傾向の防止 → 1年の夏休み前にキャンパス見学の実施〔進路部・学年〕 5. 9月に部活動入部生徒対象の「勉強のやり方の講演会」の実施〔進路部・生徒部〕 6. 「進路だよ」の発行(年間25回以上)〔進路部〕 7. 漢字検定・英語検定等の資格取得への取組を促す〔国語科・英語科〕。 8. 小テスト・課題の組織的、系統的实施〔教務部・各教科〕 9. 実質50分授業の確保と授業規律の徹底 10. 保護者向け進学説明会の実施〔進路部〕
	自宅学習時間の確保のための対策	1. 週末課題の定期的実施〔各教科〕 2. 小テスト・課題の組織的、系統的实施 1年生家庭学習時間 対前年度比 1.2倍 2年生家庭学習時間 対前年度比 1.2倍 3年生家庭学習時間 対前年度比 1.1倍 [「家庭学習時間」は各学年毎の平均時間] 3. 多目的室を早朝、図書室等を午後開放し、自習体制を確立
	生徒に対する個別相談体制(早朝、放課後など)	1. 「進路希望調査」の実施(1年は4月と10月、2年は4月と11月、3年は4月のみ実施) 2. 「外部業者の学力状況調査システム」の導入及び全面移行の検討〔進路部・学力向上推進委員会〕
進路指導面	入学時からの保護者生徒への学校経営方針の周知	1. 学校経営計画を学校ホームページで公開し、本校の教育活動アンケートの質問項目にも取り入れ、生徒、保護者の注意を喚起〔募集対策委員会〕 2. 年間授業計画の作成・配付〔教務部・各教科〕 3. ホームページのリアルタイムの更新による情報提供〔PC委員会〕
	進路希望を実現させるための生徒指導	1. 蓮葉会(同窓会)との連携による講演会を実施(年1回、3月実施)〔進路部〕 2. 直近の卒業生による「進路体験発表会」を実施(年1回、2月実施)〔進路部〕 3. 進路部教員の各学年保護者会への参加〔進路部〕 4. 「進学のためのお金講座」の実施(年1回実施)〔進路部〕 5. PTAとの連携による「進路講演会」の実施(年3回)〔進路部〕 6. キャリア教育の視点に立った講演会の実施〔進路部〕 7. 進路に関する情報資料・赤本の充実〔進路部〕 8. 国公立大学・一定レベル以上の私立大学の案内書の充実〔進路部〕
	進路データの管理と活用	1. 外部業者の模試活用システムの導入〔進路部・学年〕 2. 「進路の手引き」・「進路資料」の作成配布〔進路部〕 3. 進路個別カードを作成、面談指導等での活用〔学年担任〕 4. 「進路だよ」の発行(年間25回以上)

平成23年度	平成24年度
1.1・2年:4月・10月「外部業者の学力状況調査システム」 7月・10月・1月外部業者模擬試験 3年:5月・6月複数業者の外部模擬試験 2. 分析会の実施(講師は外部模試業者から)学年ごとに実施 3. 進路に関する講演会・模擬授業・センター説明会・推薦説明会等進路部で計画・立案・実施 4. 「進路個別カード」の作成と担任による保管及び進路面談等での活用	1.1・2年:4月・10月「外部業者の学力状況調査システム」 7月・10月・1月外部業者模擬試験、3年:5月・6月・9月複数業者の外部模擬試験 2. 分析会の実施(講師は外部模試業者から)学年ごとに実施 3. 進路に関する講演会・模擬授業・センター説明会・推薦説明会等進路部で計画・立案・実施 4. 「進路個別カード」の作成と担任による保管及び進路面談等での活用
1. 土曜講習の組織的・計画的実施 年間14回実施 土曜講習実施日の部活動原則禁止 受講者数 1年生:80 2年生:80 3年生:40 2. 土曜授業実施に伴う土曜講習の在り方に関する検討実施 3. 長期休業中の講習の充実 講座数 1年生:9 2年生:9 3年生:21 受講者数 1年生:105 2年生:105 3年生:420 4. 1年2学期以降の学力低下傾向の防止 → 1年の夏休み前にキャンパス見学の実施 5. 9月に部活動入部生徒対象の「勉強のやり方の講演会」の実施 6. 「進路だより」の発行(年間25回以上) 7. 漢字検定・英語検定等の資格取得への取組を促す。 8. 小テスト・課題の組織的、系統的実施 9. 実質50分授業の確保と授業規律の徹底 10. 保護者向け進学説明会の実施	1. 土曜授業の導入実施(予定) 2. 土曜講習の在り方に関する検討 3. 長期休業中の講習の充実 講座数 1年生:10 2年生:10 3年生:22 受講者数 1年生:110 2年生:110 3年生:440 4. 1年2学期以降の学力低下傾向の防止 → 1年の夏休み前にキャンパス見学の実施 5. 9月に部活動入部生徒対象の「勉強のやり方の講演会」の実施 6. 「進路だより」の発行(年間25回以上) 7. 漢字検定・英語検定等の資格取得への取組を促す。 8. 小テスト・課題の組織的、系統的実施 9. 実質50分授業の確保と授業規律の徹底 10. 保護者向け進学説明会の実施
1. 週末課題の定期的実施 2. 小テスト・課題の組織的、系統的実施 1年生家庭学習時間 対前年度比 1.3倍 2年生家庭学習時間 対前年度比 1.3倍 3年生家庭学習時間 対前年度比 1.2倍 〔家庭学習時間〕は各学年毎の平均時間 3. 多目的室を早朝、図書室等を午後開放し、自習体制を確立	1. 週末課題の定期的実施 2. 小テスト・課題の組織的、系統的実施 1年生家庭学習時間 対前年度比 1.3倍 2年生家庭学習時間 対前年度比 1.3倍 3年生家庭学習時間 対前年度比 1.2倍 〔家庭学習時間〕は各学年毎の平均時間 3. 多目的室を早朝、図書室等を午後開放し、自習体制を確立
1 「進路希望調査」の実施(1・2年は4月と10月、3年は4月のみ実施) 2 「外部業者の学力状況調査システム」の導入及び全面移行	1 「進路希望調査」の実施(1・2年は4月と10月、3年は4月のみ実施) 2 「外部業者の学力状況調査システム」の導入及び全面移行 ⇒内容検討の継続
1. 学校経営計画を学校ホームページで公開し、本校の教育活動アンケートの質問項目にも取り入れ、生徒、保護者の注意を喚起 2. 年間授業計画の作成・配付 3. ホームページのリアルタイムの更新による情報提供	1. 学校経営計画を学校ホームページで公開し、本校の教育活動アンケートの質問項目にも取り入れ、生徒、保護者の注意を喚起 2. 年間授業計画の作成・配付 3. ホームページのリアルタイムの更新による情報提供
1. 蓮葉会(同窓会)との連携による講演会を実施(年1回、3月実施) 2. 直近の卒業生による「進路体験発表会」を実施(年1回、2月実施) 3. 進路部教員の各学年保護者会への参加 4. 「進学のためのお金講座」の実施(年1回実施) 5. PTAとの連携による「進路講演会」の実施(年3回) 6. キャリア教育の視点に立った講演会の実施 7. 進路に関する情報資料・赤本の充実 8. 国公立大学・一定レベル以上の私立大学の案内書の充実	1. 蓮葉会(同窓会)との連携による講演会を実施(年1回、3月実施) 2. 直近の卒業生による「進路体験発表会」を実施(年1回、2月実施) 3. 進路部教員の各学年保護者会への参加 4. 「進学のためのお金講座」の実施(年1回実施) 5. PTAとの連携による「進路講演会」の実施(年3回) 6. キャリア教育の視点に立った講演会の実施 7. 進路に関する情報資料・赤本の充実 8. 国公立大学・一定レベル以上の私立大学の案内書の充実
1. 外部業者の模試活用システムの導入 2. 「進路の手引き」・「進路資料」の作成配布 3. 進路個別カードを作成、面談指導等での活用 4. 「進路だより」の発行	1. 外部業者の模試活用システムの導入 2. 「進路の手引き」・「進路資料」の作成配布 3. 進路個別カードを作成、面談指導等での活用 4. 「進路だより」の発行

都立江戸川高等学校 進学指導改善計画(2)

区分	項目	具体的な取組内容と取組目標	
		平成22年度	
特別活動	部活・行事と学習のメリハリの方策	1. 「真の文武両道」の実現に向けた取組の検討〔学力推進向上委員会(仮称)・部活動推進検討委員会(仮称)〕 運動部では関東大会以上への出場2部以上 2. 部活動生徒のための自習時間・自習スペースの確保 3. 土曜講習実施時間帯の部活動原則禁止 4. 部活動顧問による啓蒙(意識付け) 5. 帰属意識・基本的生活習慣の確立に向けた指導の徹底 6. 勉強合宿実施に向けた検討 7. 「奉仕」・「総合」検討委員会の立ち上げ	
教員の資質	校内における授業改善のための取組など	1. 「生徒による授業評価」を活用した教科内研修会の実施(年間3回以上) 2. 教員相互の授業見学、研究授業の活性化 3. 外部講師による授業方法に関する研修会実施に向けた検討 4. 成績伸び悩み生徒を伸ばすための情報交換会、対策検討会設置の検討	
組織体制	進学に係る組織体制の充実など	1. 「学力向上推進委員会(仮称)」の立ち上げ検討 2. 進路指導部を中心とした進路行事の精選・見直し 3. 外部団体の協力による生徒・保護者に対する進学指導の充実 4. 教務部を中心とした校内研修体制の充実 5. 生徒部による部活動・学校行事と学習の両立に向けた取組の検討 6. 教育課程検討委員会による「新教育課程」編成作業 (土曜日授業の実施検討を含む) 7. 外部業者の模試活用システム活用法に関する研修の実施 8. 成績伸び悩み生徒を伸ばすための情報交換会、対策検討会設置の検討	
入試年度		平成23年度入試	
現役合格者数の目標	国公立・難関私立	3人	
	GMARCH	20人	
	大学進学率	70%	

平成23年度	平成24年度
<ol style="list-style-type: none"> 1. 「真の文武両道」の実現に向けた取組実施 運動部では関東大会以上への出場2部以上 2. 部活動生徒のための自習時間・自習スペースの確保 3. 土曜講習実施時間帯の部活動原則禁止 4. 部活動顧問による啓蒙(意識付け) 5. 帰属意識・基本的生活習慣の確立に向けた指導の徹底 6. 勉強合宿実施 7. 「奉仕」・「総合」検討委員会の実施 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「真の文武両道」の実現に向けた取組実施 運動部では関東大会以上への出場2部以上 2. 部活動生徒のための自習時間・自習スペースの確保 3. 土曜講習実施時間帯の部活動原則禁止 4. 部活動顧問による啓蒙(意識付け) 5. 帰属意識・基本的生活習慣の確立に向けた指導の徹底 6. 勉強合宿実施 7. 「奉仕」・「総合」検討委員会の実施
<ol style="list-style-type: none"> 1. 「生徒による授業評価」を活用した教科内研修会の実施 研修による改善策の生徒・保護者に向けた公表 2. 教員相互の授業見学、研究授業の活性化(年間5回以上) 3. 外部講師による授業方法に関する研修会実施に向けた検討 4. 成績伸び悩み生徒を伸ばすための情報交換会、対策検討会設置の検討 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「生徒による授業評価」を活用した教科内研修会の実施 研修による改善策の生徒・保護者に向けた公表 2. 教員相互の授業見学、研究授業の活性化(通年で随時実施) 3. 外部講師による授業方法に関する研修会実施 4. 成績伸び悩み生徒を伸ばすための情報交換会、対策検討会設置の検討
<ol style="list-style-type: none"> 1. 「学力向上推進委員会(仮称)」による諸課題の検討 2. 進路指導部を中心とした進路行事の精選・見直し 3. 外部団体の協力による生徒・保護者に対する進学指導の充実 4. 教務部を中心とした校内研修体制の充実 5. 生徒部による部活動・学校行事と学習の両立に向けた取組の検討 6. 土曜日授業実施に伴う諸課題の検討 7. 外部業者の模試活用システム活用法に関する研修の実施 8. 成績伸び悩み生徒を伸ばすための情報交換会、対策検討会設置の検討 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「学力向上推進委員会(仮称)」による諸課題の検討 2. 進路指導部を中心とした進路行事の精選・見直し 3. 外部団体の協力による生徒・保護者に対する進学指導の充実 4. 教務部を中心とした校内研修体制の充実 5. 生徒部による部活動・学校行事と学習の両立に向けた取組の検討 6. 土曜日授業実施に伴う諸課題の検討 7. 外部業者の模試活用システム活用法に関する研修の実施 8. 成績伸び悩み生徒を伸ばすための情報交換会、対策検討会設置の検討
平成24年度入試	平成25年度入試
5人	10人
25人	30人
70%	70%

都立調布北高等学校 進学指導改善計画(1)

区分		方策	具体的な取組内容と取組目標
			平成22年度
学習面	入学時から卒業までの学力推移の把握方法	定点観測と分析結果の有効活用	○模試分析会の活用 模試分析会(5回、予備校主催)で、その都度の学力推移を観測
	1年次から3年次まで学力維持のための方策	週末課題による個別添削指導 2学年の「実力アップ講習」によるモチベーションアップ	○講習・課題の充実 1 「土曜進学講習」「夏期集中講習」「冬期集中講習」の推進 2 各学年の上位層(20名×3学年)に特別課題(英・数)を週末に出題・週明けに添削指導 3 中だるみを防止し、中位層・下位層を伸ばすための「実力アップ講習」(1学年)の試行(2・3学期) ○「自習室」の新設 8月完成、自習室は早朝学習のできるように7時30分～18時開放
	自宅学習時間の確保のための対策	部活動時間の制限と課題学習の促進	○時間規制と課題の促進 1 家庭学習時間を確保するために、部活動の時間は18時まで(通年)に規制 2 各教科(主に英数国)において課題を課し自宅学習を促進
	生徒に対する個別相談体制(早朝、放課後など)	電子データを活用した相談体制の確立	○進路希望調査(半期に一度)による個別指導 1 業者の個別学力分析資料(1・2学年)及び模試分析会(予備校主催)を活用した個別相談 2 定期相談(半期に1回)・随時相談(放課後)
進路指導面	入学時からの保護者生徒への学校経営方針の周知	保護者会・進路講演会の充実	○講話等での周知 1 学校経営方針について、生徒には始業式・終業式・行事等の校長講話及び進路講演会で、保護者には保護者会・保護者向け進路講演会で周知 2 学校経営方針の軸である進学指導に関しては、進学へのモチベーションを上げるために、大学の模擬授業(13校)・大学の研究室訪問(農工大等)
	進路希望を実現させるための生徒指導	「三大講習」の推進	○進路指導部の企画・管理による三大講習の推進 1 「土曜進学講習」国公立難関私大(全学年・計32回) 2 「土曜サポートティーチャー」基礎基本の徹底(全学年・計8回) 3 「夏期集中講習」受験対策中心(全学年・計457時間)
	進路データの管理と活用	電子データの共有化とデータ分析の活用	○個別データの分析と活用 1 業者の個別学力分析資料(1・2学年)及び模試分析会(予備校主催)のデータ分析の活用(学年集会での模試分析の説明) 2 基本データの管理の徹底、進路指導部に「情報管理担当」設置
特別活動	部活・行事と学習のメリハリの方策	部活動の規制と学習第一の行事の精選	○時間規制の徹底 家庭学習の時間を確保するために、部活動の時間は18時まで(通年)に規制
教員の資質	校内における授業改善のための取組など	研修担当(進路指導部)による研修の推進	○進路指導部主体の授業改善 1 「授業力向上のための研修会」(13回)研修センター主催 2 「進路指導力向上のための研修会」(10回)予備校の活用 3 「北高版赤本」(首都大学東京・東京外語大等)の作成 入試問題分析(夏期休業中の研修として位置付け) 4 「教員向け進路通信」(教員対象)の発行(12回)

平成23年度	平成24年度
○業者の定点観測システムの活用 業者の定点観測システムを活用(3年間)、生徒別ファイルで保存・活用	○業者の定点観測システムの活用 業者の定点観測システムを活用(3年間)、生徒別ファイルで保存・活用
○講習・課題の充実 1 「土曜進学講習」「夏期集中講習」「冬期集中講習」の推進 2 各学年の上位層(20名×3学年)に特別課題(英・数)を週末に出題・週明けに添削指導 3 「実力アップ講習」(2学年)開始 2年次における中だるみを防止し、中位層・下位層を伸ばすための「実力アップ講習」(土曜日)実施 ○「北高塾」開始 教育庁人材バンクの人材を講師として活用した上位層対象の特別進学講習(全学年対象) ○行事の精選 2学期から集中して学習に取り組めるように、体育祭を9月から6月に変更	○講習・課題の充実 1 「土曜進学講習」「夏期集中講習」「冬期集中講習」の推進 2 各学年の上位層(20名×3学年)に特別課題(英・数)を週末に出題・週明けに添削指導 3 「実力アップ講習」(2学年)開始 2年次における中だるみを防止し、中位層・下位層を伸ばすための「実力アップ講習」(土曜日)実施 ○「北高塾」推進 教育庁人材バンクの人材を講師として活用した上位層対象の特別進学講習(全学年対象) ○「勉強合宿」(全学年)によるモチベーションアップ
○時間規制と課題の促進 1 家庭学習時間を確保するために、部活動の時間は18時まで(通年)に規制 2 各教科(主に英数国)において課題を課し自宅学習を促進	○時間規制と課題の促進 1 家庭学習時間を確保するために、部活動の時間は18時まで(通年)に規制 2 各教科(主に英数国)において課題を課し自宅学習を促進
○進路希望調査(半期に一度)による個別指導 1 業者の個別学力分析資料(1・2学年)及び模試分析会(予備校主催)を活用した個別相談 2 定期相談(半期に1回)・随時相談(放課後)	○進路希望調査(半期に一度)による個別指導 1 業者の個別学力分析資料(1・2学年)及び模試分析会(予備校主催)を活用した個別相談 2 定期相談(半期に1回)・随時相談(放課後)
○講話等での周知 1 学校経営方針について、生徒には始業式・終業式・行事等の校長講話及び進路講演会で、保護者には保護者会・保護者向け進路講演会で周知 2 学校経営方針の軸である進学指導に関しては、進学へのモチベーションを上げるために、大学の模擬授業(13校)・大学の研究室訪問(農工大等)	○講話等での周知 1 学校経営方針について、生徒には始業式・終業式・行事等の校長講話及び進路講演会で、保護者には保護者会・保護者向け進路講演会で周知 2 学校経営方針の軸である進学指導に関しては、進学へのモチベーションを上げるために、大学の模擬授業(13校)・大学の研究室訪問(農工大等)
○進路指導部の企画・管理による三大講習の推進 1 「土曜進学講習」国公立難関私大(全学年・計40回) 2 「土曜サポートティーチャー」基礎基本の徹底(全学年・計10回) 3 「夏期集中講習」受験対策中心(全学年・計500時間)	○進路指導部の企画・管理による三大講習の推進 1 「土曜進学講習」国公立難関私大(全学年・計40回) 2 「土曜サポートティーチャー」基礎基本の徹底(全学年・計10回) 3 「夏期集中講習」受験対策中心(全学年・計500時間)
○業者の定点観測システムの個別データの分析と活用 1 「入学から進学まで」の定点観測及び追跡調査 2 データベースの電子化によりデータを共有化した組織的(進路指導部と担任の連携等)な個別相談、各学年集会での進路データ分析の説明	○業者の定点観測システムの個別データの分析と活用 1 「入学から進学まで」の定点観測及び追跡調査 2 データベースの電子化によりデータを共有化した組織的(進路指導部と担任の連携等)な個別相談、各学年集会での進路データ分析の説明
○行事期間の精選 1 家庭学習の時間を確保するために、部活動の時間は18時まで(通年)に規制 2 2学期から集中して学習に取り組めるように行事を精選し、体育祭を2学期(9月)から1学期(6月)に変更	○勉強合宿の有効活用 1 家庭学習の時間を確保するために、部活動の時間は18時まで(通年)に規制 2 体育祭(6月)・合唱祭(7月)・文化祭(9月)の行事の終了後に勉強合宿(10月)を実地し、行事と学習のメリハリを付ける。
○進路指導部主体の授業改善 1 「授業力向上のための研修会」(13回)研修センター主催 2 「進路指導力向上のための研修会」(10回)予備校の活用 3 「北高版赤本」(首都大学東京・東京外語大等)の作成 入試問題分析(夏期休業中の研修として位置付け) 4 「教員向け進路通信」(教員対象)の発行(12回)	○進路指導部主体の授業改善 1 「授業力向上のための研修会」(13回)研修センター主催 2 「進路指導力向上のための研修会」(10回)予備校の活用 3 「北高版赤本」(首都大学東京・東京外語大等)の作成 入試問題分析(夏期休業中の研修として位置付け) 4 「教員向け進路通信」(教員対象)の発行(12回)

都立調布北高等学校 進学指導改善計画(2)

区分		方策	具体的な取組内容と取組目標
			平成22年度
組織体制	進学に係る組織体制の充実など	組織体制(進路指導・教務・生徒部)の確立	○進路指導部中心の組織体制の確立 補習・補講から教員の研修の企画・進行管理まで、進学関係は全て進路指導部が担当 ○学習第一の組織的な学習環境整備の徹底 1 頭髪・服装指導等(生徒部) 2 チャイム始業の徹底(教務部)
			入試年度
現役合格者数の目標		国公立大学	8人
		早慶上理	10人
		MARCH	80人

平成23年度	平成24年度
○進路指導部中心の組織体制の確立 補習・補講から教員の研修の企画・進行管理まで、進学関係は全て進路指導部が担当 ○学習第一の組織的な学習環境整備の徹底 1 頭髪・服装指導等(生徒部) 2 チャイム始業の徹底(教務部)	○進路指導部中心の組織体制の確立 補習・補講から教員の研修の企画・進行管理まで、進学関係は全て進路指導部が担当 ○学習第一の組織的な学習環境整備の徹底 1 頭髪・服装指導等(生徒部) 2 チャイム始業の徹底(教務部) ○「新教育課程」実施に基づく理科・数学の先行実施 「新教育課程」(25年実施)では土曜授業実施予定
平成24年度入試	平成25年度入試
10人	15人
15人	20人
100人	120人

都立日野台高等学校 進学指導改善計画(1)

区分		具体的な取組内容と取組目標
		平成22年度
学習面	入学時から卒業までの学力推移の把握方法	<ul style="list-style-type: none"> ○外部模試による学力把握の継続実施 ・全学年で外部模試を年4回設定(2年次までは同一業者) ・進路指導部による模試分析・報告、校内で学力推移を確認・共有 ・定期考査・模試の個人成績表作成(年5回)、進路個別面談等での活用
	1年次から3年次まで学力維持のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ○大学入試に向けた学習内容の量的拡大、質的向上 ・3年間を見通した教科指導計画の策定(国数英)、進度・難度調整、定期考査問題・補助教材等の工夫、各学年の課題と対策を次年度申し送り ・習熟度別授業の工夫(試験によるクラス分け、成績上位層に発展学習) ・成績中・下位層を対象とする定期考査前後の補習・講習の継続実施 ・大学入試に向けた教科別補習・講習の継続実施
	自宅学習時間の確保のための対策	<ul style="list-style-type: none"> ○進路に目を向けさせ、進学意識を高める指導の推進 ・総合的な学習の時間の名称を「日野台 a Mond Project」として、将来について考えさせる一貫したキャリア教育を継続実施 ・大学・予備校関係者による分野別説明会、大学模擬授業、大学オープンキャンパス参加、2・3年次選択科目説明会、同窓生による進路講演会、受験体験を聞く会等の継続実施
	生徒に対する個別相談体制(早朝、放課後など)	<ul style="list-style-type: none"> ○自宅学習習慣を身に付けさせる指導の推進 ・全学年で自宅学習時間の調査実施(年2回)、進路個別面談等で指導 ・教科による小テスト、予習ノート点検、宿題・週末課題提示等の実施 ・自習室、図書室の開放(早朝・放課後・土曜日)、自学自習の奨励 ・最終下校時間設定、時間管理の自覚と自宅学習を促す指導徹底
	生徒に対する個別相談体制(早朝、放課後など)	<ul style="list-style-type: none"> ○組織的、計画的な進路個別面談の推進 ・各学年で進路指導の節目に進路個別面談を一斉実施(2回以上) ・個別面談時間の優先確保(期末考査後の活用) ・進路指導部・学年を中心に進路懇談会実施(計5回)、進路個別面談での指導内容確認、共有 ・進路指導部で進路希望調査実施(全学年、年2回)、結果を共有
進路指導面	入学時からの保護者生徒への学校経営方針の周知	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者の顔を学校に向けた進学指導の推進 ・学校の指導方針を示した学校経営計画、シラバス、進路指導計画等の周知 ・進路指導部による保護者会(各学年・年2回)での進路情報提供
	進路希望を実現させるための生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒のモチベーションアップと学力保証を図る指導体制づくり ・教務部による長期休業日等の計画的な補習・講習の実施 ・教科による早朝、放課後、定期考査前後の補習・講習の実施 ・第1志望貫徹を主眼に、同窓生による進路講演会、国公立大学志望者激励会、受験体験を聴く会等の継続実施、安易に指定校推薦に流れない指導の徹底 ・最後まで頑張らせる直前対策講座(センター試験、2次試験向)実施
	進路データの管理と活用	<ul style="list-style-type: none"> ○データに基づく科学的な進路指導の充実 ・データの一元化(定期考査・模試・センター試験・大学合否情報等)、データを駆使した志望校検討会、進路個別面談、出願指導の実施 ・定期考査・模試の個人成績表作成(年5回) ・パソコンデータ分析システムの導入、教員研修の実施
特別活動	部活・行事と学習のメリハリの方策	<ul style="list-style-type: none"> ○学校行事・部活動と学習との高いレベルでの両立 ・部活動加入率90%以上を維持 ・生徒主体の運営で自主自立の精神を育成 ・行事・部活動で学校生活にリズムをつくり、集中力と切替への早さ育成 ・最終下校時間設定、効果的な時間活用を促す指導を徹底

平成23年度	平成24年度
<p>→継続・発展</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部模試を3年次第1回まで同一業者で実施、学力推移のデータ化・分析・報告を徹底、志望校検討会等で活用 教科指導(国数英)での模試活用の促進 	<p>→継続・発展</p> <ul style="list-style-type: none"> 3か年の学力推移を比較・分析・補強ポイントの確認 教科指導(国数英)での模試活用の拡充・強化
<p>→継続・発展</p> <ul style="list-style-type: none"> 模試・進路結果による教科指導計画の改善、進度・難度調整、定期考査問題・補助教材等の見直し・強化、各学年の課題と対策を次年度申し送り 模試分析による学年ごとの学力層の把握、課題抽出・共有化 成績上位層を対象とする補習・講習の実施 成績中・下位層を固定化させない方策の検討・実施 <p>・「日野台 a Mond Project」によるキャリア教育の見直し・強化</p>	<p>→継続・発展</p> <ul style="list-style-type: none"> 3か年の積み重ねによる教科指導計画の改善充実(教科指導のスタンダード化) 成績上位層を対象とする補習・講習の拡充・強化 成績中・下位層を固定化させない方策の拡充・強化 <p>・「日野台 a Mond Project」によるキャリア教育の3か年のまとめ、キャリア教育全体を見直し・強化</p>
<p>→継続・発展</p> <ul style="list-style-type: none"> 部活動と成績・進路・自宅学習との関係をデータ化、生徒・顧問・担任で共有、学習と部活動との両立支援 部活動保護者会での学習と部活動の両立支援 自学自習を促す環境整備の強化 	<p>→継続・発展</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習と部活動の両立支援を見直し・強化 自学自習を促す環境整備の見直し・強化
<p>→継続・発展</p> <ul style="list-style-type: none"> 3年間を見通した進路個別面談の計画策定、面談シラバス・面談準備シート・面談記録等の整備 進路懇談会の見直し・強化 	<p>→継続・発展</p> <ul style="list-style-type: none"> 進路個人面談計画の見直し・強化 個別面談記録のデータ化(個人カルテ作成)・閲覧等の検討
<p>→継続・発展</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者会での進路情報提供を「保護者向け進路学習会」として実施 部活動保護者会での学習と部活動の両立支援 	<p>→継続・発展</p> <ul style="list-style-type: none"> 3年間を見通した「保護者向け進路学習会」の計画策定、資料整備
<p>→継続・発展</p> <ul style="list-style-type: none"> 進学指導の重点目標に第1志望貫徹を位置付け 国公立大学志望者激励会を組織的・計画的に定期実施 直前対策講座の拡充・強化 	<p>→継続・発展</p> <ul style="list-style-type: none"> 国公立大学志望者激励会の見直し・強化
<p>→継続・発展</p> <ul style="list-style-type: none"> 蓄積データの管理・活用を検討、教科指導計画等へのフィードバック 部活動と成績・進路・自宅学習との関係をデータ化 パソコンデータ分析システムによるデータ管理、進路個別面談での活用 	<p>→継続・発展</p> <ul style="list-style-type: none"> 蓄積データの管理・活用を拡充・強化
<p>→継続・発展</p> <ul style="list-style-type: none"> 部活動と成績・進路・自宅学習との関係をデータ化、生徒・顧問・担任で共有、学習と部活動との両立支援 部活動保護者会での学習と部活動の両立支援 自学自習を促す環境整備の強化 	<p>→継続・発展</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習と部活動の両立支援を見直し・強化 自学自習を促す環境整備の見直し・強化

都立日野台高等学校 進学指導改善計画(2)

区分		具体的な取組内容と取組目標
		平成22年度
教員の 資質	校内における授業改善のための取組など	<ul style="list-style-type: none"> ○教務部を中心とした授業改善に向けた組織的な取組 ・シラバスの継続作成、印刷・製本し全校生徒に配布 ・3年間を見通した教科指導計画の策定(国数英) ・大学入試を前提とした質の高い授業、暗記より考えさせる授業の工夫 ・土曜授業(年間18回)の継続実施 ・大学進学を前提とした新教育課程の研究・策定
組織 体制	進学に係る組織体制の充実など	<ul style="list-style-type: none"> ○進路指導部を中心とした組織的な進学指導体制づくり ・進路懇談会(年間5回)、拡大進路指導部会(毎週)、志望校検討会(年2回)の実施、校内教員間の進学ノウハウの共有、継承 ・模試分析・報告の実施(年2回)、校内で学力推移を確認・共有 ・外部進学指導研修会参加(随時)・報告、最新進学情報の共有
入試年度		平成23年度入試
現役合格者数の目標	国公立大学	15人以上
	早・慶・上智	6人以上
	MARCH	80人以上

平成23年度		平成24年度	
→継続・発展 ・模試・進路結果による教科指導計画の改善 ・学力向上推進プランの策定、実施 ・新教育課程の策定、実施		→継続・発展 ・3か年の積み重ねによる教科指導計画の改善充実(教科指導のスタンダード化) ・学力向上推進プランの見直し・強化 ・外部機関による学習指導診断の実施 ・新教育課程の実施、大学入試との整合性再検討	
→継続・発展 ・進路懇談会の見直し・拡充・強化 ・志望校検討会の見直し・強化 ・進路指導部と学年の役割分担を再構築		→継続・発展 ・学力推移を分析・確認するシステムの確立、進学指導への活用	
平成24年度入試		平成25年度入試	
18人以上		20人以上	
8人以上		10人以上	
85人以上		90人以上	

ア 各進学指導重点校が設定した目標（抜粋）

区分	項目	3 か 年 の 目 標					
		平成23年度入試	平成24年度入試	平成25年度入試			
第1グループ	日比谷高校	センター試験	5教科7科目・6教科7科目の受験者数の増加。	約75% (240人) を目指す。	約80% (256人) を目指す。	80% (256人) 以上を目指す。	
			難関国公立大学等に合格可能な得点水準以上の者の受験者に占める割合の増加。	概ね2.5割 (80人) を目指す。	概ね3割 (96人) を目指す。	3割 (96人) 以上を目指す。	
		合格実績	難関国公立大学等の現役合格者数の増加。	45人以上を目指す。	50人以上を目指す。	55人以上を目指す。	
	西高校	センター試験	5教科7科目受験者	236人 (約74%)	244人 (約76%)	250人 (約78%)	
			難関国立大学等に合格可能な得点水準以上の者の受験者に占める割合	64人 (約20%)	73人 (約23%)	83人 (約26%)	
		合格実績	難関国立大学等の現役合格者	32人 (約10%)	41人 (約13%)	48人 (約15%)	
	国立高校	センター試験	5教科7科目受験者	200人 (322中) (62.1%)	220人 (328名中) (67.1%)	240人 (323名中) (74.3%)	
			難関国立大学等に合格可能な得点水準以上の者の受験者に占める割合	40人 (12.4%)	50人 (15.2%)	60人 (18.6%)	
		合格実績	難関国立大学等の現役合格者	25人 (7.8%)	30人 (9.1%)	40人 (12.4%)	
	第2グループ	八王子東高校	センター試験	5 (6) 教科7科目受験者	240人 (学年全体の75%)	240人 (学年全体の75%)	240人 (学年全体の75%)
				難関国立大学等に合格可能な得点水準以上の者の受験者に占める割合	50人 (5 (6) 教科7科目受験者の21%)	50人 (5 (6) 教科7科目受験者の21%)	60人 (5 (6) 教科7科目受験者の25%)
			合格実績	難関国立大学等の現役合格者	15人	15人	20人
戸山高校		センター試験	5教科7科目受験者	200人 (62.5%)	240人 (75.0%)	240人 (75.0%)	
			難関国立大学等に合格可能な得点水準以上の者の受験者に占める割合	・センター試験7科目平均得点率80%以上50人	・センター試験7科目平均得点率80%以上50人 ・センター試験全科目全国平均の125%以上目標	・センター試験7科目平均得点率80%以上50人 ・センター試験全科目全国平均の125%以上達成	
		合格実績	難関国立大学等の現役合格者	15人 (4.7%)	20人 (6.3%)	25人 (7.8%)	
第3グループ	青山高校	センター試験	5教科7科目受験者	140人 (約50%)	160人 (約57%)	170人 (約61%)	
			難関国立大学等に合格可能な得点水準以上の者の受験者に占める割合	8人 (約6%)	12人 (約7%)	15人 (約9%)	
		合格実績	難関国立大学等の現役合格者	11人 (約8%)	13人 (約8%)	17人 (約10%)	
	立川高校	センター試験	5教科7科目受験者	180人 (55%)	193人 (60%)	195人 (61%)	
			難関国立大学等に合格可能な得点水準以上の者の受験者に占める割合	26人 (8%)	28人 (9%)	31人 (10%)	
		合格実績	難関国立大学等の現役合格者	10人 (3%)	13人 (4%)	15人 (5%)	

イ 各進学指導特別推進校が設定した目標（抜粋）

区分	項目		3 か 年 の 目 標		
			平成23年度入試	平成24年度入試	平成25年度入試
小山台高校	センター試験	5教科7科目で受験する者の在籍者に占める割合	46.4%(130/280)	48.2%(135/280)	53.1%(170/320)
		難関国立大学等に合格可能な得点水準(80%)以上の者の受験者に占める割合	7.7%(10/130)	8.8%(12/135)	10.6%(18/170)
	合格実績	難関国立大学、国公立大学、難関私立大学等の現役合格者	難関国公立大6、国公立大40、難関私立大、40	難関国公立大6、国公立大45、難関私立大45	難関国公立大8、国公立大50、難関私立大55
駒場高校	センター試験	5教科7科目で受験する者の在籍者に占める割合	5教科7科目で受験する者の在籍者に占める割合29%(93名)	32%(102人)	32%(102人)
		難関国立大学等に合格可能な得点水準(80%)以上の者の受験者に占める割合	難関国立大学等に合格可能な得点水準(80%)以上の者の受験者に占める割合2%(6名)	2.5%(8人)	2.5%(8人)
	合格実績	難関国立大学、国公立大学、難関私立大学等の現役合格者	難関国立大学1、国公立大学43、難関私立大学(早慶上智)44	難関国立大学2、国公立大学45、難関私立大学(早慶上智)46	難関国立大学2、国公立大学45、難関私立大学(早慶上智)46
新宿高校	センター試験	5教科7科目で受験する者の在籍者に占める割合	90/320=28.42%	94/320=29.45%	120(最低3クラス分)/320=37.5%
		難関国立大学等に合格可能な得点水準(80%)以上の者の受験者に占める割合	10/100=10.0%	12/120=10.0%	15/120=12.50%
	合格実績	難関国立大学、国公立大学、難関私立大学等の現役合格者	難関国立大5(内、最難関大4)、国公立大40、早慶上理90、GMARCH210	難関国立大7(内、最難関大5)、国公立大45、早慶上理95 GMARCH220	難関国立大12(内、最難関大10)、国公立大50、早慶上理100 GMARCH230
町田高校	センター試験	5教科7科目で受験する者の在籍者に占める割合	29.0%(70名)	30.0%(75名)	32.0%(100名)
		難関国立大学等に合格可能な得点水準(80%)以上の者の受験者に占める割合	2.1%(5名)	2.4%(6名)	2.5%(8名)
	合格実績	難関国立大学、国公立大学、難関私立大学等の現役合格者	国公立大25、早慶上智12、MARCH130	国公立大28、早慶上智14、MARCH140	国公立大35、早慶上智18、MARCH165
国分寺高校	センター試験	5教科(6・7科目)で受験する者の在籍者に占める割合	22年度は、315人中120人(38%)が5教科(6・7科目)受験予定	23年度は、315人中140人(44%)の5教科(6・7科目)受験を目標とする。	24年度は、315人中160人(50%)の生徒の5教科(6・7科目)受験を目標とする。
		難関国立大学等に合格可能な得点水準(80%)以上の者の受験者に占める割合	22年度は、合格可能得点水準80%以上の者は、国語100人、数学50人、英語90人、地歴50人、公民20人、理科60人を目標とする。	23年度は、合格可能得点水準80%以上の者は、国語110人、数学60人、英語100人、地歴60人、公民25人、理科60人を目標とする。	24年度は、合格可能得点水準80%以上の者は、国語120人、数学65人、英語120人、地歴65人、公民30人、理科65人を目標とする。
	合格実績	難関国立大学、国公立大学、難関私立大学等の現役合格者	国公立大学は東大・一橋大・東工大などの難関大10人を含む70人の現役合格を目標とする。早稲田・慶應・上智などの難関私立大60人の現役合格を目標とする。	国公立大学は東大・一橋大・東工大などの難関大10人を含む80人の現役合格を目標とする。早稲田・慶應・上智などの難関私立大70人の現役合格を目標とする。	国公立大学は東大・一橋大・東工大などの難関大10人を含む90人の現役合格を目標とする。早稲田・慶應・上智などの難関私立大80人の現役合格を目標とする。

ウ 各進学指導推進校が設定した目標（抜粋）

区分	項目	3 か 年 の 目 標			
		平成23年度入試	平成24年度入試	平成25年度入試	
三田高校	合格実績	国公立大学	15人	20人	25人
		早慶上理	40人	45人	50人
		MARCH	110人	130人	150人
国際高校	合格実績	早慶上智	85人	85人	90人
		MARCH	90人	90人	90人
		国公立大学	25人	25人	28人
		海外大学進学	15人	15人	18人
豊多摩高校	合格実績	国公立大学	10人	12人	15人
		難関私立大学	5人	7人	10人
		GMARCH	35人	40人	45人
		日東駒専	45人	55人	65人
竹早高校	合格実績	国公立大学	22人	20人	25人
		早・慶・上・理	50人	55人	60人
		MARCH	125人	130人	140人
北園高校	合格実績	国公立大学	15人	20人	25人
		早・慶・上・理	20人	25人	30人
		MARCH	60人	70人	80人
墨田川高校	合格実績	国公立大学	19人	24人	29人
		早・慶・上・理	15人	20人	25人
		GMARCH	50人	60人	90人
城東高校	合格実績	国公立大学	30人	30人	30人
		早・慶・上・理	15人	20人	30人
		GMARCH	100人	120人	140人

区分	項目		3 か 年 の 目 標		
			平成23年度入試	平成24年度入試	平成25年度入試
小松川高校	合格実績	国公立大学	22人以上	25人以上	28人以上
		早・慶・上・理	15人以上	15人以上	15人以上
		GMARCH	70人以上	80人以上	85人以上
武蔵野北高校	合格実績	国公立大学	20人	25人	30人
		早・慶・上智	20人	25人	30人
		MARCH	120人	144人	150人
小金井北高校	合格実績	国公立大学	6人	10人	10人
		早・慶・上・理	15人	15人	15人
		GMARCH	75人	78人	80人
江北高校	合格実績	国公立・早慶上智	2人以上	3人以上	4人以上
		GMARCH+東京理科	20人以上	23人以上	26人以上
		日東駒専	65人以上	70人以上	75人以上
江戸川高校	合格実績	国公立・難関私立	3人	5人	10人
		GMARCH	20人	25人	30人
		大学進学率	70%	70%	70%
調布北高校	合格実績	国公立大学	8人	10人	15人
		早慶上理	10人	15人	20人
		MARCH	80人	100人	120人
日野台高校	合格実績	国公立大学	15人以上	18人以上	20人以上
		早・慶・上智	6人以上	8人以上	10人以上
		MARCH	80人以上	85人以上	90人以上

第7 中高一貫教育校の進学指導に関する取組

都教育委員会は、平成14年10月に策定した都立高校改革の新たな実施計画に基づき、中等教育学校5校、併設型5校、計10校の都立の中高一貫教育校を設置した。

都立の中高一貫教育校は、教養教育を重視し、将来の日本のリーダーとなり得る人材を育成しながら、総合的な学力を培うとともに、個の確立を図り、生徒の個性や創造性を伸ばす学校である。

1 中高一貫教育校の設置目的

都立中高一貫教育校が目指す教育は以下のとおりである。

- 6年間の一貫した教養教育を行うことで、総合的な学力を培うとともに、個の確立を図り、生徒の個性や創造性を伸ばす。
- 使命感・倫理観・社会貢献の心、日本人としてのアイデンティティなどこれからの日本人に求められる資質を育てる。
- 教養教育を重視しながら各校が特色ある教育を行うことを通じて、社会の様々な場面、分野で信頼されるリーダーとなり得る人材を育成する。

2 中高一貫教育校の種類

(1) 中等教育学校

一つの学校として6年間を通じた一貫教育を行う学校で、最初の3年間は前期課程、後の3年間は後期課程といい、後期課程からの入学者の募集は行わない。

(2) 併設型

都立高等学校と都立高等学校附属中学校を接続し、6年間を通じた一貫教育を行う学校で、附属中学校から接続している高等学校に進学する場合は、高校入試はない。また、接続している高等学校は、他の中学校からの入学希望者を受け入れるために高校入試を行う。

3 中高一貫教育校の設置状況

(平成22年4月1日現在)

区分	開校年度	完成年度	22年度現在在籍学年
富士高等学校・附属中学校	平成22年度	平成27年度	中学第1学年まで
大泉高等学校・附属中学校	平成22年度	平成27年度	中学第1学年まで
白鷗高等学校・附属中学校	平成17年度	平成22年度	高校第3学年まで
両国高等学校・附属中学校	平成18年度	平成23年度	高校第2学年まで
武蔵高等学校・附属中学校	平成20年度	平成25年度	中学第3学年まで
桜修館中等教育学校	平成18年度	平成23年度	第5学年まで
小石川中等教育学校	平成18年度	平成23年度	第5学年まで
南多摩中等教育学校	平成22年度	平成27年度	第1学年まで
立川国際中等教育学校	平成20年度	平成25年度	第3学年まで
三鷹中等教育学校	平成22年度	平成27年度	第1学年まで

4 都教育委員会による中高一貫教育校への支援策

(1) これまでの支援策

ア 教科指導・学力向上支援

(ア) 主要教科への教員加配（平成22年度から24年度まで）

中高一貫教育校前期課程における教科指導等を充実するため、平成22年度から平成24年度まで、各校に主要教科2名の教員を加配措置している。

具体的には、個人カルテの作成により、生徒一人一人の状況分析を行い、処方箋を作成するとともに、つまずきやすい単元内容などを明らかにし、より効果的な指導を行うための見直しを常に行う。なお、個人カルテに、生徒の秀でた能力についても記載し、個性の伸長にも活用していくことが可能である。

また、優れた学力を十分に伸ばし、生徒の高い進路実現のため、生徒ごとの処方箋に基づき特別な教材を活用した取り出し授業の実施や習熟度の更なる充実など、能力に応じた発展的な学習を推進する。なお、国際的なコンテスト等へ挑戦するための指導を行うなど、生徒の秀でた個性を伸長させていくことも可能となる。

なお、来年度にこの教員加配措置についての成果検証を行う予定である。

イ 進路指導・進学支援策

(ア) 進学指導研究協議会（再掲・P21参照）

都教育委員会では、都立学校の進学対策について研究協議を深めるとともに、教科指導及び進学指導の実践力を高め、都立学校の進学指導の充実に資するため、「進学指導研究協議会」を設置し、開催している。

中高一貫教育校に関わる学校についても、進学指導の充実のための校内の取組、私学及び他県の公立の進学校の取組、教員の進学指導力を向上させるための研修、予備校等との連携に関する事等について、研究協議を行っている。

ウ 人材育成・資質向上支援

(ア) 校長の人事構想を重視した人事異動（公募制人事）

中高一貫教育校については、6年間を見通した計画的・継続的な学習指導・進路指導・生徒指導によって総合的な学力を培うとともに、社会の様々な場面や分野においてリーダーとなり得る人材を育成することが課題であるため、これまでの校種にとらわれない新しい学校づくりに意欲と関心があり、6年間を見通した教科指導や大学等への進路希望を実現させる指導力のある教員を公募し、中高一貫教育校を担当する教員として配置している。

今後も、高い指導力と旺盛な意欲を備えた教員が中高一貫教育校で活躍できるよう人材の発掘も含めて取り組むことが必要である。

【中高一貫教育校への公募応募者数及び配置数】

(単位:人)

区分		平成19年度 (20年度異動)	平成20年度 (21年度異動)	平成21年度 (22年度異動)
応募者数		126	116	133
配置数	進学指導重点校・進学指導特別推進校からの異動者数	6	2	4
	進学指導推進校等進学関係校からの異動者数	21	8	13
	その他	19	23	20
	計	46	33	37

(イ) 異動基準の弾力的運用（平成22年度から実施）

現任校6年以上の主任教諭及び主幹教諭のうち、学習指導等に優れている者で、校長の人事構想上必要で、本人も残留を希望する者は、6名を限度に2年から5年までの範囲で異動対象としないことを認めることができるとしている。

(2) 今後の支援策の検討・実施

中高一貫教育校についても、進学指導重点校等に対する支援と同様に、必要な支援策を検討・実行していく（P22～P24参照）。

5 各中高一貫教育校の進学指導の取組状況について

都立の中高一貫教育校は、教養教育を重視しながら、特色ある教育を行うことを通じて、社会の様々な場面、分野で信頼されるリーダーとなり得る人材を育成することを目的としている。

各中高一貫教育校では、生徒の大学進学希望を踏まえた指導内容・指導方法の工夫を図っているところであり、進学指導推進委員会を通じて支援策の検討等を行い、その取組の改善を図っていく。

各中高一貫教育校毎の進学指導の現在の取組状況については、P 1 1 8 から P 1 6 8 に掲載している。

中高一貫教育校の 進学対策に関する取組状況

富士高等学校・附属中学校	・ ・ ・ ・ ・	1 1 9
大泉高等学校・附属中学校	・ ・ ・ ・ ・	1 2 4
白鷗高等学校・附属中学校	・ ・ ・ ・ ・	1 2 8
両国高等学校・附属中学校	・ ・ ・ ・ ・	1 3 4
武蔵高等学校・附属中学校	・ ・ ・ ・ ・	1 3 8
桜修館中等教育学校	・ ・ ・ ・ ・	1 4 3
小石川中等教育学校	・ ・ ・ ・ ・	1 4 8
南多摩中等教育学校	・ ・ ・ ・ ・	1 5 5
立川国際中等教育学校	・ ・ ・ ・ ・	1 6 0
三鷹中等教育学校	・ ・ ・ ・ ・	1 6 5

都立富士高等学校・附属中学校 進学対策に関する取組状況(1)

区分	項目	課程別・中高の連携状況	取組状況(現在の状況)
組織体制	進路指導部の体制について	中学・前期課程	主幹1名、主任教諭1名、その他学年より1名が進路を担当し、毎週火曜日の7時間目に中高合同の部会を行い情報交換を通して進路部と学年進路部との連携を強化している。
		高校・後期課程	主幹教諭を中心に、4名の専任と、各学年からの進路担当の3名を加え7名の体制で取り組んでいる。毎週、火曜日の7時間目に定例で拡大進路部会を実施し情報交換を行うことで、進路部と学年進路部との連携を強化している。
		中高(前期後期課程)の連携状況	中高一貫校の6年間の進路シラバスを策定している。高等学校の拡大進路部会に中学校の進路担当者が参加し中高相互の情報交換を行っている。
	進路指導に係る組織体制の充実策について	中学・前期課程	中高合同の進路部会を通して、進路計画の作成を行っている。また、中高合同の組織分担を明確にし学校経営計画と組織目標、個人目標との整合性を図るとともに常時取組状況を確認する。
		高校・後期課程	中高一貫校として組織的な進路指導が継続して行えるよう、進路部で積み上げてきた現在の指導体制が定着し運営していけるよう“運営マニュアル”を作成している。
		中高(前期後期課程)の連携状況	進路部の定例会において、相互の情報交換と現状分析を行い“運営マニュアル”に反映させる。
学習面	入学時からの生徒の学力推移の把握・分析について	中学・前期課程	学力定着度テストの実施(年3回)や定期考査について学力推移シートや学習振り返りシートを作成し、生徒一人一人の学力の定着度を把握している。
		高校・後期課程	学年進路が中心となり進路部が協力して模試の分析会を行い、生徒の学力把握と指導上の課題の確認を行っている。学習状況調査を入学時、高1・高2の年度末の3回実施。模擬試験を高1・高2は2回、高3は3回実施している。
		中高(前期後期課程)の連携状況	附属中学校での学力分析を高校での指導に役立てる成績処理システムを作成するための準備を行っている。
	学力上位層の維持のための方策について	中学・前期課程	数学・英語で少人数指導を行い個に応じた指導を行う。また、長期期間中を活用しての講習や授業ごとに予習プリント、演習問題を配布し学習習慣の徹底を図る。また、定期考査の復習や長期休業日中の課題等を出题範囲とした「総合考査」を実施する。
		高校・後期課程	英語(高1)数学(高2)習熟度別学習、定期考査の復習、長期休業中の課題、応用問題を出題範囲とした「総合考査」(高1、高2それぞれに9月と1月に実施している。)高3対象に朝7時から自習室の開放と授業のない土曜日の、講習(数学、物理)を実施している。
		中高(前期後期課程)の連携状況	習熟度・少人数授業及び、放課後自習室、夏期講習の教室を確保するため、年間計画を作成し、中高で連絡調整を行っている。
	学力下位層の伸長のための方策について	中学・前期課程	宿題の取組への指導や授業ごとの小テストの実施、追試の実施、放課後の補習を実施する。また、定期考査の他に「総合考査」を実施し生徒の弱点補強や学び直しを強化する。さらに、放課後の効果的な学習教室の実施や家庭学習調査による学習習慣の定着を図る。
		高校・後期課程	英語(高1)数学(高2)習熟度別学習、定期考査の復習、長期休業中の課題、応用問題を出題範囲とした「総合考査」(高1、高2それぞれに9月、1月に実施している。)長期休業日を利用した講習・補習(50講座)を実施している。
		中高(前期後期課程)の連携状況	附属中学校と高等学校で授業の持ち合いを行い、教科会で課題の共有化を図っている。

都立富士高等学校・附属中学校 進学対策に関する取組状況(2)

区分	項目	課程別・中高の連携状況	取組状況(現在の状況)
学習面	中だるみ防止の取組について	中学・前期課程	学習定着度テストの実施や探究活動を実施することで中だるみを防止する。また、キャリア講演会の実施や発展的な学習の取組を通して、効果的な時間の使い方をする。
		高校・後期課程	高1後半から高2の秋にかけて中だるみによる学力の低下が見られる。年間5回の定期考査と朝学習、朝テストによる、学習習慣の定着を図っている。高2の秋に外部講師による講演会と進路選択のための個別面接を実施し意欲の向上を図っている。
		中高(前期後期課程)の連携状況	中高一貫教育の問題点について研究協議会を開催。特に、中学3年と高校1年の2年間の学習・進路指導の直面する課題と対策をテーマとする。
	自宅学習時間の確保のための方策について	中学・前期課程	家庭学習調査の実施や学習と部活動との両立方法についての指導、復習・予習プリントの効果的な活用等をガイダンスする。また、自学自習を習慣化させるための「振り返りシート」を効果的に活用する。
		高校・後期課程	9月12月に調査し、自宅学習時間の確認を行う。生徒による授業評価を教科ごとにまとめて、学習に対する課題を分析し、改善策を検討し後期に実施、学習におけるPDCAサイクルの確立を図っている。
		中高(前期後期課程)の連携状況	中高連絡会を実施し、現状の把握と課題について確認を行っている。
	生徒に対する個別相談体制について	中学・前期課程	二者面談、三者面談を実施し、担任、養護教諭、スクールカウンセラーとの連携を通した教育相談を充実させる。また、相談しやすい雰囲気をつくりいつでも気軽に相談できる体制をつくる。
		高校・後期課程	入学、進級時に、各担任が個人面談を実施し、生徒の把握を行う。健康面については、健康調査をもとに課題のある生徒や希望者を中心に養護教諭が面接を行う。選択科目や進路に関する相談は、進路部と担任が連携して行っている。
		中高(前期後期課程)の連携状況	課題のある生徒については、中高で情報交換会を行い、情報の共有化を図っている。中学校に配置されたスクールカウンセラーを中心に研修会を実施している。
	習熟度別授業、補習・補講の実施状況について	中学・前期課程	1学年で数学・英語の少人数指導を実施している。また、放課後の補習、長期期間中を活用した補習、講習を行っている。
		高校・後期課程	1学年英語(OC I)、2学年数学(数学B)で習熟度別学習を実施している。長期休業日に全学年、全教科で年間50講座開校している。第3学年は、授業のない土曜日に補習を実施している。
		中高(前期後期課程)の連携状況	中高教務部会で、連絡調整を行い、教室の割り当て実施計画を作成する。
進路指導面	入学後の生徒の進路希望先の把握について	中学・前期課程	「自己理解」「将来像」を把握することで、進路希望調査を実施している。また、面談を通して学力の定着度を把握するとともに進路を考えさせる機会としている。
		高校・後期課程	各学年で実施する、外部模試に合わせて進路希望調査を実施している。1・2学年の9月に、選択科目の決定にあわせて、担任による面談を実施し、進路希望の確認を行っている。
		中高(前期後期課程)の連携状況	進路部の定例部会において、中高の現状について連絡を行い、現状について確認を行っている。

都立富士高等学校・附属中学校 進学対策に関する取組状況(3)

区分	項目	課程別・中高の連携状況	取組状況(現在の状況)
進路指導面	上記生徒の進路希望先について、学年が上がっても担任等は把握しているか。	中学・前期課程	進路部の担当者を通して、情報の共有化を図っている。
		高校・後期課程	外部模試の結果及び進路希望調査および学習状況等について情報は、データベースとしてシステム化されて保存されており、担任が交代しても活用できるようになっている。また、紙ベースの資料は各クラスごとにファイル化され、新担任に引き継いでいる。
		中高(前期後期課程)の連携状況	附属中学校から高校までの一貫したデータ処理が可能かどうか検討を行っている。
	進路希望を実現させるための進路指導の実施について	中学・前期課程	学習定着度テストなどの学力の把握を行うとともに適切な情報を収集する。また、生徒の進路を実現させるための適切な情報を収集するとともにきめ細かな指導を行う。
		高校・後期課程	今年度より、高校2年生までに全員が5教科7科目学べるように教育課程を変更した。進路部が主体となって、各学年で年会3回進路ガイダンスを実施している。外部講師や卒業生を招いての講演会の実施、進路の手引き、学習の手引きを作成し、成功例や体験談に接する機会を設けている。
		中高(前期後期課程)の連携状況	6年間の進路シラバスを作成し、総合的な学習の時間や学校行事の中で生徒の意思や意欲を高める指導を行っている。
	外部模擬試験の利用について	中学・前期課程	各学年とも年間3回の学習到達度テストを行う。
		高校・後期課程	学習状況調査(学力テスト)を入学時、高1・高2の年度末の3回実施。外部模試は高1・高2は2回、高3は3回実施している。
		中高(前期後期課程)の連携状況	中高の年間行事予定についてすりあわせを行い、行事計画に無理がないよう連絡調整を行っている。模試の変則的な時間割に柔軟に対応できるように、連絡調整を行っている。
	外部模擬試験の分析について	中学・前期課程	分析協議会の実施し学力の推移分析について考察する。
		高校・後期課程	外部模試の結果が返却された後、高1と高2は合同で、高3は単独で結果分析協議会を実施している。高1・高2は年間3回、高3は年間2回(内1回は出願指導検討会を兼ねる。)学年以外の担当者も参加して行っている。
		中高(前期後期課程)の連携状況	外部模試の教科による分析データを、各学年教科担当者が教科に持ち帰り、情報の共有化と弱点補強のための対策を検討し、教科指導に反映させている。
	外部模擬試験の分析結果に対する教員間の共通理解について	中学・前期課程	分析協議会で協議を行うとともに、その結果の要約を職員に配布することで情報を共有し、共通の課題意識が持てるようにする。
		高校・後期課程	外部模試の結果分析協議会で協議を行うと共に、その要約を職員に配布し情報を共有化を図っている。教科のPDCAの資料作成に際して、模試の結果分析を反映させるようにしている。
		中高(前期後期課程)の連携状況	中高合同の校内研修会で、情報の共有化を図っている。
	中高一貫教育校が目指す将来的なリーダー育成の実施状況について	中学・前期課程	生徒会活動、学校行事、委員会等について企画運営している。しかし現状は、高校生が企画し中学生がそれに倣う形になっている。リーダーが育ちにくいのが課題である。
		高校・後期課程	特別活動や行事の運営を、生徒が主体的に取り組めるように指導し、リーダーとしての資質に育成や、指示待ちではなく主体的な活動ができる生徒の育成に努めている。
		中高(前期後期課程)の連携状況	特別活動における6年間の指導計画の作成。中高合同の行事を通して、生徒の協力、相互理解の機会を設けている。

都立富士高等学校・附属中学校 進学対策に関する取組状況(4)

区分	項目	課程別・中高の連携状況	取組状況(現在の状況)
進路指導面	キャリア教育の実施状況について	中学・前期課程	「自分理解」、「自分の特性を理解」する指導や発達段階に応じたキャリア教育を各学年年1回実施する。中1のキャリアセミナーは「匠の世界 職人の生き方」
		高校・後期課程	総合的な学習の時間の柱の一つとしてキャリア教育を位置づけている。高1は保護者を講師に招いて「職業」について、高2は外部講師による「職業と人生」、高3は「大学におけるキャリア教育の実情と課題」についての講演会を実施している。
		中高(前期後期課程)の連携状況	中高一貫「6年間の進路シラバス」の作成
特別活動	部活と学習のバランスをとる方策について	中学・前期課程	家庭学習調査を行い中学1年生の段階から初期指導を徹底させる。例えば学習計画書の作成や学力推移シート及び振り返りシートで自分の生活を見直すことなどである。また、部活動と学習との両立を図るため、中1初期は部活動は週2回としている。
		高校・後期課程	家庭学習時間調査や振り返りテスト等を実施することで、自分の生活の実情を客観的に把握させ、自ら課題を見出し、対策を考え、行動に移せるようにしている。朝学習・朝テストを導入し、わずかな時間を利用して知識の定着ができるよう指導している。
		中高(前期後期課程)の連携状況	活動場所、活動日、活動時間の制限を設けている。また、考査前の活動停止期間の設定以外に、補習・講習は部活より優先するなど学校生活が部活だけに偏らないように指導している。
	行事と学習のバランスをとる方策について	中学・前期課程	家庭学習調査を行い中学1年生の段階から初期指導を徹底させる。例えば学習計画書の作成や学力推移シート及び振り返りシートで自分の生活を見直すことなどである。
		高校・後期課程	年間行事計画において、定期考査、行事をバランスよく配置し、学習と行事のいずれかに偏らないようにしている。行事の前の一定期間は行事に集中できるように、考査前は学習に集中できるようにしている。
		中高(前期後期課程)の連携状況	中高で、行事について情報交換を行い、行事と学習がバランスよく配置されるよう工夫している。
教員の資質	校内における授業改善のための取組について	中学・前期課程	授業観察を通して、自己申告面接で指導助言する。また、授業公開週間等で、中学高校の教員で授業を見合う研修や「評価評定」について理解する研修を行う。その研修を校内に位置づける。
		高校・後期課程	学力検査、学習状況により教科のPDCA(取組目標)を6月に策定している。生徒による授業評価7月、土曜授業学習状況調査の実施・現状の分析(check)をもとに、教科のPDCAの中間報告(後期の改善策)を作成している。12月に第2回生徒による授業評価及び学校評価を行い年間のまとめをおこなっている。学力向上推進委員会を選出(10月)し授業改善に取り組んでいる。
		中高(前期後期課程)の連携状況	生徒による授業評価は中高で実施し報告書を作成している。学力向上推進委員会は中高の教員が委員になっている。
	授業改善方法の中学(前期)と高校(後期)の違いについて	中学・前期課程	観点別学習状況、評定への理解を基にした授業展開ときめ細かな個に応じた指導。例えば、ノートの取り方点検、学習定着度を把握する授業改善の工夫や、関心・意欲を高める授業改善などである。また、下位層を補強し上位層を伸ばす指導を徹底すること
		高校・後期課程	講義主体の教え込みによる授業から、生徒が自ら学び意見を発表する授業への改善を推進している。学習の必要性を感じ、自ら考え学ぶために、生徒が難しいと感じる割合が80%以上になることを目標に授業改善を行っている。
		中高(前期後期課程)の連携状況	学力向上推進委員会による意見交換の実施

都立富士高等学校・附属中学校 進学対策に関する取組状況(5)

区分	項目	課程別・中高の連携状況	取組状況(現在の状況)
教員の資質	授業改善における課題について	中学・前期課程	中学生指導におけるきめ細かな指導と学習定着度の把握の仕方について。また下位層を補強する方法や、上位層を伸ばす指導の充実について。観点別評価、評定の理解と実践について
		高校・後期課程	授業における生徒の緊張感の維持とICTを授業で活用した授業の効率化を推進している。ICT機器の利用状況を現状の20%から50%以上に向上させる。全員がICT機器に習熟し活用できるよう研修会を実施している。
		中高(前期後期課程)の連携状況	中高合同で研修会を実施し課題の共有化と協力体制を整える。
生徒募集	広報活動の充実策について	中学	6月学校見学会、7月塾対象説明会、8月夏期体験授業、ミニ説明会、9月文化祭(個別相談)、10月、11月学校説明会、12月生徒会主催学校説明会。6月、11月授業公開週間。火・金放課後の学校見学会。HPの更新作業。小学校訪問
		高校	6月学校見学会、7月塾対象説明会、8月夏期体験授業、ミニ説明会、9月文化祭(個別相談)、10月、11月学校説明会、12月生徒会主催学校説明会。6月、11月授業公開週間。火・金放課後の学校見学会。HPの更新作業
		中高一貫校(中学・高校の連携状況)	附属中学校と高等学校で協力して、広報活動を行い、附属中学校と高等学校の情報を全ての教員が共有できるようにしている。

都立大泉高等学校・附属中学校 進学対策に関する取組状況(1)

区分	項目	課程別・中高の連携状況	取組状況(現在の状況)
組織体制	進路指導部の体制について	中学・前期課程	6年間を三期に分け、基礎充実期、挑戦期、創造期として、発達段階に合わせたキャリア教育を実施する。中学1年生では、自分の将来のあり方について関心を持ち、自己の能力・適性を知り、それを伸ばすことに意欲をもたせるよう取り組む(外部講師による講演会の実施・職業調べ・自己理解検査の実施)。 また、土曜講座のなかでキャリアに関する講演を実施していく。
		高校・後期課程	(高校1年)中学時に行った将来設計の再検討を行い、自己の適性について理解を深化させるとともに、外部講師による講演会を実施し、適切な勤労観や職業観を育成する(職業別ガイダンス・自己理解検査・大学研究・大学の講義受講)。
		中高(前期後期課程)の連携状況	高校の部会には、中学校のキャリア教育部が参加し情報を共有化している。また、本校では、10年先の進路を考えキャリア教育を実施することから、中学校と高校と常に連携を図っていく。
	進路指導に係る組織体制の充実策について	中学・前期課程	本校では、キャリア教育部に進路及びキャリア教育を担当させている。前期段階では、キャリア教育の充実を図っていく。
		高校・後期課程	3年間の進路指導計画を立て、年間の進行管理表と他の分掌・学年との調整表を作成しており、計画的な進路指導が図られるようになっている。
		中高(前期後期課程)の連携状況	高校の部会には、中学校のキャリア教育部が参加し情報を共有化している。また、本校では、10年先の進路を考えキャリア教育を実施することから、中学校と高校と常に連携を図っていく。
学習面	入学時からの生徒の学力推移の把握・分析について	中学・前期課程	・1年間に3回の外部の学力調査を実施していく。また、成績管理システムで学習個人データ表を定期考査ごとに作成するとともに、生徒一人一人に理解確認シート(国・数・社・理・英の5教科)を配付し自己点検をさせている。また、学習個人データ表に基づき、今後の学習指導(ガイダンス)を実施している。さらに、各種検定を活用して学力の向上を図っていく。 ・定期考査後には、全教員で生徒の学力に関する会議を実施し、今後の指導について検討会を実施している。
		高校・後期課程	1年間に3回の学力テストを実施していく。3年生では、全国模試を5回実施していく。
		中高(前期後期課程)の連携状況	成績管理システムを中学及び高校に導入する。生徒個人個人の成績データを6年間管理する。また、定期考査ごとに個人個人の課題を明確にして、学習ガイダンスに活用する。さらに、朝学習や個人個人に与える課題に反映させる。
	学力上位層の維持のための方策について	中学・前期課程	数学・英語においては、習熟度別授業を展開していく。 また、放課後は、教員が教室に常駐し理解が不十分な箇所の質問への対応や、発展的な学習の支援をしている(本校では、ティーチャー・イン・レディネスという)。さらに、外部の検定試験を活用して上位級へチャレンジさせていく。
		高校・後期課程	高校2年生段階から個々の進路に応じた学習に取り組ませていく。カリキュラムにおいても、演習を配置しより大学進学に対応した学習環境を整えていく。
		中高(前期後期課程)の連携状況	6年間一貫したカリキュラムを編成している。また、大学の入試変更も考慮し、学校設定科目を活用していく。
	学力下位層の伸長のための方策について	中学・前期課程	数学、英語においては、朝学習及び放課後において個別課題を指導している。また、ティーチャー・イン・レディネス(TIR)により放課後、数学と英語について対応している。また、振り返りの学習として、土曜演習を実施している。
		高校・後期課程	数学においては、朝学習を実施し、ウィークポイントの対応をしている。また、ティーチャー・イン・レディネスにより放課後、数学と英語について対応している。さらに、多くの夏季講座を設定し個別の課題に対応していく。
		中高(前期後期課程)の連携状況	個々の目標設定を丁寧にしていく。また、ウィークポイントの把握を自らが行えるようにするとともに、積極的に課題解決に取り組ませていく。

都立大泉高等学校・附属中学校 進学対策に関する取組状況(2)

区分	項目	課程別・中高の連携状況	取組状況(現在の状況)
学習面	中だるみ防止の取組について	中学・前期課程	生徒の興味関心を高める体験活動、土曜講座を実施し、自発的学習を促す学習指導を実施していく。
		高校・後期課程	内進生徒と高校入学生徒のクラス編成を混合クラスとする。ただし、一部については特別進学対応クラスの編成を考えていく。
		中高(前期後期課程)の連携状況	中学及び高校も2年次を要配慮時期として、目標を明確にさせ中だるみに対応していく。すでに、中学校段階から計画的な学習の習慣作りに力を入れて取り組んでいる。
	自宅学習時間の確保のための方策について	中学・前期課程	学力推移調査時における数値把握、定期考査時の学習時間の把握を行い、学習結果と学習時間の相関を明示するとともに、保護者会において広く家庭の協力を求めている。また、家庭学習時間を保障するため下校時間は17時、特別居残りの時間を午後17時30分としている。
		高校・後期課程	1年次に勉強学習を実施し、予習⇒講義⇒復習⇒テストを実施し、学習サイクルの重要性を理解させ、家庭学習時間の確保に努める。また、下校時間を5時、完全下校時間を17時30分として、家庭学習時間を保障する。
		中高(前期後期課程)の連携状況	下校時間は、17時としている。 なお、特別居残りに限り17時30分としている。
	生徒に対する個別相談体制について	中学・前期課程	学習・学校生活についての三者面談は夏季休業前に実施し、学習個人記録に基づいて個別指導を実施した。また、勉強合宿を中学1年で実施し家庭学習に一定の成果を上げている。さらに、心の相談については、生徒の日常的な状況を把握し、変化が見られるときにはカウンセラーとの相談を実施するとともに、生徒に関する情報交換会を実施し情報の共有化を図っている。
		高校・後期課程	今年度より心の相談チームを発足し、早期の対応が出来る体制を整えた。また、生徒に関する情報交換会を実施し情報の共有化を図っている。
		中高(前期後期課程)の連携状況	生活指導部、進路指導部(キャリア教育部)、学年との意思疎通を図るとともに、分掌会議を共に実施している。
	習熟度別授業、補習・補講の実施状況について	中学・前期課程	日常的には、TIRの実施、及び、土曜演習の時間で対応している。また、夏季休業期間中に勉強合宿(2泊3日)を実施した。数学の不得手なものには朝学習より前の時間帯で補習を実施している。
		高校・後期課程	朝補習、土曜補習、夏季講座(今年度46講座開講)を実施している。
		中高(前期後期課程)の連携状況	個々人の課題については、成績管理システムにより把握している。中学校のデータ、高校のデータも一元管理できるように努めている。
進路指導面	入学後の生徒の進路希望先の把握について	中学・前期課程	入学当初に実施している。また、自己理解検査を実施している。
		高校・後期課程	入学当初に実施している。また、自己理解検査を実施している。
		中高(前期後期課程)の連携状況	生徒個々人のデータを経年で管理している。
	上記生徒の進路希望先について、学年が上がっても担任等は把握しているか。	中学・前期課程	成績データを中高同一のシステムで管理していく。
		高校・後期課程	成績データを中高同一のシステムで管理していく。
		中高(前期後期課程)の連携状況	成績データを中高同一のシステムで管理していく。

都立大泉高等学校・附属中学校 進学対策に関する取組状況(3)

区分	項目	課程別・中高の連携状況	取組状況(現在の状況)
進路指導面	進路希望を実現させるための進路指導の実施について	中学・前期課程	生徒一人一人に興味関心を高める指導を意図的に実施している。科学的な講座内容を多くした土曜講座を実施し、生徒の興味関心を広げている。さらに、interesut(生徒の興味関心を高める通信)を現在まで43号を発行し興味関心を高めている。
		高校・後期課程	通常の保護者会以外に進路保護者会を実施している。十分な進路情報を提供するとともに、家庭での支援ができるよう周知している。
		中高(前期後期課程)の連携状況	中学校における生徒希望を確実に高校に引き継いでいく。
	外部模擬試験の利用について	中学・前期課程	年3回学力調査を実施する(同一会社)。
		高校・後期課程	1年・2年には、年4回外部模試を実施している。3年では、6月模試、7月模試、9月全国模試、10月模試、11月模試を実施している。
		中高(前期後期課程)の連携状況	6年間の模試実施計画を作成している。
	外部模擬試験の分析について	中学・前期課程	模試実施後に分析会を実施している。
		高校・後期課程	模試実施後に分析会を実施している。
		中高(前期後期課程)の連携状況	現在の高校生のウィークポイントを把握し、中学及び高校で情報を共有化している。
	外部模擬試験の分析結果に対する教員間の共通理解について	中学・前期課程	全員が共通情報を持つように努めている。また、学習課題については教科内で対応策を講じるようにしている。
		高校・後期課程	全員が共通情報を持つように努めている。また、学習課題については教科内で対応策を講じるようにしている。
		中高(前期後期課程)の連携状況	中学校、高校それぞれの模試結果をすべての教員が把握している。
	中高一貫教育校が目指す将来的なリーダー育成の実施状況について	中学・前期課程	授業では、意図的に学習集団を小集団化させている。探究活動の中では、ジグソー活動なども取り入れ、リーダー経験を多く実感させていく。土曜講座における講演を実施している。生徒会の自主的運営をサポートしていく。
		高校・後期課程	授業では、意図的に学習集団を小集団化させている。探究活動の中では、ジグソー活動なども取り入れ、リーダー経験を多く実感させていく。土曜講座における講演を実施している。生徒会の自主的運営をサポートしていく。
		中高(前期後期課程)の連携状況	中学段階から高校段階への計画的な育成を図っていく。
	キャリア教育の実施状況について	中学・前期課程	6年間を三期に分け、基礎充実期、挑戦期、創造期とした。中学1年生では、自分の将来の在り方について関心をもち、自己の能力・適性を知り、それを伸ばすことに意欲をもたせる取り組む。(外部講師による講演会の実施・職業調べ・自己理解検査の実施)
		高校・後期課程	現在は、職業調べ、外部講師及び卒業生、同窓生による講演会を実施してキャリア形成への支援を行っている。
		中高(前期後期課程)の連携状況	6年間の系統的なキャリア教育計画を作成し今年度から実施している。

都立大泉高等学校・附属中学校 進学対策に関する取組状況(4)

区分	項目	課程別・中高の連携状況	取組状況(現在の状況)
特別活動	部活と学習のバランスをとる方策について	中学・前期課程	1週間のうち2回は、TIRに参加する。下校時間は17時としている。
		高校・後期課程	下校時間は、最終時間を17時30分としている。
		中高(前期後期課程)の連携状況	家庭学習確保については、全ての学年の保護者会において周知し、家庭における家庭学習の支援を呼びかけている。
	行事と学習のバランスをとる方策について	中学・前期課程	土曜日の活用を積極的に行っている。また、体育祭・文化祭・合唱コンクールを学期ごとに配置しバランスをとっている。
		高校・後期課程	体育祭(5月)、文化祭(9月)、修学旅行(2年1月)と学習に集中できるように行事を配置している。
		中高(前期後期課程)の連携状況	体育祭、文化祭は、中学と高校が同時開催している。
教員の資質	校内における授業改善のための取組について	中学・前期課程	相互の授業参観の実施、生徒の授業評価による指導実施。
		高校・後期課程	相互の授業参観の実施、生徒の授業評価による指導実施。
		中高(前期後期課程)の連携状況	相互の授業参観の実施、生徒の授業評価による指導実施。
	授業改善方法の中学(前期)と高校(後期)の違いについて	中学・前期課程	中学においては、体験的な活動や興味関心を高める授業を多く取り入れさせている。また、プレゼンテーション能力の育成や論理的な思考を行う授業の取組を推進している。
		高校・後期課程	興味関心を高める授業及び、生徒の活動の多い授業を推進している。
		中高(前期後期課程)の連携状況	中学籍の教員に大学進学についても研究させ、意識を持たせていく。
	授業改善における課題について	中学・前期課程	中学校教員の専門性を高めること。
		高校・後期課程	大学進学指導力を高めること。
		中高(前期後期課程)の連携状況	中学籍の教員に大学進学についても研究させ、意識を持たせていく。
生徒募集	広報活動の充実策について	中学	ホームページの積極的な更新を実施している。小学校6年生の保護者及び児童対象に年2回学校便りを送付している。塾・予備校が実施している説明会に積極的に参加している。
		高校	ホームページの積極的な更新を実施している。中学生を対象に年2回学校便りを作成している。
		中高一貫校(中学・高校の連携状況)	中学においては高校の広報、高校においては中学校の広報を行うとともに、「学校説明会」については、同一日に時間帯をずらして実施している。

都立白鷗高等学校・附属中学校 進学対策に関する取組状況(1)

区分	項目	課程別・中高の連携状況	取組状況(現在の状況)
組織体制	進路指導部の体制について	中学・前期課程	<ul style="list-style-type: none"> ・附属中学校の進路指導部は、キャリア教育に力点を置いた運営を行っている。現在、高校の進路指導主任も常時参加し、大学進学を意識した進路指導体制の検討を行っている。 ・キャンパスが離れているが、中高一貫の進路指導部体制を構築する。 ・附属中学では、現行のキャリア教育の充実を図るとともに、学校行事についても進路指導部からの意見を吸い上げ実施している。
		高校・後期課程	<ul style="list-style-type: none"> ・進路行事(大学訪問等)が学年主導となっていたが、進路指導部主導が中心となった体制へ切り替え実施している。 ・1・2年生は1・2・3学期とも全て同一の業者の模試を実施し、高校入学時からの推移の比較、学年間の比較をできるようにしている。3年生については、別の業者の模試を2回実施している。高校にも附属中学同様、模試の経年変化を確実に分析出来るよう個人カルテの導入を検討している。 ・進路室に常時職員等が配置可能か試行を行っている。職員等の常駐化による利用率の向上を図り、生徒からの質問等に答える環境を整備している。
		中高(前期後期課程)の連携状況	<ul style="list-style-type: none"> ・6年間のスパンによるキャリア教育の全体計画を構築し、実施している。 ・中高一貫教育校としての付属中学の生徒の学力データ集積し、個人カルテを作成し教職員間の共通理解を図っている。 ・中高の進路指導を今後一元化する検討を行っている。
	進路指導に係る組織体制の充実策について	中学・前期課程	<ul style="list-style-type: none"> ・外部模試等を利用し、生徒の授業理解を確認し、長期休業中の講習・補講を計画的に立案し実施している。 ・進路部の学年への関わり方を強化(行事運営からコンセプト伝達へ) ・附属中学校全教員による研修会で、分析方法等を理解し、授業改善に生かす試みを実施している。
		高校・後期課程	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導部を中心に模試分析会を行い、学年・教科・管理職の現状理解は定着しつつある。 ・分析会を受けた個人面談や保護者を含めた三者面談も定着している。 ・今後生徒の状況に応じた個別指導を組織的に出来るか、補講も含め検討していく予定である。
		中高(前期後期課程)の連携状況	<ul style="list-style-type: none"> ・キャンパスが離れているが、中高それぞれの進路指導計画を共通理解を図るため、進路指導部一元化の検討も視野にいれて検討する。 ・都立高校以外の学校の視察ができるよう教員研修の充実を図った(4校述べ15人視察)。
学習面	入学時からの生徒の学力推移の把握・分析について	中学・前期課程	<p>[学年]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入選時、定期テスト、宿題テスト、実力テスト等の把握を行い、入学時からの授業の理解度の検証を行い、個人カルテの充実を図る。 <p>[教務部・進路部]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年間の経年変化の対比ができるようデータを集積し、各教科の授業改善に役立っている。
		高校・後期課程	<p>[学年]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入選時、定期テスト、宿題テスト、実力テスト等の把握を行い、入学時から学力把握を行い、高校からの入学生も含め個別生徒の偏差値推移を確認する。 <p>[教務部・進路部]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年間の経年変化の対比ができるようデータを集積し、各教科の授業改善に役立るとともに、夏季休業期間を中心に補習を75講座以上実施している。また、難関国公立大対策講座も実施した。
		中高(前期後期課程)の連携状況	<ul style="list-style-type: none"> ・進路部を中心とした上記の一元化を検討
	学力上位層の維持のための方策について	中学・前期課程	<ul style="list-style-type: none"> ・上位層生徒対象の講習の充実 ・上位層生徒を中心としてリーダー能力向上の指導
		高校・後期課程	<ul style="list-style-type: none"> ・上位層各々の能力に応じた個別指導の実施している。 ・難関大学志望のモチベーションがレベルダウンをせぬよう難関大学模試等の積極的導入を図っている。 ・教科担当者は受け持ちの学年の学力等の把握に努めている。
		中高(前期後期課程)の連携状況	<ul style="list-style-type: none"> ・附属中学校では、基礎学力等の確実な定着と発展的な学力を伸ばさせ、学校全体として学力の向上を図っている。高校では中学で身につけた学力を更に向上させるため、上位層を意識した授業、講習の開設を行っている。 ・授業力の向上と個人カルテを使用し、早期からの上位層育成体制の構築し、難関大学を意識した授業、補習を行っている。

都立白鷗高等学校・附属中学校 進学対策に関する取組状況(2)

区分	項目	課程別・中高の連携状況	取組状況(現在の状況)
学習面	学力下位層の伸長のための方策について	中学・前期課程	<ul style="list-style-type: none"> 定期テスト、小テストの各教科毎に学力を把握し、結果が思わしくない生徒には、合格点に達するまで追試を実施している。 東大生・東大大学院生チューターによる個別指導を週5回行い、モチベーションの向上を図る。 進路指導部を中心として学習時間調査を継続して行っており、状況によっては面接指導実施している。 不得意分野の講習の充実を図り、苦手分野克服することにより生徒の自信を高めるよう努めている。
		高校・後期課程	<ul style="list-style-type: none"> 定期テスト、小テストの不良者に合格点に達するまで追試を実施している。 東大生・東大大学院生チューターによる個別指導を週2回行っている。 進路指導部を中心に学習時間調査を継続して行い、個別面接指導も取り入れている。 進路実現のための必要な学習プランを示しており、課題となっていることを明らかにしたうえで、指名制の補習を行っている。
		中高(前期後期課程)の連携状況	<ul style="list-style-type: none"> 個々の生徒の状況に応じた授業、指名制補習の充実を図っている。 不得意科目の克服のため、生徒の学力の実態把握を早期に行う。 中学校段階における到達基準の設定を行い、学力把握を行っている。
	中だるみ防止の取組について	中学・前期課程	<ul style="list-style-type: none"> 中学3年12月段階での学力テストの導入と未到達者に対する補習指導を行う。 上位学年を意識した授業展開の充実を図る。
		高校・後期課程	<ul style="list-style-type: none"> 高入生の入学による外部刺激の利用 進路指導部を中心として進路講演会、卒業生による進路懇談会等の充実を図っている。 勉強合宿を行い、ノートの取り方、勉強の方法を含めた指導を行い、生徒自ら発展的な課題に立ち向かう習慣を身に付けさせる。
		中高(前期後期課程)の連携状況	<ul style="list-style-type: none"> 中3学力テストによる未到達者の把握を中高全体で行う。 進路行事東大訪問等によりモチベーションの維持を行う。
	自宅学習時間の確保のための方策について	中学・前期課程	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導部が中心となり、学習時間を定期的に把握している。 担当教科で、自宅学習を支援する課題、宿題、週末課題の充実を図っている。
		高校・後期課程	<ul style="list-style-type: none"> 予習ノート、復習ノートを作成させ、定期テスト前に提出させている。 授業評価の際、学習時間調査の実施している。 学習時間確保の為、下校時刻を厳守させる。
		中高(前期後期課程)の連携状況	<ul style="list-style-type: none"> 学習時間確保の為の中高一体となった教員指導体制の構築を行っている。
	生徒に対する個別相談体制について	中学・前期課程	<ul style="list-style-type: none"> 担任による定期面談週間(2者面談・3者面談)を行っている。 スクールカウンセラーによる入学時集団面接と希望制個別面接を行っている。
		高校・後期課程	<ul style="list-style-type: none"> 担任による定期面談週間(2者面談・3者面談)を行っている。 進路室における進路相談は常時行っている。 外部講師を招き、教職員による個別指導のスキルアップ研修を行い、相談体制の充実を図る。
		中高(前期後期課程)の連携状況	<ul style="list-style-type: none"> 面談による生徒情報を教員間で共有化している。

都立白鷗高等学校・附属中学校 進学対策に関する取組状況(3)

区分	項目	課程別・中高の連携状況	取組状況(現在の状況)
学習面	習熟度別授業、補習・補講の実施状況について	中学・前期課程	<ul style="list-style-type: none"> ・指導方法工夫改善加配に基づく少人数授業の実施 ・数学 1、2年2クラス3展開 単純分割 ・英語 1、2、3年1クラス2展開 単純分割 ・下位者対象指名制補習、上位者対象、希望者対象の講習実施 ・特別枠数学入学者に対する講習の実施 ・特別枠英語入学者に対する取り出し授業の実施
		高校・後期課程	<p>[習熟度別授業]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数学Ⅱ及び数学Bで、3クラス4展開(文)、2クラス4展開(文・理)、1クラス2展開(理)の10展開の習熟度別授業を実施 ・OCⅠで、2クラス3展開を4クラスで習熟度別授業を実施 ・英語Ⅰで1クラス2展開を2クラスで少人数授業を実施 ・理科(生物)で少人数授業を実施 <p>[補習・講習]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬試験の際、過去問演習の講習を実施 ・夏期講習、冬期講習、春期講習 ・補習(朝、放課後)
		中高(前期後期課程)の連携状況	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数展開授業の意義を踏まえ授業の改善 ・講習等の充実による各層生徒の学力向上の共通理解
進路指導面	入学後の生徒の進路希望先の把握について	中学・前期課程	<ul style="list-style-type: none"> ・定期面談時の希望聴取
		高校・後期課程	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に進路希望調査を実施している。 ・外部模試の際、進路先の把握をしている。 ・大学教員による出張講義の際の分野希望調査の実施をしている。
		中高(前期後期課程)の連携状況	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導部からのデータを基に、面談の一層の拡充を図っている。
	上記生徒の進路希望先について、学年が上がっても担任等は把握しているか。	中学・前期課程	<ul style="list-style-type: none"> ・学年担任の継続任用による一貫した指導体制に努めている。 ・学年会による生徒情報の交換による情報の共有化を図っている。
		高校・後期課程	<ul style="list-style-type: none"> ・学年担任による定期面談時にカードを個々に作成し記入している。 ・進路室での進路指導部の教員との面談の結果の情報の共有化を図っている。
		中高(前期後期課程)の連携状況	<ul style="list-style-type: none"> ・学年担任の継続任用による一貫した指導体制に努めている。 ・学年会による生徒情報の交換による情報の共有化を図っている。 ・生徒カードの活用について教員間で共通理解を図っている。
	進路希望を実現させるための進路指導の実施について	中学・前期課程	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の充実を図り、早期の難関大学進学希望の把握に努めている。 ・個々の生徒の状況を把握し、保護者面談時の上位層への難関大学挑戦の意向を確認している。
		高校・後期課程	<ul style="list-style-type: none"> ・成績が思っている程伸張せず志望校を下げがちな高校3年生の2学期の重点指導を行い、今後の課題を明らかにし取り組むべき方向性を示し、モチベーションを上げることに努めている。 ・指定校推薦等の安易な受験回避を教職員が一致して指導する体制をとっている。
		中高(前期後期課程)の連携状況	<ul style="list-style-type: none"> ・常に外部模試等を活用し、難関国公立大学を意識した進路指導を行っている。

都立白鷗高等学校・附属中学校 進学対策に関する取組状況(4)

区分	項目	課程別・中高の連携状況	取組状況(現在の状況)
進路指導面	外部模擬試験の利用について	中学・前期課程	<ul style="list-style-type: none"> ・入学時、各学年末に外部実力テストを実施し指導改善に努める。 ・各教科の診断を行い、学力の向上を図る。 ・例年統一、定形化された外部模試の実施
		高校・後期課程	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科の診断を行い、学力の向上を図る。 ・例年統一、定形化された外部模試の実施し経年で個々の学力推移を把握している。 ・センター検討会、進学懇談会(卒業学年の総括)、年3回実施される学年検討会等で分析、経年変化の動向に用いている。
		中高(前期後期課程)の連携状況	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年において実施する模擬試験等のそれぞれの位置づけの明確化にしている。 ・年度間の成績比較による弱点教科等の把握とそれに応じた指導の充実に努めている。
	外部模擬試験の分析について	中学・前期課程	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬試験結果について、実施業者による分析結果報告会し、授業改善等を充実させる。
		高校・後期課程	<ul style="list-style-type: none"> [各教科]・各設問ごとの正解率を分析し、その弱点分野の補強に努めている。 [各学年]・受け持ち生徒の状況の把握を行っている。 [進路部]・経年変化や他校比較の分析を行っている。
		中高(前期後期課程)の連携状況	<ul style="list-style-type: none"> ・分析結果をもとにした授業改善について教科間で共通理解に努めている。
	外部模擬試験の分析結果に対する教員間の共通理解について	中学・前期課程	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬試験結果について、実施業者による分析結果報告会 ・分析結果による学年及び教科の指導改善 ・上位層を意識した個別指導の充実
		高校・後期課程	<ul style="list-style-type: none"> [各教科]・教科会で分析し学年へ報告 [各学年]・生徒の状況の把握 [進路部]・学年検討会、定点観測会等の主催
		中高(前期後期課程)の連携状況	<ul style="list-style-type: none"> ・各生徒の学力分析の充実 ・分析結果をもとにした授業改善 ・分析結果をもとにした上位層生徒への指導強化
	中高一貫教育校が目指す将来的なリーダー育成の実施状況について	中学・前期課程	<ul style="list-style-type: none"> ・授業、学校行事、部活動等あらゆる機会を通してリーダーシップを発揮する場面を多く設ける。 ・上位学年による下級生指導を通じてコミュニケーション能力の伸長を図る。
		高校・後期課程	<ul style="list-style-type: none"> ・進路講演会(各界で活躍している方々のお話) ・進学懇談会(難関大学・大学院に進んだ卒業生で特に有望な者を招き話を聞く。) ・特別枠で入学し各界で活躍している在校生の存在
		中高(前期後期課程)の連携状況	<ul style="list-style-type: none"> ・中学3年生の指導の充実と中高全体における考えの共有化 ・リーダーシップを発揮する場面を多く設ける。 ・特別枠生徒の指導の充実と活躍する場面の充実

都立白鷗高等学校・附属中学校 進学対策に関する取組状況(5)

区分	項目	課程別・中高の連携状況	取組状況(現在の状況)
進路指導面	キャリア教育の実施状況について	中学・前期課程	<ul style="list-style-type: none"> ・上野浅草校外学習、伝統文化体験、職場体験、職業講話、東京大学訪問、各宿泊行事等の活用し、将来の自分の職業について意識させる。 ・発表学習、新聞作りによるプレゼンテーション能力の向上
		高校・後期課程	<p>[教科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭生活、食生活、社会福祉等、保育実習、将来設計(家庭総合) ・インターネット活用(情報)・ボランティア体験(奉仕) ・英語スピーチコンテスト、英語プレゼンテーション(英語) ・発表活動(公民・現社) <p>[進路関係]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早期推薦決定者に義務づけている卒業研究 ・進路講演会(著名人の話)、進学懇談会(卒業生の話) ・進路希望調査 <p>※上記の実施により進路について考えさせる。</p>
		中高(前期後期課程)の連携状況	<ul style="list-style-type: none"> ・6年間のスパンによるキャリア教育の全体計画の構築
特別活動	部活と学習のバランスをとる方策について	中学・前期課程	<ul style="list-style-type: none"> ・最終下校時刻を18時に設定し、自宅学習時間の確保を促している。最終下校時刻に教員が校門に立ち、下校指導を行っている。 ・部活動顧問による部活動と学習との両立や学習時間の確保についての指導を実施
		高校・後期課程	<ul style="list-style-type: none"> ・最終下校時刻を18時に設定し、自宅学習時間の確保を促しているが、下校時刻に遅れる生徒が多数いる。
		中高(前期後期課程)の連携状況	<ul style="list-style-type: none"> ・メリハリのきいた生活時間の確立のため、部活動の時間の厳守を行っている。 ・本校の部活動に対する考え方を明確にし、共有化する。
	行事と学習のバランスをとる方策について	中学・前期課程	<ul style="list-style-type: none"> ・行事設定期間を工夫し、学習に専念できる時期を設定している。
		高校・後期課程	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動の妨げにならないように、行事を精選し、時期を調整している。
		中高(前期後期課程)の連携状況	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の教育活動の中心は学習指導であるということを共通理解とし、学習との両立を前提とした生徒指導に当たるようにしている。
教員の資質	校内における授業改善のための取組について	中学・前期課程	<ul style="list-style-type: none"> ・進学指導と関連した授業内容等の研究会を行い、進路指導につなげている。 ・私立学校を訪問し、授業見学を行うとともに、協議会を設けて互いの授業についての課題を指摘し合い、授業改善につなげている。 ・授業改善推進プランを作成し、各教科の課題と改善策を考えている。
		高校・後期課程	<ul style="list-style-type: none"> ・進学指導と関連した授業内容等の研究会を行い、進路指導につなげている。
		中高(前期後期課程)の連携状況	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスにより、6年間を見通した授業計画を立案している。 ・私立学校を訪問したり、他校を招いたりして、各教科代表が相手校と協議を行って授業計画の見直しを行う。

都立白鷗高等学校・附属中学校 進学対策に関する取組状況(6)

区分	項目	課程別・中高の連携状況	取組状況(現在の状況)
教員の資質	授業改善方法の中学(前期)と高校(後期)の違いについて	中学・前期課程	<ul style="list-style-type: none"> 各教科で都や国実施の学力調査や東京ミニマムをもとに、現状と課題について出したものを基に授業改善推進プランを作成している。 単元ごとの指導計画と評価計画を作成して、授業方法について統一を図っている。
		高校・後期課程	<ul style="list-style-type: none"> 教科内での検討会の実施
		中高(前期後期課程)の連携状況	<ul style="list-style-type: none"> 中学校で行っている授業改善推進プランの作成を高等学校にも広める。
	授業改善における課題について	中学・前期課程	<ul style="list-style-type: none"> 教科ごとの人数が多く、東西校舎の教員が一堂に会して教科研究を行う機会が少ない。 一人当たり3コマ以上他の教員の授業を見ることを年度当初に全教員に課している。
		高校・後期課程	<ul style="list-style-type: none"> 授業改善のための各教科での話し合いを持つ時間を十分とることがなかなかできない。
		中高(前期後期課程)の連携状況	<ul style="list-style-type: none"> 先進校が都立にはないため、私立学校に訪問し、授業観察と教科担当者同士の協議会を実施した。 東西校舎間の移動時間等が研修時間の設定や教科会の設定に大きな支障となっている。
生徒募集	広報活動の充実策について	中学	<ul style="list-style-type: none"> 受験層のニーズに合わせて説明内容を変え、広報している。 教育内容説明の際に、適性検査で求めていることとの関連を図ることで、本校の教育方針を理解しやすいように工夫している。 生徒による学校紹介を行い、本校の実態をよりわかりやすく提示している。
		高校	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は校外の広報、塾訪問に特に力を入れている。また、校内における見学会や学校説明会の機会も増えた。ホームページ更新も週に1回以上行い、広報に努めている。
		中高一貫校(中学・高校の連携状況)	<ul style="list-style-type: none"> 高校募集に対する広報で、本校中学生による学校紹介等を行い、本校の中入生について理解しやすくしている。 中高の各説明会では、両校について必ず説明することで6年間一貫の教育について理解できるよう工夫している。

都立両国高等学校・附属中学校 進学対策に関する取組状況(1)

区分	項目	課程別・中高の連携状況	取組状況(現在の状況)
組織体制	進路指導部の体制について	中学・前期課程	昨年度まで担任が兼務していた進路主任を、今年度から中学進路主任を独立させ、中高を見通した中学3年間の進路指導計画を作成している。
		高校・後期課程	進路資料の作成、大学教授等による模擬授業の実施、講演会の開催など国公立大学、難関私立大合格へ向けた進路指導を学年と連携し行っている。
		中高(前期後期課程)の連携状況	今年度から中学進路主任が、進路部会に参加し、中高連携ができるように指導計画を作成している。
	進路指導に係る組織体制の充実策について	中学・前期課程	昨年度まで担任が兼務していた進路主任を、今年度から中学進路主任を独立させ、中高を見通した中学3年間の進路指導計画を作成させている。
		高校・後期課程	進路指導部のプロパー6名のほか、各学年担任団の中に進路担当を置き、両者の連携を図っている。
		中高(前期後期課程)の連携状況	今年度から中学進路主任が、進路部会に参加し、中高連携ができるように指導計画を作成している。
学習面	入学時からの生徒の学力推移の把握・分析について	中学・前期課程	年5回の定期考査の他、全学年で4月、10月、3月、さらに中学3年で7月に外部の学力テストを実施し、学力の変化を把握・分析している。
		高校・後期課程	1年次2回、2年・3年次各3回の自校作成実力考査の実施及びそのデータの蓄積、さらに外部模試のデータから、その経年変化や学年比較も加え、進路指導に生かしている。
		中高(前期後期課程)の連携状況	中学3年の最後に自校作成問題の実施。高入生との比較。第1学年4月に外部業者が行う学力状況調査システムの実施。これと高校1年の中間考査を分析し、中入生、高入生の特徴の把握を行う。
	学力上位層の維持のための方策について	中学・前期課程	数学では、習熟度別授業の実施。土曜日の講習(授業以外のとき)及び夏期休業中の講習にて、上位向け講習を実施
		高校・後期課程	数学、英語で2クラス3展開、又は1クラス2展開の習熟度別授業を実施。さらに放課後や長期休業中の補習・講習、始業前放課後の自主学習の奨励
		中高(前期後期課程)の連携状況	高校1年で、数学、英語で習熟度別授業の実施
	学力下位層の伸長のための方策について	中学・前期課程	数学での習熟度別学習の実施。定期試験前の下位層向け復習講習の実施
		高校・後期課程	数学、英語で2クラス3展開、又は1クラス2展開の習熟度別授業を実施。さらに放課後や長期休業中の補習・講習、始業前放課後の自主学習の奨励
		中高(前期後期課程)の連携状況	高校1年で、数学、英語で習熟度別授業の実施
	中だるみ防止の取組について	中学・前期課程	中学3年次に、①外部による学習に関する講習会(生徒向け、保護者向け)実施。②7月に外部模試実施。③夏に、大学等体験学習実施④高校生による講習会実施④高校の授業見学実施⑤進路部による全員面接実施⑥卒業論文作成
		高校・後期課程	本校は、併設型の中高一貫校であるので、著しい中だるみはない。中入生にとって、高入生の存在は学習面でも刺激になっている。1年生では、予習、授業、復習を含めて学習習慣の確立を図っている。
		中高(前期後期課程)の連携状況	高校生による中学3年に向けた講演会。高校の授業見学 高校に入学すると学習ペースが上がり、課題が増加し、緊張感が高まる。

都立両国高等学校・附属中学校 進学対策に関する取組状況(2)

区分	項目	課程別・中高の連携状況	取組状況(現在の状況)
学習面	自宅学習時間の確保のための方策について	中学・前期課程	生活実態調査、及び外部の学力テスト等で把握。保護者会、学年集会でその結果分析と指導を実施。日常生活ノートのチェックによる指導。定期考査後の振り返りレポートによる指導
		高校・後期課程	中学校と同様に生活実態調査、及び外部の学力テスト等で把握。学年を基本に保護者会、学年集会でその結果分析と指導を実施。平日や休日、さらに長期休業中の部活動制限で物理的に自宅学習時間を保証している。
		中高(前期後期課程)の連携状況	高校生による中学3年に向けた講演会、高校の授業見学などで、高校での自宅学習の必要性を意識づけている。進学時の外部業者が行う学力状況調査システムにより学習状況把握し、全体指導、個別指導を行っている。
	生徒に対する個別相談体制について	中学・前期課程	1学期に2者面談、夏休みに3者面談を実施。その他、適宜面談を実施。中学3年次には、進路部による全員面接を実施
		高校・後期課程	1・3学期に2者面談、2学期後半に3者面談を実施。その他、適宜面接指導を実施。特に3学年は、早期に面談を実施。担任だけでなく進路指導部、教科担任等全校体制で相談体制が確立されている。
		中高(前期後期課程)の連携状況	中学3年次に進路部による全員面接を実施
	習熟度別授業、補習・補講の実施状況について	中学・前期課程	数学は、中学1年で4時間、中学2,3年で1時間実施 補習や補講は、定期試験前及び夏期講習で実施
		高校・後期課程	数学は、1年で1単位、2年で5単位、3年で7単位実施。英語は、1年で3単位、2年で1単位、3年で1単位実施。補習や補講は、通常から実施。長期休業中は講習を多数実施
		中高(前期後期課程)の連携状況	特になし
進路指導面	入学後の生徒の進路希望先の把握について	中学・前期課程	10月に生活、進路、学習についてのアンケートを実施 面談の中で、進路について把握し、個人カードを活用する。3年では進路希望調査を実施
		高校・後期課程	1年6月の進路講演会、7月の模擬試験、夏季休業中の講習や大学見学奨励、2学期の生活等実態調査等を経て、2学期後半の面談時に当面の希望を把握する。
		中高(前期後期課程)の連携状況	中学・高校とも同じ内容の調査を行って、それぞれ分析、把握している。
	上記生徒の進路希望先について、学年が上がっても担任等は把握しているか。	中学・前期課程	1,2期生は、それぞれの学年がデータを申し送りしていたが、今年度から個人カードを作成して、統一して記入する。
		高校・後期課程	個人ファイルを作成して、次学年に引き継ぐ。
		中高(前期後期課程)の連携状況	今年度は、特に取り組んでいない。
	進路希望を実現させるための進路指導の実施について	中学・前期課程	いかに自分の特性を知り、社会に貢献できるか考え、高い目標を持たせることに指導の重点を置いている。
		高校・後期課程	高校1・2年次に中学時より発展的な職業・大学等調べや上級学校訪問、体験講義を実施し、体験を通して進路意識を高めている。
		中高(前期後期課程)の連携状況	中学3年で、大学等体験教室や大学調べ、職業調べを実施(文化祭で発表)

都立両国高等学校・附属中学校 進学対策に関する取組状況(3)

区分	項目	課程別・中高の連携状況	取組状況(現在の状況)
進路指導面	外部模擬試験の利用について	中学・前期課程	複数の外部模擬試験業者の学力テストを実施
		高校・後期課程	複数の外部模擬試験業者の模試を実施。模試結果が出るたびに、校内検討会を実施
		中高(前期後期課程)の連携状況	同一の外部模擬試験業者を継続的に使用して、学校としての学力把握に活用している。
	外部模擬試験の分析について	中学・前期課程	外部模擬試験については、本校担当者呼び分析会を実施。他の検査は、教務主幹や管理職が分析結果を提示する。
		高校・後期課程	模試結果が出るたびに、校内検討会を実施
		中高(前期後期課程)の連携状況	中入生・高入生の分析は、担当学年及び教務部が実施
	外部模擬試験の分析結果に対する教員間の共通理解について	中学・前期課程	分析会を実施し、その結果を企画調整会議、職員会議、学年会などで報告して、共通理解を図っている。
		高校・後期課程	分析会を実施し、その結果を企画調整会議、職員会議、学年会などで報告して、共通理解を図っている。
		中高(前期後期課程)の連携状況	分析会を実施し、その結果を企画調整会議、職員会議、学年会などで報告して、共通理解を図っている。
	中高一貫教育校が目指す将来的なリーダー育成の実施状況について	中学・前期課程	総合的な学習をを中心に、「志(こころざし)学」を計画的に実施し、広い視野と高い意識を持たせる。
		高校・後期課程	総合的な学習やキャリア教育を中心に、自分や他者、社会や上級学校を知り、広い視野、高い意識及び目的意識を持たせ、自立を図っている。
		中高(前期後期課程)の連携状況	高校生による中学3年に向けた講演会や中学3年生に進路部による全員面接を実施している。
	キャリア教育の実施状況について	中学・前期課程	中学1年で職場訪問、中学2年で職場体験、中学3年で大学等体験教室をそれぞれ実施する他、志(こころざし)学として、社会で活躍している人(卒業生等)の講演会、中3で作成する卒業論文作成など。
		高校・後期課程	高校1年で進路ガイダンス、進路の手引き配布、上級学校訪問の奨励。高校2年で上級学校訪問、大学体験授業、進路指導参考資料配布、3年次の科目選択等を実施。高校3年で卒業生による進路講演会を実施
		中高(前期後期課程)の連携状況	中学3年では、大学や研究所、行政機関等を意識した体験教室に参加させて、進路意識を高めるとともに、高校1年では、奉仕体験を実施し、社会に貢献する意欲の促進を図りながら勤労観を育成する。

都立両国高等学校・附属中学校 進学対策に関する取組状況(4)

区分	項目	課程別・中高の連携状況	取組状況(現在の状況)
特別活動	部活と学習のバランスをとる方策について	中学・前期課程	部活動は、中学においては週3回まで、さらに、土日は、どちらかのみを原則として、自宅学習などの時間を確保している。学年通信や進路便り、学年集会、保護者会等を利用して、栄養、運動(部活)、睡眠、学習のバランスの重要性について生徒や保護者に知らせている。
		高校・後期課程	高校では部活の活動日、週最大4回(トレーニング日含む)、土日のどちらかは空ける。夏季休業中の活動日は、合宿を含み19日までに規制している。
		中高(前期後期課程)の連携状況	中学3年の夏以降は、中学の部活で指導的な役割を負うか、高校の部活動に参加するか、引退するか選択し、学習時間の見直しを行う。
	行事と学習のバランスをとる方策について	中学・前期課程	年間の授業時数を確保しながら行事の準備に当てるようにしている。行事終了後は、そのまとめを実施し、気持ちを授業に切り替えさせる。
		高校・後期課程	中学同様、年間授業時数を確保しながら行事の準備、実施をする。
		中高(前期後期課程)の連携状況	中学、高校とお互いに授業を大事にすることで、行事に偏ることなく学習に取り組む姿勢を養っている。
教員の資質	校内における授業改善のための取組について	中学・前期課程	研究授業(初任研、2年次等)、お互いの授業参観、拡大学年会や中学指導会議における情報交換
		高校・後期課程	研究授業(初任研、2年次等)、お互いの授業参観、生徒による授業評価、授業観察とアドバイスの実施、教科会や拡大学年会の開催
		中高(前期後期課程)の連携状況	各教科で、6年間の学習指導計画を見直し、特に、中高の授業のスムーズな移行がきるようにするために、校内研修会、指導会議を年3回実施し、生徒状況把握と授業改善のための情報交換を実施している。
	授業改善方法の中学(前期)と高校(後期)の違いについて	中学・前期課程	中学は、中学担当者による拡大学年会、年次研修・中高一貫教員養成研修・専門教科研修など校内で実施される研修会、お互いの授業参観などにより、授業改善の研修を実施
		高校・後期課程	年次研修・中高一貫教員養成研修・専門教科研修、校内研修会、お互いの授業参観などにより、授業改善の研修を実施。その他、受験指導熟練教員を中心としたOJTの実施
		中高(前期後期課程)の連携状況	中学担当が高校の授業参観を実施し、実力考査問題の検討会で大学入試問題の状況を研修する。
	授業改善における課題について	中学・前期課程	研究授業や研究協議を全体で行う時間が不足している。
		高校・後期課程	研究授業や研究協議を全体で行う時間が不足している。
		中高(前期後期課程)の連携状況	高校担当者の中学授業研究の機会が少ない。
生徒募集	広報活動の充実策について	中学	学校説明会の実施(生徒の参加、保護者の協力、適性問題解説の実施など)。ホームページの工夫。塾等による合同説明会への参加
		高校	学校説明会(生徒の参加、映像の利用)、自校作成問題解説会の実施。ホームページの工夫。塾等主催の合同説明会への参加。公立中学校への学校訪問
		中高一貫校(中学・高校の連携状況)	お互いの説明会に高校担当者と中学担当者が協力して行なう。中学校訪問は、全職員で実施(3校以上)

都立武蔵高等学校・附属中学校 進学対策に関する取組状況(1)

区分	項目	課程別・中高の連携状況	取組状況(現在の状況)
組織体制	進路指導部の体制について	中学・前期課程	・進路指導担当の主幹教諭以下の5名を配置し、進路講演会や職場体験、中学生の大学見学などのキャリア教育と、外部学力調査を活用した学力分析とを中心に運営を行っている。現在、中高の学習指導と進路指導の一体化運用を進めている。
		高校・後期課程	・進路指導担当の主幹教諭以下の7名を配置し、キャリアデザイン等のキャリア教育と、春冬の勉強合宿、夏期講座、模試分析会等の大学進学指導とを中心に運営を行っている。現在、中高の学習指導と進路指導の一体化運用を進めている。
		中高(前期後期課程)の連携状況	・進路指導部会は合同実施しており、中学校担当による高校までのキャリア教育全体計画の立案、高校担当による中学校から大学入試までの分析システムの導入、中高の「東大見学会」の実施等で連携を進めている。
	進路指導に係る組織体制の充実策について	中学・前期課程	・各学年の進路指導担当による各教科の学力分析会や「進路指導用ポートフォリオ」の導入による担任の個別指導の充実のほか、キャリア教育でも「東大見学会」や社会科見学での大学見学等を実施している。
		高校・後期課程	・中学校と同様の学力(模試)分析会や「進路指導用ポートフォリオ」のほか、各学年での夏休み補講、高1と高2の勉強合宿セミナー、高3センターマラソン等、教科担当と連携した体系的な進学指導を行っている。
		中高(前期後期課程)の連携状況	・中高6年間の体系的な進路指導を目指し、学力(模試)分析会や「進路指導用ポートフォリオ」、大学見学会等を連携して実施しており、「東大見学会」には中高合計で58名が参加した。
	各教科における進学指導の充実策について	中学・高校課程	・主任教諭等を教科主任に指名して教科主任会と教科会を定例実施し、以下に記載した「学習用ポートフォリオ」の活用、組織的な指導体制による学力(模試)分析や補講、難関大学受験への支援等に取り組んでいる。
学習面	入学時からの生徒の学力推移の把握・分析について	中学・前期課程	・適性検査や入学時の外部学力調査から、年間3回の学力調査を中心に分析会等で学力の推移を把握するとともに、「学習用ポートフォリオ」により、個々の生徒の学力分析と補充指導を行っている。
		高校・後期課程	・学力検査から年間2～3回の外部学力調査を中心に分析会等で学力の推移を把握するとともに、高1では「学習用ポートフォリオ」により、個々の生徒の学力分析と補充指導を行っている。
		中高(前期後期課程)の連携状況	・「学習用ポートフォリオ」を連携して実施し、データは電子化して中高が共有化している。また、学力調査や模試も分析システムをTAIMSPCに導入してデータの共有化を図っている。
	学力上位層の維持のための方策について	中学・前期課程	・中高一貫シラバスに基づく発展学習(先取り)、英数国の習熟度別・少人数授業(国は一部)のほか、「学習用ポートフォリオ」に基づき発展課題を提示するなどして学力の伸長を図っている。
		高校・後期課程	・学期ごとの単位認定等による上学年の内容の先取り学習、英数の習熟度別・少人数授業のほか、難関大向けのウインターセミナーや特別補講等を実施している。
		中高(前期後期課程)の連携状況	・「学習用ポートフォリオ」や学力調査のデータを中高の教員が共有化して教科指導や進学指導に活用するほか、高校教員へ附属中生の情報を提示する「中高引継会」を実施する。
	学力下位層の伸長のための方策について	中学・前期課程	・英数国の習熟度別・2展開授業(国は一部)により、きめ細かな指導を行うほか、本年度から「学習用ポートフォリオ」を導入して単元別補充課題及び補習による指導を行っている。
		高校・後期課程	・英数の習熟度別・少人数授業により、きめ細かな指導を行うほか、定期考査前や長期休業日の補習を実施している。また、来年度は、高1で中入下位層と高入生に英数7時限授業を設定する。
		中高(前期後期課程)の連携状況	・「学習用ポートフォリオ」や学力調査のデータを中高の教員が共有化して教科指導や進学指導に活用するほか、高校教員へ附属中生の情報を提示する「中高引継会」を実施する。

都立武蔵高等学校・附属中学校 進学対策に関する取組状況(2)

区分	項目	課程別・中高の連携状況	取組状況(現在の状況)	
学習面	中だるみ防止の取組について	中学・前期課程	・中学校3年生の夏休みころから「中だるみ」の傾向が見られる。そのため、キャリア教育により中長期的目標の設定を指導するほか、進学重点高等の自校作成入試問題による実力テストを実施している。	
		高校・後期課程	・高校2年生で「中だるみ」の傾向が若干見られる。そのため、キャリア教育により中長期的目標の設定を指導するほか、模試や補講の設定、文化祭・体育祭の早期化と期間の短縮化等を実施している。	
		中高(前期後期課程)の連携状況	・高校の内容の発展的学習や部活の早期体験入部で武蔵高校進学を意識化させるとともに、本年度から高校1年生に「スプリングセミナー」を新設し、早めに切り替えをさせることとした。	
	自宅学習時間の確保のための方策について	中学・前期課程	・各学年5月段階と夏期の個別面談等で把握しており、英数国等で毎時間に小テストを実施するほか、他教科でも週末課題等の宿題を課して自宅学習の時間を確保させている。	
		高校・後期課程	・各学年5月段階と夏期の個別面談等で把握しており、英数古等の予習復習指導や小テスト、各教科の宿題やノート提出等で、自宅学習の時間を確保させている。	
		中高(前期後期課程)の連携状況	・本年度から高校1年生に「スプリングセミナー」を新設し、予習・復習の方法を徹底させた。また、来年度は、附属中での小テストや週末課題等の継続実施を予定している。	
	生徒に対する個別相談体制について	中学・前期課程	・各学年2回程度のほか、必要な生徒には随時実施しており、進路指導については、本年度から「ポートフォリオ」の導入による個別指導の充実と体系化を図っている。	
		高校・後期課程	・各学年2回程度のほか、必要な生徒には随時実施しており、進路指導については、本年度から「ポートフォリオ」の導入による個別指導の充実と体系化を図っている。	
		中高(前期後期課程)の連携状況	・「進路用ポートフォリオ」についても連携して実施しており、学力調査や模試も分析システムをTAIMSPCに導入してデータの共有化を図っている。	
	習熟度別授業、補習・補講の実施状況について	中学・前期課程	・英数国の習熟度別・少人数授業(国は一部)を1クラス2展開で実施しており、補講は、長期休業日や放課後に下位層を対象に実施している。	
		高校・後期課程	・英数の少人数・習熟度別授業を2クラス3展開で実施しており、補講は、高3の夏期特別講座を始め、長期休業日や土曜の午後等に各学年で実施している。	
		中高(前期後期課程)の連携状況	・中高の教員が持ち合いで授業を行っており、特に中学校習熟度別の上位クラスでは、発展的内容として高校での学習を多く取り入れている。	
	進路指導面	入学後の生徒の進路希望先の把握について	中学・前期課程	・中1中2では、キャリア教育に基づき、自己理解や職業理解を中心に将来の進路を考えさせている。中3では、将来の職業との関連で大学と学部を考えさせており、難関国立大や医学部志望や約20人いる。
			高校・後期課程	・高1では大学見学等を実施し、高2で大学と学部等を志望理由書に記載させている。高3では、各段階の調査と面談で具体的に把握して指導している。
			中高(前期後期課程)の連携状況	・キャリア教育全体計画に基づき、中学校段階から高校へと段階的に進路希望を形成させており、自分の将来像から確固たる志望を確立させる。

都立武蔵高等学校・附属中学校 進学対策に関する取組状況(3)

区分	項目	課程別・中高の連携状況	取組状況(現在の状況)
進路指導面	上記生徒の進路希望先について、学年が上がっても担任等は把握しているか。	中学・前期課程	・進路希望の形成状況については、本年度から「進路指導用ポートフォリオ」で指導の経緯まで含めて、詳細に引き継ぐこととしている。
		高校・後期課程	・進路希望については、従来から進路カード等で引き継いでいたが、本年度から「進路指導用ポートフォリオ」で指導の経緯まで含めて、詳細に引き継ぐこととしている。
		中高(前期後期課程)の連携状況	・「進路指導用ポートフォリオ」等での引継ぎのほか、年度末に、中学校の担任から高校教員へ生徒の情報を提示する「中高引継会」を実施する。
	進路希望を実現させるための進路指導の実施について	中学・前期課程	・中学校からのキャリア教育により確固たる進路希望を形成させ、進路講演会や「東大見学会」等の大学見学などで進路先を具体的にイメージさせている。
		高校・後期課程	・系統的なキャリア教育により確固たる進路希望を形成させるとともに、学力向上と面談指導により進路希望を諦めないように確定させている。
		中高(前期後期課程)の連携状況	・「進路指導用ポートフォリオ」等での引継ぎのほか、年度末に、中学校の担任から高校教員へ生徒の情報を提示する「中高引継会」を実施する。
	外部模擬試験の利用について	中学・前期課程	・複数の外部模擬試験業者の入学前調査から中高一貫学力推移調査を併用しており、分析会の実施のほか、「学習用ポートフォリオ」を外部模試にも活用している。
		高校・後期課程	・入学後の複数の外部模擬試験業者の判定模試を併用しており、学年ごとに分析会を実施している。また、本年度から模試分析システムをTAIMSPCに導入した。
		中高(前期後期課程)の連携状況	・「学習用ポートフォリオ」や分析システムを共通して使用しており、来年度に向けてデータの共有化を準備している。また、他校の状況も参考とし、中高6年間の模試を体系化した実施計画を立案した。
	外部模擬試験の分析について	中学・前期課程	・学年の教科担当の出席する拡大学年会における分析会の実施のほか、「学習用ポートフォリオ」で個別に分析している。なお、外部学力調査では、中2中3が中1の時から学力を伸ばし、全国の中高一貫教育校中、上位の成績であった。
		高校・後期課程	・学年の教科担当の出席する拡大学年会における分析会の実施のほか、「学習用ポートフォリオ」(高2高3は模試ごとの個票)で個別に分析している。
		中高(前期後期課程)の連携状況	・「進路指導用ポートフォリオ」及び「学習用ポートフォリオ」等での引継ぎのほか、年度末に、中学校の担任から高校教員へ生徒の情報を提示する「中高引継会」を実施する。
	外部模擬試験の分析結果に対する教員間の共通理解について	中学・前期課程	・学年の教科担当が出席する拡大学年会における分析会で共通理解を図っているが、試験の実施から生徒への指導までに時間がかかるため、実施週での指導を検討している。
		高校・後期課程	・学年の教科担当が出席する拡大学年会における分析会で共通理解を図っているが、試験の実施から生徒への指導までに時間がかかるため、実施週での指導を検討している。
		中高(前期後期課程)の連携状況	・分析システムを活用し、データの共有化を図るほか、年度末に、中学校の担任から高校教員へ生徒の情報を提示する「中高引継会」を実施する。

都立武蔵高等学校・附属中学校 進学対策に関する取組状況(4)

区分	項目	課程別・中高の連携状況	取組状況(現在の状況)
進路指導面	中高一貫教育校が目指す将来的なリーダー育成の実施状況について	中学・前期課程	・キャリア教育全体計画に基づく確固たる進路希望の形成に加え、「地球学」「奉仕」「キャリアデザイン」の流れの中での「社会に貢献できる知性豊かなリーダー」の育成を図っている。
		高校・後期課程	・キャリア教育全体計画に基づく確固たる進路希望の形成に加え、「奉仕」と「キャリアデザイン」の流れの中での「社会に貢献できる知性豊かなリーダー」の育成を図っている。
		中高(前期後期課程)の連携状況	・6年間のキャリア教育全体計画に基づく確固たる進路希望の形成に加え、「地球学」「奉仕」「キャリアデザイン」の流れの中での「社会に貢献できる知性豊かなリーダー」の育成を図っている。
	キャリア教育の実施状況について	中学・前期課程	・キャリア教育全体計画に基づき、人間関係形成能力、情報活用能力、将来設計能力、意志決定能力及び本校独自の進路実現能力を育成しており、職場訪問、農業宿泊体験、職場体験、大学見学等を実施している。
		高校・後期課程	・上記と同様のキャリア教育全体計画に基づき、スプリングセミナーでの首都大模擬講義、進路講演会、大学訪問・体験入学、進路ガイダンス等を実施している。
		中高(前期後期課程)の連携状況	・6年間のキャリア教育全体計画に基づき、人間関係形成能力、情報活用能力、将来設計能力、意志決定能力及び本校独自の進路実現能力を育成し、確固たる進路希望を形成させている。
特別活動	部活と学習のバランスをとる方策について	中学・前期課程	・部活は、原則として、午後5時終了で、土日のいずれかと平日の2日程度は活動休止を基本としている。
		高校・後期課程	・部活は、原則として、午後5時終了で、土日のいずれかと平日の1日程度は活動休止を基本としている。
		中高(前期後期課程)の連携状況	・中高合同の部活は中学生の活動時間を考慮して活動しているが、公式戦前の練習や、吹奏楽、合唱等の中高合同部活が課題である。
	行事と学習のバランスをとる方策について	中学・前期課程	・文化祭及び体育祭の早期化と期間の短縮化を実施している。また、中心となる実行委員は、中3～高2前期で組織している。
		高校・後期課程	・文化祭及び体育祭の早期化と期間の短縮化を実施している。また、中心となる実行委員は、中3～高2前期で組織している。
		中高(前期後期課程)の連携状況	・各行事での中3生の役割強化を図っている。
教員の資質	校内における授業改善のための取組について	中学・前期課程	・授業観察シートに基づく校長の授業観察と改善確認を毎回行っており、これと生徒による授業評価等に基づく、各教員及び教科としての改善プランを作成し、学校としての改善プランとしている。
		高校・後期課程	・授業観察シートに基づく校長の授業観察と改善確認を毎回行っており、これと生徒による授業評価等に基づく、各教員及び教科としての改善プランを作成し、学校としての改善プランとしている。
		中高(前期後期課程)の連携状況	・同一教員が中高で授業していることが多く、教科会で6年間の授業改善プランを作成している。

都立武蔵高等学校・附属中学校 進学対策に関する取組状況(5)

区分	項目	課程別・中高の連携状況	取組状況(現在の状況)
教員の資質	授業改善方法の中学(前期)と高校(後期)の違いについて	中学・前期課程	・授業中に、より臨機応変の対応が求められるが、改善方法に大きな違いはない。
		高校・後期課程	・大学受験の範囲まで進むスピードが求められるが、改善方法に大きな違いはない。
		中高(前期後期課程)の連携状況	・同一教員が中高で授業していることが多く、教科会で6年間の授業改善プランを作成している。
	授業改善における課題について	中学・前期課程	・授業中における観点別評価の実施が課題であり、週ごとの指導計画の改善による指導と評価の一体化の徹底を図っている。
		高校・後期課程	・年配教員は、型にはまった授業を行うことが多く、ICTの活用を取り入れた授業改善等が課題である。
		中高(前期後期課程)の連携状況	・中高の教員が互いに授業参観を行うことが時間割上困難である。
生徒募集	広報活動の充実策について	中学	・学校見学会及び学校説明会を年間33回(含同日)、チャレンジ教室2回、校外での学校説明約30回のほか、寄稿等が約10回である。また、携帯用HPの新設等のHPの改善を行っている。
		高校	・学校見学会及び学校説明会を年間12回(含合同)、体験授業3回、校外での学校説明及び自校作成説明会が約25回である。また、携帯用HPの新設等のHPの改善を行っている。
		中高一貫校(中学・高校の連携状況)	・説明会が中高いずれかの場合も、教員は両方の資料を持って説明を行っている。

都立桜修館中等教育学校 進学対策に関する取組状況(1)

区分	項目	課程別・中高の連携状況	取組状況(現在の状況)
組織体制	進路指導部の体制について	中学・前期課程	進路指導部には5名が配置されている。その他にも、各学年には担任の中から1名が進路担当になっており、進路指導部と学年とが連携して指導を行っている。
		高校・後期課程	進路指導部には5名が配置されている。その他にも、各学年には担任の中から1名が進路担当になっており、進路指導部と学年とが連携して指導を行っている。
		中高(前期後期課程)の連携状況	前期課程と後期課程が、一体となって活動しており、6年間継続した指導を行っている。
	進路指導に係る組織体制の充実策について	中学・前期課程	平成21年度まで進路指導部が新入生の募集業務を行っていた。平成22年度から募集業務を行う総務部を独立させ、進路指導に特化した組織に生まれ変わった。
		高校・後期課程	平成21年度まで進路指導部が新入生の募集業務を行っていた。平成22年度から募集業務を行う総務部を独立させ、進路指導に特化した組織に生まれ変わった。
		中高(前期後期課程)の連携状況	前期課程では生き方指導、後期課程では進学指導を中心として6年間を見通した指導計画を立てている。また、進路に関する校内研修会も実施し、中高問わず、全教員が6年間の進路指導について考える組織体制にしている。
学習面	入学時からの生徒の学力推移の把握・分析について	中学・前期課程	各学年とも年間2回の学力推移調査を実施し、分析会も行っている。3学年では中高一貫校を対象とした模擬試験及び実力テスト(自校作成)を実施している。
		高校・後期課程	4月の外部業者が行う学力状況調査システム、年間2回の外部模試を実施する。また、自校作成による実力テストを9月に実施し、分析をしている。
		中高(前期後期課程)の連携状況	学力推移調査を継続して実施し、個人カルテに結果を記録・蓄積することで6年間の学力推移を把握する。
	学力上位層の維持のための方策について	中学・前期課程	発展的な内容の講習や検定のための講習を長期休業日中や放課後に実施している。また、英語検定、ニュース検定、算額コンクール、作文コンクール等への参加を推奨している。
		高校・後期課程	大学受験を意識した講習を長期休業期間や放課後に実施している。また、4年生と5年生の希望者に対して「センターテスト同日模試」を案内したところ、5年生は7割強の生徒が希望をした。
		中高(前期後期課程)の連携状況	前期課程では授業中に「発展的な内容」として後期課程の内容にも触れている。また、英語にどっぷりと漬かる環境として、夏休みに「英語合宿」(2・3年希望者)、「ニュージーランドホームステイ」(4年生希望者)を用意し、参加を呼びかけている。
	学力下位層の伸長のための方策について	中学・前期課程	補習や再テストを繰り返し実施している。また、基本的な生活習慣の確立に向けて、きめ細かい生活指導を行っている。
		高校・後期課程	英数国を中心に放課後の補習を行っている。小テストや定期テストで基準に達しない生徒を対象として、合格するまで再テストを繰り返している教科もある。さらに、必要に応じて保護者を交えた三者面談も行っている。
		中高(前期後期課程)の連携状況	継続して補習や再テストを実施している。また、提出物においては必ず提出するよう、繰り返し指導をしている。

都立桜修館中等教育学校 進学対策に関する取組状況(2)

区分	項目	課程別・中高の連携状況	取組状況(現在の状況)	
学習面	中だるみ防止の取組について	中学・前期課程	大きな中だるみは見られない。学習の意識を維持するために外部模試を実施している。3年生にニュース検定の受検を呼びかけ、今年度は年3回実施する(受験者数 1回目:30名、2回目:18名)。	
		高校・後期課程	大きな中だるみは見られない。学習の意識を維持するために外部模試を実施する。また、4年生と5年生では大学のオープンキャンパスへの参加を義務付けており報告書を提出させている。	
		中高(前期後期課程)の連携状況	英語検定の受検を奨励している。1回目は217名、2回目は247名が受検をした。1年から5年まで各学年でフィールドワーク(美術館、大使館、大学、宇宙研究所、磯での生物実習等)を実施し、本物を見せている。	
	自宅学習時間の確保のための方策について	中学・前期課程	学力推移調査や学校評価アンケートで家庭学習の時間を把握する。「家庭学習の手引き」を発行し、家庭学習の仕方を指導している。また、各学年が工夫を凝らした方法で保護者と連携をしながら自宅学習時間を確保するための取組も行っている。	
		高校・後期課程	外部業者が行う学力状況調査システムや学校評価アンケートを通して家庭学習の時間を把握する。「家庭学習の手引き」を発行し、家庭学習の仕方を指導している。	
		中高(前期後期課程)の連携状況	「家庭学習の手引き」を前後期の接続を意識して作成している。また、自宅学習時間の調査データを基に経年変化の把握にも努めている。	
	生徒に対する個別相談体制について	中学・前期課程	担任との個人面談を春、夏に実施し、学習の進め方等について相談を受けている。特に夏の面談では、保護者も交えての三者面談としている。	
		高校・後期課程	進路相談室を整備し、具体的な進路について相談を受け付けている。担任との個人面談及び三者面談を実施している。	
		中高(前期後期課程)の連携状況	どの教員でも適切な進路指導ができるようにするため、6年間の相談状況を個人カルテに記録するようにしている。	
	習熟度別授業、補習・補講の実施状況について	中学・前期課程	1年生の数学で習熟度別授業を実施している。長期休業日中や放課後に英、数、国を中心に補習を行っている。	
		高校・後期課程	4,5年生の数学と5年生の英語で習熟度別授業を行っている。長期休業日中や放課後に英、数、国を中心に補習を行っている。朝の始業前に講習を行っている教員もいる。	
		中高(前期後期課程)の連携状況	後期課程の内容を前倒しで実施している教科においては、生徒の習熟の様子を吟味しながら無理のないように行っている。	
	進路指導面	入学後の生徒の進路希望先の把握について	中学・前期課程	7月下旬に5日間の個人面談期間が設定されており、各担任は生徒、保護者と三者面談を行う。その面談の中で進路希望について話し合い、保護者の意向も確認している。
			高校・後期課程	進路希望調査を年2回実施する。また、個別面談を通して進路希望の把握に努めている。特に5年生では翌年度の選択科目を決定するに当たり、時間をかけて個別面談を行っている。
			中高(前期後期課程)の連携状況	本校では多くの担任が前期課程から後期課程へ持ち上がっているため、連携がスムーズにしている。

都立桜修館中等教育学校 進学対策に関する取組状況(3)

区分	項目	課程別・中高の連携状況	取組状況(現在の状況)
進路指導面	上記生徒の進路希望先について、学年が上がっても担任等は把握しているか。	中学・前期課程	個人カルテを作成しており、担任に限らずどの教員でも把握できるようにしている。
		高校・後期課程	個人カルテには1年から6年までの進路希望調査の結果を記入する欄があり、誰でも一目瞭然にわかるようにしている。
		中高(前期後期課程)の連携状況	前後期継続した個人カルテを作成しているため、学年にかかわらず把握できるようになっている。
	進路希望を実現させるための進路指導の実施について	中学・前期課程	将来の夢を持たせる取組を行っている。また、初志貫徹している方の話を聞く機会として、「留学生が先生」(日本の大学院へ留学している外国人が講師)等の機会を設けている。
		高校・後期課程	安易に推薦入試等で進学しないように指導している。そのために「総合的な学習の時間」を活用して進路指導部による進路講話を実施している。さらに保護者会でも同一内容の話をし、家庭と連携した指導になるように努めている。
		中高(前期後期課程)の連携状況	進路指導部だより「道はり」(月1回発行)を全学年に配布し、前期課程のうちから大学や将来の職業についての目標を持たせるための方策としている。「道はり」には、保護者が自分の職業を紹介するコーナーもある。
	外部模擬試験の利用について	中学・前期課程	3年生で中高一貫校を対象とした外部模試を今年度初めて実施した。
		高校・後期課程	各学年で、全員受験の外部模試を年間2回実施している。その他にも本校の生徒に適切な外部模試を案内し、希望者を募っている。
		中高(前期後期課程)の連携状況	前期課程の3年生から継続して実施し、進路カルテに結果を蓄積していく。
	外部模擬試験の分析について	中学・前期課程	担任だけではなく教科を担当している教員も加えて分析会を行っている。
		高校・後期課程	該当学年を担当している教員を中心とした分析会を、模擬試験ごとに開催している。
		中高(前期後期課程)の連携状況	前期課程の3年生から継続して実施している。
	外部模擬試験の分析結果に対する教員間の共通理解について	中学・前期課程	担任だけではなく教科を担当している教員も加えて分析会を行っている。
		高校・後期課程	分析会や校内研修会を開催し、教員間で結果を共有するようにしている。
		中高(前期後期課程)の連携状況	校内研修会のテーマとして取り上げ、全教員で共通理解ができるようにしている。また、各教科から分析結果と今後の対策について発表をしている。

都立桜修館中等教育学校 進学対策に関する取組状況(4)

区分	項目	課程別・中高の連携状況	取組状況(現在の状況)
進路指導面	中高一貫教育校が 目指す将来的な リーダー育成の実 施状況について	中学・前期課程	プレゼンテーション等全体の前で発表する機会を多く設けている。また、文武両道の視点から、部活動に積極的に取り組ませている。
		高校・後期課程	「学フォーラム」(様々な分野で活躍をしている10名程度の人を講師として招き、生徒に仕事の面白さについて語ってもらう)等の実施により、将来の目標を持たせるようにしている。
		中高(前期後期課程)の連携状況	クラスマッチ(体育的行事)、記念祭(文化祭)の行事を前期と後期が一緒に行っている。また、部活動においても一緒に活動している部が多く、幅広い年齢層の中でリーダーとしてのあり方を体験する機会となっている。
	キャリア教育の実施 状況について	中学・前期課程	3年生で職場体験を実施している。
		高校・後期課程	4年生で上記「学フォーラム」を実施し様々な職業に触れる。 5年生で首都大学東京の授業体験を行う。 母体校の卒業生による体験談を聞く。
		中高(前期後期課程)の連携状況	段階を追って継続的に指導する。
特別活動	部活と学習のバラン スをとる方策につい て	中学・前期課程	学習の成果が上がらない生徒に対しては、部活動を制限する。
		高校・後期課程	夏季休業日中では、午前中を「講習の時間」とし、午後を「部活動の時間」として時間帯を分けた。
		中高(前期後期課程)の連携状況	3年生の夏から後期課程の部活動に参加させている。
	行事と学習のバラン スをとる方策につい て	中学・前期課程	行事の準備期間を直前に集中させて、学習とのけじめをつけさせるようにしている。
		高校・後期課程	行事の準備期間を直前に集中させて、学習とのけじめをつけさせるようにしている。
		中高(前期後期課程)の連携状況	各学年での取組の流れをつくり、学習への負担にならないように計画している。
教員 の資 質	校内における授業 改善のための取組 について	中学・前期課程	高校の内容への接続を考えた展開を工夫する。
		高校・後期課程	中学校での既習事項を理解した上での指導を心掛ける。
		中高(前期後期課程)の連携状況	それぞれの授業を見合う機会を設ける。 「生徒による授業評価」の結果を分析し、改善策を教科で検討する。

都立桜修館中等教育学校 進学対策に関する取組状況(5)

区分	項目	課程別・中高の連携状況	取組状況(現在の状況)
教員の資質	授業改善方法の中学(前期)と高校(後期)の違いについて	中学・前期課程	基礎・基本の徹底を中心にした授業改善を行う。
		高校・後期課程	大学受験を意識した内容を取り入れる。
		中高(前期後期課程)の連携状況	それぞれの授業を見合う機会を設ける。 家庭学習を習慣化させる。
	授業改善における課題について	中学・前期課程	基礎・基本の徹底
		高校・後期課程	生徒の学力差に応じた指導
		中高(前期後期課程)の連携状況	生徒の学力差が大きくなるように、各学年で基礎・基本を確実に習得させるようにしている。
生徒募集	広報活動の充実策について	中学	学校説明会では、生徒が学校生活や行事について寸劇を交えて紹介をする等、生徒の生き生きとした表情を見てもらうように工夫をしている。 大学進学を目指した進路指導についても説明している。
		高校	募集せず
		中高一貫校(中学・高校の連携状況)	前後期にかかわらず、すべての教員で広報活動に当たっている。 今年度は初の試みとして「部活動体験」を実施した。

都立小石川中等教育学校 進学対策に関する取組状況(1)

区分	項目	課程別・中高の連携状況	取組状況(現在の状況)
組織体制	進路指導部の体制について	中学・前期課程	<ul style="list-style-type: none"> ・前期課程の進路指導主任を中心に、キャリア教育全体計画に基づき、職場体験をはじめ様々な職業観・勤労観の育成に向けた学習を推進している。 ・後期課程での指導を踏まえ、職業に関する学習(身近な人の職業調べ・東京寺子屋・職場体験等)についての再検討など、6年間を見通した指導を実施している。
		高校・後期課程	<ul style="list-style-type: none"> ・小石川高校の進路指導主任が後期課程の進路指導担当を兼務する形で母体校の指導体制を引き継いでいる。前期課程の進路指導主任と連携しながら中高接続期の進学指導体制の充実を図っている。 ・教務部・学年と連携して、キャリア教育全体計画に基づき、高大連携、講座選択、外部模試受験、オープンキャンパス、入試制度の研究、志望校合格のための学習計画などを大学進学に向けた指導を実施している。
		中高(前期後期課程)の連携状況	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導主任は、前期担当と後期(高校3年)担当の2名体制で、分掌としては前期と後期(22年度は中等4、5年と高校3年)が一体化して指導を行っている。 ・毎週水曜日の進路指導部会、毎週月曜日の企画調整会議を中心に、組織的な指導を推進している。
	進路指導に係る組織体制の充実策について	中学・前期課程	<ul style="list-style-type: none"> ・前期課程ではキャリア教育に力点を置いた指導を行っている。特に、職場体験については保護者、地域、卒業生、都庁、国際ロータリー等と連携し、外部の教育力を活用している。 ・6年間を見通した指導を具体化するため、学年での進路カルテを整備し、模試結果、個人面談記録、進路希望などを蓄積している。 ・「継続した学力データ」の蓄積は進路指導のシステムを作る上で重要であるが、その方法は、まだ学校全体のものとしては確立していない。
		高校・後期課程	<ul style="list-style-type: none"> ・模試、模試結果分析、説明会等の進路指導関連行事は進路指導部が主体となり、オープンキャンパスの実施等は学年が主体となってそれぞれ計画・実施している。 ・学年主体の行事も学年と進路指導部の役割分担を明確にし、進路指導全体計画の中に位置づけて実施していく必要がある。 ・分野別模擬講義、大学の研究室訪問では卒業生等とも連携して実施している。 ・進路、教務、1期生・2期生の学年主任からなる「学力向上推進プロジェクト」を10月に設置した。
		中高(前期後期課程)の連携状況	<ul style="list-style-type: none"> ・模試結果分析会については、進路指導部・担当学年だけでなく、他学年・教科への参加を推進するなど、全体での情報の共有に努めている。
進路指導計画の確立	中・高	<ul style="list-style-type: none"> 6年間の進路指導計画を確立するために、様々な学校行事の実施時期、カリキュラム全体を進学指導の観点から見直しをしている。 	
学習面	入学時からの生徒の学力推移の把握・分析について	中学・前期課程	<ul style="list-style-type: none"> ・中等1年では、入校時テスト(国語、数学)、定期考査(年5回)、模擬試験のほか英検・数検を実施し、学力の把握に努めている。 ・中等2年:都の学力検査、定期考査(年5回)、模擬試験のほか英検・数検を実施し、学力の把握に努めている。 ・中等3年:全国学力学習状況テスト、定期考査(年5回)、模擬試験のほか英検・数検を実施し、学力の把握に努めている。 ・数学・英語の習熟度別授業において、定期考査では共通問題を8割出題し、教科で分析を行っている。 ・学習の記録(個人カルテ)を学年ごとに作成し、個人の学力推移を見るときに、担任、生徒、保護者との面談等に活用し課題の把握をしている。
		高校・後期課程	<ul style="list-style-type: none"> ・中等4年:全校実施の模擬試験を年3回実施している。 ・中等5年:全校実施の模擬試験を年3回実施している。 ・高校3年:全校実施の模擬試験を年5回実施している。 全模試について、それぞれ結果分析会を実施。分析会を通して、進路・学年・教科で共通理解を図っている。 ・数学、英語では、数検・英検の結果分析の他、習熟度別授業の実施科目における定期考査の分析等も実施している。 ・生活実態調査を実施し、生徒の学習状況・進路状況を集約し、学年全体で情報の共有化を図っている。学校完成時に全学年統一の調査として確立することが今後の課題である。
		中高(前期後期課程)の連携状況	<ul style="list-style-type: none"> ・3期生以降、前期課程では3学年共通の様式で個人カルテ(学習の計画・学習の記録)を作成し家庭と連携して学力の把握を行っている。 ・入学時からの生徒個々の教科別成績推移、所属部、委員会、出欠席状況、進路希望等のデータベース化についても検討中である。

都立小石川中等教育学校 進学対策に関する取組状況(2)

区分	項目	課程別・中高の連携状況	取組状況(現在の状況)
学習面	学力上位層の維持のための方策について	中学・前期課程	<ul style="list-style-type: none"> ・中等教育学校の教育課程の特例を活用し、高校での学習内容の一部を取り入れ知的な好奇心を高めている。 ・数学・英語では2クラス3展開の習熟度別授業を実施し、特に、上位層に対しては発展的学習を展開している。
		高校・後期課程	<ul style="list-style-type: none"> ・英検、数検の上位クラス検定へのチャレンジを促すとともに、各種講習(夏季、土曜日、定期考査前、センター直前対策、朝など)、外部模試(難関)を実施している。 ・英語スピーチコンテスト、日本語弁論大会、小論文コンテスト等に参加させ、優秀な結果を公表して高いレベルを知らせる。 ・海外の優秀な学生を招聘し、交流させて国際的に高いレベルに触れさせている。 ・物理(原書)の輪読に参加させるなどして、好奇心を高め、学問の楽しさに触れさせている。
	学力下位層の伸長のための方策について	中学・前期課程	<ul style="list-style-type: none"> ・数学・英語で2クラス3展開の習熟度授業の実施し、特に、下位層に対しては基礎・基本の定着を図っている。 ・定期考査や小テストでの成績不良者に対し個別指導を実施し、補習(夏季、土曜日、定期考査前、朝など)においても基礎・基本の定着を図る講座を設置して指導を行っている。
		高校・後期課程	
	中だるみ防止の取組について	中学・前期課程	<ul style="list-style-type: none"> ・中等3年で実施している2週間全員参加型の海外語学研修(1人1家庭にホームステイ、現地のホスト校に2週間通い授業を受ける、事前・事後研修において高度な英語学習と異文化理解学習を実施)は高校入試に匹敵するハードルとなっており、極端な中だるみは見受けられない。 ・中等3年の2学期に、生徒・保護者を対象に進級説明会を実施し、前期課程と後期課程の違い(履修・習得など)について学ぶ機会を設け切替えを図っている。
		高校・後期課程	<ul style="list-style-type: none"> ・「進路選択のための資料」を活用してキャリアプランの作成、計画的な外部模試、小石川セミナー・教育実習生講話・分野別模擬講義などの実施し、学年・進路指導部が連携して、中だるみの防止を図っている。 ・学校行事や部活動で中心的な役割を果たすことにより、存在感・責任感を持って取り組む経験を積み、その自身と経験を学習に切り替えるよう指導を行っている。
		中高(前期後期課程)の連携状況	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導部会や企画調整会議において、中だるみ防止とその成果についての評価を行うと共に、学校評価アンケート等を活用して評価と改善に生かす。
	自宅学習時間の確保のための方策について	中学・前期課程	<ul style="list-style-type: none"> ・前期課程では、定期考査の「学習計画表」を作成・提出させている。また、長期休業中の『生活の記録』を作成・提出させ、休業にむけて指導をしている。 ・中等1年では、「デイリーライフ」を通して毎日の生活状況を把握し、中等3年では、年2回家庭学習状況調査を実施して指導に生かしている。
		高校・後期課程	<ul style="list-style-type: none"> ・中等5年では、『毎日やることチェック』を提示し、英教国の具体的な予習・復習内容を自分で記録させて学習状況を自己管理させるとともに、状況を把握している。また、『夏休みの学習記録』を配布し、学習した内容、学習時間などを記録させて指導を行っている。
	生徒に対する個別相談体制について	中学・前期課程	<ul style="list-style-type: none"> ・前期課程では、夏季休業の前後、12月頃にクラス担任が三者面談を実施。11月に『ふれあいアンケート』を実施しその後二者面談を実施して個別相談体制を推進し、学校と家庭との連携を図っている。 ・6月に教育相談週間を設定するなど、教育相談委員会が中心となり、生活指導部、スクールカウンセラー等連携して個別相談体制を推進している。
		高校・後期課程	<ul style="list-style-type: none"> ・後期課程では、定期的に二者面談、三者面談を実施して指導を行うなど、学校と家庭との連携を図っている。 ・6月に教育相談週間を設定するなど、教育相談委員会が中心となり、生活指導部、スクールカウンセラー等連携して個別相談体制を推進している。 ・進路選択や科目選択などの際には必ず面談を実施している。
		中高(前期後期課程)の連携状況	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談週間や校内研修会において、連携を図っている。

都立小石川中等教育学校 進学対策に関する取組状況(3)

区分	項目	課程別・中高の連携状況	取組状況(現在の状況)
学習面	習熟度別授業、補習・補講の実施状況について	中学・前期課程	<ul style="list-style-type: none"> 英語、数学において全学年で2クラス3展開の習熟度授業を実施している。定期考査では8割を共通問題として教科で分析を行っている。 補習・補講は、夏期講習中等1、2年で計11講座を実施した。(中等3年は海外語学研修実施のため個別に計画・実施)また、希望者や必要な生徒に対しては随時実施している。
		高校・後期課程	<ul style="list-style-type: none"> 英語は全学年で、数学は中等4、5年で2クラス3展開の習熟度授業を実施している。定期考査では8割を共通問題として教科で分析を行っている。古典は中5で少人数授業を実施している。 進路指導部が中心となり、夏期講習(計58講座)、冬期講習を計画・実施している。また、希望者や必要な生徒に対しては随時行っている。 英語、国語の小テストなど、朝のSHRで学年ごとに実施している。 数学は入試問題添削指導を実施している。
		中高(前期後期課程)の連携状況	<ul style="list-style-type: none"> 夏期講習優先期間を設定し、部活動合宿と夏期講習の日程が重ならないように調整した。 夏期講習や補習・補講については学年をまたいだ募集も行った。
	補習・講習の充実について	中学・前期課程	昨年度の学校評価アンケートにおける生徒の講習への満足度は前期(1～3年)が83%であった。今年度の数値目標の90%を達成させるため、7月の講習期間の設定等により、講座数・参加者数を増加させた。
		高校・後期課程	昨年度の学校評価アンケートにおける生徒の講習への満足度は後期(4年のみ)が75%であった。今年度の数値目標の90%を達成させるため、7月の講習期間の設定等により、講座数・参加者数を増加させた。
		中高(前期後期課程)の連携状況	進路指導部が中心となって、前期・後期を合わせた講座予定一覧を作成し、夏季合宿や学年行事等を配慮して参加者数の増加に努めた。
	自習環境の整備について	中学・前期課程	<ul style="list-style-type: none"> 昼休み放課後は、図書館において自習を行っている。 自習室は主に後期(高3)の生徒が使用しているが、先輩の様子から自学自習の姿勢を学んでいる。
		高校・後期課程	<ul style="list-style-type: none"> 高3の担任と進路指導部が連携して、休日の自習室解放(第一自習室)を実施した。 9月末から、進学指導強化のためのチューター制を活用し、4名の大学院生・大学生による自習指導(第二自習室)を実施している。
	進路指導面	入学後の生徒の進路希望先の把握について	中学・前期課程
高校・後期課程			<ul style="list-style-type: none"> ほぼ全員が4年制大学への進学希望であり、4年・5年での選択講座決定の際に志望分野・大学等を把握している。また、5年の7月に実施する模擬試験からは、志望大学を記入させ、指導に生かしている。 模擬試験に関する生徒全員のデータを共有するシステムが今年度から導入されたため、生徒の進路希望を担任団で共有することが可能になった。
上記生徒の進路希望先について、学年が上がっても担任等は把握しているか。		中学・前期課程	<ul style="list-style-type: none"> 前期課程では3年間担任団が持ち上がり、学年全体で把握されている。 3年次に行う4年での選択講座決定の際のデータは、クラス替え後も次年度に引き継がれている。
高校・後期課程	<ul style="list-style-type: none"> 5年から6年では、クラス替えは行わない予定であるが、クラス替えを行った場合でも、5年の模擬試験のデータは6年に引き継がれる。 進路変更に伴う選択講座の変更については職員会議で報告され、全体で共有されている。 		

都立小石川中等教育学校 進学対策に関する取組状況(4)

区分	項目	課程別・中高の連携状況	取組状況(現在の状況)
進路指導面	進路希望を実現させるための進路指導の実施について	中学・前期課程	<ul style="list-style-type: none"> ・2年の「東京寺子屋」や職業体験の他、進路講演会や小石川セミナーを通じて、将来を見通した進路希望を抱かせ、個人面接等で実現への方策を考えさせている。
		高校・後期課程	<ul style="list-style-type: none"> ・進路講演会や進路部通信等を通じて、真に入学したい大学を希望するよう指導した上で模擬試験の結果を定期的に分析し、担任・進路指導部による個人面談等で合格に向けた具体的な指導を行っている。 ・進路希望の実現に向けた教科ごとの分析・改善策については、今年度から可能な教科で実施する予定である。 ・高校3年の国公立志望者の維持確保に向けては、以下の①～⑤を中心に実現を推進している。 ①諦めず5教科7科目の追究②全教科全科目を学ぶ小石川教養主義の貫徹③自習室の確保とチューター制の導入④推薦出願の絞込⑤直前センター演習の実施
	外部模擬試験の利用について	中学・前期課程	<ul style="list-style-type: none"> ・中等1～3年の3学期に全員対象の模擬試験を実施している。 ・中等3年は、10月に2回、3月に1回、希望者対象の模擬試験を実施し、参加を積極的に呼びかけている。
		高校・後期課程	<ul style="list-style-type: none"> ・中等4年は年5回、5年は年4回、高校3年(次年度は中等6年)は年3回、全員対象の模擬試験を実施している。また、センターリアル模試(中等4、5年)も実施している。 ・高3については、進路意識の向上のため、8月と11月にも希望者対象の模試を計画し、参加を呼びかけたところ、昨年度を上回る参加率となった。
		中高(前期後期課程)の連携状況	<ul style="list-style-type: none"> ・6年間の模擬試験の計画を全校で確認・把握し、指導に活用する。
	外部模擬試験の分析について	中学・前期課程	<ul style="list-style-type: none"> ・3学期に実施した全員対象の模擬試験については、次年度の4月に学年ごとの分析会を実施している。
		高校・後期課程	<ul style="list-style-type: none"> ・模試の実施後に、学年ごとの分析会で定点観測を行って進路実現に向けた指導に生かしている。 ・生徒に対しては、模試ノートの作成を促し、解答能力の定着・向上を図っている。
	外部模擬試験の分析結果に対する教員間の共通理解について	中学・前期課程	<ul style="list-style-type: none"> ・学年ごとに実施している分析会を、教科や他学年にも拡大して実施できるよう検討する。
		高校・後期課程	<ul style="list-style-type: none"> ・他学年の分析会に出席する教員を拡大するほか、今年度から導入された模試データを共有システム等も活用して、分析結果を全体で共有し、指導に生かす。
		中高(前期後期課程)の連携状況	<ul style="list-style-type: none"> ・2、3年前から分析会を実施し、結果の概要は職員会議でも報告してきた。 ・11月に全員での分析会(校内研修会)を行い、情報の共有と教科による分析・指導法の改善に繋げていく。 ・模擬試験の結果については、生徒全員のデータを共有するシステムが今年度から導入されたため、端末の台数制限はあるが、生徒の進路希望を各担当者が共有することが可能になった。
	中高一貫教育校が目指す将来的なリーダー育成の実施状況について	中学・前期課程	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動、生徒会や行事週間の運営を通じて、校内における集団の中におけるリーダーシップを育成している。 ・本校が日本で唯一、7年連続で受賞・入選している国際物理学論文コンテストなど、各種コンクール・大会等への参加を積極的に支援し、校外での活動を通じてパイオニアの育成を推進している。
		高校・後期課程	<ul style="list-style-type: none"> ・海外からの訪問者との交流、海外語学研修、海外修学旅行などの国際理解教育や交流活動を通して、異文化理解を深めるとともに、国際社会への関心を高めている。 ・世界で活躍している卒業生に小石川セミナー講師を依頼し、夢実現へのモチベーションを高めている。

都立小石川中等教育学校 進学対策に関する取組状況(5)

区分	項目	課程別・中高の連携状況	取組状況(現在の状況)
進路指導面	キャリア教育の実施状況について	中学・前期課程	<ul style="list-style-type: none"> ・中等1年での職業調べ、中等2年での「東京寺子屋」、職場体験等により、職業観・就労観の育成など、職場体験を柱とした進路学習を実施している。 ・SSH事業を活用し、大学研究室で生物実験、フューチャートリップつくば等を実施し、進路への意識付けを図っている。 ・小石川セミナー(年3回)実施し、職業観・就労観の育成を図っている。
		高校・後期課程	<ul style="list-style-type: none"> ・「総合的な学習の時間(奉仕:社会参加)」における近隣の小学校、図書館、公園等での活動において社会貢献の意識付けを行っている。 ・同窓会との連携により、分野別大学模擬講義や大学の研究室訪問などの高大連携事業を実施している。 ・保護者向けに予備校の進路講演会を実施し、生徒を支援している。 ・教育実習生による、進路講演会を実施すると共に、オープンキャンパスや大学説明会への積極的参加を促す。 ・小石川セミナー(年3回)を実施し、職業観・就労観の育成に寄与する。
		中高(前期後期課程)の連携状況	<ul style="list-style-type: none"> ・模試分析会等の機会を通じて、高校の模試分析等のノウハウを、中等教育学校に受け継いでいく。 ・個人カルテを作成している。 ・中等1年から5年まで、高校3年で、定期的な二者面談、三者面談を実施している。 ・自習室を放課後及び土・日に解放し、生徒の自学自習を推進している。
特別活動	部活と学習のバランスをとる方策について	中学・前期課程	<ul style="list-style-type: none"> ・中等1年の1学期間は、学校生活に慣れることを目的に部活動の延長を行わないよう指導している。 ・グラウンド、アリーナで活動する部活については、土・日の午前、午後と練習時間帯を区切り、部活動と学習のバランスをとっている。 ・前期生徒の朝練習では、顧問がついて指導することを条件とし、朝の出欠確認等への支障のないように配慮している。 ・各部活で保護者会を実施。各顧問が保護者と連携し、部活動と学習の両立を図っている。 ・定期考査1週間前は、活動を中止しているが、生徒の家庭学習時間確保のため、日頃の活動についても更に検討が必要である。
		高校・後期課程	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査1週間前は、活動を中止している。 ・グラウンド、アリーナで活動する部活については、土・日の午前、午後と練習時間帯を区切り、部活動と学習のバランスをとっている。
		中高(前期後期課程)の連携状況	<ul style="list-style-type: none"> ・土曜に授業がないため、土曜、日曜のいずれかを学習の補いに充てて部活動をするよう仕向けている(特に運動部)。 ・文化部は、前期課程の生徒と後期課程の生徒と一緒に活動をしている。 ・化学研究部では、創作展において前期の生徒も実験の披露をしたり、各自の実験の取組を紹介したりするなどの取組をしている。 ・オープンラボの一貫として、物理の輪読には、後期課程の生徒の中に前期課程の生徒も入り、専門的な内容を自主的に学んでいる。
	行事と学習のバランスをとる方策について	中学・前期課程	<ul style="list-style-type: none"> ・中2の国内語学研修、中3の海外語学研修は、事前・事中・事後学習も含め、英語のカリキュラムに組み込まれている。 ・スピーチコンテスト、レステーションコンテスト等、学習の成果を発表する機会を設け、生徒の学習意欲を喚起している。 ・芸能祭・体育祭・創作展を2週間の中に設定し、行事を集中的に実施している。また、終了後は、学習に集中させる指導を行っている。
		高校・後期課程	<ul style="list-style-type: none"> ・中5の海外修学旅行は、学校交流をメインと捉え、現地の交流校を確保し、事前学習を実施していく予定である。 ・芸能祭・体育祭・創作展を2週間の中に設定し、行事を集中的に実施している。また、終了後は、学習に集中させる指導を行っている。
		中高(前期後期課程)の連携状況	<ul style="list-style-type: none"> ・6つの学年が一緒に行事を行うことにより、展示方法、演劇の手法等、下級生は上級生から多くを学ぶ機会となっている。 ・後夜祭において、最終学年の生徒の今後の学習への意欲を間近にして、行事と学習の切替の重要性を学んでいる。

都立小石川中等教育学校 進学対策に関する取組状況(6)

区分	項目	課程別・中高の連携状況	取組状況(現在の状況)
特別活動	宿泊行事の精選	中等前期・後期	<ul style="list-style-type: none"> ・検討委員会報告書に基づき、中1から中5まで、毎年、宿泊行事を実施している。 ・1期生から3期生まで実施した行事については、見直しを行い、実施場所・内容を改善した行事もある(国内語学研修)。
教員の資質	校内における授業改善のための取組について	中学・前期課程	<ul style="list-style-type: none"> ・年に2回の生徒による授業評価の実施し、実施後、各教科で分析を行い、校内研修会で報告している。 ・週ごとの指導計画を作成し、改善に生かしている。 ・数学・英語の習熟度クラス編成において、定期考査で約8割の共通問題を出題し、担当者及び教科で分析を行っている。 ・授業改善プランを作成する。特に、今年度は、学力・学習状況調査の問題や結果などを分析しながら作成するよう、教務担当者が各種資料を準備し、各教科が改善プランを作成する。 ・初任者、2年次、4年次教員の研究授業及び研究協議を実施している。
		高校・後期課程	<ul style="list-style-type: none"> ・模試分析会を通して、各教科で問題、結果等を更に分析するよう、進路部が中心となって呼びかけ、実施していく。 ・予備校の大学入試問題分析会に参加し、教科の指導力の向上を図っている。
		中高(前期後期課程)の連携状況	<ul style="list-style-type: none"> ・理科においては、毎年教員合宿を行い、前期生徒の指導、後期生徒の指導について報告を行い、相互理解を図っている。 ・進学指導研究協議会における指名制による授業研究の活用し、改善に努めている。 ・SSH運営指導委員による、授業研究及び研究協議を行い、改善を推進している。 ・中高一貫教育校教員養成研修、東京教師道場等における授業研究及び研究協議を実施している。 ・他県、他国からの来校者への授業公開、意見交換の実施している。
	授業改善方法の中学(前期)と高校(後期)の違いについて	中学・前期課程	<ul style="list-style-type: none"> ・適性検査により入学してきた、学力の幅のある生徒を対象とするため、個別の対応が必要である。 ・中学段階から、一部高校の内容も取り入れるため、基礎・基本の確実な定着を図るための指導の徹底を図っている。 ・課題解決学習の手法を身に付けさせるために、図書館を利用した調べ学習、発表原稿の書き方、プレゼンの準備等についての指導の徹底を図っている。 ・理科好き、数学好きを育てる教育を実施している。理科好き・数学好きを育てる教材開発を通して「好き」な方向に変化したと答える生徒を35%以上にする。 ・前期課程1、2年の理科で7割以上を実験を扱う授業とする。
		高校・後期課程	<ul style="list-style-type: none"> ・大学入試を視野に入れた指導を実施している。特に、これまで大学進学指導の経験のない者に高校3年の特講を担当させることにより、自己研鑽させるとともに必要な指導を行う。 ・模試の分析により、弱点項目を分析し、授業改善に生かす。 ・課題研究Ⅱに、チューター制を活用する。
		中高(前期後期課程)の連携状況	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの教科で、前期課程と後期課程を持ち合うことにより、6年間を見通した指導計画を見直している。
	授業改善における課題について	中学・前期課程	<ul style="list-style-type: none"> ・中等教育学校の特例を活用した高等学校の学習内容の一部入替えなど、一部の教科でまだ検討を要する箇所がある。 ・学校を作りながら進めていることから、各教科の内容が学年ごとに異なってきたり、 ・教科内での打合せ、他の学年との連携を推進して、指導の改善を図る必要がある。
		高校・後期課程	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒による授業評価の分析方法を一層工夫し、授業改善に生かす必要がある。 ・進学指導研究協議会の指名制による授業研究は、受けることが中心となっているため、他校の優れた授業も十分研究し、更なる改善に生かす。 ・科目間では互いに授業参観し互いの授業改善に活かしているが、これを教科全体に広げ、一層の改善に努める。
		中高(前期後期課程)の連携状況	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度など多展開を実施しているが、教室の数に限りがあり、十分な展開授業ができない。 ・特別講座など、2時間連続の授業を設定する際に、6学年分の時間割を編成するため、各科目の担当者を考慮しての編成が困難である。

都立小石川中等教育学校 進学対策に関する取組状況(7)

区分	項目	課程別・中高の連携状況	取組状況(現在の状況)
生徒募集	広報活動の充実策について	中学	<ul style="list-style-type: none"> ・総務部を中心に実施し、平成21年度の外部学校説明会は3541名、学校説明会は2565名、授業公開は4894名、適性問題解説会は1017名の参加があった。 ・今年度の目標は、学校説明会・授業公開・体験授業等の来校者数目標7000名、外部学校説明会等(含個別)の来場者数目標 3000名、中等教育学校の一般枠募集の応募人数 1000名である。
		高校	<ul style="list-style-type: none"> ・SSHパンフレットによる啓蒙活動のほか、SSH東京都合同発表会・全国生徒発表会等へ参加し、生徒成果発表会兼最終年度報告会を実施した。 ・SSHの完成と新規指定に向けて、SSH部の設立した。 ・中等4年の奉仕「社会参加」で体験活動を行っている。
		中高一貫校(中学・高校の連携状況)	<ul style="list-style-type: none"> ・中高一体の行事週間(芸能祭、体育祭、創作展)を実施し、参加者は7000名を超えた。

都立南多摩中等教育学校 進学対策に関する取組状況(1)

区分	項目	課程別・中高の連携状況	取組状況(現在の状況)
組織体制	進路指導部の体制について	中学・前期課程	今年度は、進路部として進路指導主任を中心に3名で構成している。初年度であり、全教員で学年を組織しているため、全員で進路指導に当たる体制となっている。
		高校・後期課程	進路部を中心に3年間の系統的な計画を立て、学年と連携して組織的な指導を実施している。3年間の系統的・組織的指導の具体的計画が確立している。
		中高(前期後期課程)の連携状況	進路部会を中高合同で行い、情報を共有している。週に1回の進路部会で情報交換をしている。
	進路指導に係る組織体制の充実策について	中学・前期課程	今年度は、進路部が職場訪問等のキャリア教育を中心に計画を進め、学年と連携して検討・実施している。
		高校・後期課程	進路部主導で学年との連携を進め、進路行事に取り組んでいる。今後、進路部と教科の連携、進路部と他の分掌との連携を進める予定である。
		中高(前期後期課程)の連携状況	進路部会を合同で実施している他に、高校の模試の分析検討の結果を中等も含めた全教員で共有している。高1・2年の模試は年間3回、高3年は年間5回、職員会議で模試の結果報告を行っている。
学習面	入学時からの生徒の学力推移の把握・分析について	中学・前期課程	入学時と2学期初めに独自の校内学力テストを実施している。定期考査で生徒の学習状況を把握している。3月に外部学力推移調査を実施し、客観的な学力状況を把握・分析する。日常的に授業での観察、小テスト、課題の状況など活用している。
		高校・後期課程	外部模試等を実施し、分析会を開催するなど学力把握を進めている。また、生徒自身による分析の仕方を指導し、生徒自身が学力把握ができるようにしている。外部模試は高1・2年で年間3回、高3は5回を校内で実施。学年通信、進路部通信に成績分析を掲載、高2は2学期に学年集会の形で成績を講評・分析している。高3には校内のPCを使って自身で成績分析を行わせている。
		中高(前期後期課程)の連携状況	高等学校の分析結果、中等の分析結果を職員会議で報告し、全教職員で共有するとともに、6年間の学力推移の把握、分析の仕方と生徒・保護者への周知の仕方について検討している。
	学力上位層の維持のための方策について	中学・前期課程	国語、数学、英語は少人数指導による授業を行い、個別に対応できる体制をとっている。土曜講座を年間6回実施し、生徒の多様な学びに対応している。フィールドワークを活用した探究活動を実施し、記述力、問題解決力等の育成に取り組んでいる。早朝、放課後の補習を実施している。
		高校・後期課程	日常において上位者向けの補習を実施している。様々な希望に対応した選択教科を実施。春休みの先取り学習講座や夏休み補習を実施。学習相談室『湧志学堂』を設置し、個別の学習相談に対応している。夏季講習は、今年度44講座を開き、のべ1300人が参加した。
		中高(前期後期課程)の連携状況	年間5回、模試の成績を職員会議で報告し、上位層の教科別の学力、志望校を分析している。
	学力下位層の伸長のための方策について	中学・前期課程	基礎基本の定着状況を授業内テスト等で確認し、継続的に下位層に対して補習を実施している。数学は習熟度別授業を実施し、基礎力が身につけていない生徒に対して個別に対応している。早朝、放課後の補習を実施している。
		高校・後期課程	自立学習を習慣づけ、校内に学習の雰囲気醸成するために、定期考査1週間前に共同学習の時間を設定している。継続的に補習を実施している。学習相談室『湧志学堂』において個別の学習相談に対応している。高1・2で実施する学習習慣調査の結果を踏まえて年間2回検討、その際には学校評価アンケートの結果も参照している。
		中高(前期後期課程)の連携状況	家庭(自学)学習の状況調査の結果を中高で共有している。

都立南多摩中等教育学校 進学対策に関する取組状況(2)

区分	項目	課程別・中高の連携状況	取組状況(現在の状況)
学習面	中だるみ防止の取組について	中学・前期課程	学習状況をこまめにチェックし、状況に応じた指導を実施 定期的な担任との個人面談により、学習状況の確認や次のステップへの指導を行っている。
		高校・後期課程	高校2年生に対するキャリア教育を充実させ、大学の学部説明会や講演会の実施により、卒業後の進路への動機づけを行っている。進路部による進路面接を実施している。学年集会による指導を行っている。高校では例年、2年2学期の模試の成績が伸び悩むが、進路ガイダンス、卒業生の声を聞く会(在卒懇談会)を実施して、学習と進路実現への意欲を向上させている。
		中高(前期後期課程)の連携状況	進路部を中心に生徒の状況を全教職員で情報交換している。
	自宅学習時間の確保のための方策について	中学・前期課程	試験2週間前から学習計画表による計画的な学習を指導し、家庭学習の状況と自宅学習時間の把握を行う。 家庭学習状況調査を行い、望ましい自宅学習のしかたを指導している。
		高校・後期課程	学力状況調査を定期的実施して、自宅学習時間を把握している。 学校評価アンケートの中にも自宅学習時間の項目を設けて把握している。
		中高(前期後期課程)の連携状況	生徒の自宅学習時間の状況を中高で情報交換している。
	生徒に対する個別相談体制について	中学・前期課程	学期に1回程度、個人面談もしくは三者面談を実施し、生徒の状況把握と、家庭との連携を行っている。
		高校・後期課程	担任による面談を実施し、生徒の状況を把握している。 進路部による進路面談を実施し、進路相談と共に学習体制へのアドバイスをしている。 進路始動室は常に相談できる体制になっている。
		中高(前期後期課程)の連携状況	学習相談室、スクールカウンセラーの活用を中高で共通に実施している。
	習熟度別授業、補習・補講の実施状況について	中学・前期課程	習熟度別授業…数学において2学期より導入 補習補講…随時各教科で実施。夏休みにおける補習、補講の実施。朝の質問教室(数学・理科)を2学期より実施
		高校・後期課程	夏休みの補習では、様々な難易度の講座を設定している。 各教科で随時補習を行っている。
		中高(前期後期課程)の連携状況	施設使用の観点から、習熟度別授業や少人数指導、補習等の状況を共有するようにしている。
進路指導面	入学後の生徒の進路希望先の把握について	中学・前期課程	キャリア教育を実施する中で、自分自身を知る取組を行い、将来の進路選択に向けての準備をしている段階であり、進学に視点を置いた指導はまだしていない。
		高校・後期課程	高校1年で担任との面談を実施し、進路希望を把握している。高校2、3年では、担任及び進路部との面談と実力テスト分析により、進路希望先を把握している。
		中高(前期後期課程)の連携状況	高校の進路希望状況は職員会議等で報告し、中高で情報を共有できるようにしている。

都立南多摩中等教育学校 進学対策に関する取組状況(3)

区分	項目	課程別・中高の連携状況	取組状況(現在の状況)
進学指導面	上記生徒の進路希望先について、学年が上がっても担任等は把握しているか。	中学・前期課程	進路希望など各生徒の記録を「個人学習記録」に統一して保管し、いつでも確認できるようにしている。
		高校・後期課程	進路希望や学力検査の結果等のデータを生徒一人一人について蓄積し、活用している。
		中高(前期後期課程)の連携状況	進路希望等の記録の仕方について中高の共通様式を検討している。
	進路希望を実現させるための進路指導の実施について	中学・前期課程	基本的な生活習慣の確立させ学習の継続力を育成している。知的好奇心を喚起する授業や行事、部活動を工夫し、学習への動機付けを図っている。
		高校・後期課程	大学の教員によるガイダンスや模擬授業、卒業生を招いての進路講演会、さらに受験対策の相談会等を実施し、大学の魅力に触れさせ動機付けを図っている。また、模試の成績と各大学の合格との関係など、データを具体的に示して目標設定をさせている。
		中高(前期後期課程)の連携状況	高等学校の進路指導に関する情報を共有する。5月に卒業生の進路状況の報告を職員会議で実施、また、3年間の年5回の模試ごとに第1志望校の状況を報告して情報を共有している。
	外部模擬試験の利用について	中学・前期課程	3学期には外部学力調査を行う。
		高校・後期課程	1, 2年年3回、3年年5回実施。その他に3年を中心に夏季休業中の模試、秋の記述・マーク模試、難関大学即応模試、センタープレ模試などを外部会場で受験するよう指導している。
		中高(前期後期課程)の連携状況	分析結果について、共有する。年間3回、各学年ごとに模試の報告会を実施して成績を分析している。
	外部模擬試験の分析について	中学・前期課程	現時点で未実施であるが、3学期には外部学力調査を実施し、その分析を行う。
		高校・後期課程	実力テストごとに分析会を開いている。1・2年は年間3回、その他に3年は年間3回の計6回、模試の業者を入れて結果分析会を行っている。
		中高(前期後期課程)の連携状況	分析のしかたについて、進路部を中心に情報を共有する。年間3回、各学年ごとに模試の報告会を実施して成績を分析している。
外部模擬試験の分析結果に対する教員間の共通理解について	中学・前期課程	学部学力調査の分析結果は全教員で共有し、教科の指導や個別指導に生かしていく。	
	高校・後期課程	職員会議において進路指導主任から定期的に報告している。また、1・2年は年間3回、その他に3年は年間3回の計6回、模試の業者を入れて結果分析会を行っている。	
	中高(前期後期課程)の連携状況	年間3～5回職員会議で模試の結果分析について報告し、高等学校の分析結果を中等も含めて全教職員で共有している。	

都立南多摩中等教育学校 進学対策に関する取組状況(4)

区分	項目	課程別・中高の連携状況	取組状況(現在の状況)
進路指導面	中高一貫教育校が目指す将来的なリーダー育成の実施状況について	中学・前期課程	フィールドワーク活動による探究学習を実施し、問題解決能力や思考力等総合的に人間力を育成する取組を実践している。行事や部活動等でフォローアップとリーダーシップを育成している。ソーシャルスキルを用いた生徒指導により、社会性の向上を図っている。
		高校・後期課程	学習面でも行事、部活動等の面でも中等生のよきモデルとして自分自身を高めるように指導している。
		中高(前期後期課程)の連携状況	校内のフリースペースに学習コーナーを設置し、高校生の真剣に学ぶ姿を常時見ることができるようになっている。行事、部活動においてできる限り中高の交流が生じるように工夫している。
	キャリア教育の実施状況について	中学・前期課程	職業調べ、自己の分析、職場訪問等を実施している。フィールドワークで地域の方と接する機会を活用して、様々な職業や生き方を学ばせている。
		高校・後期課程	総合的な学習の時間の中で計画的に実施している。高2・3では「総合的な学習の時間」でキャリアプランの学習を実施している。
		中高(前期後期課程)の連携状況	進路部会、職員会議等で中高での実施状況を共有している。「総合」の検討委員会で実施状況を共有している。
特別活動	部活と学習のバランスをとる方策について	中学・前期課程	部活動は、平日に1日定休日を入れることを共通として指導する。一斉下校時刻を夏季17時30分、冬季17時に設定し、その徹底を図っている。
		高校・後期課程	高等学校の部活の終了時刻を18時とし、徹底させている。部活動の顧問による進路指導や学習指導を行っている。
		中高(前期後期課程)の連携状況	部活動の終了時刻の徹底を共通して行っている。
	行事と学習のバランスをとる方策について	中学・前期課程	行事が終了後、一人一人、クラス、学年で振り返りをさせ、次の取組を意識させる指導をしている。
		高校・後期課程	年間の行事の計画を工夫し、年度の後半は学習に集中できるように大きな行事を置いていない。各行事において、けじめとメリハリをつける指導を学年集会やホームルームで行っている。
		中高(前期後期課程)の連携状況	行事について中高で合同開催とし、連携して取り組む。
教員の資質	校内における授業改善のための取組について	中学・前期課程	シラバスの作成し、年度当初に保護者、生徒に配布している。10月には学力向上推進プランをまとめた。生徒による授業評価、他校の授業見学を活用している。常に授業を公開することで授業改善への意識を高めている。
		高校・後期課程	若手教員を中心とした授業研究を行い、教員間での授業改善への意識を高める。生徒による授業評価、他校の授業見学を活用している。常に授業を公開することで授業改善への意識を高めている。
		中高(前期後期課程)の連携状況	中等教育学校と高等学校で互いの授業を見学し、研修している。教育課程やシラバスの作成において協力して取り組んでいる。

都立南多摩中等教育学校 進学対策に関する取組状況 (5)

区分	項目	課程別・中高の連携状況	取組状況(現在の状況)
教員の資質	授業改善方法の中学(前期)と高校(後期)の違いについて	中学・前期課程	生徒が授業内での活動をどのように行っているかを重視する。授業内での生徒の取組成果の確認方法とその活用を図る。知的好奇心を高め、学習習慣を身に付けさせるために土曜講座やフィールドワーク活動の充実を図る。
		高校・後期課程	学習意欲を低下させない授業、生徒が入学を希望する大学への合格水準を満たす授業になっているかを検討している。
		中高(前期後期課程)の連携状況	中等教育学校と高等学校で互いの授業を見学し、研修している。
	授業改善における課題について	中学・前期課程	6年間を見通した中での1年目として生徒に必要な力を明確にすること。大学受験に必要な学力をつける指導と教養教育との両者を生かす授業の在り方
		高校・後期課程	各教科での取組を共有すること。学力向上の成果の検証を行い、さらに改善の方策を検討すること。受験への対応と学問的興味・関心を引き出す指導とのバランスをどのようにとるか。
		中高(前期後期課程)の連携状況	教科ごとに教育課程やシラバスの作成について協力している。
生徒募集	広報活動の充実策について	中学	近隣小学校へ学校説明会の案内を年2回配布した。土曜授業を原則公開授業としている。ほぼ毎日更新するなど学校ホームページの充実を図っている。体験授業を実施した。地域中学校教員の研修会等に協力することで本校の取組を知ってもらった。生徒による母校訪問を実施した。学校だよりを地域に配布した。
		高校	学校見学会、学校説明会、授業・行事等の公開を行っている。学校ホームページの充実を図っている。生徒による母校訪問、教員による中学校訪問を実施している。地域清掃・美化活動に生徒が参加した。
		中高一貫校(中学・高校の連携状況)	教務部を中心に中高全教職員で分担している。

都立立川国際中等教育学校 進学対策に関する取組状況(1)

区分	項目	課程別・中高の連携状況	取組状況(現在の状況)
組織体制	進路指導部の体制について	中学・前期課程	進路指導主任ほか4名の体制。職業講話、職場訪問、職場体験など、キャリア教育も含めた担当分掌として、企画立案し、実行している。
		高校・後期課程	平成23年度に向け、進路指導・キャリア教育PTを立ち上げ、6年間を見通した進路指導部の組織体制について、母体校での取組を参考にして準備を進めている。
		中高(前期後期課程)の連携状況	平成23年度に向け、進路指導・キャリア教育PTを立ち上げ、6年間を見通した進路指導部の方針・施策・組織などの体制を構築し、準備を進めている。
	進路指導に係る組織体制の充実策について	中学・前期課程	進路指導主任ほか4名の体制。学年主体に陥らないよう、進路部が所管事業を企画・立案・実施及び評価・改善を行う組織体制を構築中。進路指導の6年間全体計画を立案中。
		高校・後期課程	6年間一貫の進路指導・キャリア教育が実施できる体制を再確認している。高大連携や大学訪問等の事業推進のため担当者を決めて情報収集を行うなど、課題や企画に対してはPTを立上げ着実に体制づくりを実施している。
		中高(前期後期課程)の連携状況	後期課程進路指導主任が進路部全体を総括し、6年間一貫の進路指導・キャリア教育が実施できるようにする。学力向上の分析会を学校全体(全教科・全学年)で行う。
学習面	入学時からの生徒の学力推移の把握・分析について	中学・前期課程	学力推移調査やスコア型英語学力調査、各種検定合格率など客観的なデータに基づいた各教科での授業改善を実施。学習面では個人学習記録のフォーマットを定める。
		高校・後期課程	学力推移調査や、スコア型英語学力調査、各種検定合格率など客観的なデータに基づいた各教科での授業改善に向け、学年・経年変化を前期に継続して実施すべく、成績と外部模試等の分析会の実施に向けて情報収集を行っている。
		中高(前期後期課程)の連携状況	学力推移調査やスコア型英語学力調査、各種検定合格率など客観的なデータに基づいた各教科での授業改善を受けて学力の推移と学力向上に向けた授業改善プランを作成する。個人学習記録(後期用)を検討中
	学力上位層の維持のための方策について	中学・前期課程	年2回の学力推移調査により、学力の把握・分析に努めている。また英語についてはGT ECを実施している。その他各種検定に対する取組を行っている。
		高校・後期課程	年3回の学力推移調査や外部模試等により、学力の把握・分析に努め、大学受験を意識した発展的な課題や補講等の準備を進めている。
		中高(前期後期課程)の連携状況	年4回の学力推移調査や外部模試等により、学力の把握・分析に努め、大学受験を意識した発展的な課題や補講等ができるよう接続を図るための具体的な施策・方法検討会を継続的に実施し、23年度の後期課程発足に備える。
	学力下位層の伸長のための方策について	中学・前期課程	個人学習記録のフォーマットを作成して、生徒の学習状況を把握する。その上で、学習指導の改善を図る。また少人数授業や、ティームティーチングを充実させていく。
		高校・後期課程	定期考査後の補充教室や長期休業期間中の補習・補講等を充実させ、基礎・基本の着実な習得・定着が図れる指導体制・方法・施策を準備する。
		中高(前期後期課程)の連携状況	定期考査後の補充教室や長期休業期間中の補習・補講等を充実させ、基礎・基本の着実な習得と定着が図れるような指導体制・施策を準備する。

都立立川国際中等教育学校 進学対策に関する取組状況(2)

区分	項目	課程別・中高の連携状況	取組状況(現在の状況)
学習面	中だるみ防止の取組について	中学・前期課程	短期目標の設定とともに、個人面談・三者面談等の機会を捉えて、学習面・心理面などでケアを図る。
		高校・後期課程	3ステージ制の利点を生かし、メリハリのある学校生活が送れるよう、主体性を発揮させながら学習・行事に取り組みさせる方策・方法を具体的に検討中
		中高(前期後期課程)の連携状況	3ステージ制の利点を生かし、メリハリのある学校生活が送れるよう、主体性を発揮させながら学習・行事に取り組みさせる。
	自宅学習時間の確保のための方策について	中学・前期課程	宿題の設定状況を定点観測するとともに、生徒の自宅学習時間を把握し、強化・学年などの情報共有の下、組織的・有機的な対応を可能とする組織・方策を確定中。
		高校・後期課程	前期課程同様、宿題の設定状況を定点観測しするとともに、生徒の自宅学習時間を把握し、個に応じた指導を行う組織・運営方法などの準備を実施し23年度からの後期課程に備える。
		中高(前期後期課程)の連携状況	宿題の設定状況を定点観測し、生徒の自宅学習時間を把握し、予習・復習時間を確保し、学習習慣の確立を図る指導を前期・後期の実績と実態・計画を前強化・学年で共有し有機的な対応となるよう進路指導部が主導し実施する。
	生徒に対する個別相談体制について	中学・前期課程	個人学習記録や電子型個人記録を活用して年1回以上の個人面談を実施する。
		高校・後期課程	個人学習記録や電子型個人記録を活用して年2回以上の三者面談を実施する計画
		中高(前期後期課程)の連携状況	前年までの指導記録や個人学習記録を活用して年2回以上の三者面談を実施する。
	習熟度別授業、補習・補講の実施状況について	中学・前期課程	少人数指導の充実とともに習熟度別授業の実施教科の拡充推進中
		高校・後期課程	少人数指導の充実とともに習熟度別授業の実施教科の具体的検討及び人事計画の策定
		中高(前期後期課程)の連携状況	少人数指導の充実とともに習熟度別授業の実施教科の具体的検討及び人事計画の策定をはじめ、関連施策は教務・進路指導・外国部各部で情報共有し、ワンボイスで個々に向かい合う体制を企画中
進路指導面	入学後の生徒の進路希望先の把握について	中学・前期課程	学力推移調査実施時における意識調査を実施し、面談等の機会を通じて、電子型個人学習記録で管理する。
		高校・後期課程	学力推移調査実施時における意識調査を実施し、面談等の機会も通じて、電子型個人学習記録で管理する。把握した情報に基づき、具体的な目標の設定を行う。
		中高(前期後期課程)の連携状況	学力推移調査実施時における意識調査を実施し、電子型個人記録で管理する。把握した情報に基づき、具体的な目標の設定を行う。
	上記生徒の進路希望先について、学年が上がっても担任等は把握しているか。	中学・前期課程	電子型個人学習記録を使用して系統的に把握している。
		高校・後期課程	電子型個人記録を使用して系統的に把握する。情報管理を徹底したTAIMS環境下で、教職員が共有できるシステムを後期課程がスタートする前の今年度中に構築する。
		中高(前期後期課程)の連携状況	電子型個人学習記録を使用して系統的に把握、指導記録と合わせて保存する。

都立立川国際中等教育学校 進学対策に関する取組状況(3)

区分	項目	課程別・中高の連携状況	取組状況(現在の状況)
進路指導面	進路希望を初志貫徹するための進路指導の実施について	中学・前期課程	個人面談や、個別相談の体制を充実させ、定期的に自己の適性について考えさせる機会を設けている。学期ごとの振り返り指導の実施
		高校・後期課程	最後まで頑張りきる雰囲気作りと教員によるきめの細かい指導を行うために必要な事項を整理する手順と体制の計画を策定中。必要なITバックアップも基本形の導入予定
		中高(前期後期課程)の連携状況	最後まで頑張りきる雰囲気作りと教員によるきめの細かい指導を行うために必要な事項を整理し、次年度以降の後期課程発足に備える。
	外部模擬試験の利用について	中学・前期課程	全学年1学期に1回の外部模擬試験を行い、加えて3年生は12月に実施し、生徒及び保護者にフィードバックして、学習課題を明確にする。
		高校・後期課程	年2回の外部模擬試験を実施し、実施後に分析会を行い、具体的な授業改善及び生徒の振り返りに結びつける手順・方法の検討を行い、次年度以降の後期課程発足の準備を行っている。
		中高(前期後期課程)の連携状況	年3回の外部模擬試験を実施し、実施後に分析会を行い、具体的な授業改善及び生徒の振り返りに結びつけていくべく具体的な体制・組織・方策・手順につき作業中
	外部模擬試験の分析について	中学・前期課程	結果分析会を行い、各教科の授業改善プランの作成、と学年及び教科間での共有を図っている。
		高校・後期課程	結果分析会を行い、個の生徒に焦点を当てた課題分析と各教科の授業改善プランの作成準備を行っている。
		中高(前期後期課程)の連携状況	結果分析会を行い、前・後期の接続を意識した課題分析と各教科の授業改善プランの作成のための準備を行っている。
	外部模擬試験の分析結果に対する教員間の共通理解について	中学・前期課程	分析会の継続と、授業改善へのフィードバックを行っている。また、その改善結果の評価の分析も継続して実施している。
		高校・後期課程	分析会の継続と、結果を基にした授業改善へのフィードバックの実践とその後の検証を全体分析会で行っていく準備をしている。
		中高(前期後期課程)の連携状況	分析会の継続と、結果を基にした授業改善へのフィードバックの実践とその後の検証を全体分析会で行っていく準備をしている。
	中高一貫教育校が目指す将来的なリーダー育成の実施状況について	中学・前期課程	各種体験活動を行うなかで、自己の適性について考えさせる機会を増やすとともに、行事運営などにおいては、教師からの適切な助言を入れて達成感を得られるようにしており、各行事の後の分析会を実施、経年比較とともに改善、改良を実施
		高校・後期課程	前期課程の体験活動を基に、自主・自律の教育方針に基づいて生徒が主体的に学習等に取り組めるよう動機付けを図るよう方策・手順などの検討を重ね、23年度からの後期課程発足の準備をしている。
		中高(前期後期課程)の連携状況	前期課程の体験活動を基に、自主・自律の教育方針に基づいて生徒が主体的に学習等に取り組めるよう動機付けを図る準備をしている。

都立立川国際中等教育学校 進学対策に関する取組状況(4)

区分	項目	課程別・中高の連携状況	取組状況(現在の状況)
進路指導面	キャリア教育の実施状況について	中学・前期課程	1年での職業講話、2年でのキャリア教育講座・3年の職業体験の実施をはじめ、6年間のキャリア教育全体計画に基づき実施している。
		高校・後期課程	発達段階に応じた系統的なキャリア教育を実施し、獲得すべき能力を身につけられるようなプログラムを開発するべくPTを立ち上げ、検討を加えるなど準備を行っている。
		中高(前期後期課程)の連携状況	発達段階に応じた系統的なキャリア教育を実施し、獲得すべき能力を身につけられるようなプログラムを開発する準備を行っている。
特別活動	部活と学習のバランスをとる方策について	中学・前期課程	1週間の活動日を3日と規定し、学習習慣の確立と部活動の両立を図る。
		高校・後期課程	1週間の活動日を3日と規定し、学習習慣の確立と部活動の両立を図る。
		中高(前期後期課程)の連携状況	1週間の活動日を3日と規定し、学習習慣の確立と部活動の両立を図る。
	行事と学習のバランスをとる方策について	中学・前期課程	行事ごとに総括を行い、気持ちの切替えがスムーズに行えるように指導している。
		高校・後期課程	行事ごとに総括を行い、行事の達成感を学習リズムに結びつけられるような指導体制を構築できるようPTを立ち上げ、23年度の後期課程発足に備え、準備を進めている。
		中高(前期後期課程)の連携状況	行事ごとに総括を行い、行事の達成感を学習リズムに結びつけられるような指導体制を構築できるように準備を進めている。
教員の資質	校内における授業改善のための取組について	中学・前期課程	学力推移調査の結果を踏まえた3教科の改善プランを作成・実行している。
		高校・後期課程	相互の授業参観や生徒による授業評価等を活用して授業改善に結びつける。
		中高(前期後期課程)の連携状況	相互の授業参観や生徒による授業評価等を活用して授業改善に結びつける。
	授業改善方法の中学(前期)と高校(後期)の違いについて	中学・前期課程	前期課程の発達段階を踏まえた、単元ごとの目標を明確に提示し、予習と復習が結びついた授業改善を実施している。
		高校・後期課程	基礎・基本の定着の上に応用力を育成するための授業改善の方向性を探る。その方法・方針などを検討し23年度からの後期課程発足に備え準備している。
		中高(前期後期課程)の連携状況	発達段階を踏まえ、前期・後期の接続を意識した連携のための準備を行っている。

都立立川国際中等教育学校 進学対策に関する取組状況(5)

区分	項目	課程別・中高の連携状況	取組状況(現在の状況)
教員の 資質	授業改善における 課題について	中学・前期課程	高校籍教員の発達段階を踏まえた指導の充実のための校内研修を実施している。
		高校・後期課程	中学校籍の教員が出口を意識した実践的な指導ができるよう、母体校の授業を担当するなど、後期課程の進行に合わせた準備を行っている。
		中高(前期後期課程)の連携状況	中学校籍の教員が出口を意識した実践的な指導ができるよう、母体校の授業を担当するなど、後期課程の進行に合わせた準備を行っている。
生徒募集	広報活動の充実策 について	中学	管理職がリーダーシップを発揮し、ホームページのリニューアル及びディスクロージャーの推進を行っている。ホームページはほぼ毎日更新を行っている。

都立三鷹中等教育学校 進学対策に関する取組状況(1)

区分	項目	課程別・中高の連携状況	取組状況(現在の状況)
組織体制	進路指導部の体制について	中学・前期課程	前期課程の進路指導部に2名の教員を配置し、6年間を見通した進路指導計画を策定し、キャリア教育を中心とした将来のリーダー育成に向けた組織的取組を推進している。
		高校・後期課程	生徒のほとんどが4年制大学進学を希望しており、3年間の進路指導計画を策定し、生徒の進路実績向上に向けた取組を推進している。
		中高(前期後期課程)の連携状況	前期課程と高校の分掌を一体として運営しているが、各教員の役割分担では別々で、職場見学等一部を除き、協働体制が確立していない。
	進路指導に係る組織体制の充実策について	中学・前期課程	進路指導部を中心に、職場体験やボランティア活動等を取り入れた総合的な学習の時間「人生設計学」を柱としたキャリア教育に取り組み、中等教育学校教員の打合わせで全教員の共通理解と指導体制構築を図っている。
		高校・後期課程	進路指導部を中心とした組織的進学指導を推進し、補習・補講や16大学と連携した模擬講義を実施。また、模試のデータを進路指導部と学年で共有し、進学指導に活用
		中高(前期後期課程)の連携状況	前期課程と高校の分掌を一体として運営しているが、各教員の役割分担では別々で、職場見学等一部を除き、協働体制が確立していない。
学習面	入学時からの生徒の学力推移の把握・分析について	中学・前期課程	学力推移調査を入学時から定期的実施し、個人カルテを作成して生徒一人一人の学力を分析し、校内研修会等を通して全教員で共通理解を図り、授業へフィードバックさせる。
		高校・後期課程	模擬試験を入学時から定期的実施し、生徒一人一人の学力を分析し、校内研修会等を通して全教員で共通理解を図り、授業へフィードバックさせる。
		中高(前期後期課程)の連携状況	校内研修等を合同で実施し、中等教育学校前期課程と高等学校それぞれについて、生徒の学力分析結果を共有し、学力向上に向けた授業改善を図る。
	学力上位層の維持のための方策について	中学・前期課程	英語検定2級合格を目指したり、高レベルの問題集を使用したりした学力上位層向けの数学の補習・補講を毎週実施し、上位層の伸長を図る。
		高校・後期課程	夏季休業中に学力や目標に応じた補習・補講を実施するとともに、大学模擬講義等を通して生徒の進学意欲を喚起し、学力上位層の難関大学進学を奨励する。
		中高(前期後期課程)の連携状況	各教科を母体校と中等教育学校を一体として組織し、相互に授業の乗り入れを行わせ、補習・補講体制を構築する。
	学力下位層の伸長のための方策について	中学・前期課程	学力推移調査や定期考査の結果をもとに、英語・数学を中心とした補習・補講を行い、1年次での基礎・基本の徹底を図っている。
		高校・後期課程	模擬試験や定期考査の結果を基に、学力下位層を把握し、放課後や夏季休業中等に補習を実施して基礎・基本の徹底を図っている。
		中高(前期後期課程)の連携状況	各教科でシラバスの基づいた意図的・計画的な授業を実施し、目標に準拠した指導と評価の一体化を図りながら、基礎・基本の徹底を図っている。
	中だるみ防止の取組について	中学・前期課程	取組状況なし
		高校・後期課程	取組状況なし
		中高(前期後期課程)の連携状況	取組状況なし

都立三鷹中等教育学校 進学対策に関する取組状況(2)

区分	項目	課程別・中高の連携状況	取組状況(現在の状況)
学習面	自宅学習時間の確保のための方策について	中学・前期課程	自宅学習時間2時間以上を徹底して指導。学力推移調査と同時に実施する生徒の意識調査で自宅学習時間を把握する。各教科で宿題やレポートの充実を図っている。
		高校・後期課程	生徒の意識調査で自宅学習時間を把握する。各教科で宿題や課題の充実を図っている。
		中高(前期後期課程)の連携状況	校内研修会や成績会議を合同で実施し、情報を共有する。
	生徒に対する個別相談体制について	中学・前期課程	スクールカウンセラーを中心にした校内の相談体制を確立。スクールカウンセラーとの個別面接を実施して、生徒一人一人の状況を把握する。
		高校・後期課程	高校生も中等教育学校のスクールカウンセラーを利用可能とし、生活指導部と連携した個別相談体制を構築する。
		中高(前期後期課程)の連携状況	毎月スクールカウンセラー連絡会を校内で実施して、生徒の状況や課題を共有していく。
	習熟度別授業、補習・補講の実施状況について	中学・前期課程	1年生の英語・数学で習熟度別授業を実施。定期考査ごとにクラスの入替えを行っている。
		高校・後期課程	高2の英語で習熟度別授業を実施し、個に応じた指導の充実を図っている。
		中高(前期後期課程)の連携状況	各教科を母体校と中等教育学校を一体として組織し、相互に授業の乗り入れを行いながら習熟度別授業や補習・補講を実施している。
進路指導面	入学後の生徒の進路希望先の把握について	中学・前期課程	学力推移調査や個別面談時に進路希望を定期的に把握し、個人カルテを利用して情報を共有し、担任が変わっても引き継いでいく。
		高校・後期課程	入学時に進路意識調査を行い、学年と進路部で情報を共有しながら、生徒一人一人の進路希望を引き継いでいく。
		中高(前期後期課程)の連携状況	校内研修会や成績会議を合同で実施し、情報を共有する。
	上記生徒の進路希望先について、学年が上がっても担任等は把握しているか。	中学・前期課程	取組状況なし
		高校・後期課程	している。
		中高(前期後期課程)の連携状況	校内研修会や成績会議を合同で実施し、情報を共有する。
	進路希望を実現させるための進路指導の実施について	中学・前期課程	6年間のキャリア教育を通して、将来の在り方・生き方を考察させながら、進路意識を喚起し、三者面談等の機会に初志貫徹を奨励する。
		高校・後期課程	キャリア教育や大学模擬講義等を充実させながら、進路意識を喚起し、三者面談等を通して初志貫徹を奨励する。
		中高(前期後期課程)の連携状況	校内研修会や成績会議を合同で実施し、生徒の進路希望を共有する。

都立三鷹中等教育学校 進学対策に関する取組状況(3)

区分	項目	課程別・中高の連携状況	取組状況(現在の状況)
進路指導面	外部模擬試験の利用について	中学・前期課程	学力推移調査を定期的を実施し、進路指導部が主催する校内研修会等で全教員で情報を分析・共有する。
		高校・後期課程	外部模擬試験を定期的を実施し、進路指導部と学年でデータを共有しながら進学指導を行っている。
		中高(前期後期課程)の連携状況	校内研修会や成績会議を合同で実施し、外部模擬試験の分析結果を共有する。
	外部模擬試験の分析について	中学・前期課程	外部講師を招いた学力分析会を実施し、全教員で情報を共有しながら授業へフィードバックさせる。
		高校・後期課程	外部講師を招いた学力分析会を実施し、全教員で情報を共有しながら授業へフィードバックさせる。
		中高(前期後期課程)の連携状況	校内研修会や成績会議を合同で実施し、外部模擬試験の分析結果を共有する。
	外部模擬試験の分析結果に対する教員間の共通理解について	中学・前期課程	外部講師を招いた学力分析会を実施し、全教員で情報を共有しながら授業へフィードバックさせる。
		高校・後期課程	外部講師を招いた学力分析会を実施し、全教員で情報を共有しながら授業へフィードバックさせる。
		中高(前期後期課程)の連携状況	校内研修会や成績会議を合同で実施し、外部模擬試験の分析結果を共有する。
	中高一貫教育校が目指す将来的なリーダー育成の実施状況について	中学・前期課程	卒業生や外部講師を招いた講演会や、地域の教育機関と連携した6年間のキャリア教育を通して、将来の在り方・生き方を考察させ、モチベーションの向上を図る。
		高校・後期課程	取組状況なし
		中高(前期後期課程)の連携状況	中等教育学校の取組について、校内研修会や職員会議等を通して全教員で共有する。
	キャリア教育の実施状況について	中学・前期課程	6年間を見通した総合的な時間「人生設計学」を中心に、卒業生や外部講師を招いた講演会や、地域の教育機関と連携した体験的活動を取り入れながら意図的・計画的に実施。
		高校・後期課程	キャリア教育の全体計画を策定し、進路指導部と学年が連携しながら計画的に実施
		中高(前期後期課程)の連携状況	中等教育学校の取組について、校内研修会や職員会議等を通して全教員で共有する。
特別活動	部活と学習のバランスをとる方策について	中学・前期課程	部活動は週3日、17時までとして家庭学習時間の確保を図る。また、各教科での積極的な宿題・課題の取組を進める。
		高校・後期課程	文武両道・自主自律の校風の下、生徒の主体的な学習を促し、部活動と学習のバランスをとらせている。
		中高(前期後期課程)の連携状況	中高合同の部活動では、中等教育学校の生徒に部活動が過重負担とならないよう、共通理解を図る。

都立三鷹中等教育学校 進学対策に関する取組状況(4)

区分	項目	課程別・中高の連携状況	取組状況(現在の状況)
特別活動	行事と学習のバランスをとる方策について	中学・前期課程	学校行事と学習の両立を図るため、学習計画表等を活用して計画的な学習を行わせる。
		高校・後期課程	文武両道・自主自律の校風の下、生徒の主体的な学習を促し、学校行事と学習のバランスをとらせている。
		中高(前期後期課程)の連携状況	学校行事を中高一体で実施することから、学校行事での発達段階に応じた役割を生活指導部で検討し、学習との両立を図る。
教員の資質	校内における授業改善のための取組について	中学・前期課程	生徒による授業評価を活用したり、指導主事や他の小中学校の教員を招いたりした校内研修を実施するとともに、授業観察時の個別指導を行い、教員の意識改革と授業改善を図る。
		高校・後期課程	生徒による授業評価を活用したり、指導主事や他の小中学校の教員を招いたりした校内研修を実施するとともに、授業観察時の個別指導を行い、教員の意識改革と授業改善を図る。
		中高(前期後期課程)の連携状況	校内研修を合同で実施し、中学校の丁寧な指導や高等学校の進学指導を相互に学びあい、授業力の一層の向上を図る。
	授業改善方法の中学(前期)と高校(後期)の違いについて	中学・前期課程	生徒の発達段階に応じた指導方法を、校内研修等で中学校を経験した教員を講師としながら学びあう。
		高校・後期課程	生徒の進路希望を実現する進学指導を、校内研修等で高校の教員を講師としながら学びあう。
		中高(前期後期課程)の連携状況	生徒の発達段階に応じた指導方法を、校内研修等を合同で実施して相互理解を図る。
	授業改善における課題について	中学・前期課程	発達段階に応じた指導方法の工夫が不十分。元高校籍の教員はきめ細かな発達段階に応じた指導が不十分であり、元中学校籍の教員は大学受験を見通した指導が不十分である。
		高校・後期課程	発達段階に応じた指導方法の工夫が不十分。元高校籍の教員はきめ細かな発達段階に応じた指導が不十分であり、元中学校籍の教員は大学受験を見通した指導が不十分である。
		中高(前期後期課程)の連携状況	中高共通の課題を共有しながら、合同で校内研修や教科会を実施し、授業改善を推進する。
生徒募集	広報活動の充実策について	中学	年3回の学校説明会や隔週土曜日の授業公開に加えて、近隣5区市の小学校への個別訪問により広報活動を充実する。HP更新回数を増大し内容を充実させる。
		高校	夏季休業中の中学校訪問の実施とHPを通じた情報発信の充実を図っている。中高一貫校開校に伴う、募集予定を重点的に周知する。
		中高一貫校(中学・高校)の連携状況	学校説明会等での中高協働体制を確立するとともに、広報活動の一体化と充実を図る。